

誰もが自分らしくのびやかに暮らせる
まちをつくるための
アンケート調査

— 田尻町男女共同参画社会づくりに関する意識調査 —
結果報告書

2024(令和6)年3月

田尻町

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査内容	1
4. 報告書の見方	1
5. 回収状況	2
6 調査の精度	3
7 比較調査について.....	3
II 町民意識調査の結果	4
1. 回答者の属性	4
2. 家庭での役割について	10
3. 仕事・生き方について	29
4. 性について	40
5. 子どもの育て方や教育について	44
6. 地域活動・防災について	58
7. 人権を侵害される行為について	62
8. 男女共同参画社会づくりについて	85
III 田尻町男女共同参画に関する町民意識調査の考察	125
IV 職員意識調査の結果	132
1. 回答者の属性	132
2. 家庭での役割について	134
3. 仕事・生き方について	137
4. 性について	139
5. 子どもの育て方や教育について	141
6. 地域活動・防災について	144
7. 人権を侵害される行為について	146
8. 男女共同参画社会づくりについて	152
V 調査票	159

I 調査の概要

1. 調査の目的

本町では、2015（平成27）年に「第2次田尻町男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みを進めてきた。2024（令和6）年度に現行プランは目標年次を迎えることから、広く町民と町職員の男女共同参画に関して実情や意識を把握し、新たなプランを策定するうえでの重要な基礎資料とするため調査を実施した。

2. 調査設計

	町民調査	職員調査
調査対象	18歳以上の町民1500人を住民基本台帳から無作為抽出 （2023（令和5）年11月1日現在）	田尻町職員
調査方法	郵送配布・ 郵送回収及びインターネット回答	直接配布・ 回収箱への投函による回収及びインターネット回答
調査期間	2023（令和5）年12月1日～20日	2023（令和5）年12月1日～20日

3. 調査内容

- ①家庭での役割について
- ②仕事・生き方について
- ③性について
- ④子どもの育て方や教育について
- ⑤地域活動・防災について
- ⑥人権を侵害される行為について
- ⑦男女共同参画社会づくりについて

4. 報告書の見方

- ・ 図表中の「n」とは、集計対象者実数（あるいは該当者対象実数）のことである。
- ・ 図表の数値（％）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- ・ 1つの設問に2つ以上の回答を求めた設問では、比率の合計が100%を超える。
- ・ クロス集計表中の濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数（n）が15未満の属性は網掛けを除外している。
- ・ クロス集計表の分析軸には、性別、年齢の設問に無回答の回答は含まれていない。
- ・ 年代別の区分は、統計的に比較分析が可能な集計対象者実数となるよう10～30歳代、40～50歳代、60歳以上の3区分を基本とし、特に有意な差がみられる場合においてのみ6区分を用いた。

5. 回収状況

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
町民調査	1,500	526	524	34.9%
標準抽出※	1,350	501	499	37.0%
追加抽出※	150	25	25	16.7%
郵送回収	-	375	373	-
インターネット回答	-	151	151	-
職員調査	131	104	103	78.6%

※標準抽出と追加抽出について

町民意識調査では、過去の調査の回収結果において20歳代の回収率が他の年代と比べて低い傾向であることから、分析に必要な回収数を得るため、年齢構成別に抽出した標本数1,350人（標準抽出という）に加え、20歳代150人を追加抽出し、調査票を発送した。無作為抽出の結果としての集計は標準抽出による回収票のみを用いて全体集計、設問間のクロス集計、経年比較、他調査との比較を行った。追加抽出による回収票は、年代別集計に限り含めて集計を行った。

母集団の性・年代別人口と構成比

		18、 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	合計
女性	人数	98	469	413	571	587	380	850	3,368
	構成比	2.9%	13.9%	12.3%	17.0%	17.4%	11.3%	25.2%	100.0%
男性	人数	89	477	409	581	607	385	632	3,180
	構成比	2.8%	15.0%	12.9%	18.3%	19.1%	12.1%	19.9%	100.0%
合計	人数	187	946	822	1,152	1,194	765	1,482	6,548
	構成比	2.9%	14.4%	12.6%	17.6%	18.2%	11.7%	22.6%	100.0%

配布数と性・年代別構成比（標準抽出分）

標準抽出分（1,350人）は母集団の性・年代別構成比に基づき抽出した。

		18、 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	合計
女性	人数	21	96	86	118	120	78	176	695
	構成比	3.0%	13.8%	12.4%	17.0%	17.3%	11.2%	25.3%	100.0%
男性	人数	19	99	85	119	125	78	130	655
	構成比	2.9%	15.1%	13.0%	18.2%	19.1%	11.9%	19.8%	100.0%
合計	人数	40	195	171	237	245	156	306	1,350
	構成比	3.0%	14.4%	12.7%	17.6%	18.1%	11.6%	22.7%	100.0%

回収数と性・年代別構成比及び回収率（標準抽出分）

18～19歳と20歳代はそれ以外の年代と比べて回収率が低い結果となった。

		18、 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	年齢 無回答	合計
女性	人数	2	22	33	52	45	39	87	-	280
	構成比	0.7%	7.9%	11.8%	18.6%	16.1%	13.9%	31.1%	-	100.0%
	回収率	9.5%	22.9%	38.4%	44.1%	37.5%	50.0%	49.4%	-	40.3%
男性	人数	4	11	24	35	43	35	54	1	207
	構成比	1.9%	5.3%	11.6%	16.9%	20.8%	16.9%	26.1%	0.5%	100.0%
	回収率	21.1%	11.1%	28.2%	29.4%	34.4%	44.9%	41.5%	-	31.6%
性別 無回答	人数	-	-	-	-	1	-	-	11	12
	構成比	-	-	-	-	8.3%	-	-	91.7%	100.0%
合計	人数	6	33	57	87	89	74	141	12	499
	構成比	1.2%	6.6%	11.4%	17.4%	17.8%	14.8%	28.3%	2.4%	100.0%
	回収率	15.0%	16.9%	33.3%	36.7%	36.3%	47.4%	46.1%	-	37.0%

6 調査の精度

町民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができる。本調査では、調査結果の信頼度95％レベルで回答結果50％の誤差が±5％以内となるよう回収数の目標を400と設定し、それ以上の回答を得た。（※信頼度95％レベルとは、同一の調査を100回行った場合95回まではこの結果になると推定されることを意味し、国などが行う標本調査は95％で設計されている。）

信頼区間の計算式は以下のとおりで、主な％について求めたのが下表である。

この表から、例えば問4「今後、男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのような必要がありますか。」の質問で「夫婦、パートナーの間に家事などの分担をするように十分話し合うこと」に約60％の人が答えている場合、全体の信頼区間の2分の1幅が4.1％であるので100回調査すると95回までは55.9％から64.1％の間の答えが得られるということになる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし
N＝母集団数
n＝有効回答数
P＝母集団の比率（％）

		母集団数 (N)	有効回答数 (n)	母集団の比率(P)				
				90%	80%	70%	60%	50%
				10%	20%	30%	40%	
全体		6,548	499	±2.5	±3.4	±3.9	±4.1	±4.2
女性		3,368	280	±3.4	±4.5	±5.1	±5.5	±5.6
男性		3,180	207	±4.0	±5.3	±6.0	±6.5	±6.6
女性	10～30歳代	980	72	±6.7	±8.9	±10.2	±10.9	±11.1
	40・50歳代	1,158	97	±5.7	±7.6	±8.7	±9.3	±9.5
	60歳以上	1,230	126	±5.0	±6.6	±7.6	±8.1	±8.3
男性	10～30歳代	975	49	±8.2	±10.9	±12.5	±13.4	±13.7
	40・50歳代	1,188	78	±6.4	±8.6	±9.8	±10.5	±10.7
	60歳以上	1,017	89	±6.0	±7.9	±9.1	±9.7	±9.9

7 比較調査について

本調査結果について比較を行った調査は以下のとおりである。

調査名	調査時期	調査対象	有効回収率
「前回調査」 田尻町男女共同参画に関する意識調査	2014(平成26)年	20歳以上の住民 1,000人	27.3%
「大阪府調査」 男女共同参画にかかる府民意識調査	2019(令和元)年	18歳以上の府民 2,800人	32.0%
「全国調査」 男女共同参画社会に関する世論調査	2022(令和4)年	18歳以上の国民 5,000人	56.9%

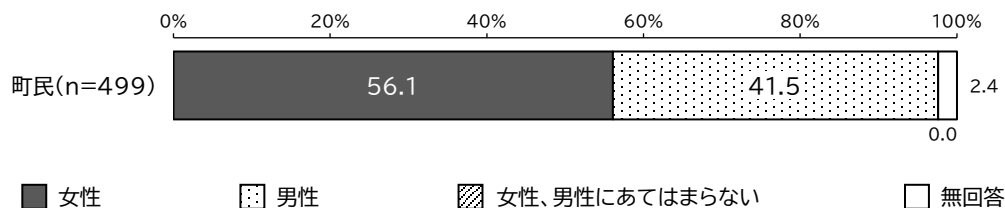
Ⅱ 町民意識調査の結果

1. 回答者の属性

(1)性別

「女性」が56.1%、「男性」が41.5%で、「女性」の方が14.6ポイント高くなっている。「女性、男性にあてはまらない」が0%、無回答が2.4%である。

【性別】



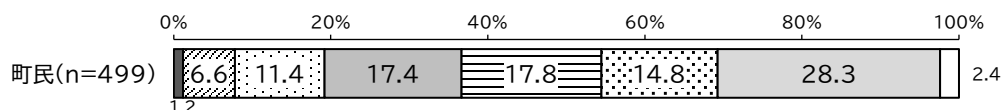
(2)年齢

「70歳以上」が28.3%で最も高く、次いで「50歳代」17.8%、「40歳代」17.4%となっている。30歳代以下は合計して19.2%となっており、40歳代以上の回答者が全体の8割近くを占めている。

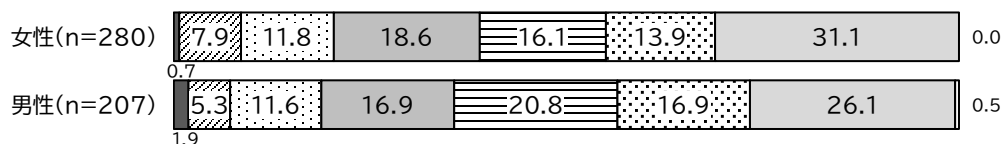
《町民・性別》

性別でみると、女性で最も高い「70歳以上」は31.1%で、次いで「40歳代」が18.6%となっている。男性は「70歳以上」の26.1%に次いで「50歳代」が20.8%である。女性の方が30歳代以下の回答割合がやや高くなっている。

【年齢】



【町民 性別】



■ 18～19歳 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳以上 □ 無回答

(3)家族構成

「親と子ども（2世代）」が48.5%で半数近くを占めており、「配偶者・パートナーのみ」が27.5%、「ひとり暮らし」が14.8%と続いている。「親と子と孫（3世代）」は5%以下である。

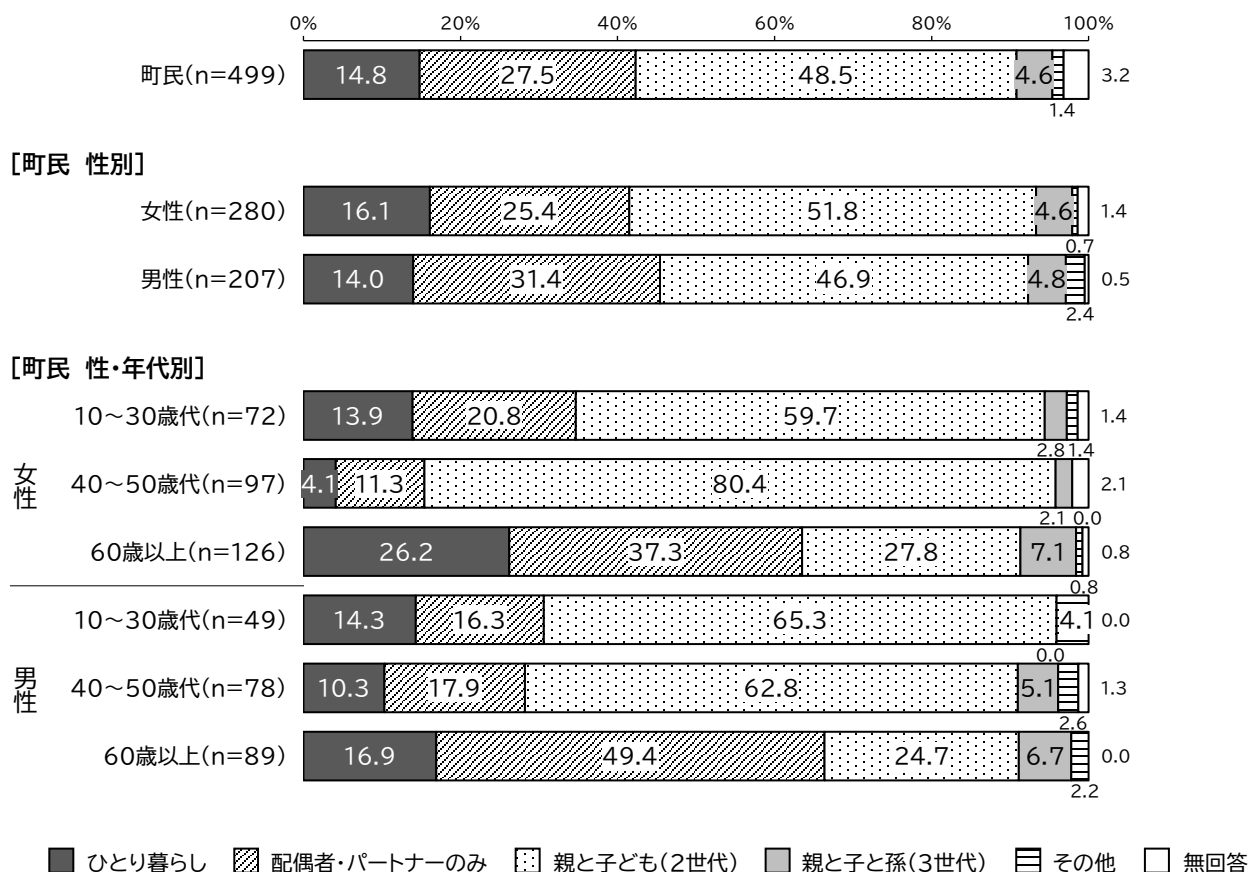
《町民・性別》

性別で大きな傾向の違いはないが、「親と子ども（2世代）」は女性が51.8%で、男性の46.9%よりもやや高い。一方で、「配偶者・パートナーのみ」は男性が31.4%で女性の25.4%よりもやや高くなっている。

《町民・性・年代別》

町民の性・年代別をみると、女性・40～50歳代は「親と子ども（2世代）」が80.4%と高くなっている。男性・60歳以上は「配偶者・パートナーのみ」が49.4%と高くなっている。同じ60歳以上の女性では「ひとり暮らし」が26.2%を占めている。

【家族構成】



(4)配偶関係

「配偶者・パートナーがいる」は71.3%、「配偶者・パートナーはいない」は26.5%となっている。

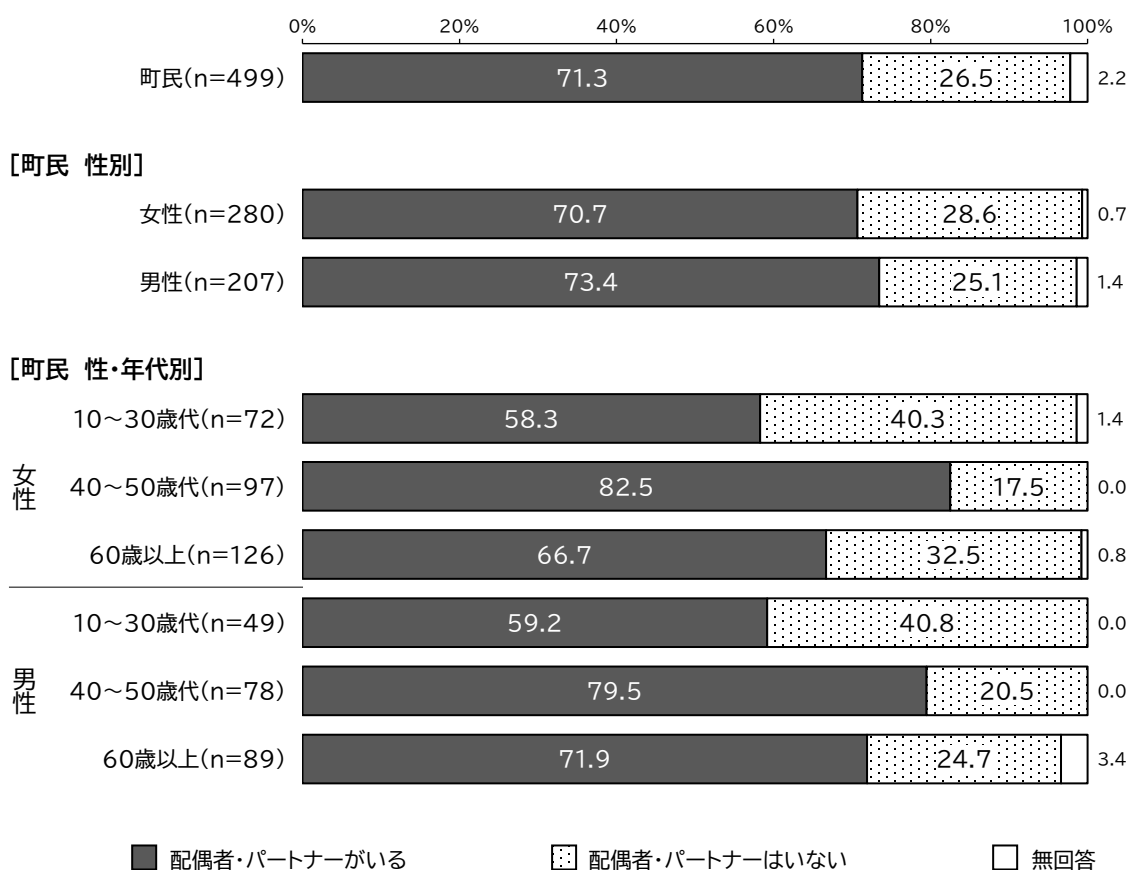
《町民・性別》

町民の性別でみると、性別による違いは小さく「配偶者・パートナーがいる」は男性の方がやや高く、「配偶者・パートナーはいない」は女性の方がやや高くなっている。

《町民・性・年代別》

町民の性・年代別でみると、性別よりも年代による違いが大きく、男女とも40～50歳代では「配偶者・パートナーがいる」は8割前後となっている。

【配偶関係】



(5)職業

回答者の職業

「正規の社員や職員」が33.1%で最も高く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者）」が17.6%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が14.6%となっている。

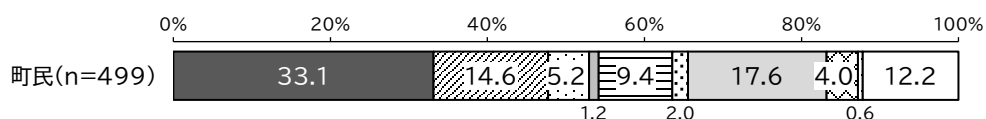
《町民・性別》

町民の性別でみると、男性は「正規の社員や職員」が46.9%で半数近くを占めるが、女性は「正規の社員や職員」が24.3%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が20.7%となっている。

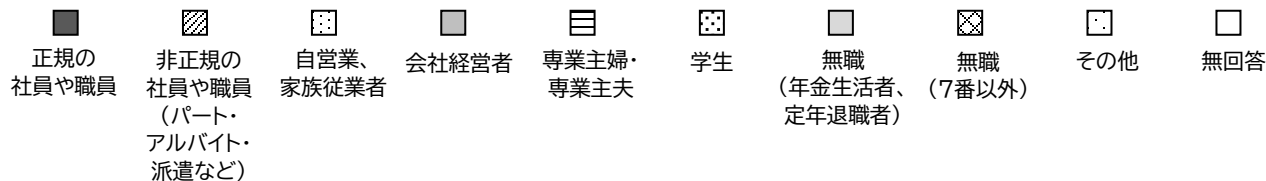
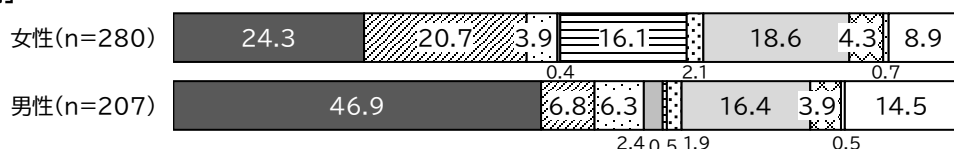
《町民・性・年代別》

女性は、「正規の社員や職員」の割合が10～30歳代では50.0%であるが、40～50歳代では36.1%となっている。男性は、10～30歳代、40～50歳代とも「正規の社員や職員」の割合は大きく変わらない。

【回答者の職業】



【町民 性別】



【町民・性・年代別 回答者の職業】

		回答者数 (n)	正規の社員や職員	非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など)	自営業、家族従業者	会社経営者	専業主婦・専業主夫	学生	無職 (年金生活者、定年退職者)	無職 (左記以外)	その他	無回答
町民		499	33.1	14.6	5.2	1.2	9.4	2.0	17.6	4.0	0.6	12.2
女性	10～30歳代	72	50.0	15.3	2.8	-	12.5	9.7	-	5.6	1.4	2.8
	40～50歳代	97	36.1	35.1	5.2	1.0	13.4	-	-	1.0	1.0	7.2
	60歳以上	126	4.0	13.5	3.2	-	18.3	-	41.3	6.3	-	13.5
男性	10～30歳代	49	71.4	6.1	2.0	4.1	-	10.2	-	-	-	6.1
	40～50歳代	78	75.6	5.1	7.7	3.8	-	-	-	5.1	-	2.6
	60歳以上	89	10.1	10.1	6.7	-	1.1	1.1	38.2	4.5	1.1	27.0

配偶者・パートナーの職業

「正規の社員や職員」が34.3%で最も高く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者）」が19.1%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が18.0%となっている。

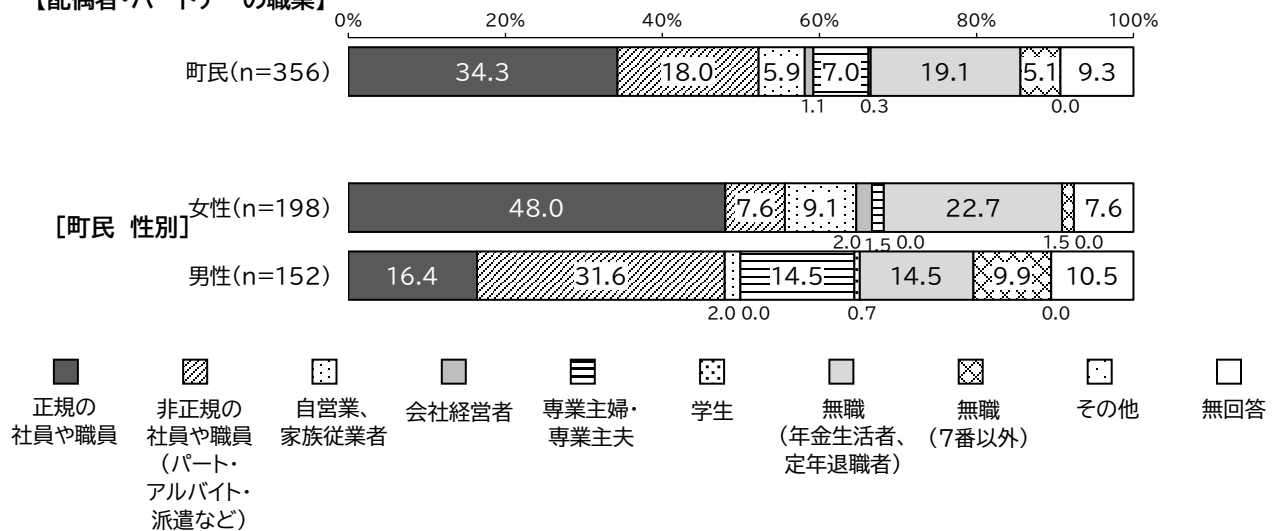
《町民・性別》

町民の性別でみると、配偶者・パートナーの職業は、女性では「正規の社員や職員」が48.0%で最も高く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者）」が22.7%となっている。男性では「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が31.6%で最も高く、次いで「正規の社員や職員」が16.4%である。

《町民・性・年代別》

女性は50歳代以下では違いはほとんどないが、男性の10～30歳代では「正規の社員や職員」が半数近く、40～50歳代は「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が半数を超えている。

【配偶者・パートナーの職業】



【町民・性・年代別 配偶者・パートナーの職業】

		回答者数 (n)	正規の社員や職員	非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など)	自営業、家族従業者	会社経営者	専業主婦・専業主夫	学生	無職 (年金生活者、定年退職者)	無職 (左記以外)	その他	無回答
町民		356	34.3	18.0	5.9	1.1	7.0	0.3	19.1	5.1	-	9.3
女性	10～30歳代	42	78.6	2.4	11.9	2.4	2.4	-	-	-	-	2.4
	40～50歳代	80	75.0	6.3	8.8	-	1.3	-	1.3	2.5	-	5.0
	60歳以上	84	9.5	11.9	8.3	3.6	1.2	-	52.4	1.2	-	11.9
男性	10～30歳代	29	48.3	6.9	3.4	-	24.1	3.4	-	10.3	-	3.4
	40～50歳代	62	17.7	54.8	3.2	-	14.5	-	1.6	6.5	-	1.6
	60歳以上	64	3.1	18.8	-	-	9.4	-	32.8	14.1	-	21.9

(6)子どもの有無

子どもが「いる」は71.3%、「いない」は24.4%である。

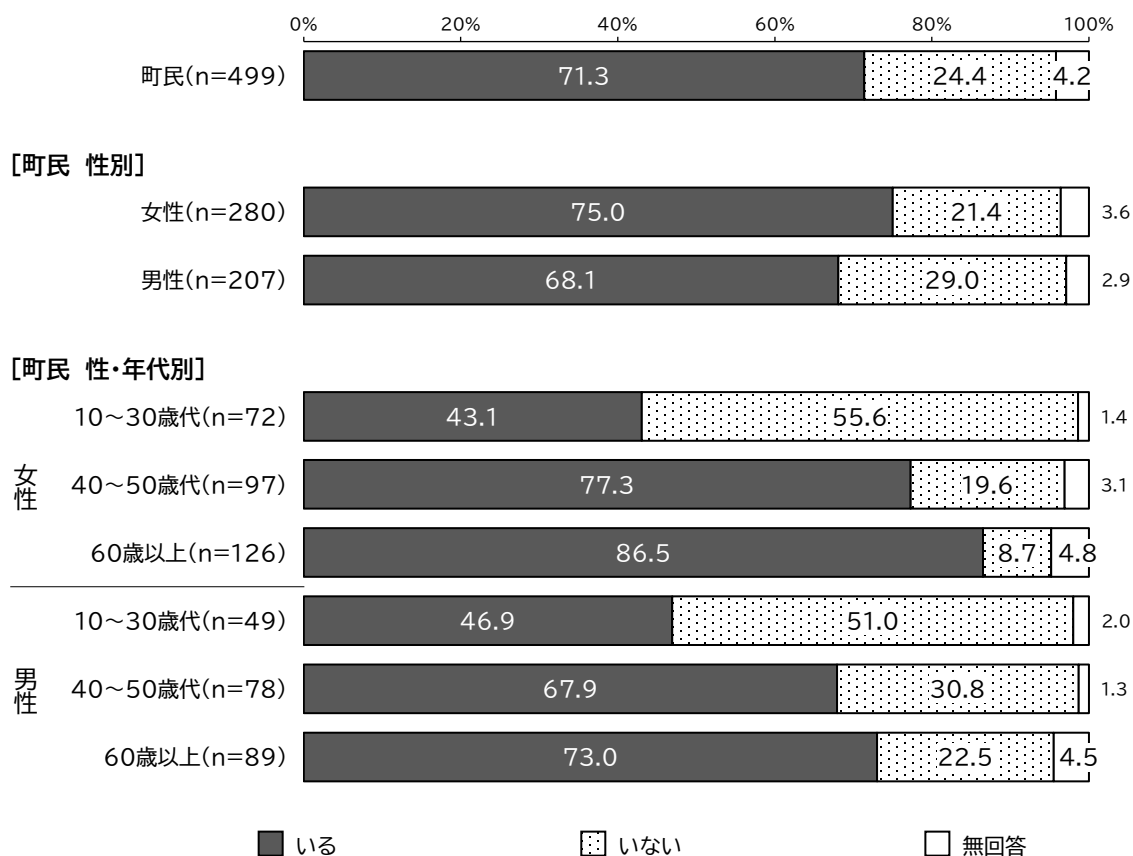
《町民・性別》

町民の性別でみると、子どもが「いる」は女性が75.0%、男性は68.1%となっている。

《町民・性・年代別》

町民の性・年代別でみると、男女とも年代が高いほど「いる」の割合が高くなっているが、40～50歳代、60歳以上とも女性の方が10ポイント程度「いる」の割合が高い。

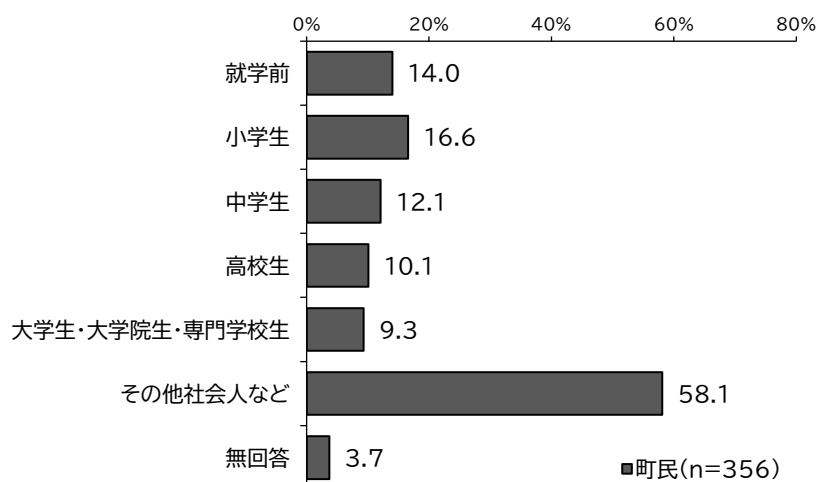
【子どもの有無】



子どもの年齢

「その他社会人など」が58.1%と6割近くを占めている。

【子どもの年齢】



2. 家庭での役割について

(1)家庭の仕事の役割分担

問1. あなたは、家庭における次のことを男性、女性のどちらがするのがよいと思いますか。

(○は①～⑦それぞれに1つ)

問2. あなたの家庭では、実際に次のことを男性、女性のどちらがしていますか。

(○は①～⑦それぞれに1つ)

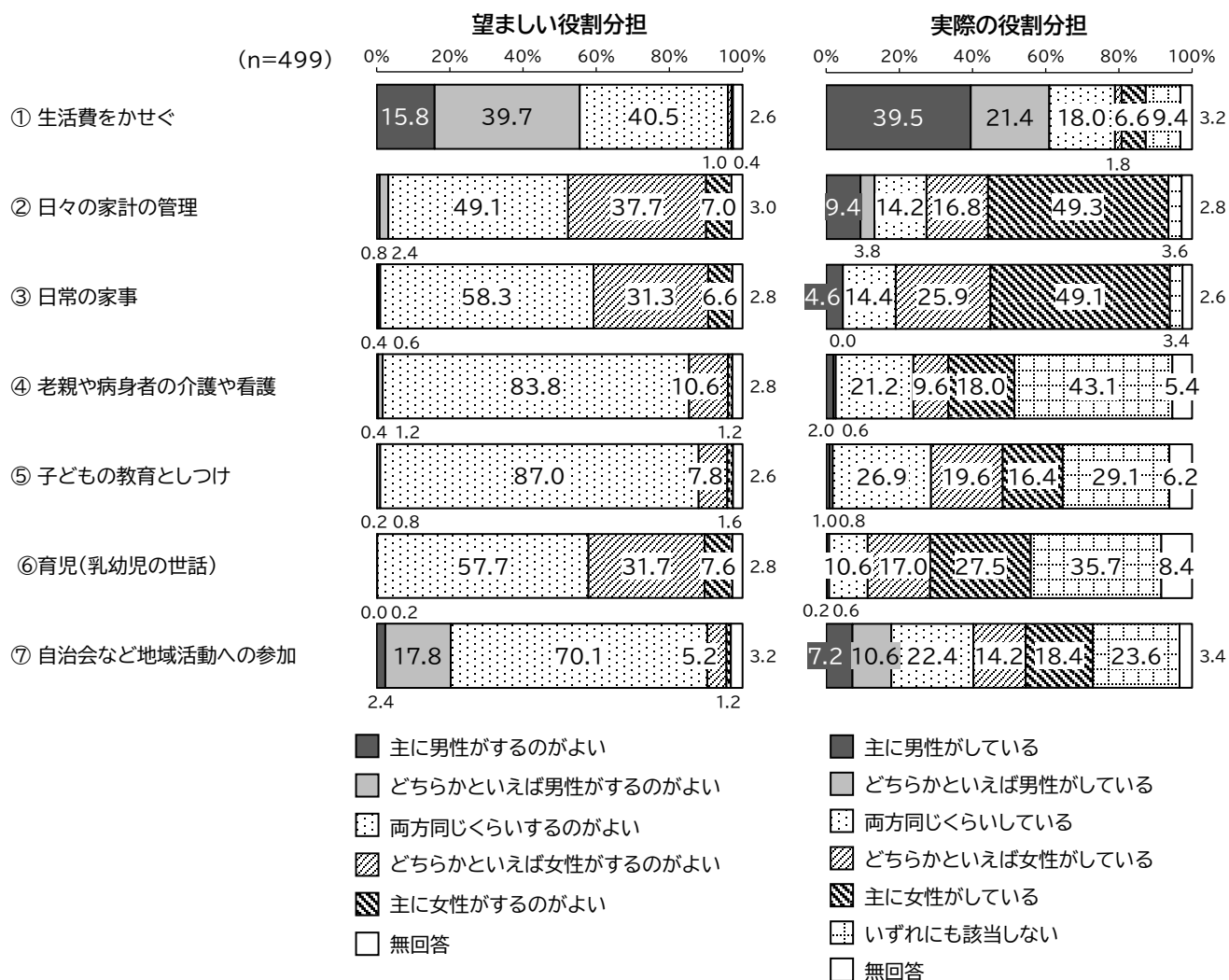
理想とする家庭における役割分担は、④老親や病身者の介護や看護、⑤子どもの教育としつけ、⑦自治会など地域活動への参加の3項目では、「両方同じくらいするのがよい」の回答が7割以上で他の項目に比べて高くなっている。①生活費をかせぐは、『男性がするのがよい』（「主に男性がするのがよい」と「どちらかといえば男性がするのがよい」の合計）が55.5%で「両方同じくらいするのがよい」よりも10ポイント以上高くなっている。⑦自治会など地域活動への参加についても『男性がするのがよい』が約2割で他の項目に比べると高い。一方、②日々の家計の管理、③日常の家事、⑥育児（乳幼児の世話）については、『女性がするのがよい』（「主に女性がするのがよい」と「どちらかといえば女性がするのがよい」の合計）が、いずれも4割前後で他の項目に比べて高くなっている。

理想で挙げられた「両方同じくらいするのがよい」の割合に比べて、実際の分担では、すべての項目で「両方同じくらいしている」の割合は大幅に低くなっている。

①生活費をかせぐでは、理想に比べて『女性がしている』（「主に女性がしている」と「どちらかといえば女性がしている」の合計）の割合も高くなっているが、「主に男性がしている」は39.5%で理想と比べて23.7ポイント高くなっている。それ以外の項目はすべて理想に比べて「主に男性がしている」の割合も高くなっているが、『女性がしている』の割合が理想に比べて大幅に高くなっている。

実際の分担で「両方同じくらいしている」が2割を超えているのは、④老親や病身者の介護や看護、⑤子どもの教育としつけ、⑦自治会など地域活動への参加となっている。

【望ましい家庭の仕事の役割分担と実際の家庭の仕事の役割分担】



【①生活費をかせぐ】

《町民・性別》

理想、実際とも男女ともに『男性がするのがよい』『男性がしている』（「主に男性がしている」と「どちらかといえば男性がしている」の合計）の割合は半数を超えている。性別による違いをみると、男性の方が女性よりも『男性がするのがよい』『男性がしている』の割合が高いが、その差は理想では5.7ポイントであるのに対して、実際では17.4ポイントと大きくなっている。

《町民・性・年代別》

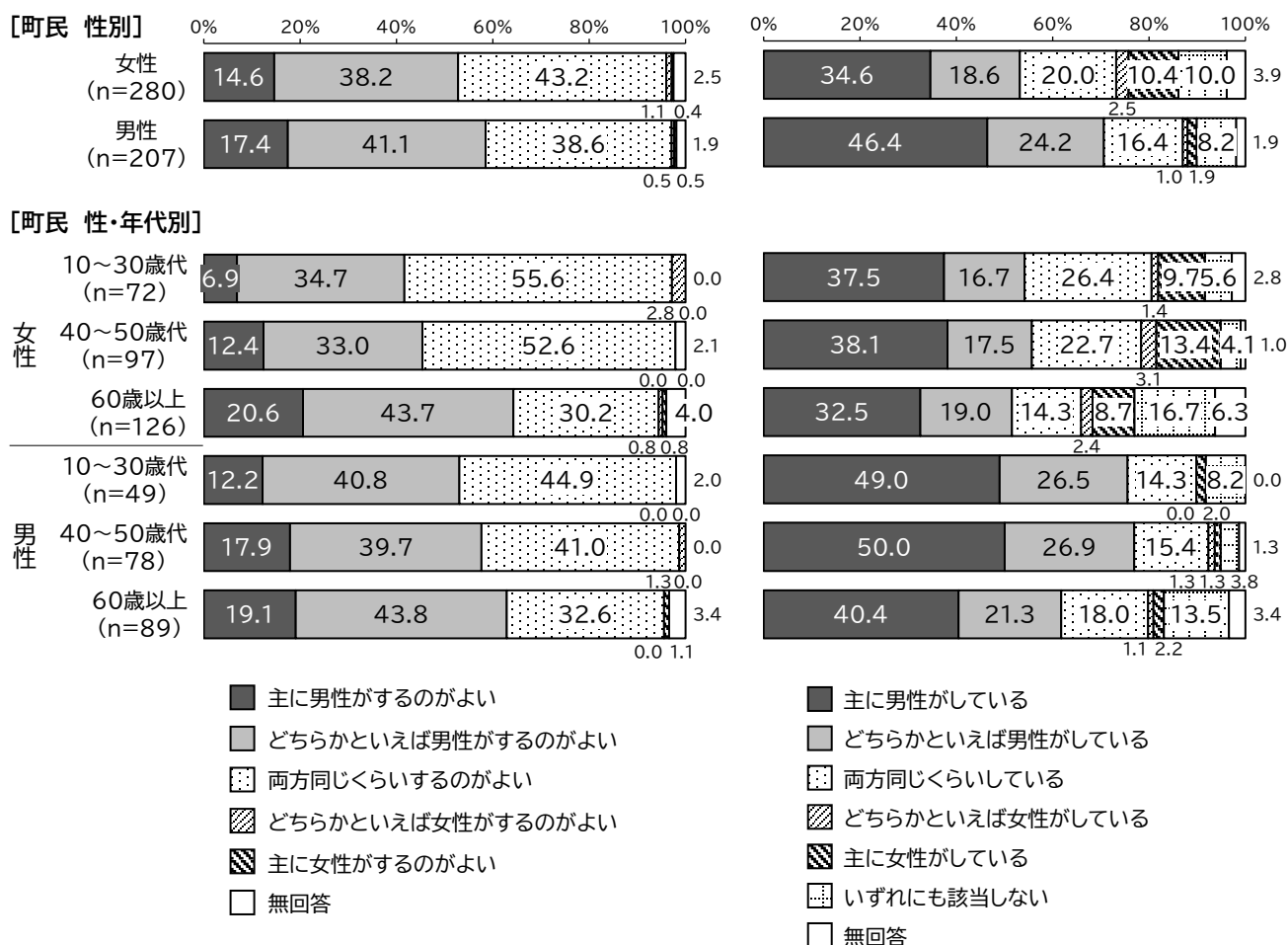
理想では、男女とも年代が若くなるほど「両方同じくらいするのがよい」の回答割合が高くなっている。

実際には、男性の10～30歳代と40～50歳代では「主に男性がしている」と回答した割合は約半数で、特に高くなっている。女性の10～30歳代と40～50歳代では「両方同じくらいしている」と『女性がしている』の合計が4割近くとなっている。

【①生活費をかせぐ】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【②日々の家計の管理】

《町民・性別》

理想では、男女とも「両方同じくらいするのがよい」と『女性がするのがよい』が同程度であるが、実際では、『女性がしている』は女性が70.7%、男性が60.9%で約10ポイントの差がみられる。

《町民・性・年代別》

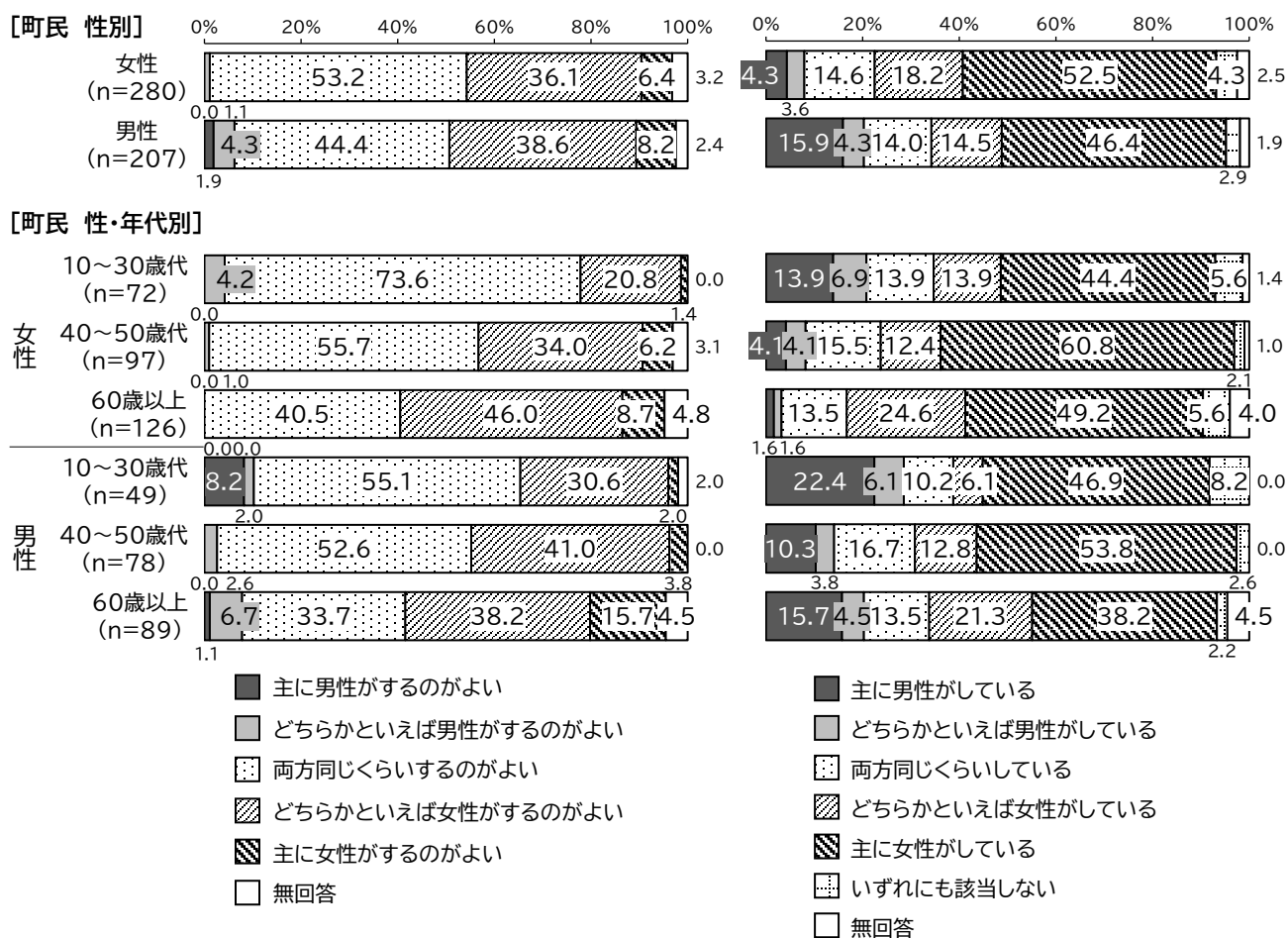
理想では、男女とも年代が若いほど「両方同じくらいするのがよい」の回答が高くなっている。

実際では、女性の40～50歳代と60歳以上では『女性がしている』の回答が7割を超えて高くなっている。また、男女とも10～30歳代は『男性がしている』の回答割合が他の年代に比べてやや高くなっている。

【②日々の家計の管理】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【③日常の家事】

《町民・性別》

理想では、男女とも「両方同じくらいするのがよい」が過半数を占めているが、実際では『女性がしている』は女性が78.9%、男性が69.6%となっている。

《町民・性・年代別》

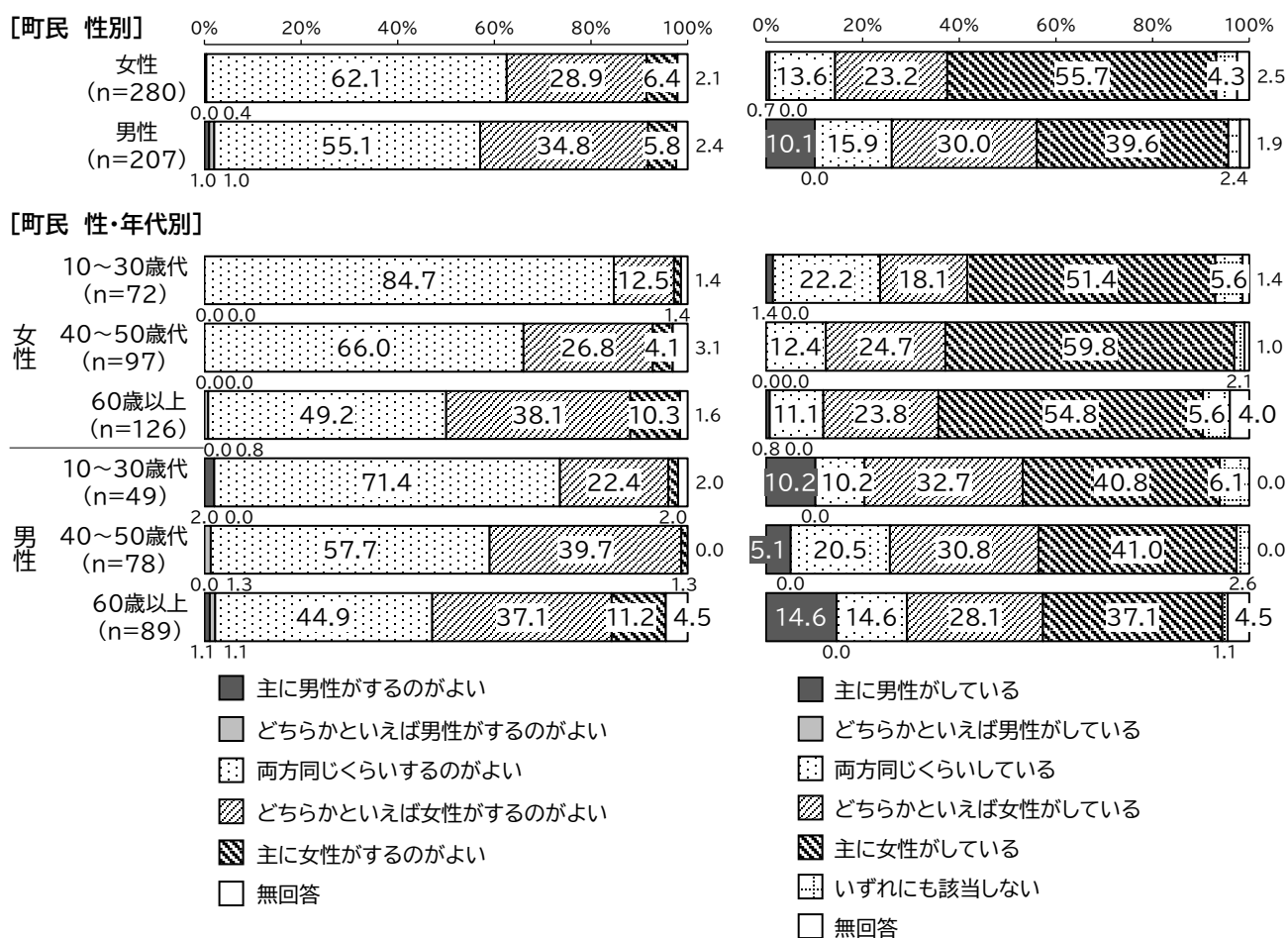
理想では、男女とも年代が若いほど「両方同じくらいするのがよい」の回答が高くなっている。

実際では、女性の40～50歳代と60歳以上では『女性がしている』の回答が8割前後と高くなっている。

【③日常の家事】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【④老親や病身者の介護や看護】

《町民・性別》

理想では、男女とも「両方同じくらいするのがよい」が8割を超えて、大きな違いはみられない。

実際では、女性では「両方同じくらいしている」よりも『女性がしている』の回答割合が高いが、男性は『女性がしている』よりも「両方同じくらいしている」の回答割合が高くなっている。

《町民・性・年代別》

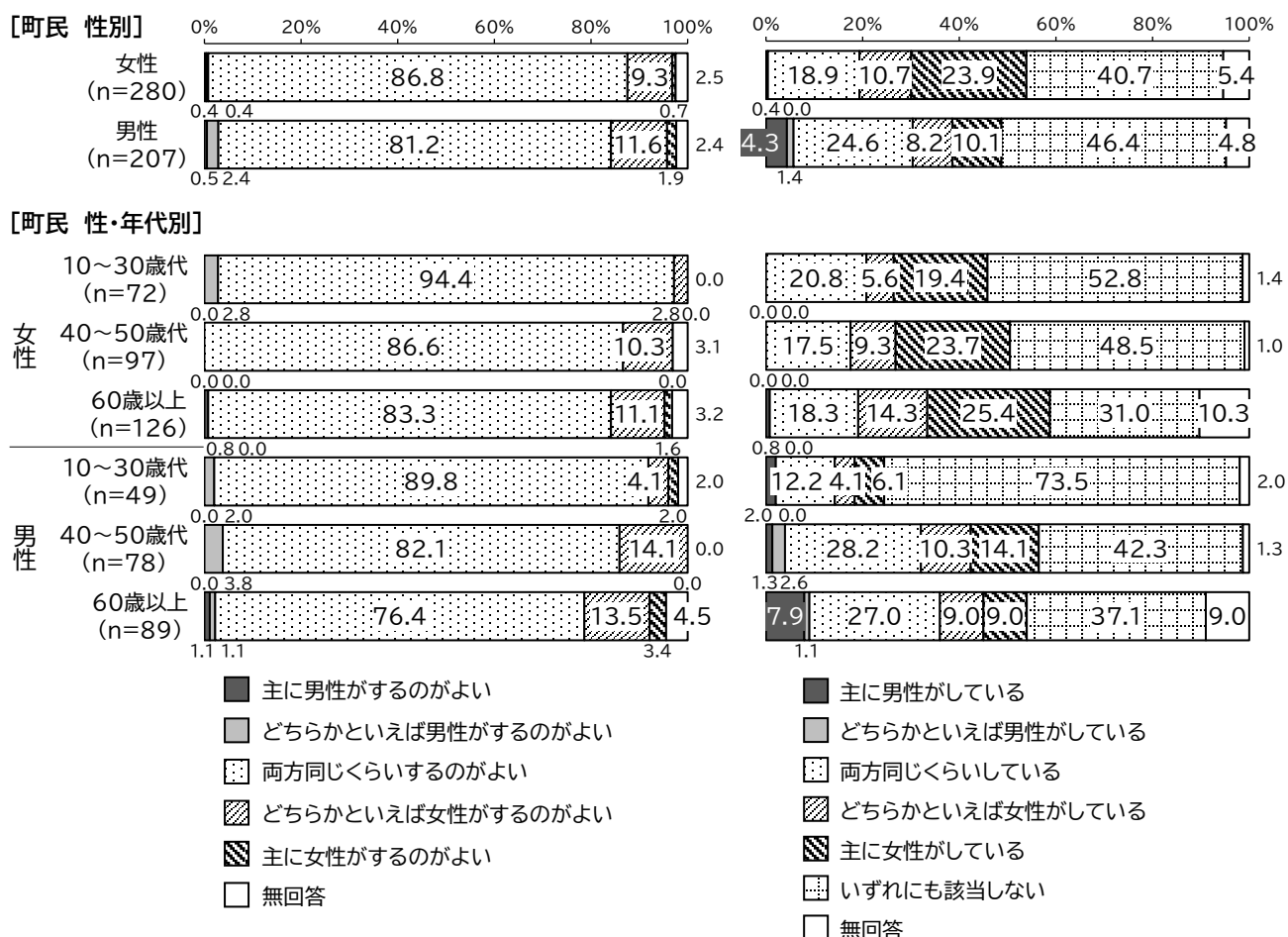
理想では、男女とも年代が若いほど「両方同じくらいするのがよい」の回答が高く、女性の10～30歳代では94.4%にのぼる。

実際では、女性では年代が上がるほど『女性がしている』の回答が高くなっている。男性の40～50歳代と60歳以上は同じ年代の女性と比べて「両方同じくらいしている」の割合が10ポイント程度高くなっている。男性の60歳以上は女性の60歳以上と比べると『女性がしている』は21.7ポイント低く、『男性がしている』と「両方同じくらいしている」の合計は16.9ポイント高くなっている。

【④老親や病身者の介護や看護】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【⑤子どもの教育としつけ】

《町民・性別》

理想では、男女とも「両方同じくらいするのがよい」が8割台で大きな違いはみられない。

実際では、女性は『女性がしている』が42.5%であるのに対して、男性は27.5%で15.0ポイントの差がみられる。

《町民・性・年代別》

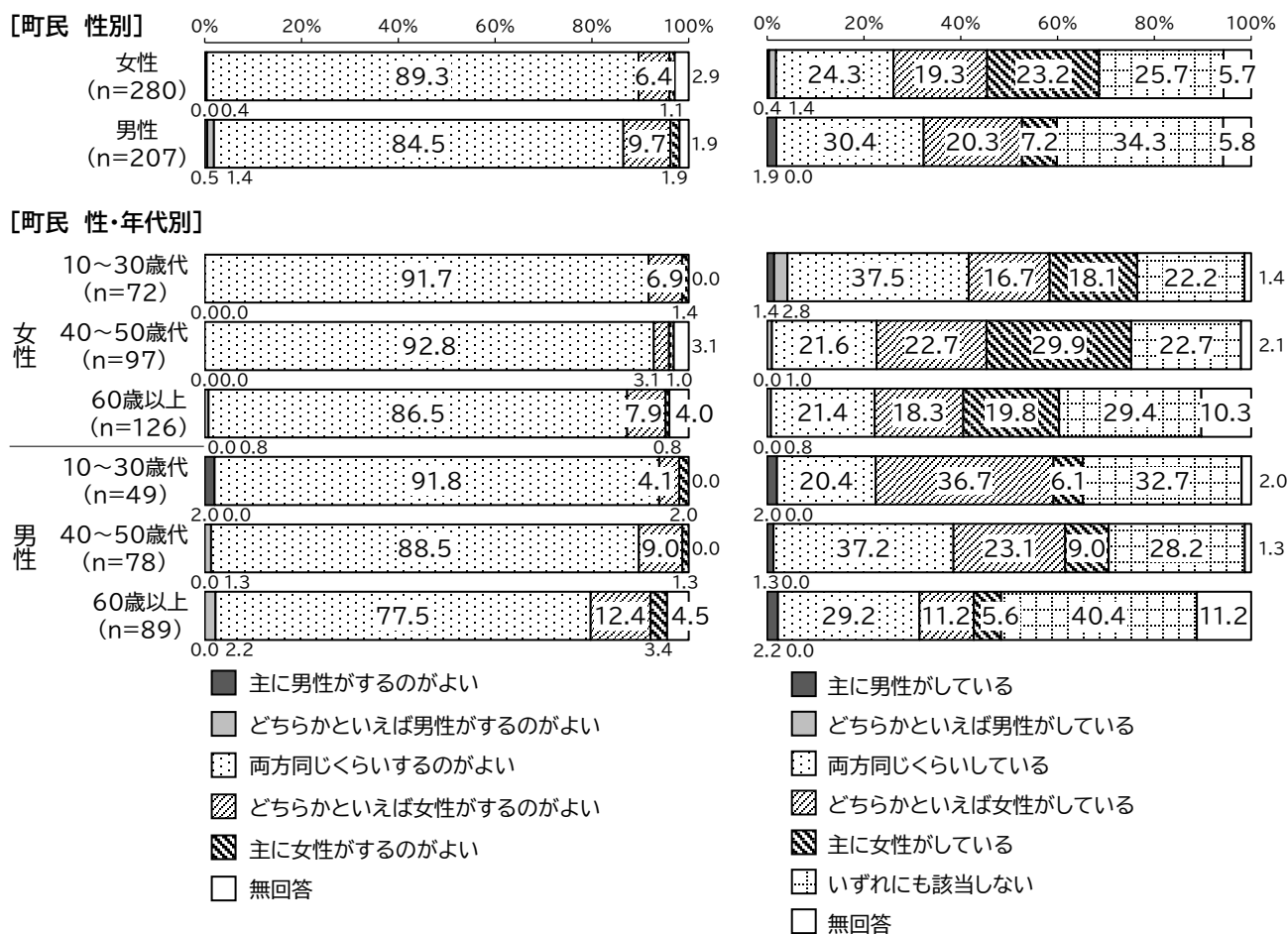
理想では、「両方同じくらいするのがよい」の割合をみると、女性における年代の違いはさほど大きくないが、男性の60歳以上はそれ以下の年代と比べて10ポイント以上低くなっている。

実際では、女性の10～30歳代と男性の40～50歳代では「両方同じくらいしている」が最も高くなっている。他の項目と比べて「両方同じくらいしている」の回答割合が男女いずれの年代とも2割を超えており、相対的に高くなっている。

【⑤子どもの教育としつけ】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【⑥育児(乳幼児の世話)】

《町民・性別》

理想では、②日々の家計の管理、③日常の家事と並んで『女性がするのがよい』の割合が高い項目の1つであるが、他の2つの項目と比べて男女の意識差が大きい傾向で、「両方同じくらいするのがよい」は女性の方が13.6ポイント高く、『女性がするのがよい』は男性の方が13.7ポイント高くなっている。

実際では、男女とも「両方同じくらいしている」よりも『女性がしている』の割合が大きく上回っている。

《町民・性・年代別》

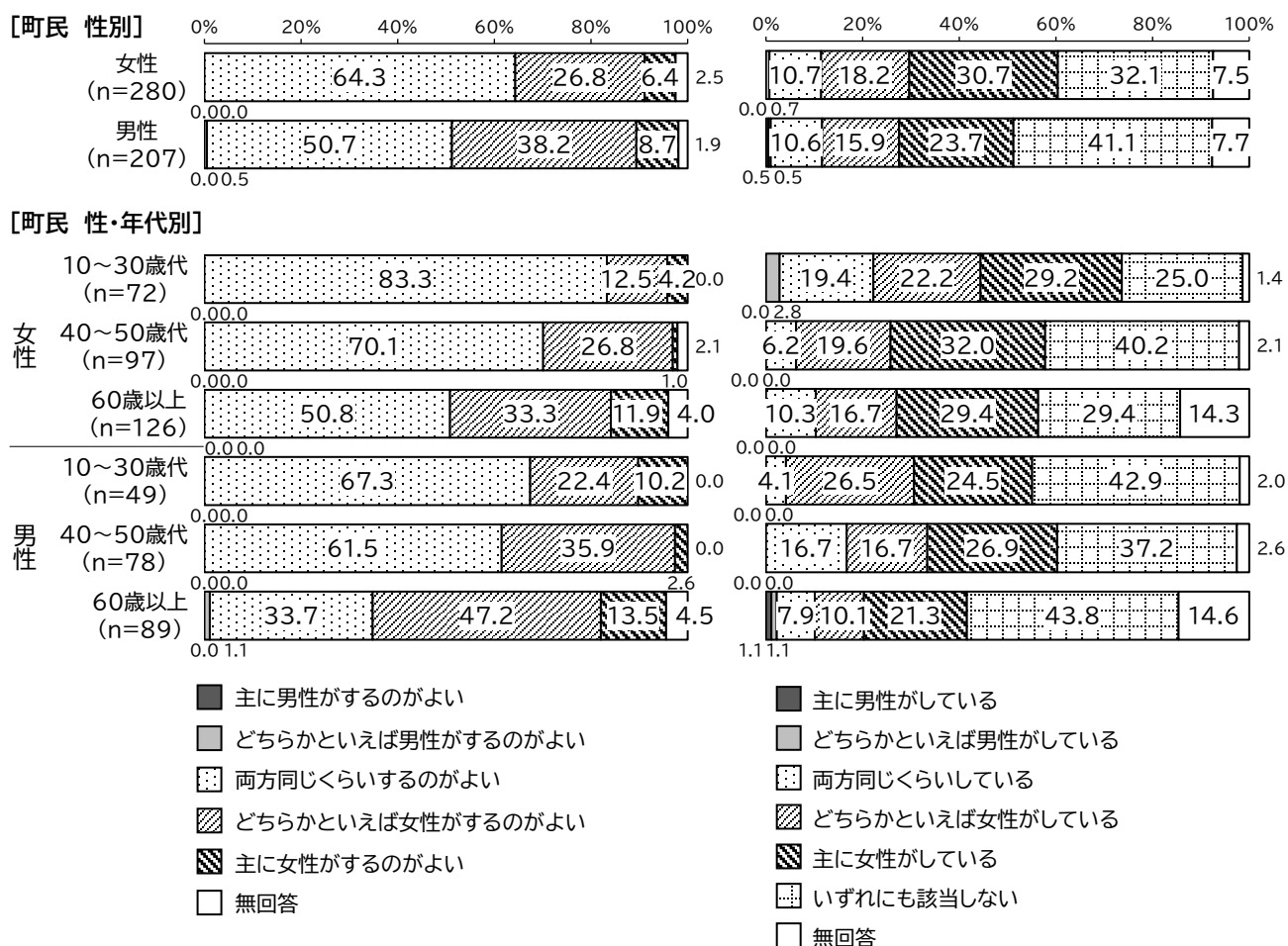
理想では、男女とも年代が若いほど「両方同じくらいするのがよい」の回答が高いが、10～30歳代と60歳以上それぞれの男女を比較すると「両方同じくらいするのがよい」の回答に15ポイント以上の差がみられる。

実際では、男女ともどの年代層も『女性がしている』の割合が最も高いが、女性10～30歳代と男性40～50歳代では「両方同じくらいしている」の回答が10%台後半でやや高くなっている。

【⑥育児(乳幼児の世話)】

望ましい役割分担

実際の役割分担



【⑦自治会など地域活動への参加】

《町民・性別》

理想では、男女とも「両方同じくらいするのがよい」が7割前後を占め、『男性がするのがよい』が2割前後となっている。

実際では、女性は『女性がしている』が39.7%であるのに対して、男性は23.7%で16.0ポイントの差がみられる。

《町民・性・年代別》

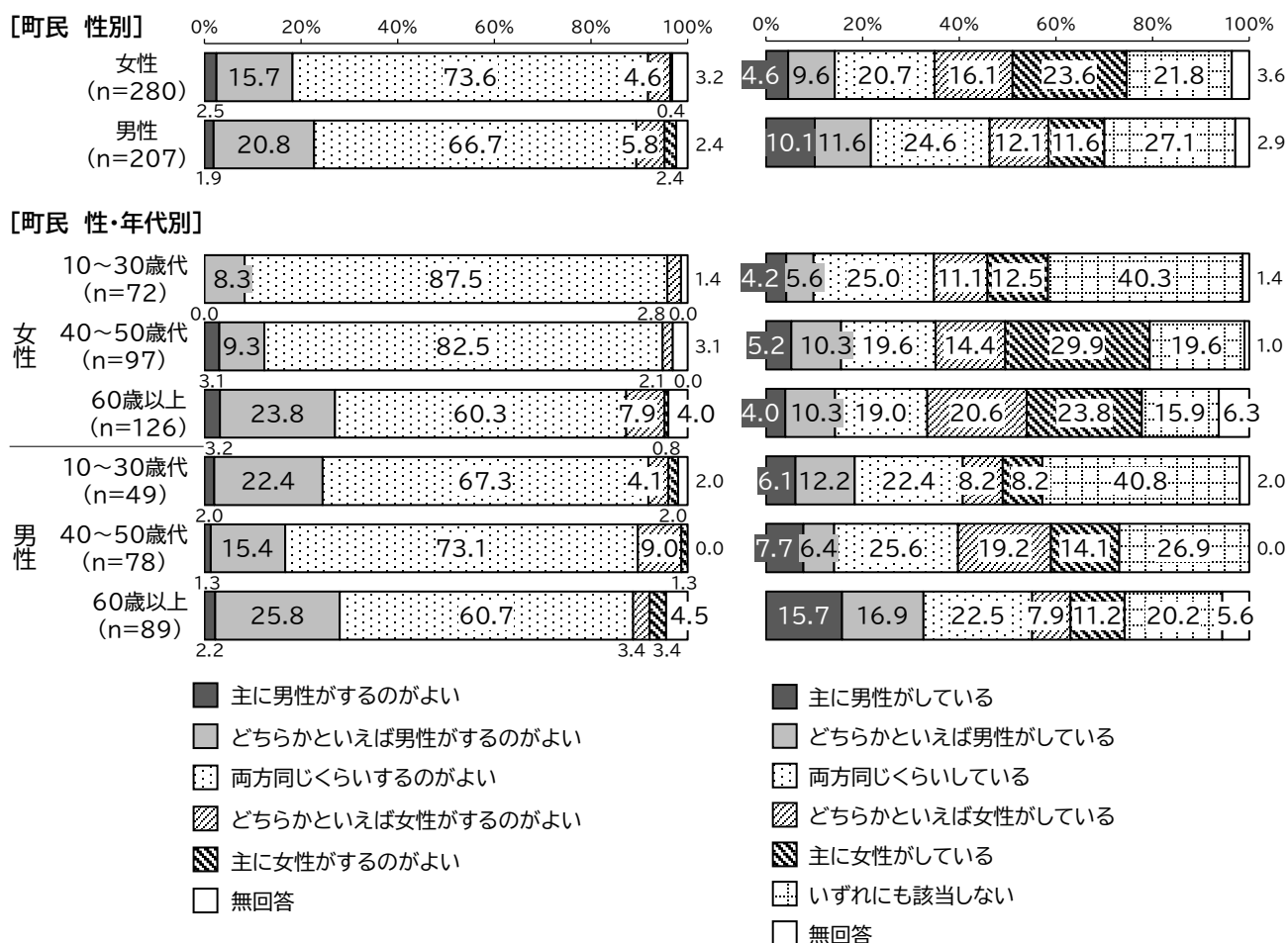
理想では、女性は年代が若いほど「両方同じくらいするのがよい」が高くなっているが、男性では「両方同じくらいするのがよい」は40～50歳代が他の年代より高く、女性と異なる傾向を示している。

実際では、女性の40～50歳代と60歳以上は『女性がしている』が4割を超えて高くなっている。男性の40～50歳代は『女性がしている』が他の年代より高く、男性の60歳以上では『男性がしている』が32.6%で特に高くなっている。

【⑦自治会など地域活動への参加】

望ましい役割分担

実際の役割分担

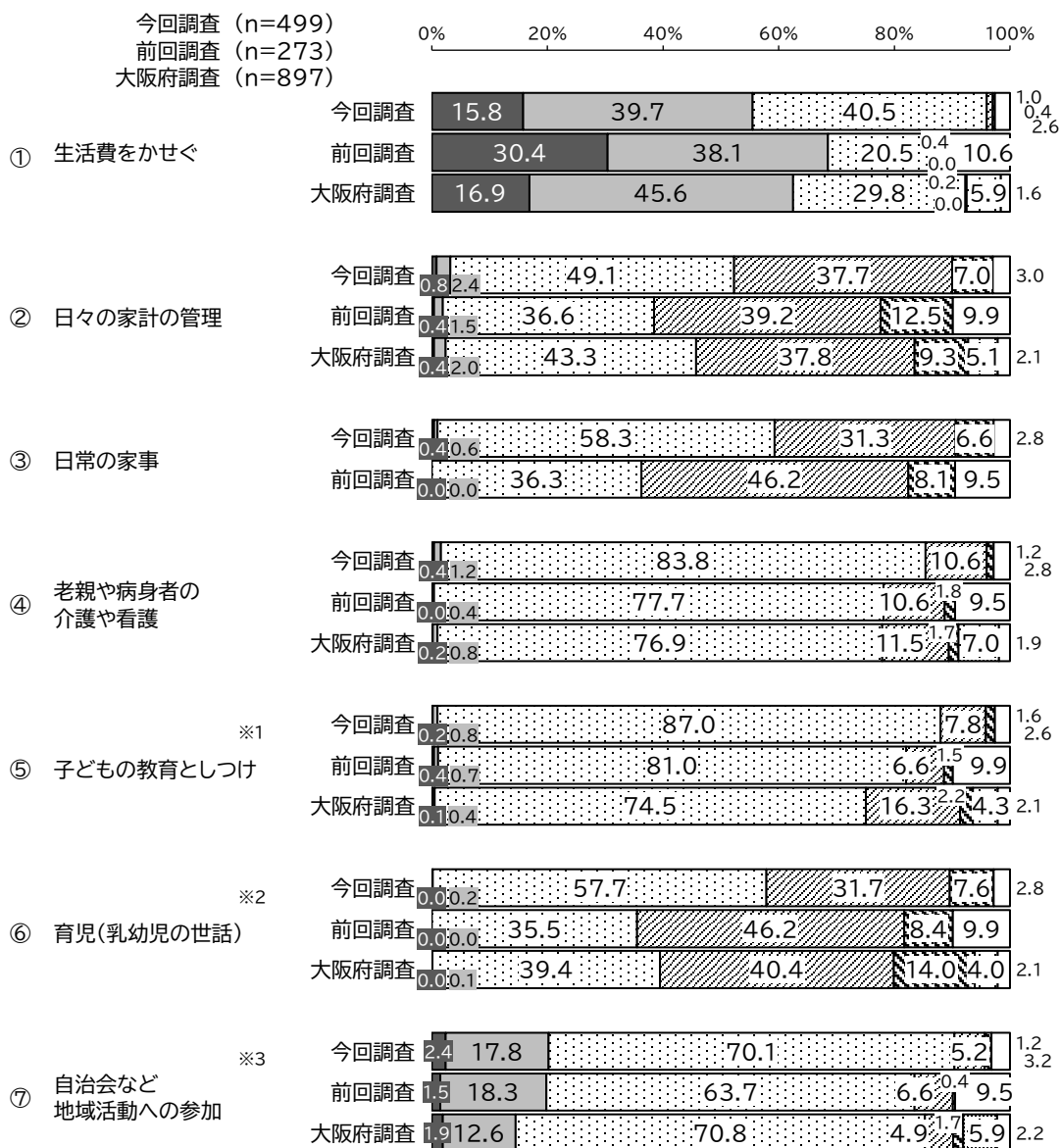


《前回調査・大阪府調査比較(町民)》

前回調査と比べると、「両方同じくらいするのがよい」の割合は、すべての項目で今回調査の方が高く、なかでも①生活費をかせぐ、③日常の家事、⑥育児(乳幼児の世話)では20ポイント以上高くなっている。

大阪府調査と比べると、⑦自治会など地域活動への参加を除くすべての項目で、今回調査の方が「両方同じくらいするのがよい」の割合が高くなっている。

【望ましい家庭の仕事の役割分担(前回調査、大阪府調査との比較)】



※4

■ 主に男性が
するのがよい ■ どちらかといえば
男性がするのがよい □ 両方同じくらい
するのがよい ▨ どちらかといえば
女性がするのがよい ▩ 主に女性が
するのがよい □ いずれにも
該当しない □ 無回答

※1 大阪府調査では「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」

※2 大阪府調査では「乳幼児の世話」

※3 大阪府調査では「自治会、町内会など地域活動への参加」

※4 前回調査では「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」「夫婦同じ程度の役割」「どちらかといえば妻の役割」「主として妻の役割」

「いずれにも該当しない」は大阪府調査のみの選択肢

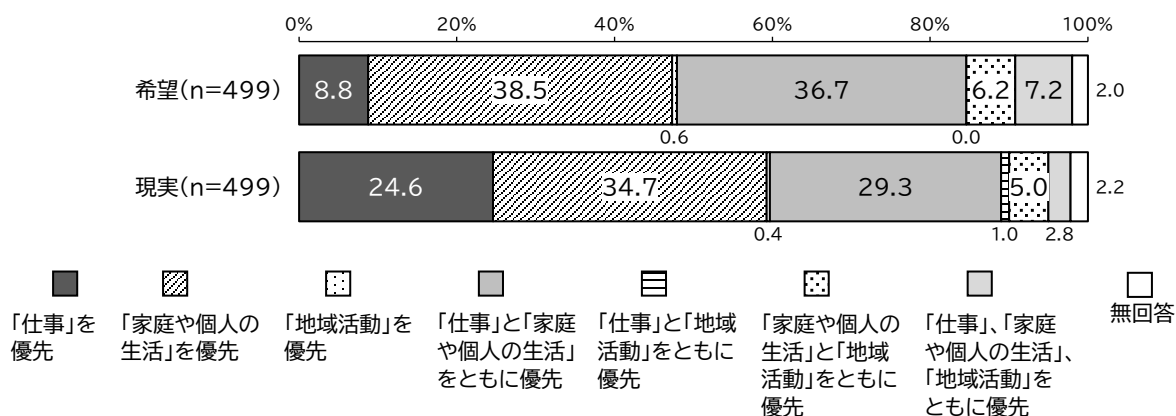
(2)生活の中で優先すること

問3. あなたは、生活の中で「仕事」「家庭や個人の生活」「地域活動」で何を優先しますか。希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。

希望では「『家庭や個人の生活』を優先」が38.5%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が36.7%となっている。

現実では「『家庭や個人の生活』を優先」が34.7%、「『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が29.3%で希望と順位は変わらないが、3番目の「『仕事』を優先」が24.6%と希望に比べて大幅に高くなっている。

【生活の中で優先することの希望と現実】



希望と現実の組み合わせをみると、希望と現実が一致しているのは約半数程度となっている。

【生活の中で優先することの希望と現実の組み合わせ】

		全体 (n=499)	現実						
			「仕事」を優先している	「家庭や個人の生活」を優先している	「地域活動」を優先している	「仕事」と「家庭や個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域活動」をともに優先している	「家庭や個人の生活」と「地域活動」をともに優先している	「仕事」、「家庭や個人の生活」、「地域活動」をともに優先している
全体		499	123	173	2	146	5	25	14
		100.0	24.6	34.7	0.4	29.3	1.0	5.0	2.8
希望	「仕事」を優先したい	44	28	10	-	5	1	-	-
		8.8	5.6	2.0	-	1.0	0.2	-	-
	「家庭や個人の生活」を優先したい	192	38	107	1	39	1	5	1
		38.5	7.6	21.4	0.2	7.8	0.2	1.0	0.2
	「地域活動」を優先したい	3	-	2	-	-	-	-	1
		0.6	-	0.4	-	-	-	-	0.2
	「仕事」と「家庭や個人の生活」をともに優先したい	183	46	36	-	94	1	2	3
		36.7	9.2	7.2	-	18.8	0.2	0.4	0.6
希望	「仕事」と「地域活動」をともに優先したい	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	「家庭や個人の生活」と「地域活動」をともに優先したい	31	2	13	-	2	1	13	-
		6.2	0.4	2.6	-	0.4	0.2	2.6	-
希望	「仕事」、「家庭や個人の生活」、「地域活動」をともに優先したい	36	9	5	1	6	1	4	10
		7.2	1.8	1.0	0.2	1.2	0.2	0.8	2.0
希望	無回答	10	-	-	-	-	-	1	9
		2.0	-	-	-	-	-	0.2	1.8

《町民・性・就業状態別》

町民の性・職業状態別でみると、男性の正社員・正職員の現実では、『仕事』を優先」が47.4%と高くなっている。

【(町民)性・職業状態別 生活の中で優先することの希望と現実】

			回答者数(n)	「仕事」を優先	「家庭や個人の生活」を優先	「地域活動」を優先	「仕事」と「家庭や個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域活動」をともに優先	「家庭や個人の生活」と「地域活動」をともに優先	「仕事」、「家庭や個人の生活」、「地域活動」をともに優先	無回答
女性	正社員・正職員	希望	68	4.4	35.3	-	51.5	-	2.9	5.9	-
		現実		30.9	19.1	-	47.1	1.5	1.5	-	-
	正社員・正職員以外	希望	72	-	33.3	-	54.2	-	2.8	8.3	1.4
		現実		19.4	25.0	-	47.2	-	1.4	5.6	1.4
男性	正社員・正職員	希望	97	7.2	40.2	-	44.3	-	3.1	5.2	-
		現実		47.4	17.5	-	35.1	-	-	-	-
	正社員・正職員以外	希望	33	18.2	33.3	-	30.3	-	-	15.2	3.0
		現実		36.4	15.2	3.0	33.3	3.0	-	6.1	3.0

希望

《町民・性別》

女性では、『家庭や個人の生活』を優先」と『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が約4割でほぼ同程度の割合となっている。男性では、『家庭や個人の生活』を優先」と『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」の回答割合が高いものの、女性に比べて『仕事』を優先」の割合が高くなっている。

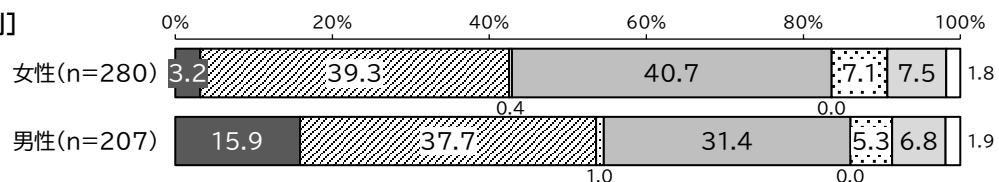
《町民・性・年代別》

女性では、『家庭や個人の生活』を優先」は年代が上がるほど高く、『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」は年代が若くなるほど高くなっている。

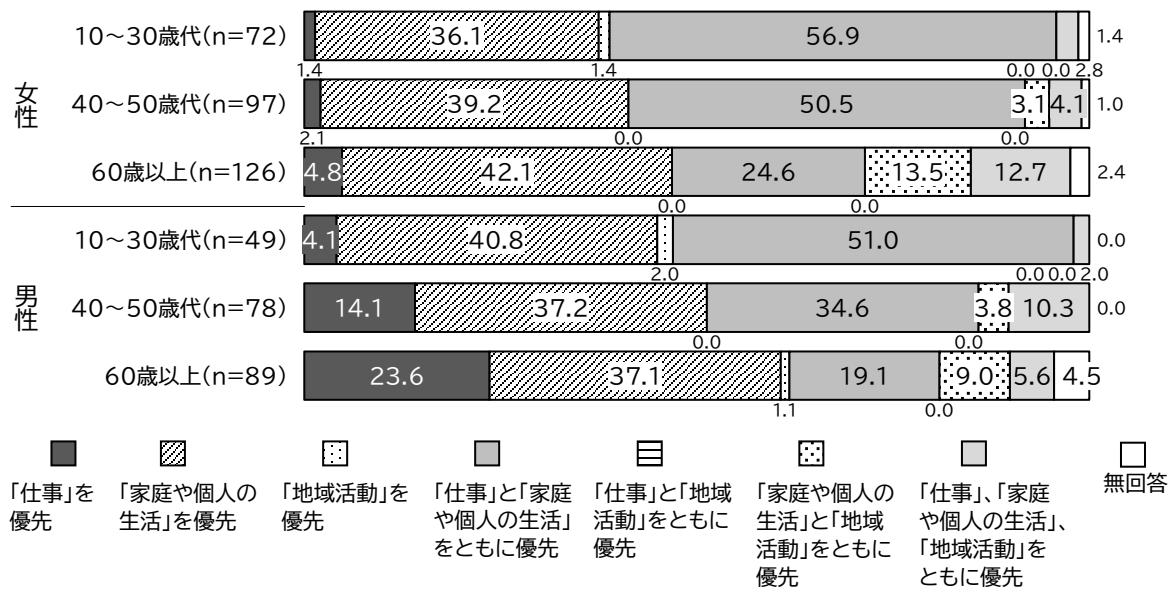
男性では、『仕事』を優先」は年代が上がるほど高くなっている。また、『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」は年代が若くなるほど高くなっているのは女性と同様の傾向である。

【希望する生活の中で優先すること】

【町民 性別】



【町民 性・年代別】



現実

《町民・性別》

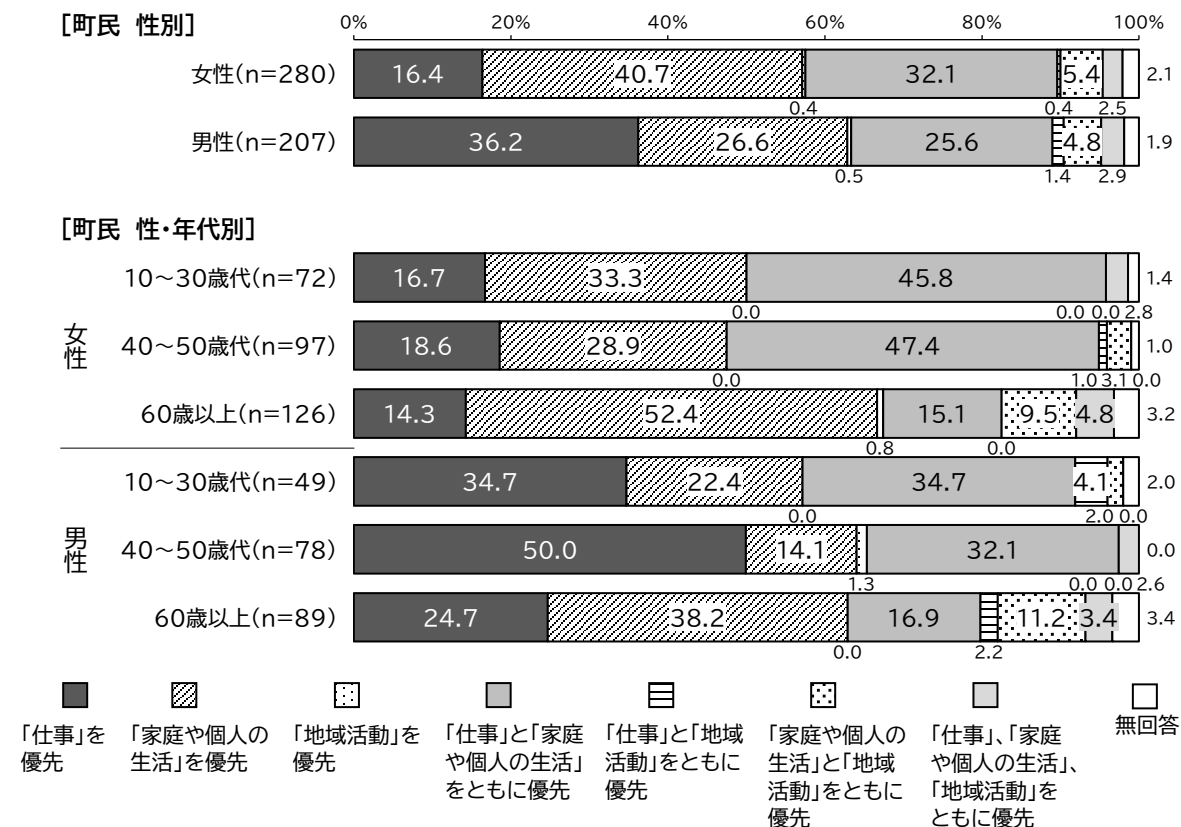
女性では、『家庭や個人の生活』を優先」が40.7%で最も高く、次いで『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が32.1%となっている。男性では、『仕事』を優先」が最も高く、女性と比べると約20ポイントの差がみられる。

《町民・性・年代別》

女性は、10～30歳代と40～50歳代では『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が4割を超えて最も高くなっている。60歳以上では『家庭や個人の生活』を優先」が52.4%と高くなっている。

男性は、40～50歳代では『仕事』を優先」が半数を占めている。10～30歳代では『仕事』を優先」と『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」がそれぞれ34.7%で同率となっている。

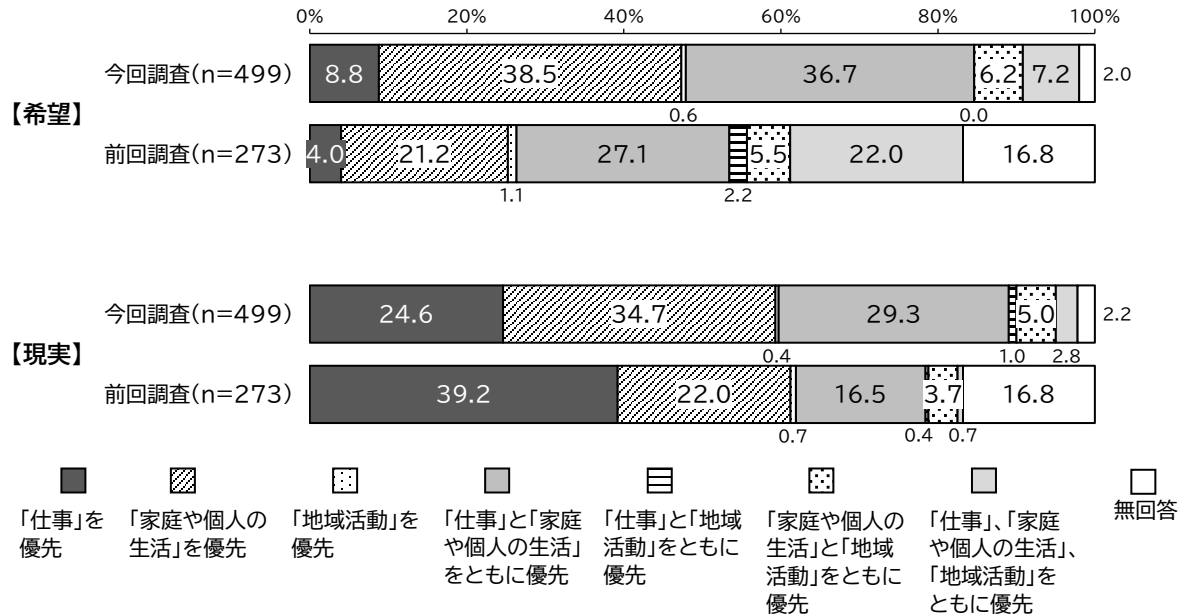
【現実の生活の中で優先すること】



《前回調査比較(町民)》

前回調査と比べると、希望では『仕事』、『家庭や個人の生活』、『地域活動』をともに優先」の割合が、現実では『仕事』を優先」が大幅に減少する一方で、希望、現実ともに『家庭や個人の生活』を優先」と『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が大きく増加している。

【生活の中で優先すること(前回調査との比較)】

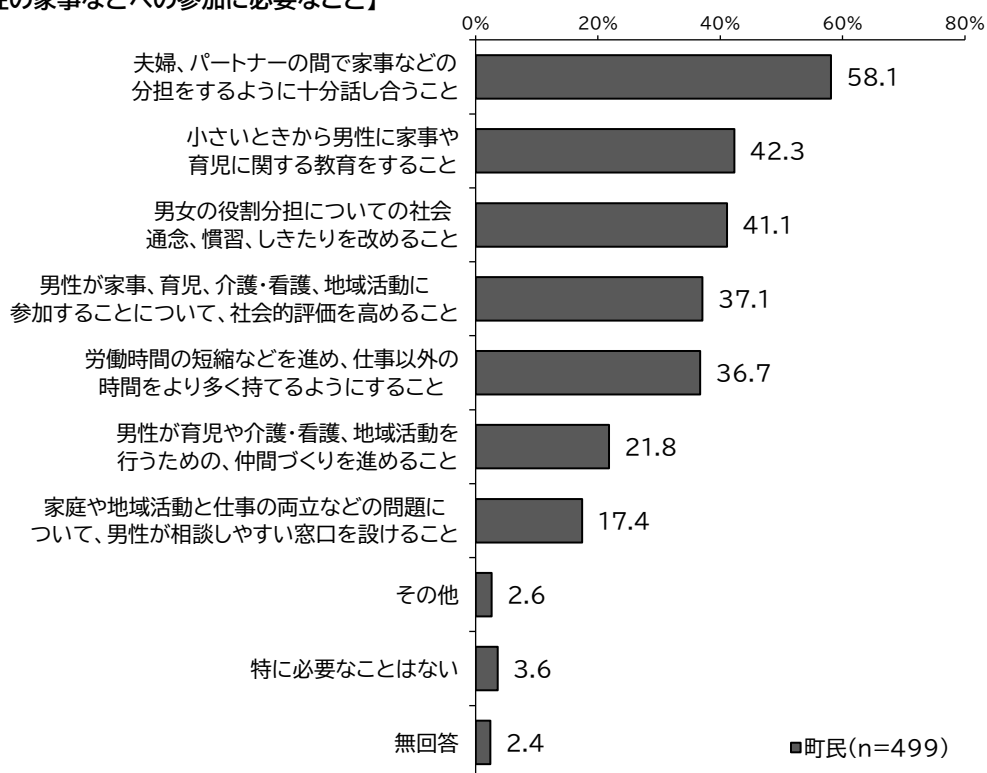


(3)男性の家事などへの参加に必要なこと

問4. 今後、男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、男性が家事などへ参加していくために必要なこととして、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が58.1%と最も高く、次いで「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」(42.3%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(41.1%)と続いている。

【男性の家事などへの参加に必要なこと】



《町民・性別》

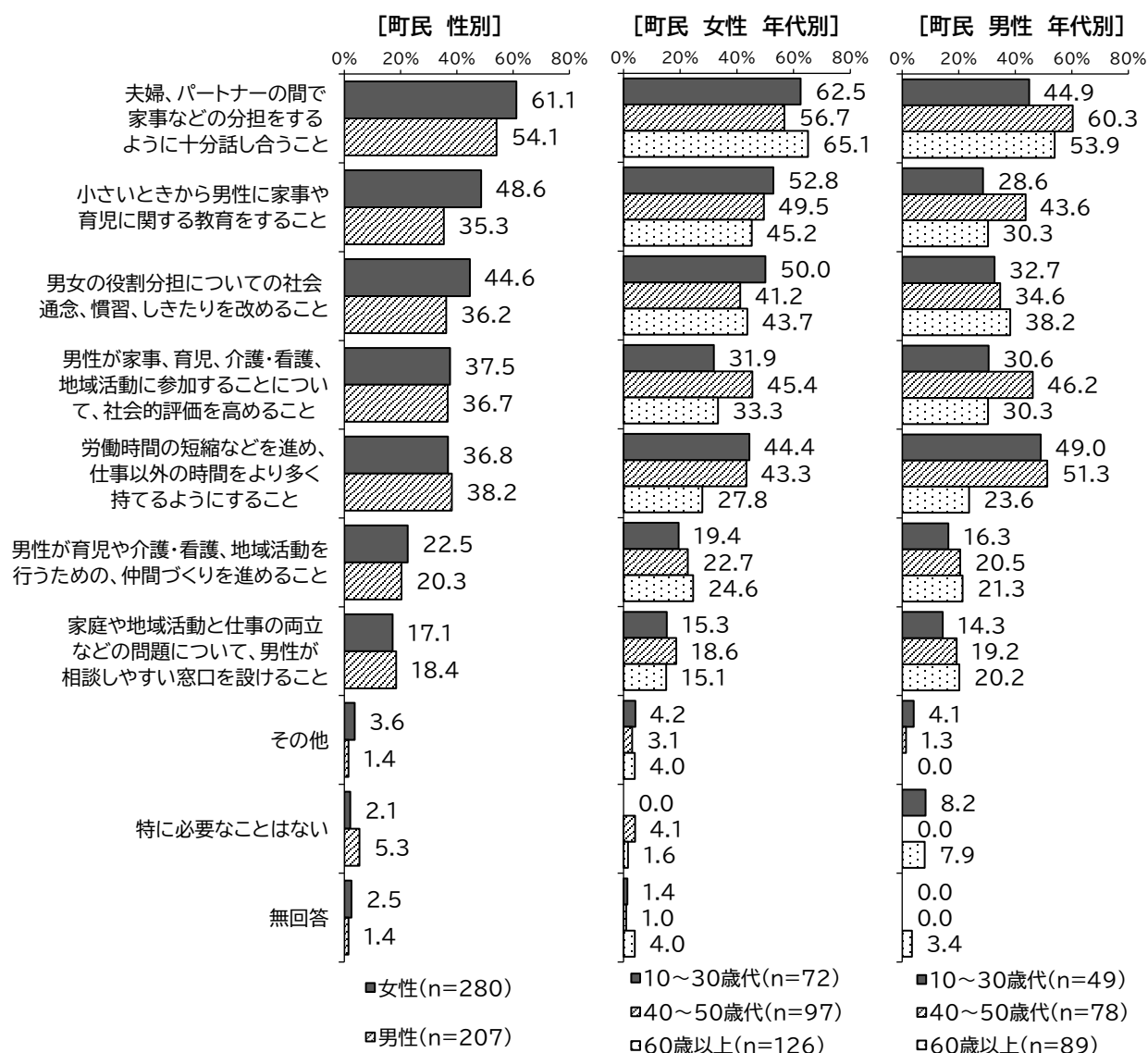
「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」以外の選択肢では、女性の方がやや回答割合が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の40～50歳代では「男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が他の年代よりも10ポイント以上高くなっている。

男性の40～50歳代は、多くの選択肢で他の年代よりも回答割合が高くなっている。また、男性10～30歳代と40～50歳代では「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が約5割となっている。

【性別、性・年代別 男性の家事などへの参加に必要なこと】



性・年代6区分別でみると、上位3項目について30歳代では女性の回答割合に比べて男性の回答割合が大幅に低くなっており、男女の意識差が大きい傾向がみられている。

【性・年代6区分別 男性の家事などへの参加に必要なこと】

	回答者数（n）	夫婦、パートナ ーの間に十分話 し合うこと	小さいときから 男性に家事や育 児に関	男女の役割分 担について、社 会通念、	活動が家事、育 児、介護・看護 、社会的	労働時間の短 縮などを進め 、仕事以外	男性が育児や 介護・看護、地 域活動を行 うための、仲 間づくりを進 めること	家庭や地域活 動と仕事の両 立しやすい窓 口の設けるこ と	その他	特に必要なこ とはない	無回 答
全体	499 100.0	290 58.1	211 42.3	205 41.1	185 37.1	183 36.7	109 21.8	87 17.4	13 2.6	18 3.6	12 2.4
女性	10・20歳代	39 100.0	24 61.5	17 43.6	14 35.9	9 23.1	16 41.0	6 15.4	3 7.7	2 5.1	1 2.6
	30歳代	33 100.0	21 63.6	21 63.6	22 66.7	14 42.4	16 48.5	8 24.2	8 24.2	1 3.0	-
	40歳代	52 100.0	37 71.2	24 46.2	19 36.5	19 36.5	27 51.9	12 23.1	10 19.2	1 1.9	-
	50歳代	45 100.0	18 40.0	24 53.3	21 46.7	25 55.6	15 33.3	10 22.2	8 17.8	2 4.4	1 2.2
	60歳代	39 100.0	30 76.9	20 51.3	20 51.3	16 41.0	16 41.0	8 20.5	5 12.8	2 5.1	1 2.6
	70歳以上	87 100.0	52 59.8	37 42.5	35 40.2	26 29.9	19 21.8	23 26.4	14 16.1	3 3.4	4 4.6
	10・20歳代	23 100.0	13 56.5	9 39.1	7 30.4	6 26.1	13 56.5	4 17.4	5 21.7	-	-
男性	30歳代	26 100.0	9 34.6	5 19.2	9 34.6	9 34.6	11 42.3	4 15.4	2 7.7	2 7.7	3 11.5
	40歳代	35 100.0	20 57.1	16 45.7	11 31.4	15 42.9	21 60.0	5 14.3	7 20.0	-	-
	50歳代	43 100.0	27 62.8	18 41.9	16 37.2	21 48.8	19 44.2	11 25.6	8 18.6	1 2.3	-
	60歳代	35 100.0	20 57.1	11 31.4	12 34.3	13 37.1	8 22.9	7 20.0	7 20.0	-	2 5.7
	70歳以上	54 100.0	28 51.9	16 29.6	22 40.7	14 25.9	13 24.1	12 22.2	11 20.4	-	1 1.9

《前回調査・大阪府調査・全国調査比較(町民)》

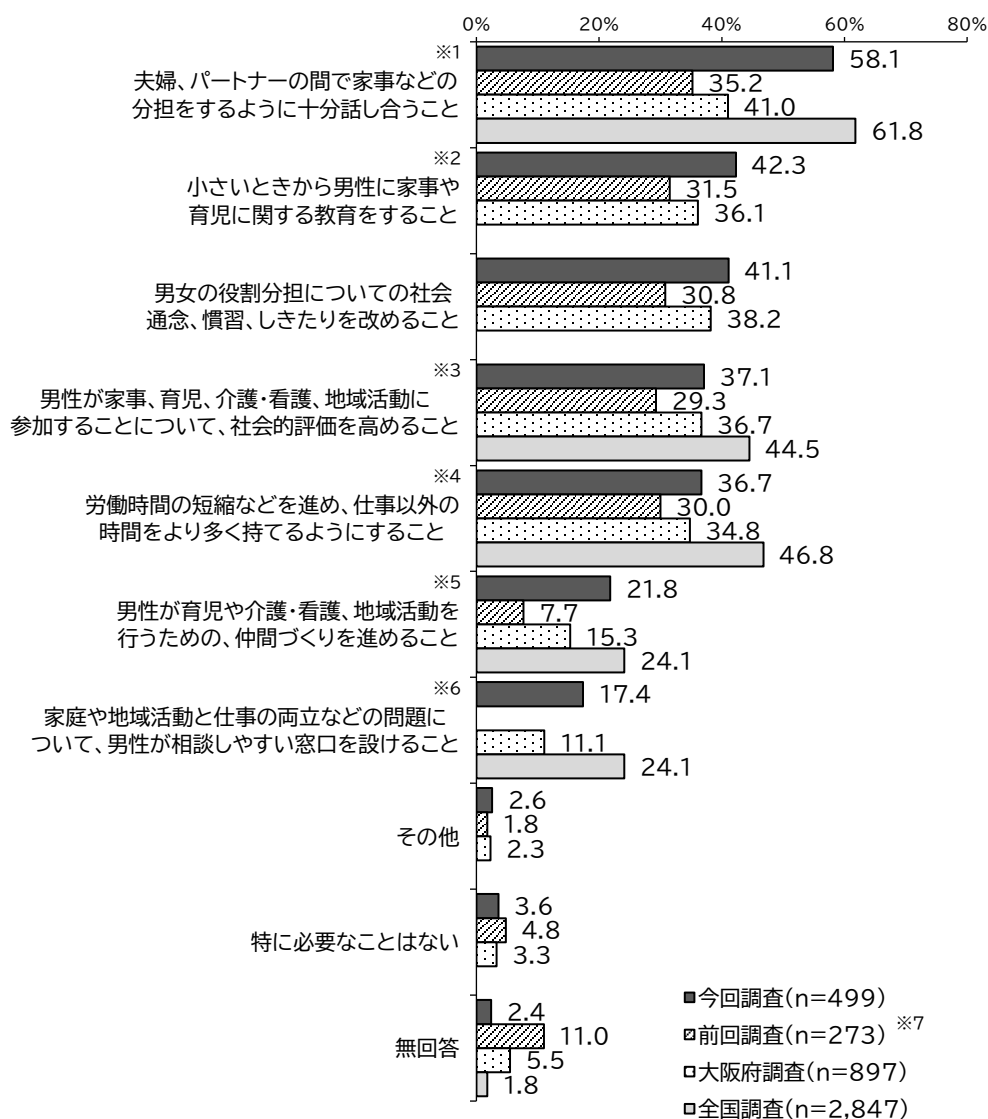
前回調査、大阪府調査、全国調査の設問とは一部選択肢の表現が異なることと前回調査では回答数が3つまでで今回調査と回答条件が異なることから参考となるが、それぞれの結果との比較を行った。

前回調査と比べると、いずれの選択肢も今回調査の回答割合が高くなっている。

大阪府調査と比べると、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は今回調査の方が17.1ポイント高くなっているが、その他の選択肢では大きな差はみられない。

全国調査と比較可能な選択肢では、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が約10ポイント低くなっている。

【男性の家事などへの参加に必要なこと(前回調査、大阪府調査、全国調査との比較)】



- ※1 前回調査では「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合う」、
全国調査では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」
※2 前回調査では「小さいときから男女の役割を決めつけるような教育をしない」
※3 前回調査では「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高める」、
全国調査では「社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること」
※4 全国調査では「労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間
をより多く持てるようにすること」
※5 前回調査では「男性同士の地域でのネットワークづくり」、
大阪府調査では「男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」、
全国調査では「男性が育児・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りをすすめること」
※6 全国調査では「男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと」
※7 前回調査は「○は3つまで」

3. 仕事・生き方について

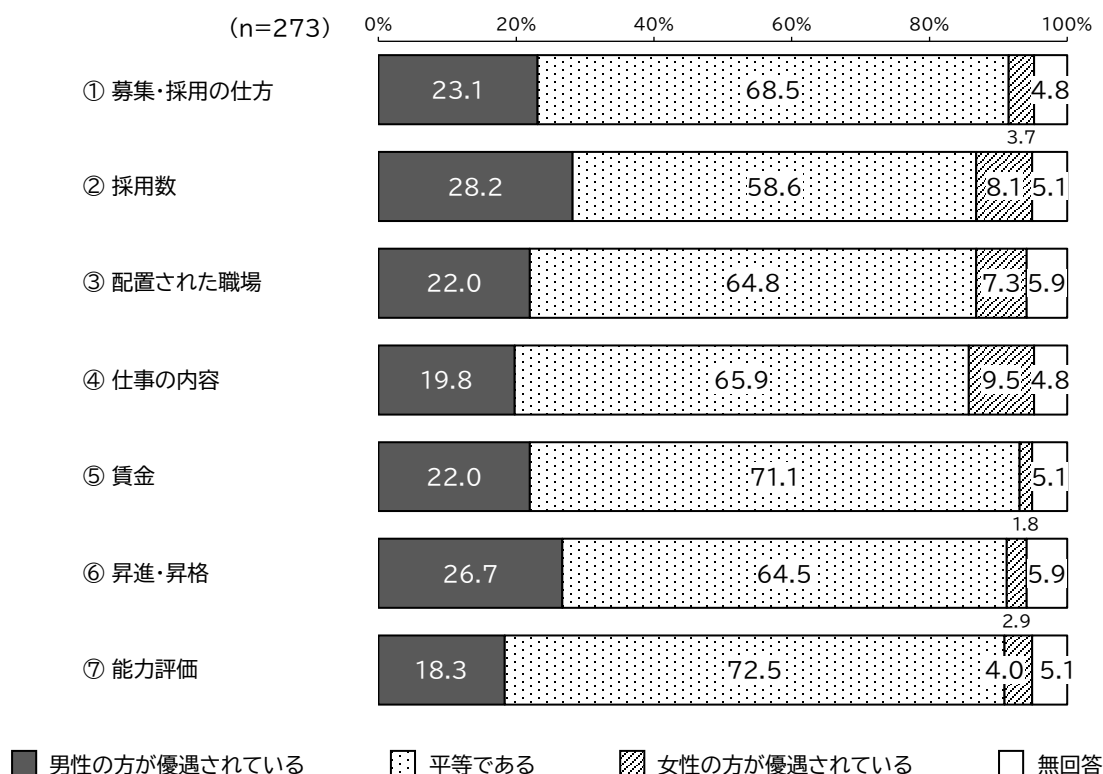
(1)職場において男女格差を感じること

■現在、仕事をされている方(育児・介護・病気等で一時休業中の方を含みます)にお聞きます。

問5. あなたの今の職場では、性別によって対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。(○は①～⑦それぞれに1つ)

職場における男女平等については、概ね「平等である」が6割台以上であるが、⑤賃金と⑦能力評価では「平等である」が7割を超えて、他の項目よりやや高くなっている。「男性の方が優遇されている」割合をみると、②採用数で28.2%、⑥昇進・昇格で26.7%となっており、他の項目に比べて高くなっている。

【職場において男女格差を感じること】



【①募集・採用の仕方】

《町民・性別》

「男性の方が優遇されている」を性別で比べると、女性は17.9%、男性は29.2%で男性の方が11.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が上がるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高くなり、逆に男性は年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっている。

【②採用数】

《町民・性別》

「男性の方が優遇されている」は、女性が20.0%、男性が37.7%で男性の方が17.7ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合は低くなっており、10～30歳代では、「男性の方が優遇されている」(14.0%)よりも「女性の方が優遇されている」(18.0%)の割合が高い。一方、男性では年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高く、10～30歳代で43.9%となっている。

【③配置された職場】

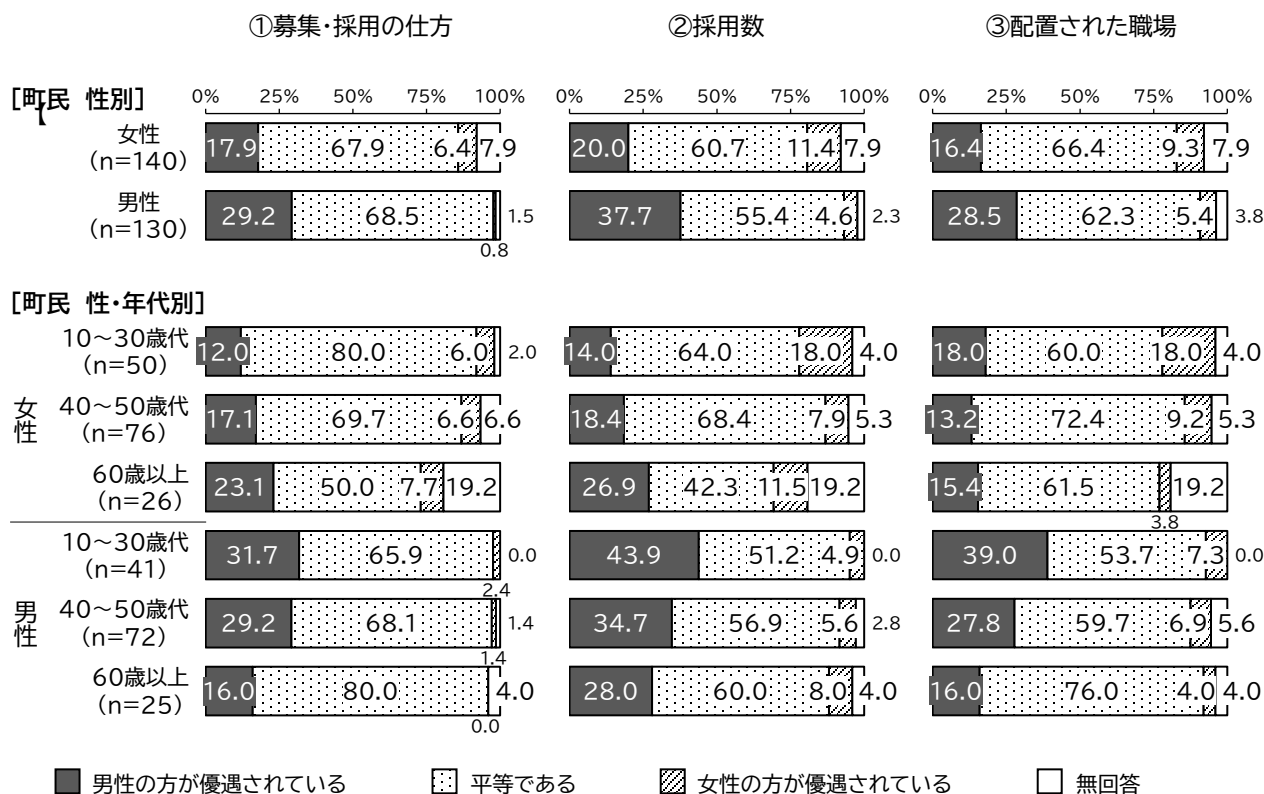
《町民・性別》

「男性の方が優遇されている」は、女性が16.4%、男性が28.5%で男性の方が12.1ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は、「男性の方が優遇されている」の回答割合に年代による大きな違いはなく、10～30歳代は、「男性の方が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」はそれぞれ18.0%で同率となっている。一方、男性では年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高く、10～30歳代は39.0%で60歳以上に比べて23.0ポイント高くなっている。

【性別・性・年代別 職場において男女格差を感じること】



【④仕事の内容】

《町民・性別》

性別で回答の傾向に大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

女性の60歳以上は、他の年代に比べて「男性の方が優遇されている」が10ポイント以上高くなっている。男性では年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高く、10～30歳代は34.1%で60歳以上よりも22.1ポイント高くなっている。

【⑤賃金】

《町民・性別》

「男性の方が優遇されている」の割合が、女性24.3%、男性19.2%で女性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代は「男性の方が優遇されている」が28.0%で他の年代よりも高くなっている。男性は年代による違いは小さい。

【⑥昇進・昇格】

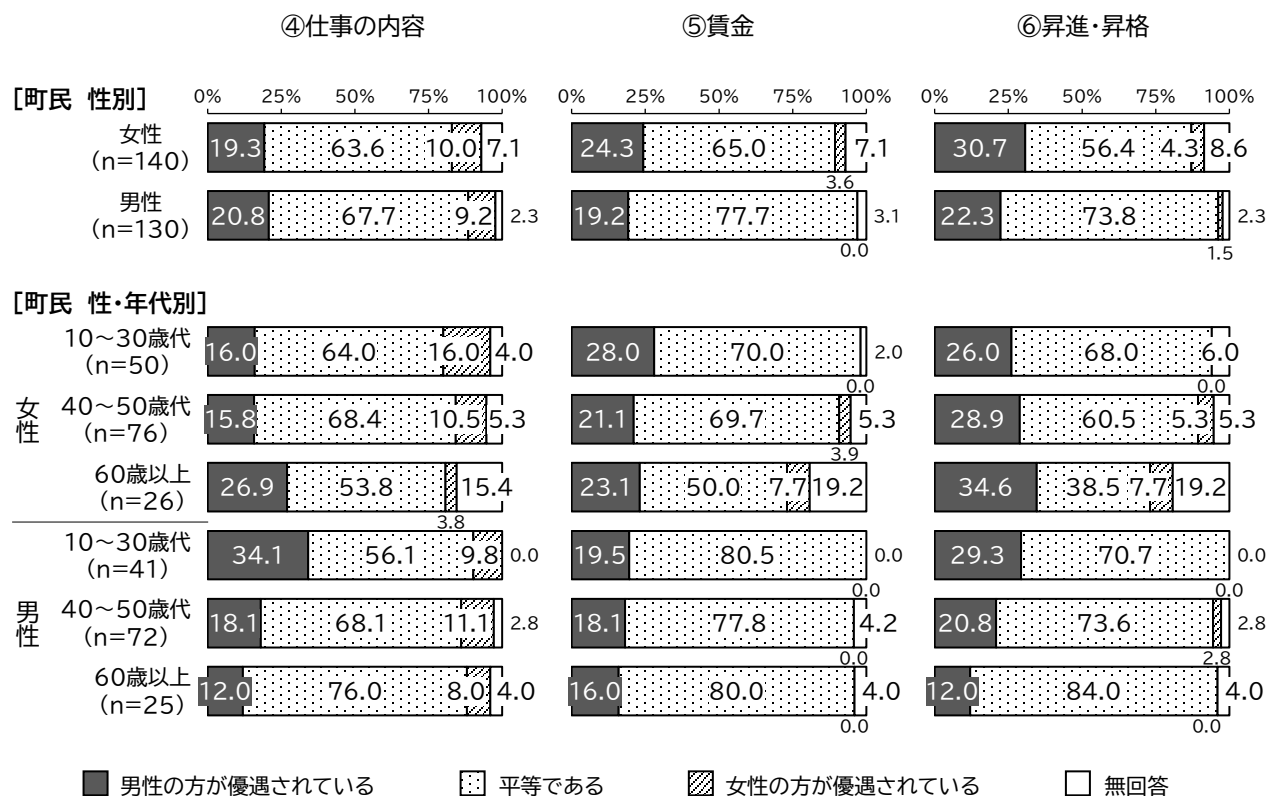
《町民・性別》

「男性の方が優遇されている」の割合が、女性30.7%、男性22.3%で女性の方が高くなっている。全項目のなかで女性の「男性の方が優遇されている」の回答割合が最も高い項目である。

《町民・性・年代別》

女性は年代によって「男性の方が優遇されている」の割合の違いは小さいが、男性では年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高く、10～30歳代で29.3%となっている。

【性別、性・年代別 職場において男女格差を感じること】



【⑦能力評価】

《町民・性別》

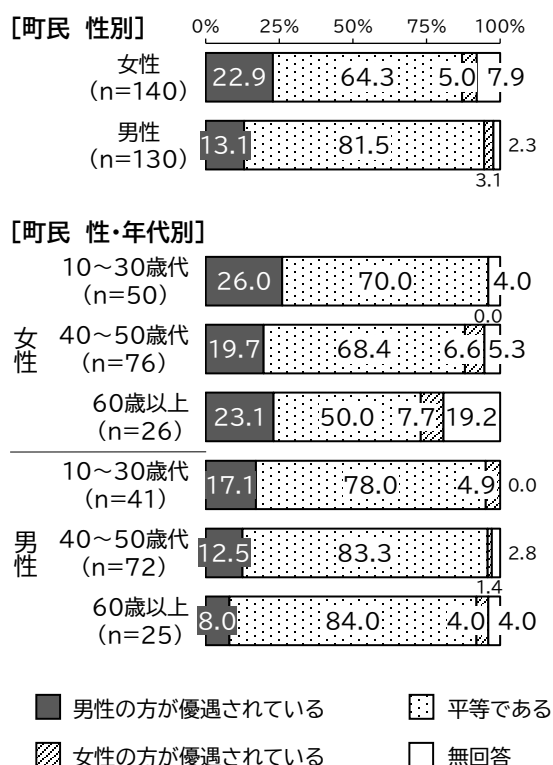
男性の方が優遇されている」の割合が、女性22.9%、男性13.1%で女性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代は「男性の方が優遇されている」が26.0%で他の年代よりも高くなっている。男性では年代が若くなるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっているものの、どの年代も女性の回答割合よりは低くなっている。

【性別、性・年代別 職場において男女格差を感じること】

⑦能力評価



(2)育児休業・介護休業の取得状況

問6. あなたは、これまでに育児休業・介護休業を取りましたか。(○は①～②それぞれに1つ)

育児休業について

「あてはまらない」と回答した人を除くと、「取りたいと思い、取った」が17.9%で最も高く、次いで「取りたいと思ったが、取らなかった」が13.2%となっている。

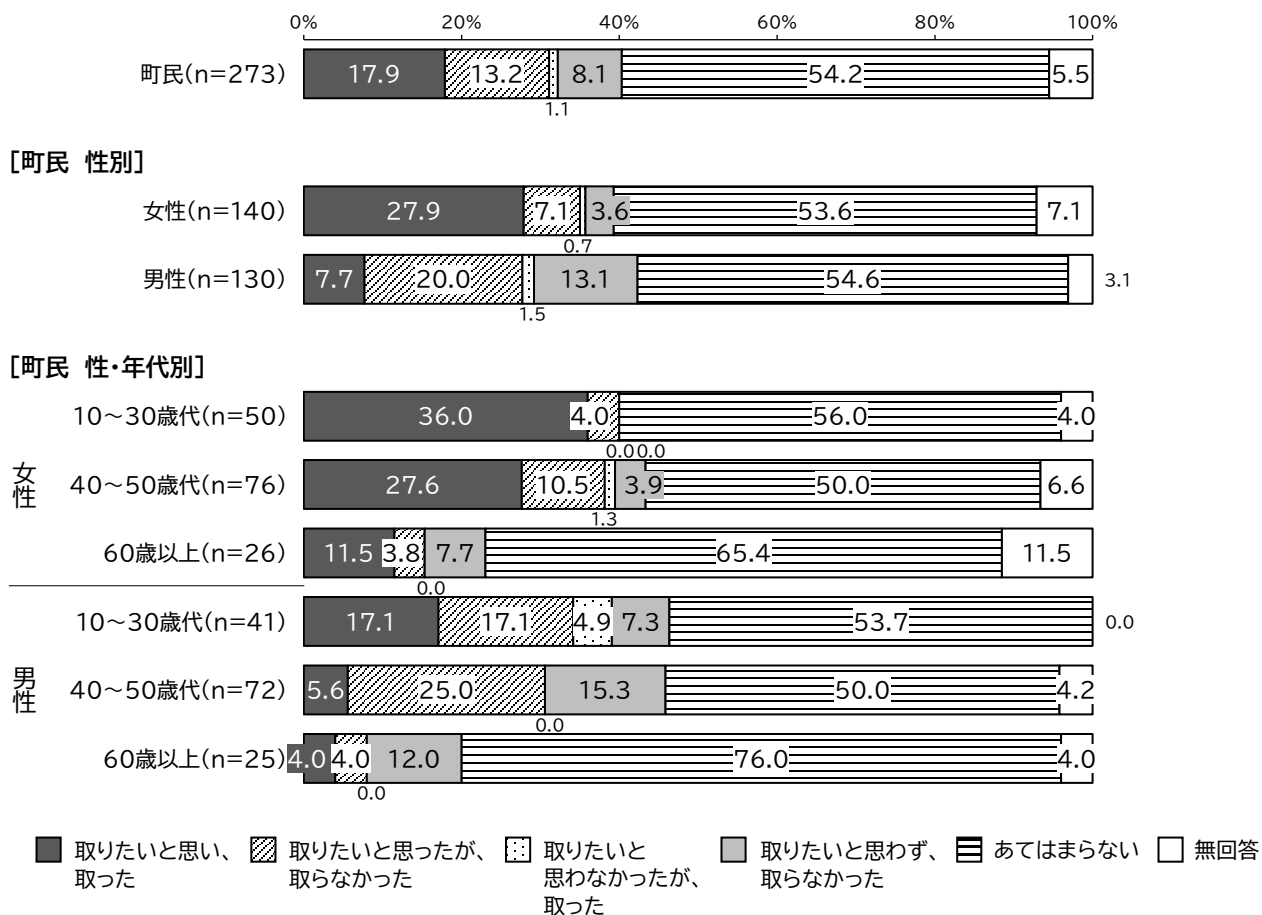
《町民・性別》

女性は、「取りたいと思い、取った」が27.9%で男性に比べて20.2ポイント高くなっている。一方の男性は、「取りたいと思ったが、取らなかった」が20.0%で女性に比べて12.9ポイント高く、「取りたいと思わず、取らなかった」は女性よりも9.5ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも、年代が若いほど、「取りたいと思い、取った」の割合が高くなっている。男性の40～50歳代では「取りたいと思ったが、取らなかった」が25.0%で特に高くなっている。

【育児休業の取得状況】



介護休業について

8割近くが「あてはまらない」の回答で、あてはまる人はわずかであるが、そのうちでは「取りたいと思ったが、取らなかった」の6.6%が最も高くなっている。

《町民・性別》

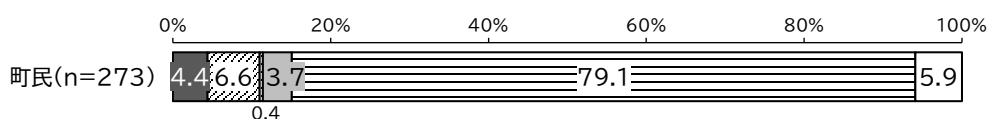
性別で回答の傾向に大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

女性は、「取りたいと思い、取った」、「取りたいと思ったが、取らなかった」ともに年代が上がるほど高くなっている。

男性では、「取りたいと思い、取った」は10～30歳代の7.3%が他の年代に比べて高く、40～50歳代では「取りたいと思ったが、取らなかった」が高くなっている。

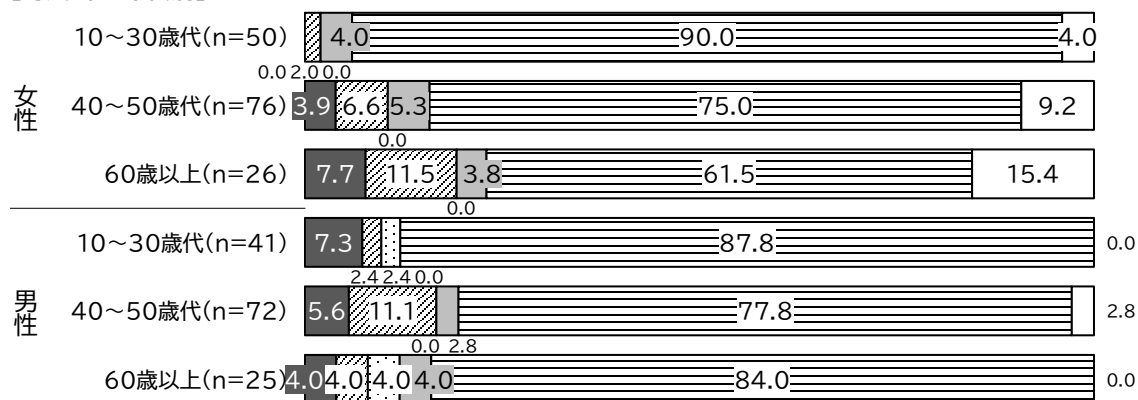
【介護休業の取得状況】



【町民 性別】



【町民 性・年代別】



取りたいと思い、取った
 取りたいと思ったが、取らなかった
 取りたいと思わなかったが、取った
 取りたいと思わず、取らなかった
 あてはまらない
 無回答

(3)今後の就労意向

■現在、仕事をされていない方にお聞きします。

問7. あなたは今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

現在働いていない人の就労意向をみると、「つきたいとは思わない」が33.3%で最も高く、次いで「できればつきたい」が20.6%となっている。就労意向のある人（「ぜひつきたい」と「できればつきたい」の合計）は33.3%である。

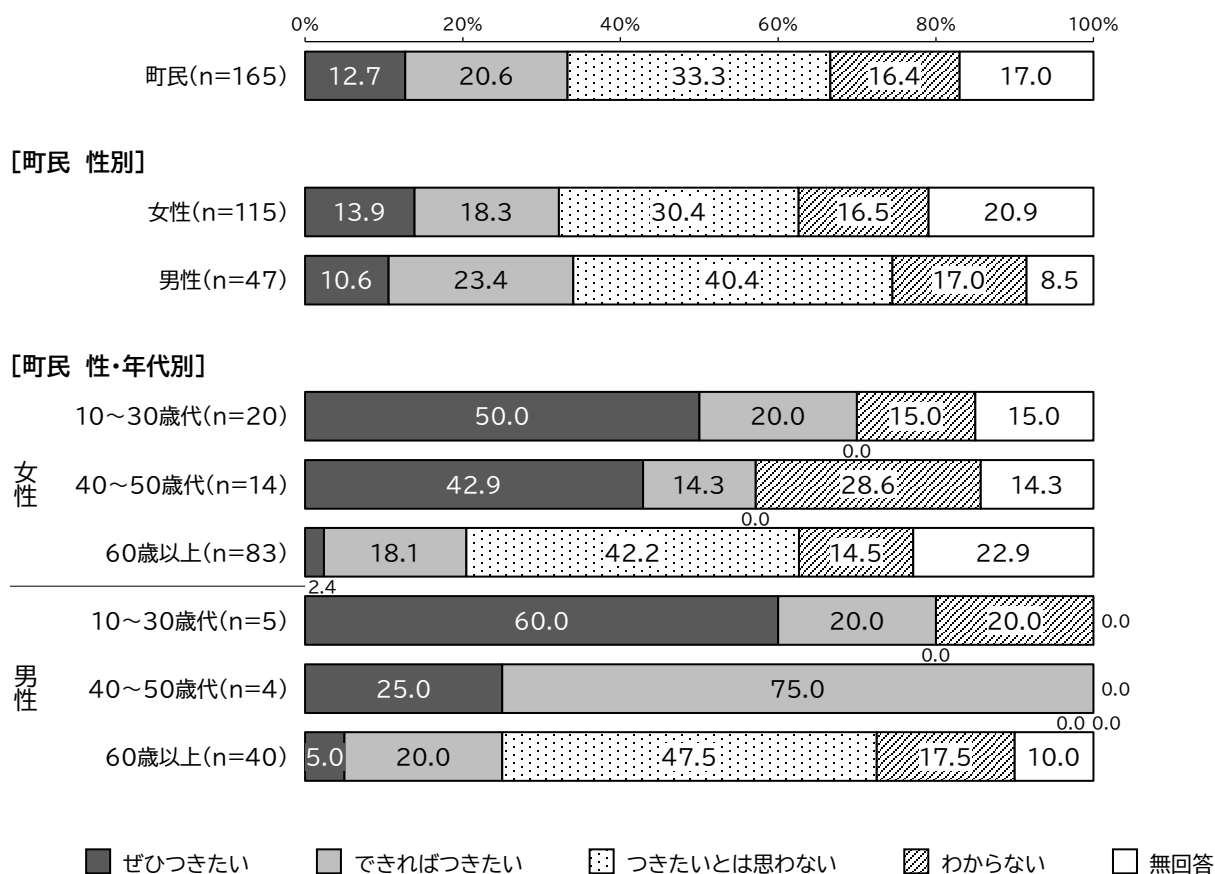
《町民・性別》

就労意向のある人は女性が32.2%、男性が34.0%で大きく変わらない。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代では20人中14人が、女性の40～50歳代では14人中8人が就労意向を持っており、男性の50歳代以下では9人中8人が就労意向を持っている。

【今後の就労意向】

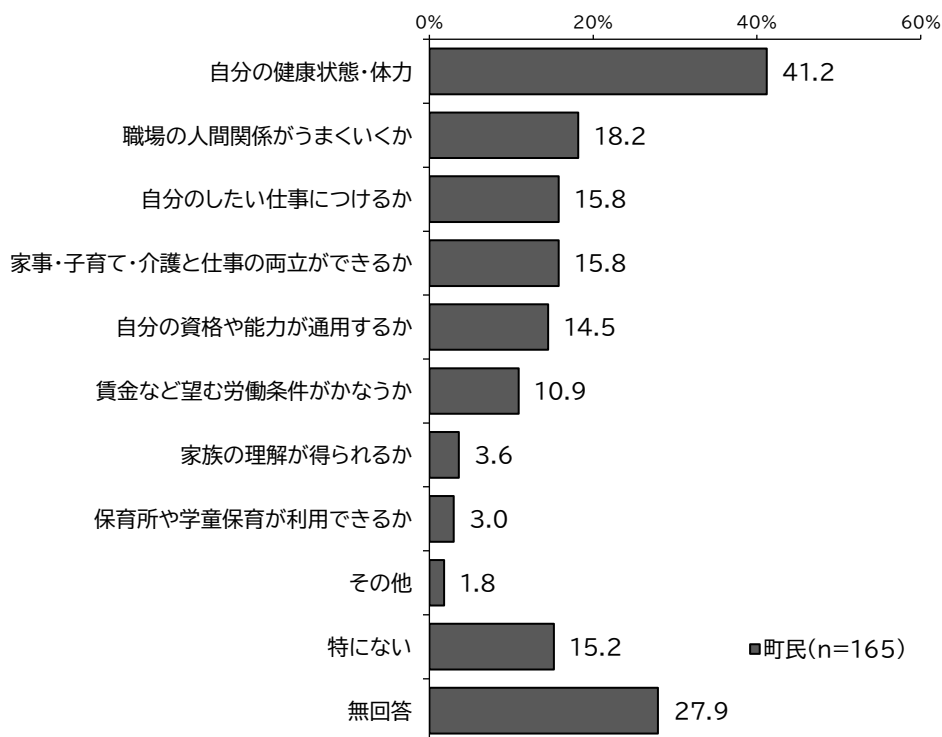


(4)仕事につくうえでの困りごとや不安

問7-1. これから仕事につくうえで困ることや不安はありますか。(〇はいくつでも)

「自分の健康状態・体力」が41.2%で最も高く、「職場の人間関係がうまくいくか」などの2位以下の回答に比べると突出している。

【仕事につくうえでの困りごとや不安】



《町民・性別》

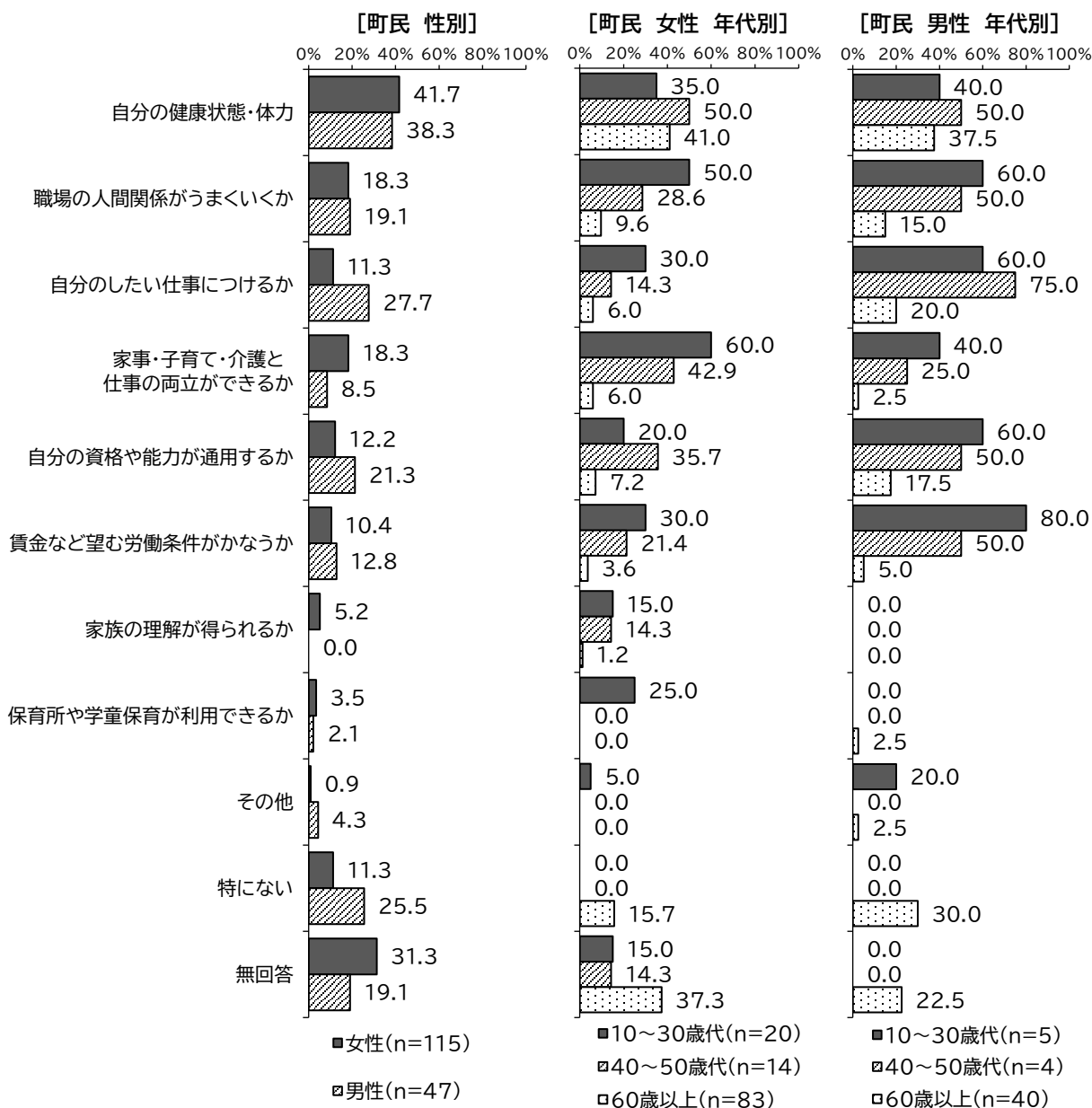
全体で最も高い「自分の健康状態・体力」の回答割合は性別で大きく変わらない。性別で回答に差がみられる選択肢は、「自分のしたい仕事につけるか」「自分の資格や能力が通用するか」は男性が高く、「家事・子育て・介護と仕事の両立ができるか」は女性が高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも60歳以上では、「自分の健康状態・体力」以外の選択肢の回答割合はさほど高くない。一方で50歳代以下では、「自分の健康状態・体力」以外の選択肢で「自分の健康状態・体力」よりも高い割合が散見されている。

女性の10～30歳代では「家事・子育て・介護と仕事の両立ができるか」が最も高くなっている。男性の10～30歳代では「賃金など望む労働条件がかなうか」が最も高く、男性の40～50歳代では「自分のしたい仕事につけるか」が最も高い回答である。

【性別、性・年代別 仕事につくうえでの困りごとや不安】



(5)女性の働き方についての考え

■全員にお聞きします。

問8. 一般的に女性が仕事をする事について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が44.7%で最も高く、「子育て時期だけやめ、その後はパート就労するのがよい」(21.2%)、「子育て時期だけやめ、その後はフルタイム就労するのがよい」(12.6%)と続いている。

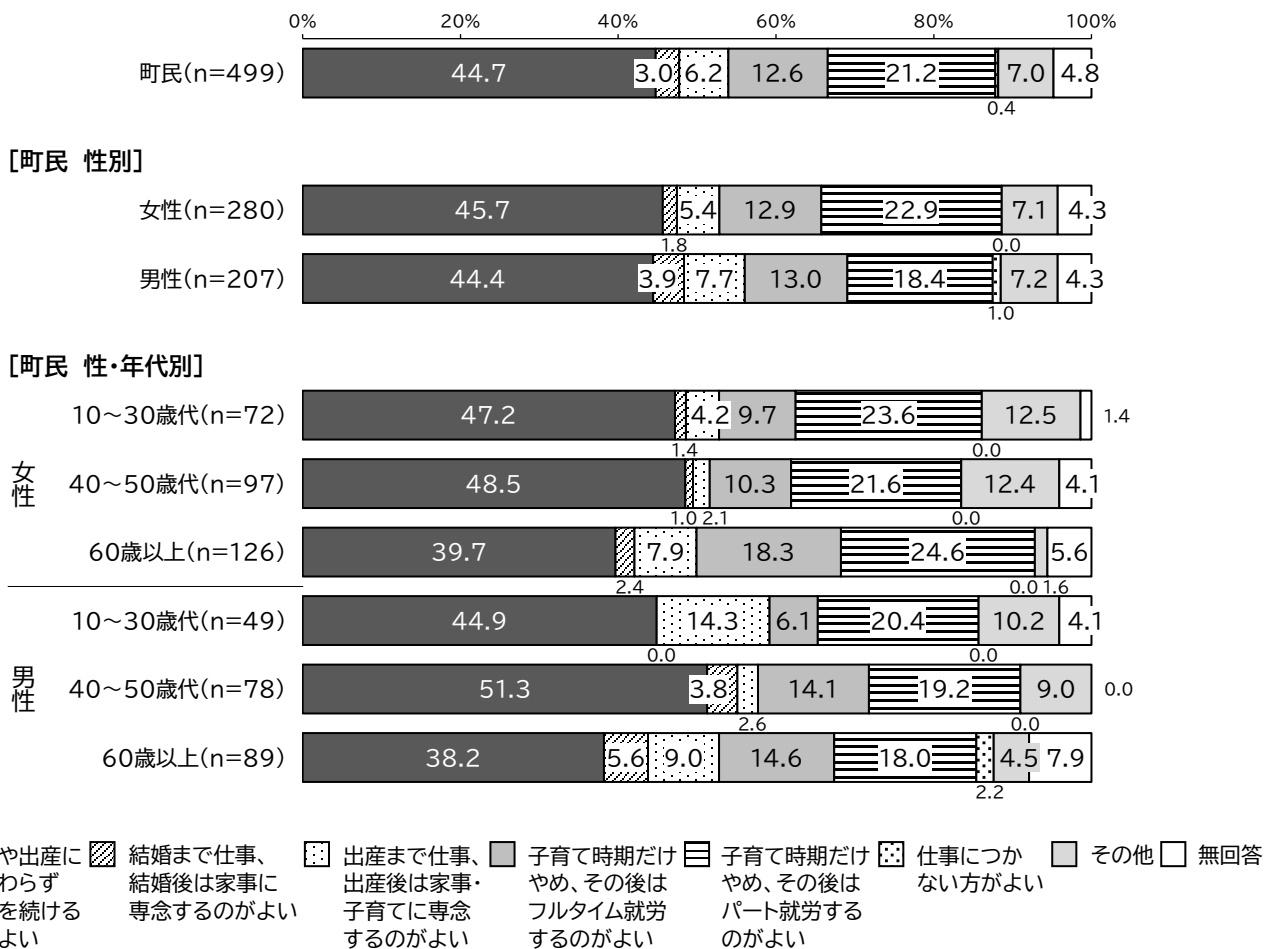
《町民・性別》

性別で回答の傾向に大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代では「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の回答割合が他の年代に比べて高くなっている。

【女性の働き方についての考え】



性・年代6区分別でみると、女性では、30歳代と50歳代で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の回答割合が特に高くなっている。また、10～20歳代では「子育て時期だけやめ、その後はパート就労するのがよい」の回答割合が他の年代に比べて高くなっている。男性では女性ほど年代による違いは大きくない。

【性・年代6区分別 女性の働き方についての考え】

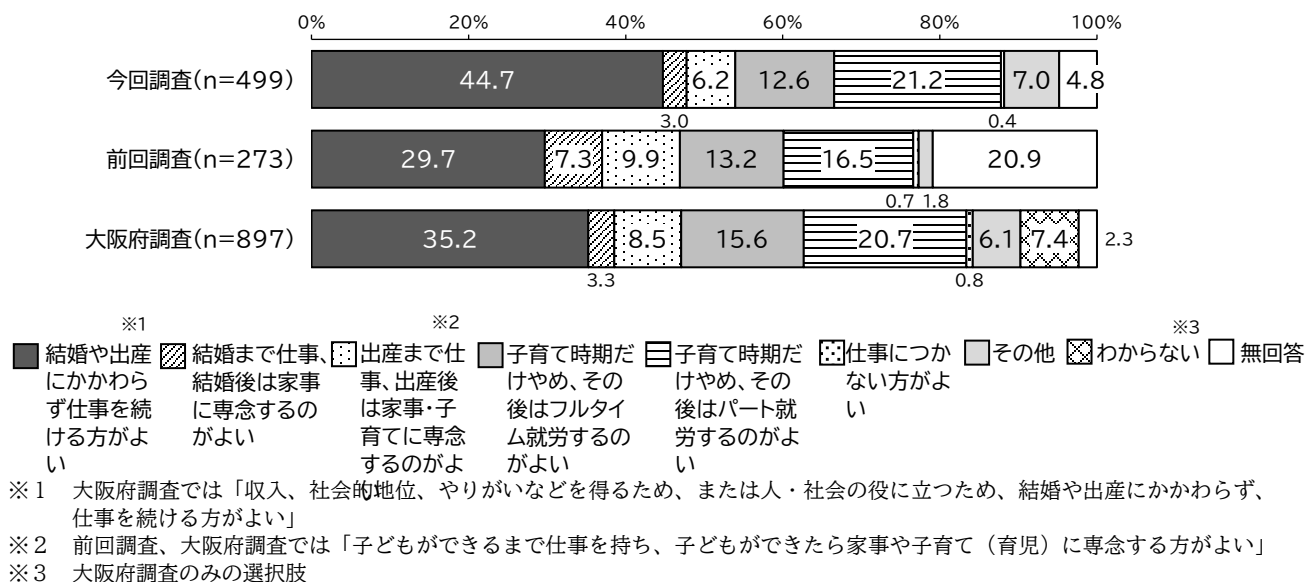
		回答者数 (n)	結婚や出産に かかる方がよい	結婚まで仕事、結婚後は 家事に専念するのがよい	出産まで仕事、出産後は 家事・子育てに専念する のがよい	子育て時期だけやめ、そ の後フルタイム就労す るのがよい	子育て時期だけやめ、そ の後パート就労するの がよい	仕事につかない方がよい	その他	無回答
	全体	499 100.0	223 44.7	15 3.0	31 6.2	63 12.6	106 21.2	2 0.4	35 7.0	24 4.8
女性	10・20歳代	39 100.0	15 38.5	-	2 5.1	4 10.3	14 35.9	-	4 10.3	-
	30歳代	33 100.0	19 57.6	1 3.0	1 3.0	3 9.1	3 9.1	-	5 15.2	1 3.0
	40歳代	52 100.0	20 38.5	1 1.9	2 3.8	7 13.5	13 25.0	-	6 11.5	3 5.8
	50歳代	45 100.0	27 60.0	-	-	3 6.7	8 17.8	-	6 13.3	1 2.2
	60歳代	39 100.0	21 53.8	1 2.6	2 5.1	5 12.8	10 25.6	-	-	-
	70歳以上	87 100.0	29 33.3	2 2.3	8 9.2	18 20.7	21 24.1	-	2 2.3	7 8.0
	10・20歳代	23 100.0	11 47.8	-	3 13.0	2 8.7	6 26.1	-	1 4.3	-
男性	30歳代	26 100.0	11 42.3	-	4 15.4	1 3.8	4 15.4	-	4 15.4	2 7.7
	40歳代	35 100.0	19 54.3	1 2.9	-	2 5.7	10 28.6	-	3 8.6	-
	50歳代	43 100.0	21 48.8	2 4.7	2 4.7	9 20.9	5 11.6	-	4 9.3	-
	60歳代	35 100.0	18 51.4	1 2.9	2 5.7	3 8.6	8 22.9	1 2.9	1 2.9	1 2.9
	70歳以上	54 100.0	16 29.6	4 7.4	6 11.1	10 18.5	8 14.8	1 1.9	3 5.6	6 11.1

《前回調査・大阪府調査比較(町民)》

前回調査と比べると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は15.0ポイント高くなっている。一方で「結婚まで仕事、結婚後は家事に専念するのがよい」と「出産まで仕事、出産後は家事・子育てに専念するのがよい」の合計は、今回調査9.2%、前回調査17.2%で8.0ポイント低くなっている。

大阪府調査と比べると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は今回調査の方が9.5ポイント高くなっている。

【女性の働き方についての考え(前回調査、大阪府調査との比較)】



4. 性について

(1)性自認・性的指向で悩んだことがあるか

問9. あなたは、今までに性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがありますか。(○は1つ)

性自認・性的指向で悩んだことのある人は2.2%となっている。

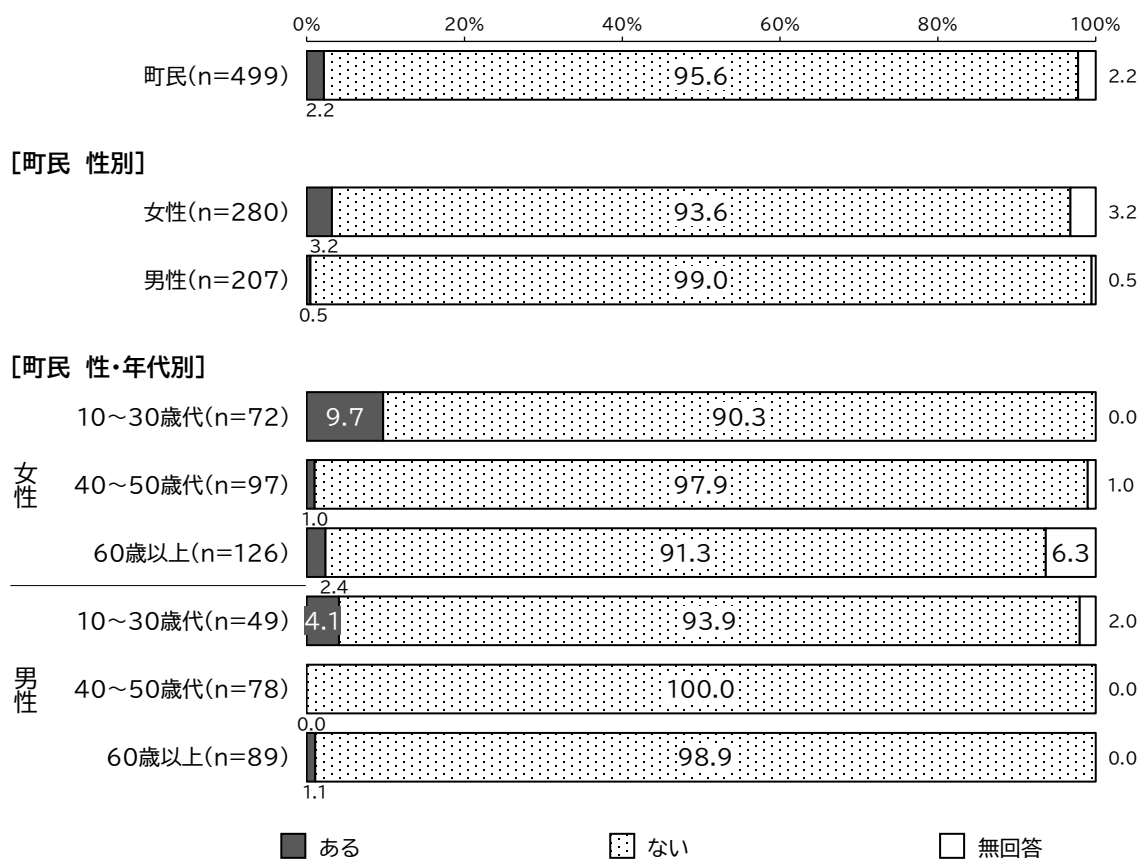
《町民・性別》

性自認・性的指向で悩んだことのある人は、女性は3.2%、男性は0.5%となっている。

《町民・性・年代別》

男女とも10～30歳代では悩んだことのある人が他の年代よりも高くなっており、女性の10～30歳代で9.7%、男性の10～30歳代で4.1%となっている。

【性自認・性的指向で悩んだことがあるか】



(2)性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問10. LGBTをはじめとする性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。

(○は1つ)

「どちらかといえばそう思う」が38.3%で最も高く、「そう思う」の23.0%と合わせると61.3%にのぼる。

《町民・性別》

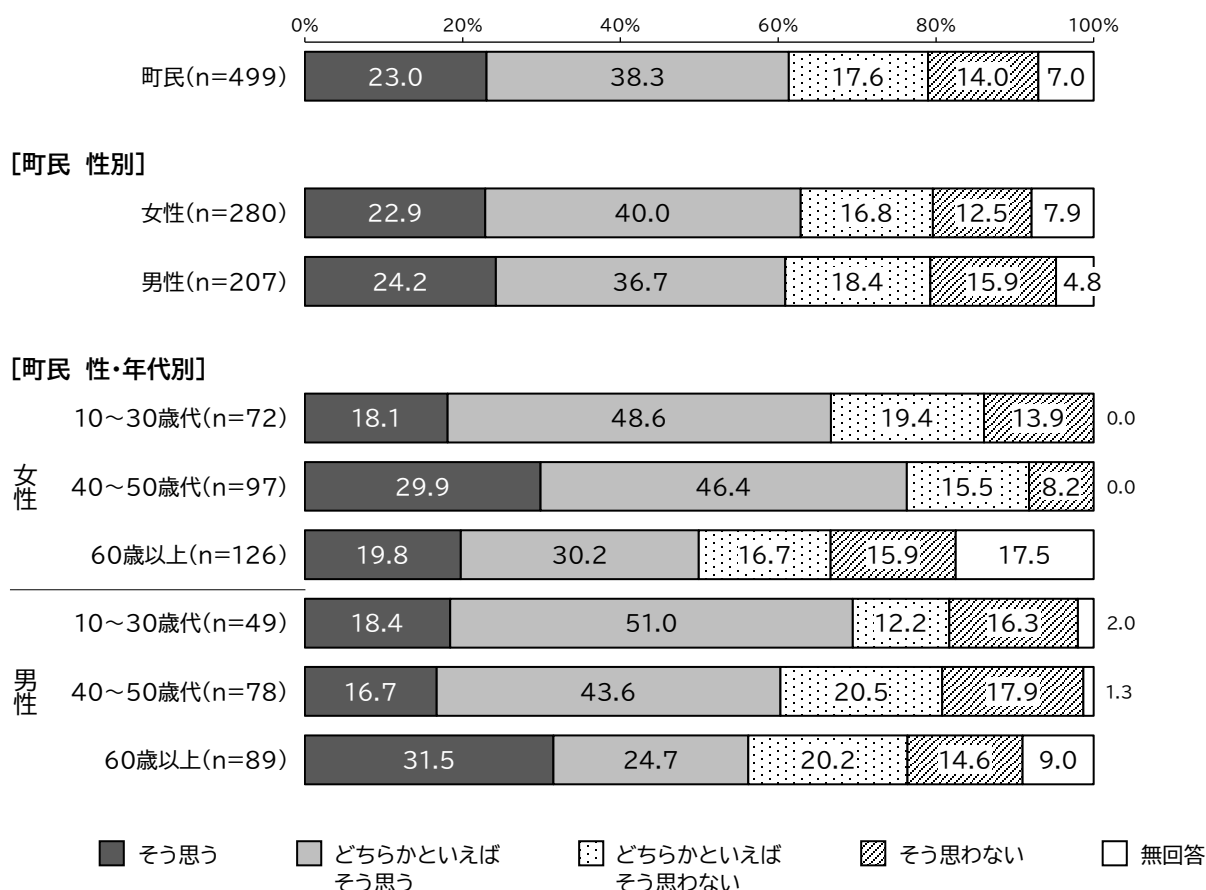
性別で回答傾向は大きく変わらない。

《町民・性・年代別》

女性の40～50歳代では、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が76.3%で他の年代に比べて高くなっている。男性は年代が若いほど『そう思う』の回答割合が高く、10～30歳代では69.4%となっている。

また、女性の40～50歳代と男性の60歳以上は、「そう思う」がそれぞれ約3割で強く肯定する傾向がやや大きい。

【性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか】



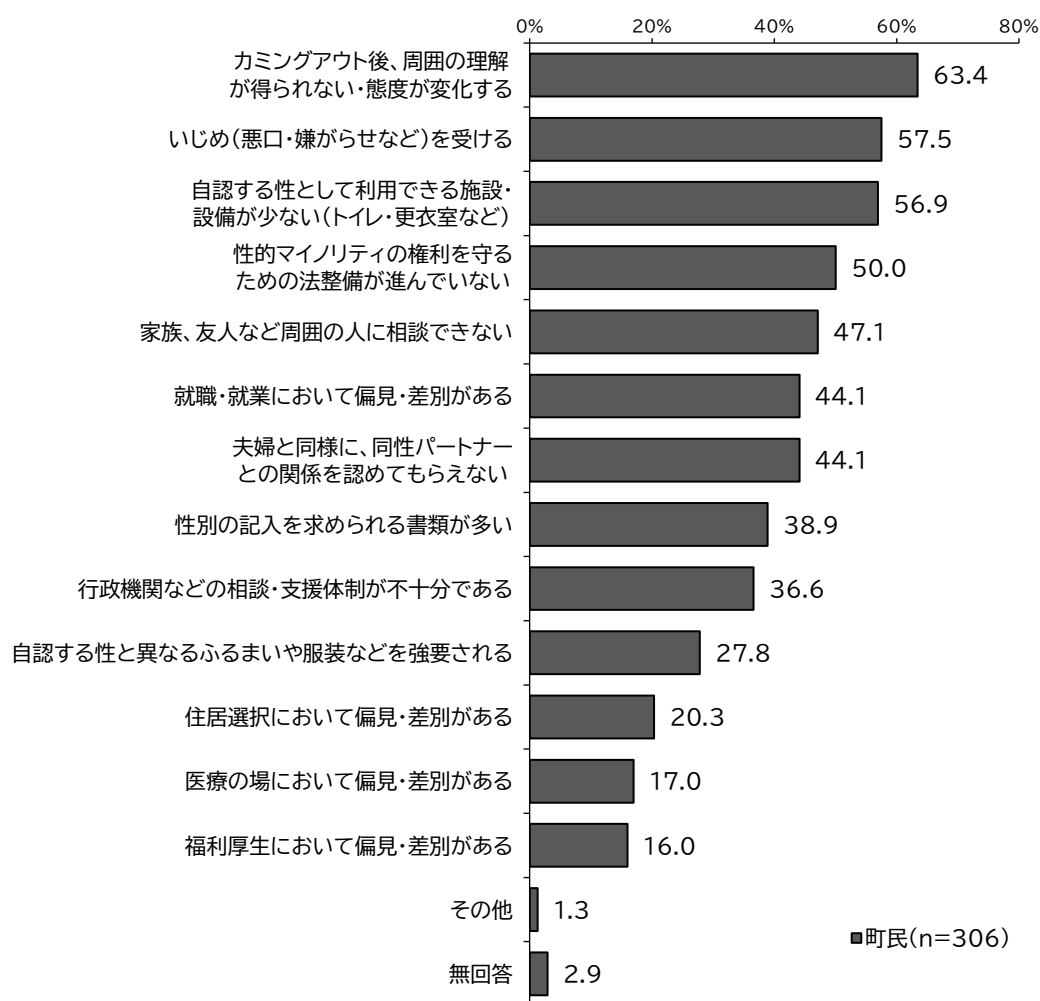
(3)性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由

問10-1.「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方に

どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」(63.4%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(57.5%)、「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(56.9%)、「性的マイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない」(50.0%)の順に多く挙げられている。

【性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由】



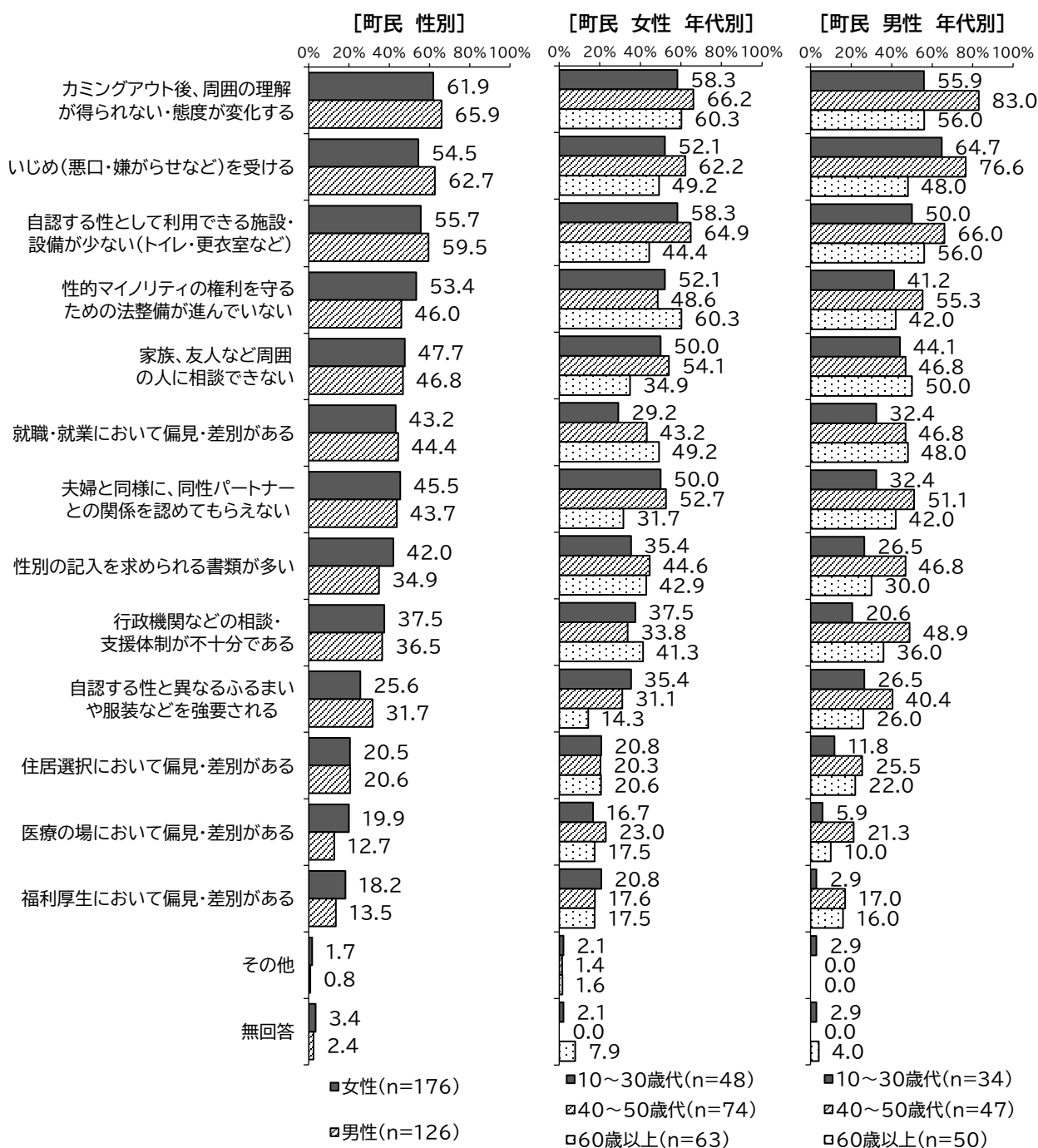
《町民・性別》

上位3つの選択肢の回答割合が、女性より男性の方がやや高くなっているが、大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

男性の40～50歳代は、全般的に各選択肢の回答割合が他の年代に比べて高い傾向がみられる。女性では、上位3項目については40～50歳代の回答割合が他の年代に比べて高いが、回答割合が下位の選択肢ではその傾向はみられない。

【性別、性・年代別 性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由】



5. 子どもの育て方や教育について

(1)子どもの教育方針

問11. あなたは子どもの育て方について、どのように思いますか。子どもがいない方も、仮にいと想定してお答えください。(○は①～③それぞれに1つ)

【①性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい】

「そう思う」が67.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が20.8%となっており、合わせると88.7%にのぼる。

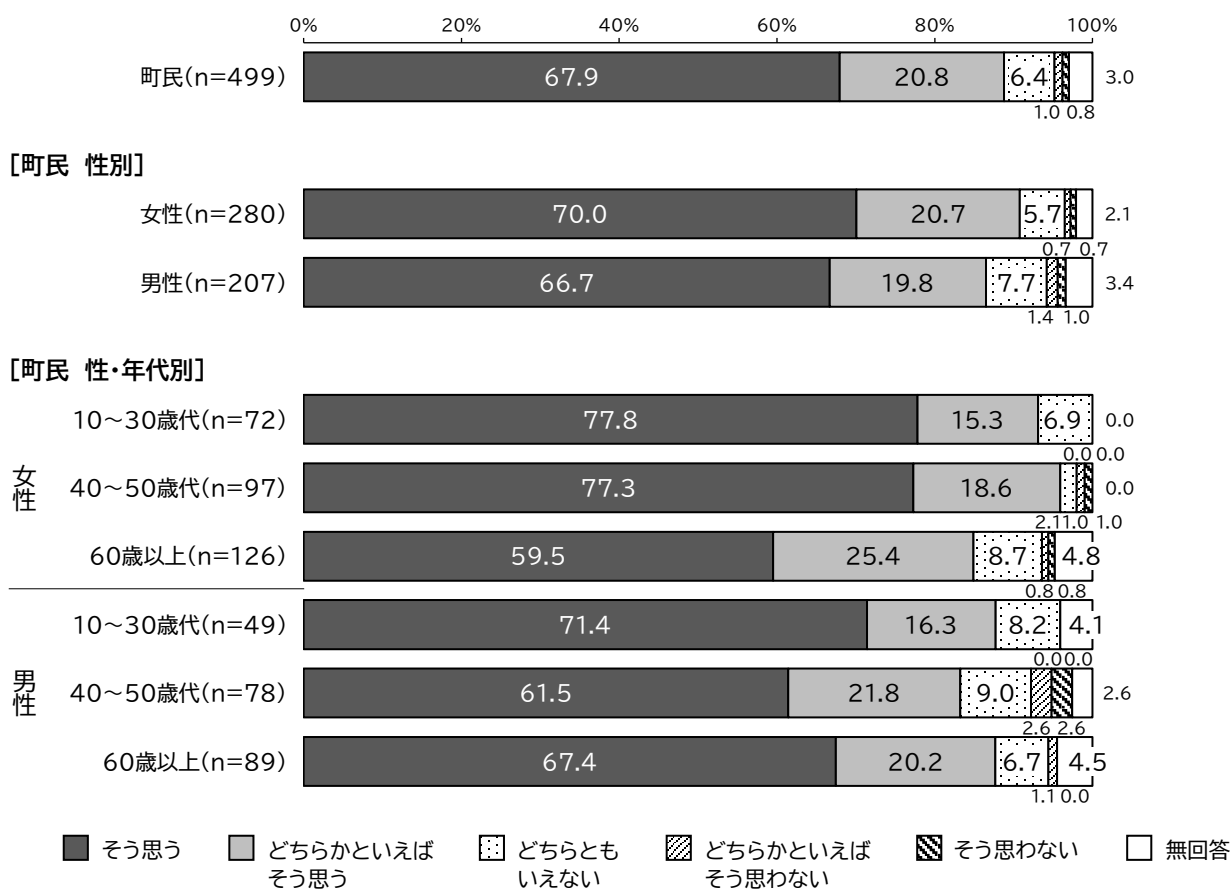
《町民・性別》

女性は、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が90.7%、男性は86.5%で、女性方がやや高いが、大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代、40～50歳代は『そう思う』の回答割合がほぼ同じである。男性の40～50歳代は『そう思う』の回答割合が他の年代に比べてやや低くなっている。

【①性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい】



【②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい】

「どちらともいえない」が29.7%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」23.8%、「そう思わない」18.0%と続いている。

『そう思う』は37.6%、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は28.8%となっている。

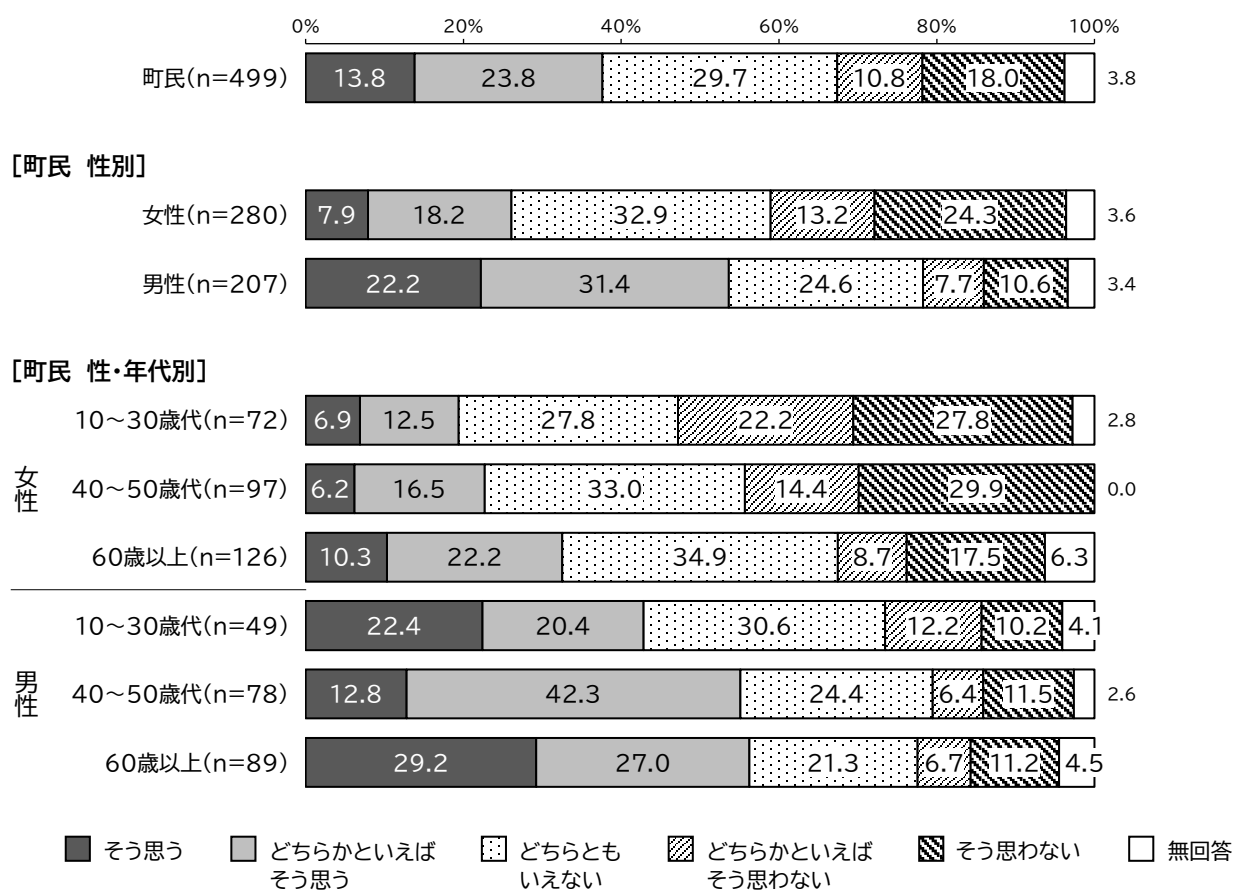
《町民・性別》

女性は『そう思わない』が37.5%で、『そう思う』（26.1%）よりも高いが、男性は『そう思う』が53.6%、『そう思わない』が18.3%と、『そう思う』の方が大幅に高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は、年代が若いほど『そう思わない』の割合が高く、10～30歳代では50.0%と半数を占めている。男性では、『そう思わない』の割合は女性ほど年代による違いが大きい一方で『そう思う』の割合は40歳代以上で高くなっている。

【②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい】



【③子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい】

「どちらともいえない」が31.5%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」21.4%、「そう思う」18.8%と続いている。

『そう思う』は40.2%、『そう思わない』の合計)は25.0%となっている。

《町民・性別》

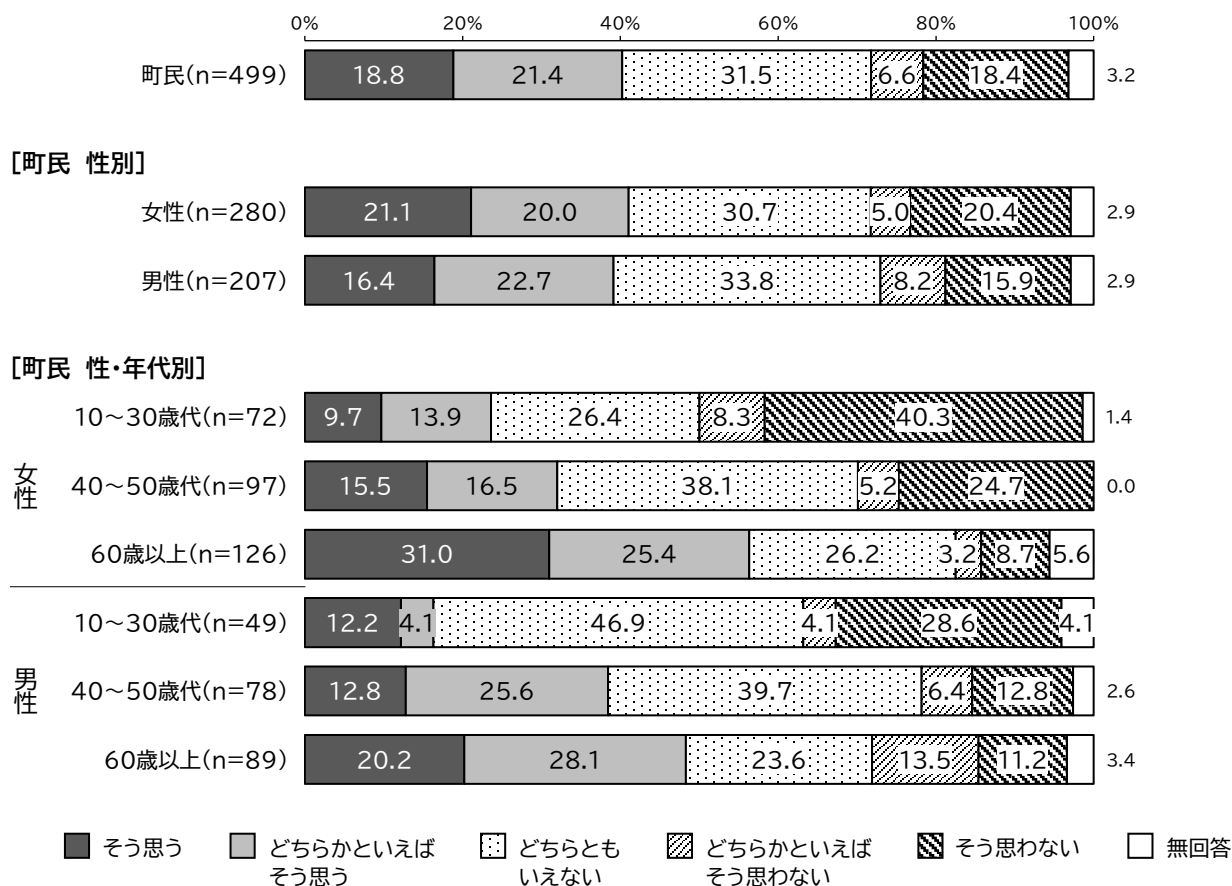
男女とも『そう思う』の方が『そう思わない』よりも高くなっており、女性は『そう思う』が41.1%、『そう思わない』が25.4%である。男性は『そう思う』が39.1%、『そう思わない』が24.1%となっている。

《町民・性・年代別》

女性は、年代が若いほど『そう思わない』の割合が高く、10～30歳代では48.6%を占めている。『そう思う』は年代が上がるほど高くなる傾向が顕著で、60歳以上では56.4%を占めている。

男性は女性と同様に『そう思う』は年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。10～30歳代では『そう思わない』の割合が32.7%で他の年代に比べて高くなっている。

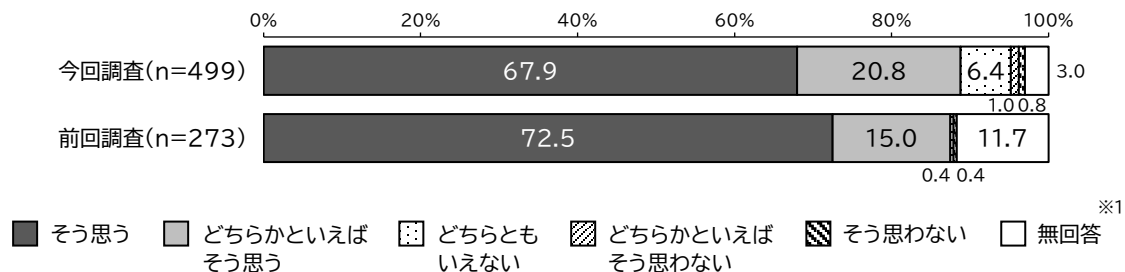
【③子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい】



《前回調査比較(町民)》

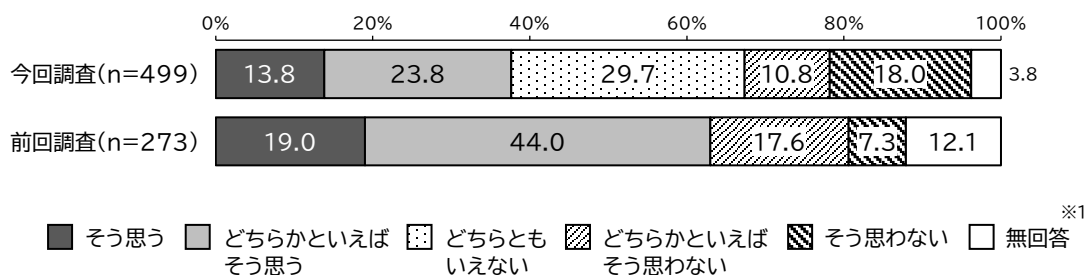
【① 性別にこだわらず、子どもの個性をのぼす方がよい(前回調査との比較)】

前回調査に比べて、「そう思う」は4.6ポイント低く、「どちらかといえばそう思う」は5.8ポイント高くなっており、その合計の『そう思う』は今回調査がわずかに高くなっている程度である。



【②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい(前回調査との比較)】

前回調査では「どちらともいえない」の選択肢がなかったため、厳密な比較とはならないが、否定的な回答（今回調査では『そう思わない』、前回調査では『反対』）は高くなっている。



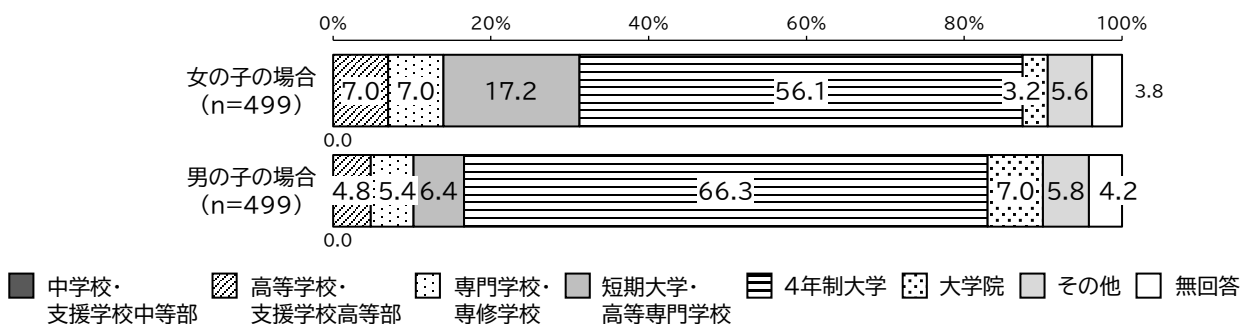
※1 前回調査の選択肢は「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「どちらともいえない」は今回調査のみの選択肢

(2)子どもに受けさせたい教育

問12. あなたの子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。(〇は女の子・男の子にそれぞれ1つ)

女の子の場合、最も高いのが「4年制大学」の56.1%で、「短期大学・高等専門学校」の17.2%が続いている。男の子の場合は、「4年制大学」が66.3%で、「大学院」が7.0%となっている。女の子、男の子ともに「4年制大学」を期待する割合は高いが、男の子の場合の方がより高学歴を期待している。

【子どもに受けさせたい教育】



【受けさせたい教育①女の子の場合】

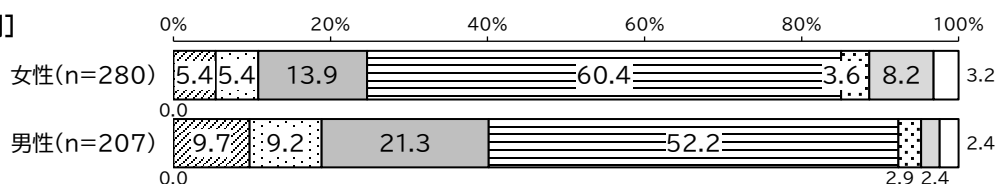
《町民・性別》

女性は、「4年制大学」と「大学院」の合計が64.0%、「短期大学・高等専門学校」以下の合計が24.7%となっている。男性は、「4年制大学」と「大学院」の合計が55.1%、「短期大学・高等専門学校」以下の合計が40.2%となっており、女性の方が女の子に対して高い学歴を期待する傾向である。

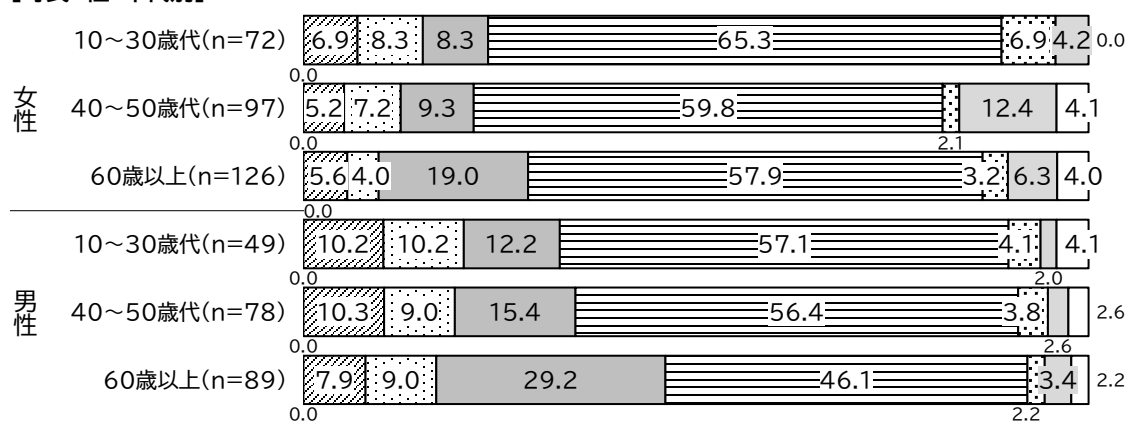
《町民・性・年代別》

【①女の子の場合】

【町民 性別】



【町民 性・年代別】



中学校・支援学校中等部
 高等学校・支援学校高等部
 専門学校・専修学校
 短期大学・高等専門学校
 4年制大学
 大学院
 その他
 無回答

【受けさせたい教育②男の子の場合】

《町民・性別》

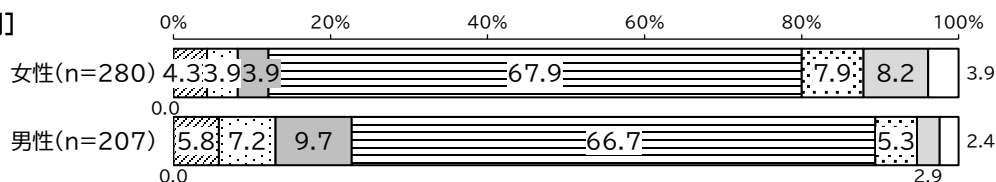
女性は、「4年制大学」と「大学院」の合計が75.8%、「短期大学・高等専門学校」以下の合計が12.1%となっている。男性は、「4年制大学」と「大学院」の合計が72.0%、「短期大学・高等専門学校」以下の合計が22.7%となっており、女の子の場合ほどの違いではないが、女性の方が男の子に対しても高い学歴を期待する傾向がうかがえる。

《町民・性・年代別》

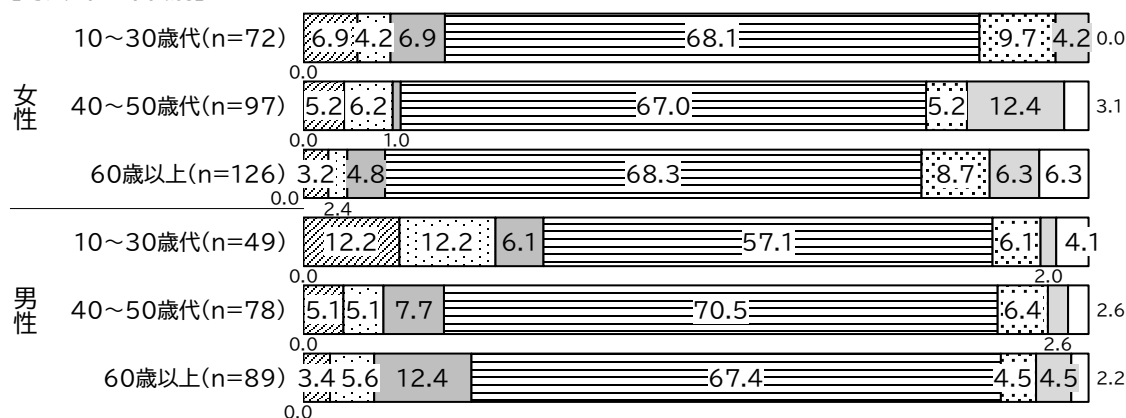
女性は、女の子の場合ほど、年代による違いは顕著にみられないが、男性の10～30歳代は「4年制大学」と「大学院」の合計が63.2%と他の年代に比べて10ポイント程度低い一方で、「短期大学・高等専門学校」以下の合計が30.5%で10ポイント程度高くなっている点が目立っている。男女とも10～30歳代は、女の子と男の子それぞれに対する期待の差は他の年代に比べて小さい。

【②男の子の場合】

【町民 性別】



【町民 性・年代別】



中学校・支援学校中等部
 高等学校・支援学校高等部
 専門学校・専修学校
 短期大学・高等専門学校
 4年制大学
 大学院
 その他
 無回答

性・年代6区分別でみると、女性の10~20歳代では女の子に対して男の子に対して4年制大学以上を期待する割合が8割を超えており、同年代の男性との差が大きくなっている。

【性・年代6区分別 受けさせたい教育①女の子の場合・②男の子の場合】

	回答者数(n)	①女の子の場合							②男の子の場合						
		部高等学校・支援学校高等	専門学校・専修学校	短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	無回答	部高等学校・支援学校高等	専門学校・専修学校	短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	無回答
全体	499	35	35	86	280	16	28	19	24	27	32	331	35	29	21
	100.0	7.0	7.0	17.2	56.1	3.2	5.6	3.8	4.8	5.4	6.4	66.3	7.0	5.8	4.2
女性	10・20歳代	39	2	4	1	28	4	-	2	1	2	30	4	-	-
	100.0	5.1	10.3	2.6	71.8	10.3	-	-	5.1	2.6	5.1	76.9	10.3	-	-
	30歳代	33	3	2	5	19	1	3	3	2	3	19	3	3	-
	100.0	9.1	6.1	15.2	57.6	3.0	9.1	-	9.1	6.1	9.1	57.6	9.1	9.1	-
	40歳代	52	4	3	5	29	1	7	4	2	1	32	3	7	3
	100.0	7.7	5.8	9.6	55.8	1.9	13.5	5.8	7.7	3.8	1.9	61.5	5.8	13.5	5.8
	50歳代	45	1	4	4	29	1	5	1	4	-	33	2	5	-
男性	100.0	2.2	8.9	8.9	64.4	2.2	11.1	2.2	2.2	8.9	-	73.3	4.4	11.1	-
	60歳代	39	2	2	5	22	3	5	2	2	1	24	4	5	1
	100.0	5.1	5.1	12.8	56.4	7.7	12.8	-	5.1	5.1	2.6	61.5	10.3	12.8	2.6
	70歳以上	87	5	3	19	51	1	3	2	1	5	62	7	3	7
	100.0	5.7	3.4	21.8	58.6	1.1	3.4	5.7	2.3	1.1	5.7	71.3	8.0	3.4	8.0
	10・20歳代	23	3	3	3	11	1	1	4	4	1	11	1	1	1
	100.0	13.0	13.0	13.0	47.8	4.3	4.3	4.3	17.4	17.4	4.3	47.8	4.3	4.3	4.3
	30歳代	26	2	2	3	17	1	-	2	2	2	17	2	-	1
	100.0	7.7	7.7	11.5	65.4	3.8	-	3.8	7.7	7.7	7.7	65.4	7.7	-	3.8
	40歳代	35	3	6	5	17	2	1	2	3	3	23	2	1	1
	100.0	8.6	17.1	14.3	48.6	5.7	2.9	2.9	5.7	8.6	8.6	65.7	5.7	2.9	2.9
	50歳代	43	5	1	7	27	1	1	2	1	3	32	3	1	1
	100.0	11.6	2.3	16.3	62.8	2.3	2.3	2.3	4.7	2.3	7.0	74.4	7.0	2.3	2.3
	60歳代	35	1	2	10	19	1	1	2	2	5	23	1	1	1
	100.0	2.9	5.7	28.6	54.3	2.9	2.9	2.9	5.7	5.7	14.3	65.7	2.9	2.9	2.9
	70歳以上	54	6	6	16	22	1	2	1	3	6	37	3	3	1
	100.0	11.1	11.1	29.6	40.7	1.9	3.7	1.9	1.9	5.6	11.1	68.5	5.6	5.6	1.9

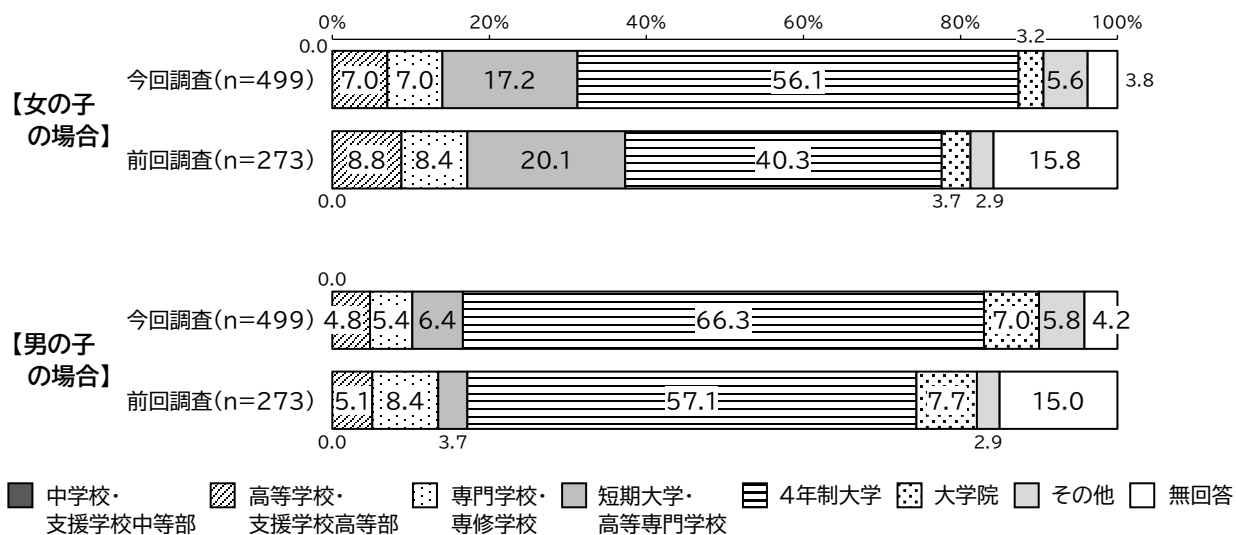
※「中学校・支援学校中等部」の回答は0件のため省略

《前回調査比較(町民)》

女の子の場合は、「4年制大学」と「大学院」の合計が前回調査よりも15.3ポイント高くなっており、「短期大学・高等専門学校」以下の回答割合の合計は6.1ポイント低くなっている。

男の子の場合も、「4年制大学」と「大学院」の合計が前回調査よりも8.5ポイント高くなっている。

【子どもに受けさせたい教育(前回調査との比較)】

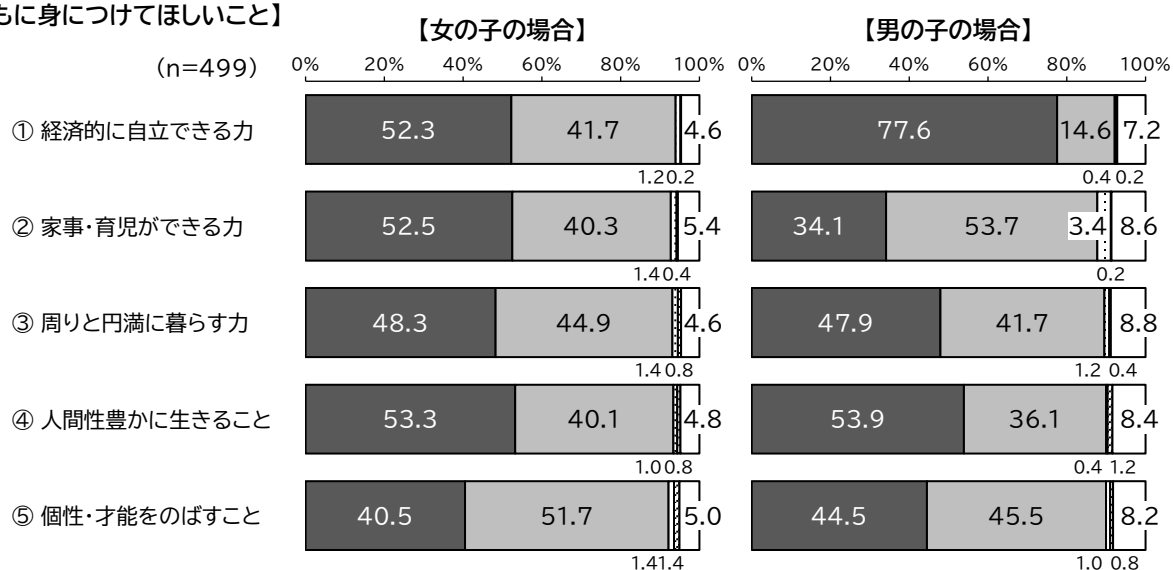


(3)子どもに身につけてほしいこと

問13. あなたは子どもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方も、仮にいと想定してお答えください。
(○は女の子・男の子の①～⑤それぞれに1つ)

ほとんどの人が①から⑤のいずれの項目に対しても「必ず身につけるべき」か「できれば身につけてほしい」のどちらかに回答している。項目による程度の違いをみると、女の子に身につけてほしいことでは、⑤個性・才能をのばすことでは「必ず身につけるべき」の割合が他の項目に比べて10ポイント程度低いが、その他の項目はほとんど変わらない。男の子に身につけてほしいことでは、①経済的に自立できる力で「必ず身につけるべき」が突出して高くなっている。

【子どもに身につけてほしいこと】



■ 必ず身につけるべき ■ できれば身につけてほしい □ (点線) あまり身につけなくてよい □ (斜線) 身につけなくてよい □ 無回答

【女の子に身につけてほしいこと】

《町民・性別》

女の子に対して「必ず身につけるべき」の回答割合を性別で比べると、①経済的に自立できる力では女性の方が9.1ポイント高くなっているが、その他の項目はすべて男性の方が高く、なかでも②家事・育児ができる力では12.0ポイントの違いがある。

《町民・性・年代別》

①経済的に自立できる力の「必ず身につけるべき」の回答割合は、男女とも年代が若いほど高くなっている。女性では50歳代以下と60歳以上では17.9ポイントの差があり、男性でも10～30歳代と60歳以上では20.0ポイントの差がみられる。

②家事・育児ができる力の「必ず身につけるべき」の回答割合は、男性の40～50歳代では69.2%で特に高くなっている。

③周りや円満に暮らす力と④人間性豊かに生きる力の「必ず身につけるべき」の回答割合は、男女とも年代が若いほど高くなっており、10～30歳代と60歳以上では20ポイント程度差がみられる。

⑤個性・才能をのばすことの「必ず身につけるべき」の回答割合は、女性では10～30歳代と40歳以上の年代で差が大きいですが、男性では年代による違いはさほど大きくない。

【性別、性・年代別 女の子に身につけてほしいこと】



【男の子に身につけてほしいこと】

《町民・性別》

男の子に対して「必ず身につけるべき」の回答割合を性別で比べると、①経済的に自立できる力と②家事・育児ができる力では、女性の方が高く、その他の項目は男性の方が高くなっているが10ポイント以上の差がある項目はみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも多くの項目で年代が若いほど「必ず身につけるべき」の回答割合が高い傾向がみられる。②家事・育児ができる力は、他の項目に比べて年代による差が大きく、10～30歳代と60歳以上のポイント差は、女性で33.1ポイント、男性で24.9ポイントとなっている。

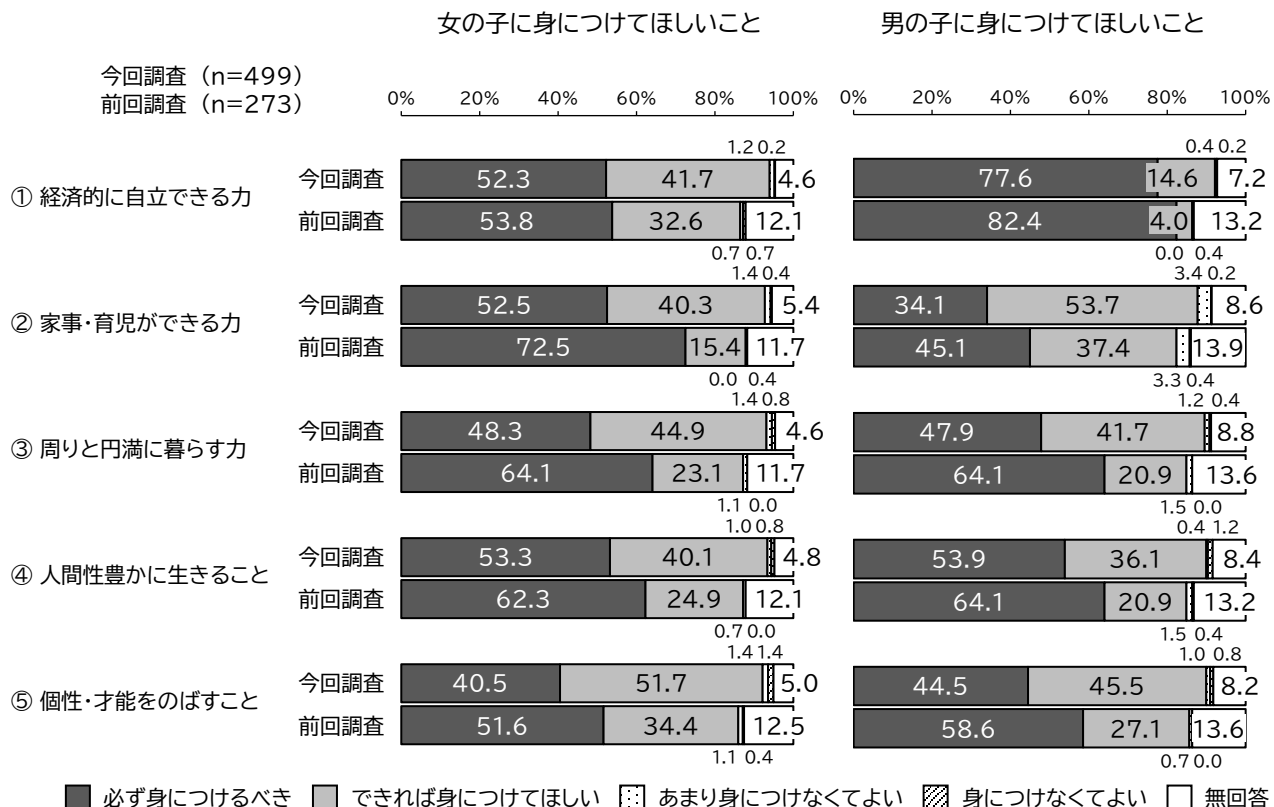
【性別、性・年代別 男の子に身につけてほしいこと】



《前回調査比較(町民)》

「必ず身につけるべき」の回答割合をみると、女の子については、①経済的に自立できる力ではほとんど変わらないが、その他の項目ではすべて今回調査の方が10～20ポイント程度低くなっている。男の子については、①経済的に自立できる力で4.8ポイント低く、その他の項目では10ポイント以上低くなっている。ただし、「必ず身につけるべき」と「できれば身につけてほしい」の合計では今回調査の方が女の子、男の子ともいずれの項目とも高くなっている。

【子どもに身につけてほしいこと(前回調査との比較)】

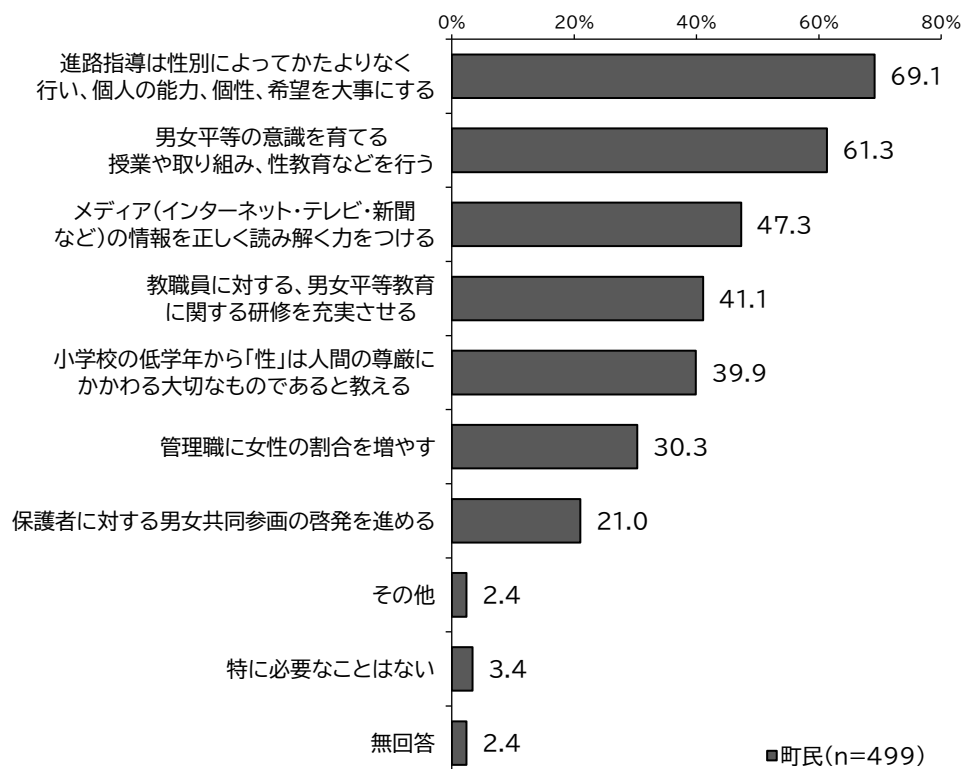


(4)男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み

問14. 男女平等を進めるために小中学校・こども園などで、どのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

「進路指導は性別によってかたよりなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」が69.1%で最も高く、「男女平等の意識を育てる授業や取り組み、性教育などを行う」(61.3%)、「メディア(インターネット・テレビ・新聞など)の情報を正しく読み解く力をつける」(47.3%)と続いている。

【男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み】



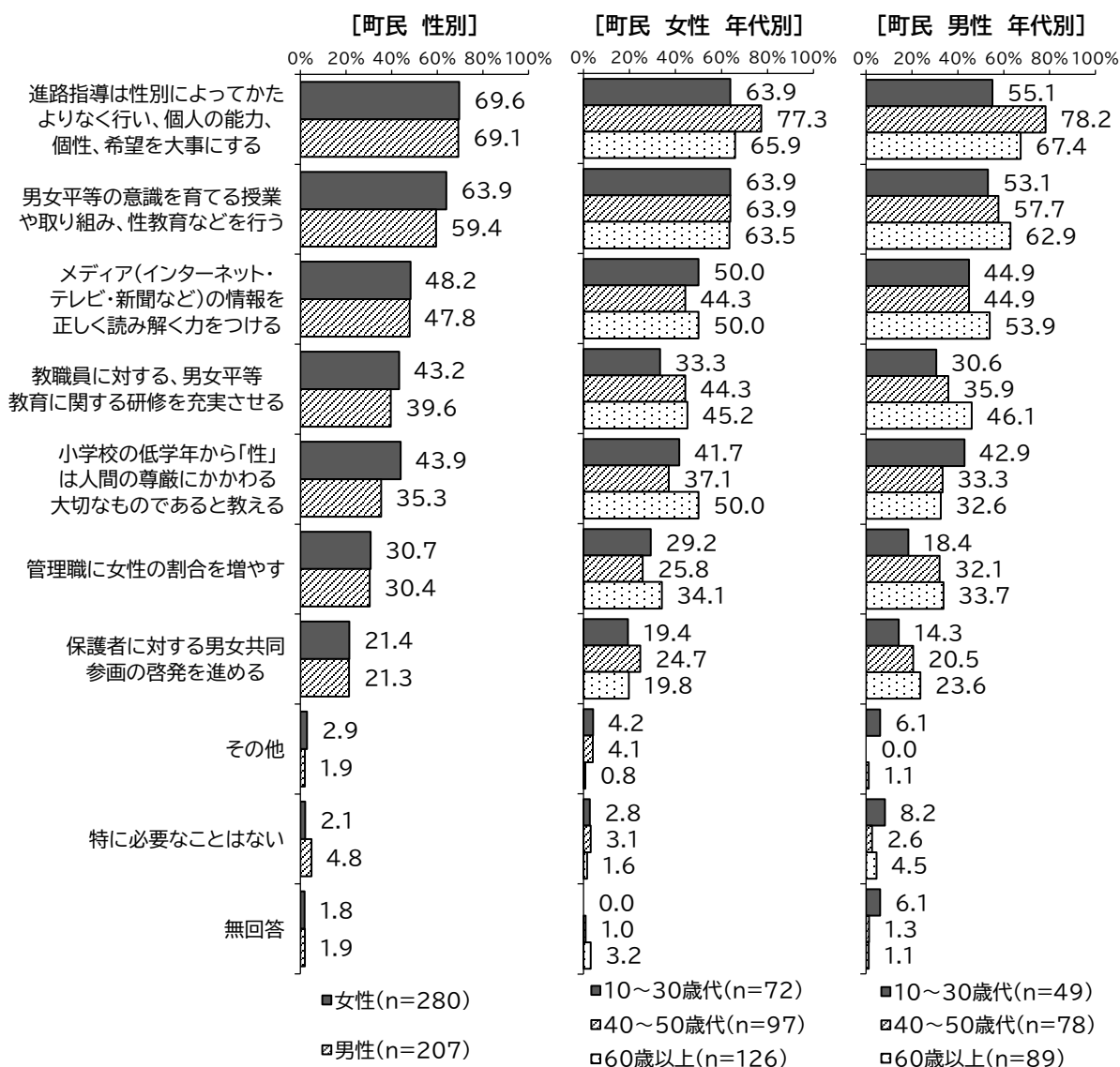
《町民・性別》

「小学校の低学年から「性」は人間の尊厳にかかわる大切なものであると教える」の回答割合が、男性より女性の方が8.6ポイント高いほかは、いずれの選択肢も男女の回答割合の差は5ポイント以内となっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代は「進路指導は性別によってかたよりなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」の回答割合が他の年代に比べて特になくなっていて、「教職員に対する、男女平等教育に関する研修を充実させる」は男女とも年代が上がるほど回答割合が高くなり、10～30歳代と60歳以上では10ポイント以上の差がみられる。男性では、「小学校の低学年から『性』は人間の尊厳にかかわる大切なものであると教える」は年代が若くなるほど高くなっており、10～30歳代と60歳以上で約10ポイントの差がみられる。

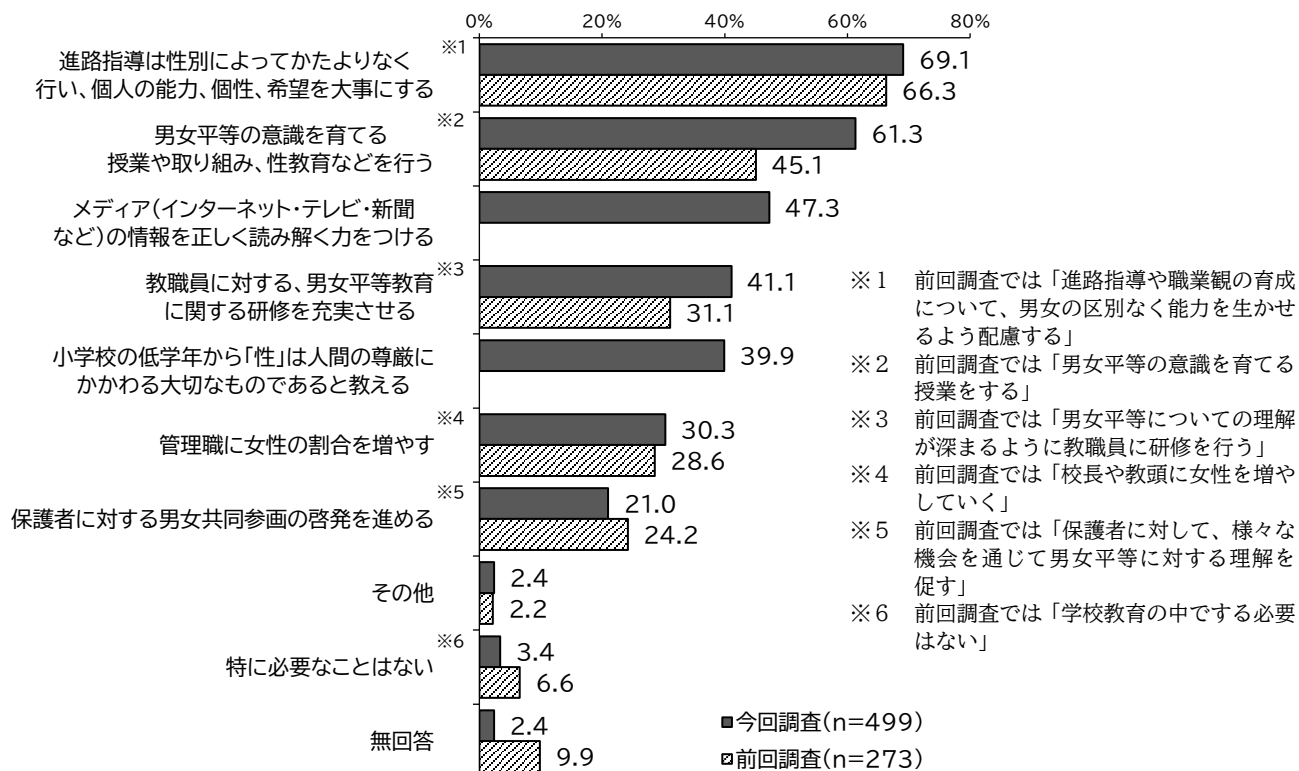
【性別、性・年代別 男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み】



《前回調査比較(町民)》

前回調査と比較可能な選択肢については、回答割合の順位に違いはみられない。「保護者に対する男女共同参画の啓発を進める」以外の取り組みにかかる選択肢では今回調査の回答割合の方が高く、「男女平等の意識を育てる授業や取り組み、性教育などを行う」では16.2ポイントと差が大きくなっている。

【男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み(前回調査との比較)】



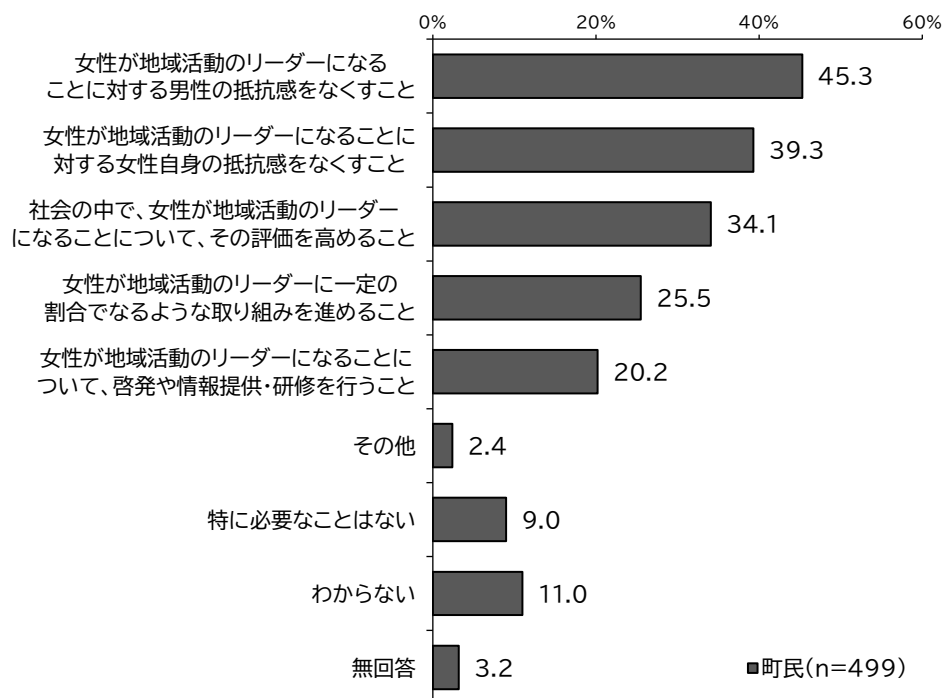
6. 地域活動・防災について

(1)地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと

問15. あなたは、自治会長やPTA会長など、地域活動において女性のリーダーが増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が45.3%で最も高く、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(39.3%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(34.1%)と続いている。

【地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと】



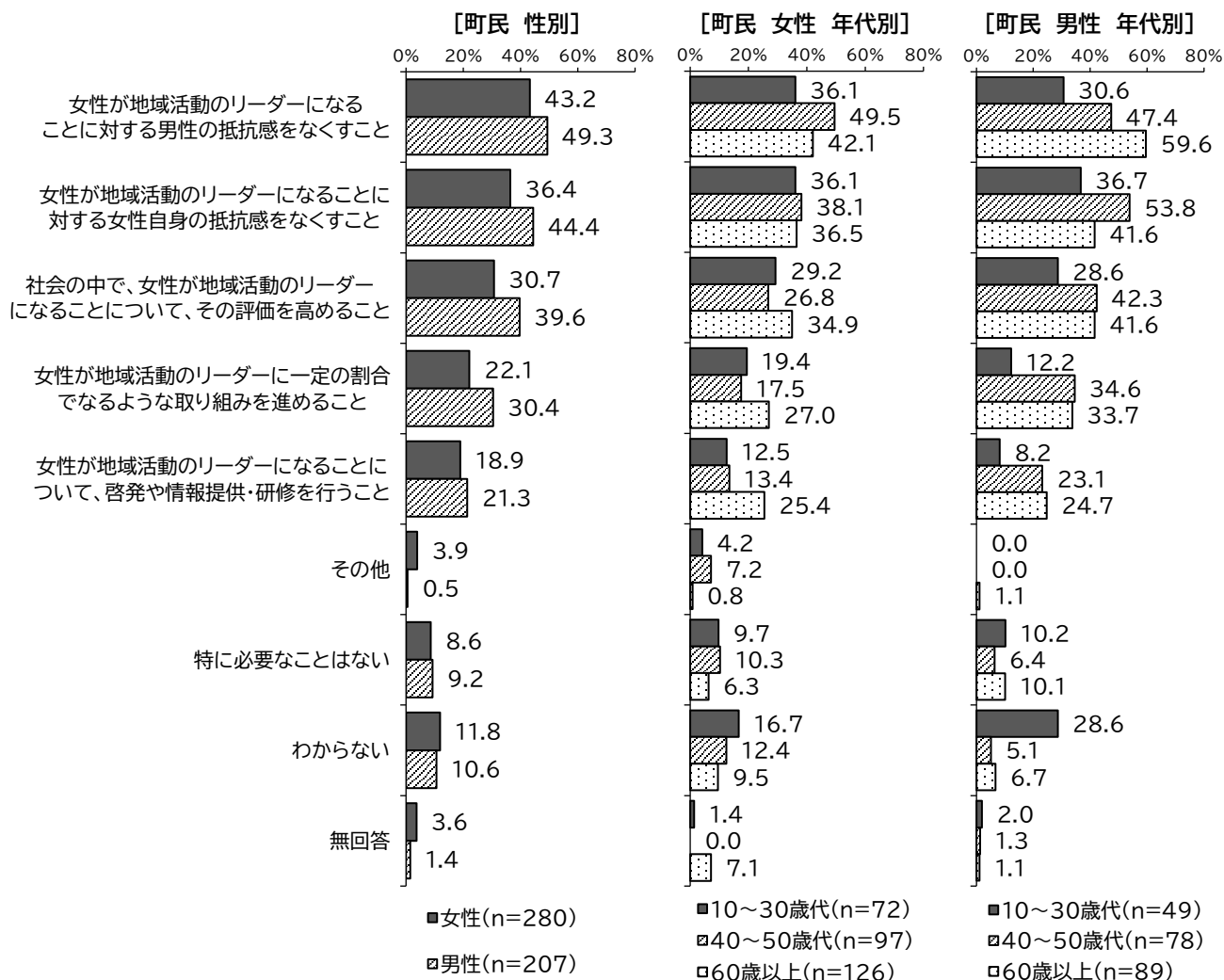
《町民・性別》

いずれの選択肢も女性よりも男性の方が回答割合が高くなっている。

《町民・性・年代別》

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」は、女性の40～50歳代、男性の60歳以上の回答割合が他の年代に比べて高くなっている。「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は、男性40～50歳代が特に高くなっている。男性の10～30歳代では「わからない」の回答が28.6%で特に高くなっている。

【性別、性・年代別 地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと】

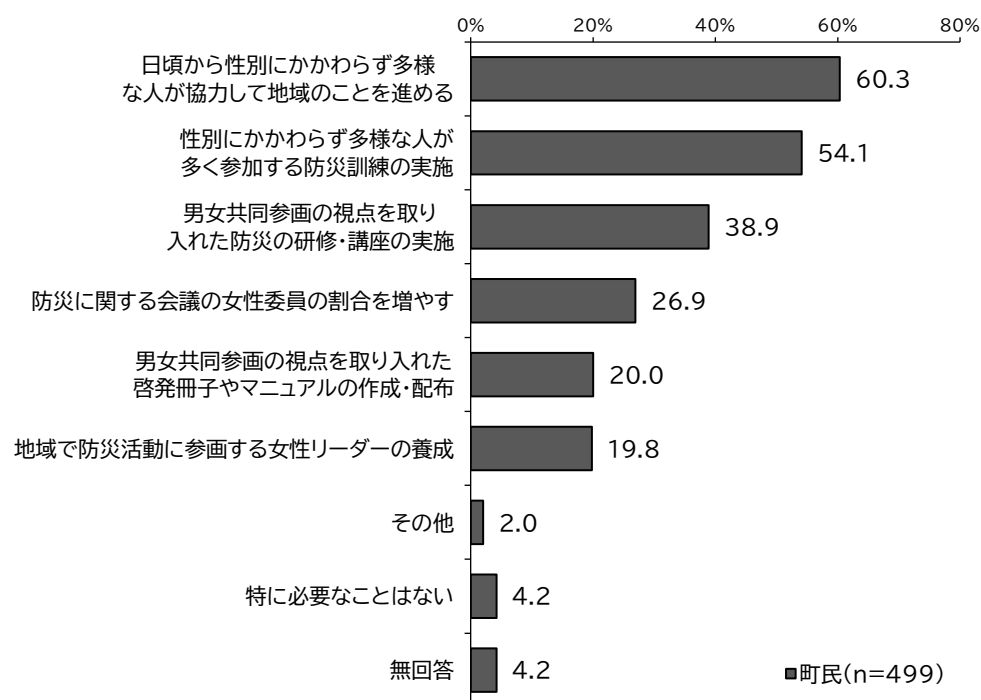


(2)性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと

問16. 災害時において、性別や多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が60.3%で最も高く、「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」(54.1%)、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」(38.9%)と続いている。

【性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと】



《町民・性別》

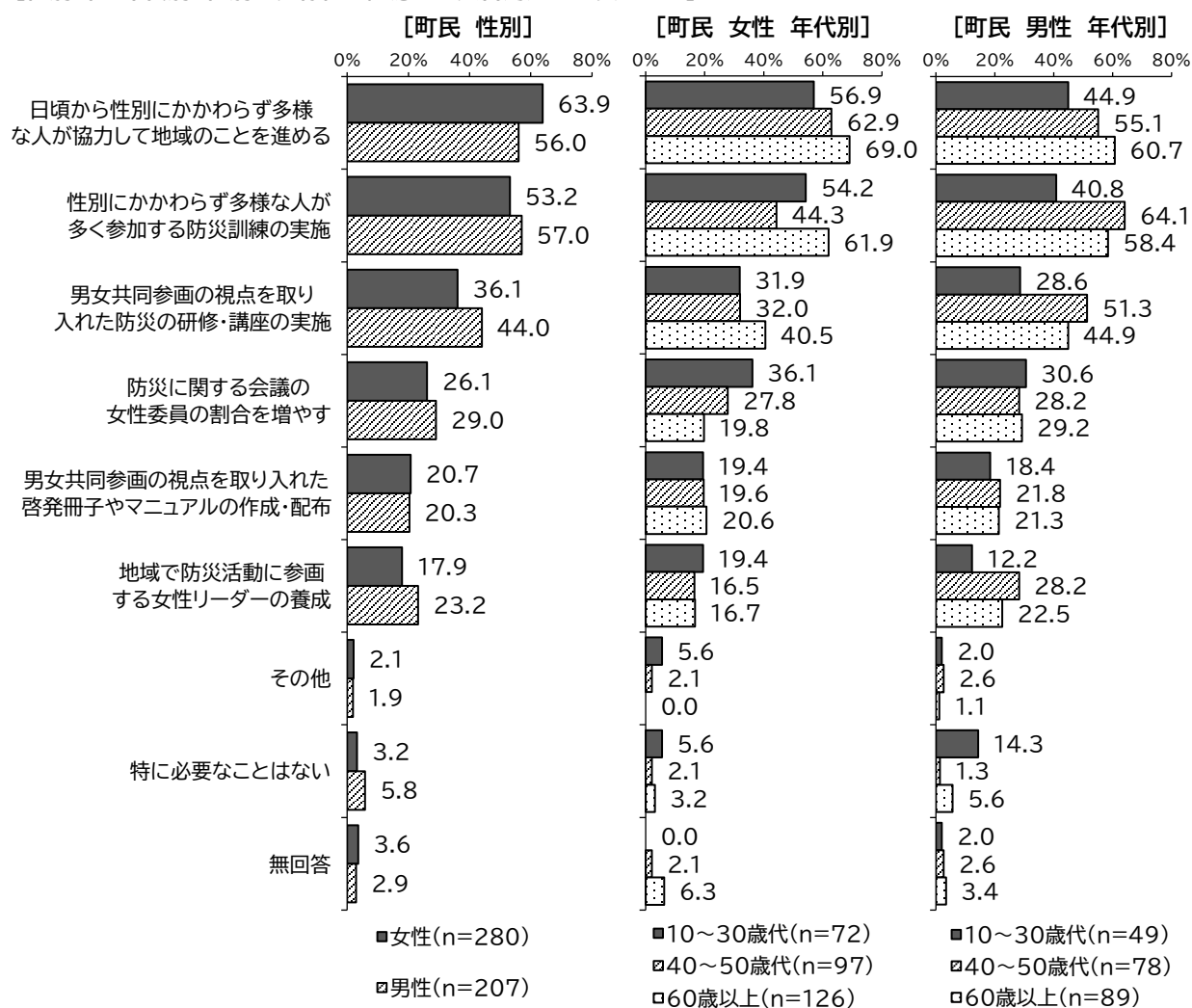
上位3つの選択肢を性別で比べると、「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」の回答割合は女性の方が7.9ポイント高いが、「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」と「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」はそれぞれ3.8ポイント、7.9ポイント男性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」は、男女とも年代が上がるほど回答割合が高くなっている。「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」では、女性は年代が若いほど高くなっており、10～30歳代と60歳以上では16.3ポイントの差がみられる。男性の10～30歳代は、40歳代以上に比べて「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」以外の項目で回答割合が低くなっている。

性・年代6区分別にみると、女性の30歳代、男性の10～20歳代では「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」の回答割合が高くなっている。

【性別、性・年代別 性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと】



【性・年代6区分別 性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと】

	回答者数 (n)	日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める	性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	防災に関する会議の女性委員の割合を増やす	男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布	地域で防災活動に参加する女性リーダーの養成	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	499	301	270	194	134	100	99	10	21	21
	100.0	60.3	54.1	38.9	26.9	20.0	19.8	2.0	4.2	4.2
女性	10・20歳代	39	21	24	8	11	4	6	2	-
	100.0	53.8	61.5	20.5	28.2	10.3	15.4	5.1	2.6	-
	30歳代	33	20	15	15	10	8	2	3	-
	100.0	60.6	45.5	45.5	45.5	30.3	24.2	6.1	9.1	-
	40歳代	52	32	24	18	12	10	9	1	1
	100.0	61.5	46.2	34.6	23.1	19.2	17.3	1.9	1.9	1.9
	50歳代	45	29	19	13	15	9	7	1	1
男性	100.0	64.4	42.2	28.9	33.3	20.0	15.6	2.2	2.2	2.2
	60歳代	39	27	25	18	10	9	10	1	2
	100.0	69.2	64.1	46.2	25.6	23.1	25.6	-	2.6	5.1
	70歳以上	87	60	53	33	15	17	11	3	6
	100.0	69.0	60.9	37.9	17.2	19.5	12.6	-	3.4	6.9
	10・20歳代	23	11	10	7	9	5	3	3	-
	100.0	47.8	43.5	30.4	39.1	21.7	13.0	-	13.0	-
男性	30歳代	26	11	10	7	6	4	3	4	1
	100.0	42.3	38.5	26.9	23.1	15.4	11.5	3.8	15.4	3.8
	40歳代	35	21	19	19	12	7	11	-	-
	100.0	60.0	54.3	54.3	34.3	20.0	31.4	2.9	-	-
	50歳代	43	22	31	21	10	11	1	1	2
	100.0	51.2	72.1	48.8	23.3	23.3	25.6	2.3	2.3	4.7
	60歳代	35	20	18	17	12	7	6	1	2
男性	100.0	57.1	51.4	48.6	34.3	20.0	17.1	2.9	2.9	5.7
	70歳以上	54	34	34	23	14	12	14	4	1
男性	100.0	63.0	63.0	42.6	25.9	22.2	25.9	-	7.4	1.9

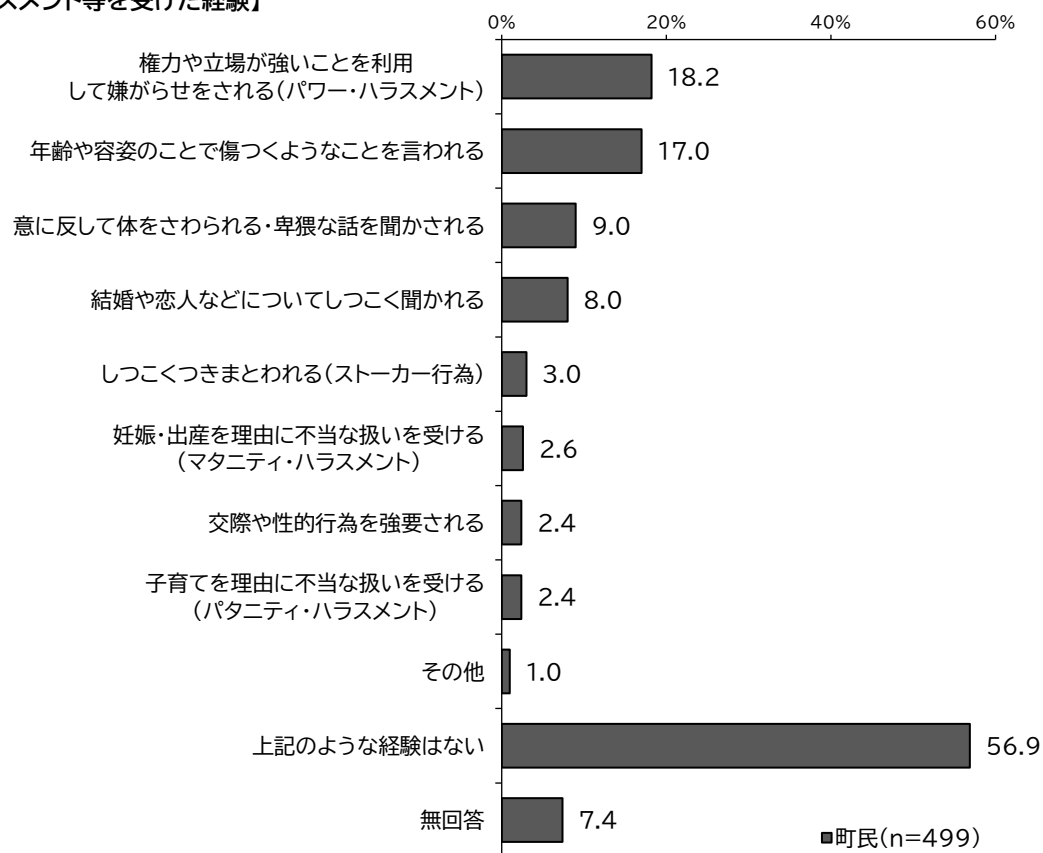
7. 人権を侵害される行為について

(1) ハラスメント等を受けた経験

問17. あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

ハラスメント等を受けた経験のなかでは「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」が18.2%で最も高く、「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」(17.0%)、「意に反して体をさわられる・卑猥な話を聞かされる」(9.0%)と続いている。

【ハラスメント等を受けた経験】



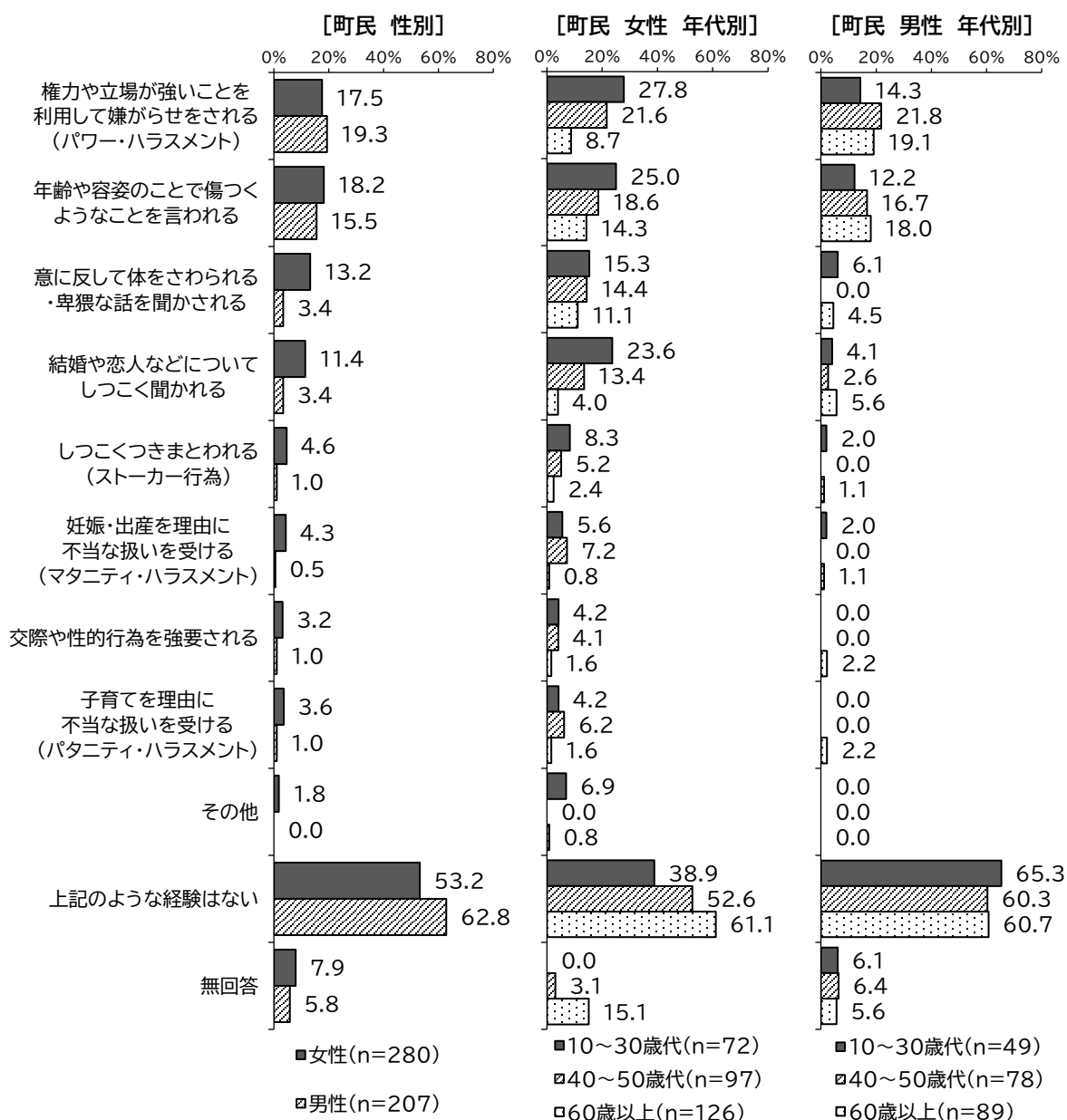
《町民・性別》

「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」は男性の方が女性より回答割合がやや高いが、それ以外の選択肢はすべて女性の方が高くなっている。特に「意に反して体をさわられる・卑猥な話を聞かされる」と「結婚や恋人などについてしつこく聞かれる」では、10ポイント近く女性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性では、上位5つの選択肢は年代が若くなるほど回答割合が高くなっている。男性では、上位2つの選択肢は10～30歳代よりも40歳代以上の回答割合が高くなっている。「上記のような経験はない」の回答をみると、男性の10～30歳代は65.3%であるが、女性の10～30歳代は38.9%であり同じ年代で男女の違いが大きくなっている。

【性別、性・年代別 ハラスメント等を受けた経験】



性・年代6区分別でみると、女性の30歳代ではいずれの選択肢とも回答割合が高く、様々なハラスメントを受けた経験が多いことがわかる。

【性・年代6区分別 ハラスメント等を受けた経験】

	回答者数 (n)	権力や立場が強いことを利用 して嫌がらせをされる(パ ワー・ハラスメント)	年齢や容姿のことで傷つくよ うなことを言われる	卑猥な話を聞かされる・ 意に反して体をさわられる・	結婚や恋人などについてしつ こく聞かれる	しつこくつきまとわれる(ス トーカー行為)	妊娠・出産を理由に不当なハ ラスメント)	交際や性的行為を強要される	子育てを理由に不当な扱いを 受ける(パタニティ・ハラス メント)	その他	上記のような経験はない	無回答
全体	499 100.0	91 18.2	85 17.0	45 9.0	40 8.0	15 3.0	13 2.6	12 2.4	12 2.4	5 1.0	284 56.9	37 7.4
女性	10・20歳代	39 100.0	5 12.8	8 20.5	4 10.3	8 20.5	2 5.1	1 2.6	2 5.1	1 2.6	20 51.3	-
	30歳代	33 100.0	15 45.5	10 30.3	7 21.2	9 27.3	4 12.1	3 9.1	1 3.0	4 12.1	8 24.2	-
	40歳代	52 100.0	11 21.2	7 13.5	5 9.6	8 15.4	2 3.8	2 3.8	3 5.8	-	31 59.6	1 1.9
	50歳代	45 100.0	10 22.2	11 24.4	9 20.0	5 11.1	3 6.7	2 11.1	3 6.7	-	20 44.4	2 4.4
	60歳代	39 100.0	6 15.4	6 15.4	9 23.1	2 5.1	2 5.1	1 2.6	2 5.1	-	19 48.7	4 10.3
	70歳以上	87 100.0	5 5.7	12 13.8	5 5.7	3 3.4	1 1.1	-	-	1 1.1	58 66.7	15 17.2
	10・20歳代	23 100.0	3 13.0	4 17.4	-	2 8.7	1 4.3	-	-	-	15 65.2	1 4.3
男性	30歳代	26 100.0	4 15.4	2 7.7	3 11.5	-	1 3.8	-	-	-	17 65.4	2 7.7
	40歳代	35 100.0	8 22.9	6 17.1	-	1 2.9	-	-	-	-	20 57.1	3 8.6
	50歳代	43 100.0	9 20.9	7 16.3	-	1 2.3	-	-	-	-	27 62.8	2 4.7
	60歳代	35 100.0	8 22.9	6 17.1	1 2.9	2 5.7	-	-	-	-	21 60.0	1 2.9
	70歳以上	54 100.0	9 16.7	10 18.5	3 5.6	3 5.6	1 1.9	1 1.9	2 3.7	2 3.7	33 61.1	4 7.4

(2)性暴力・性犯罪を受けた経験

問18. あなたはこれまでに、子どものころも含めて、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。
(○は1つ)

望まない性的な行為の経験の有無では、7.0%が「ある」と回答している。

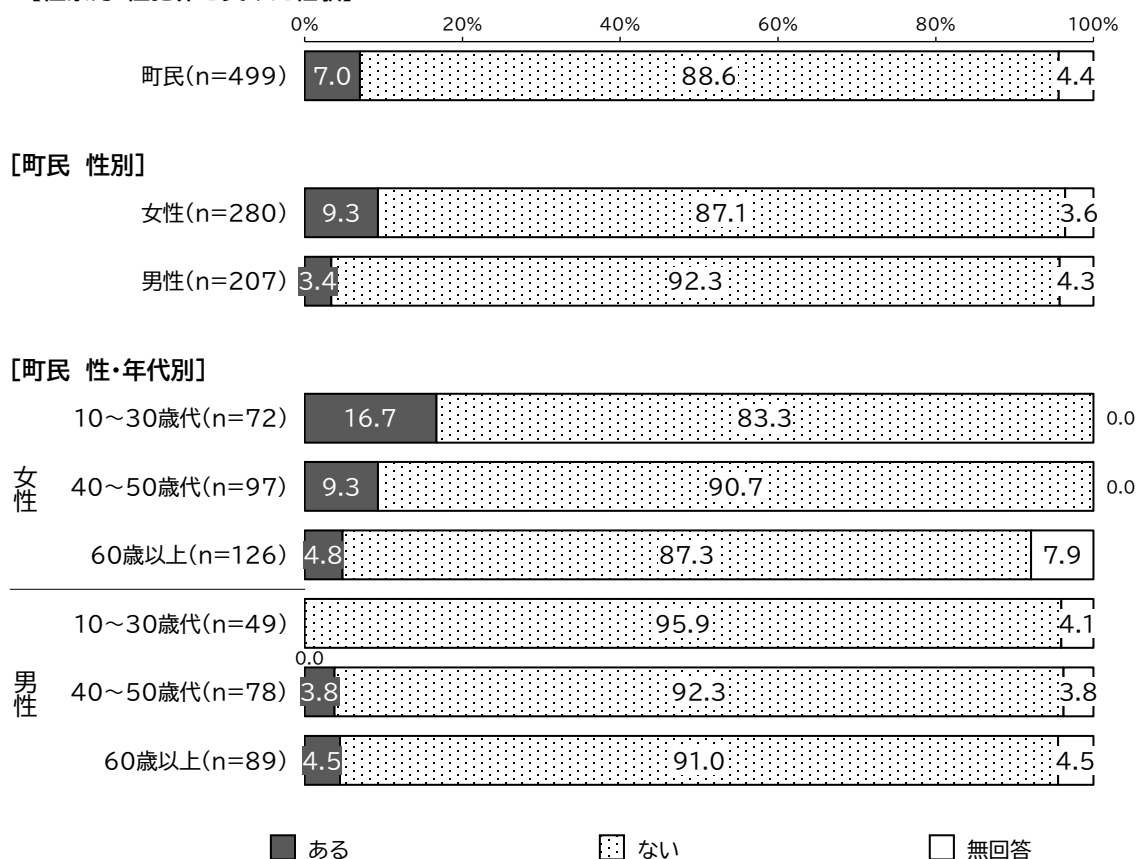
《町民・性別》

女性は「ある」が9.3%であるのに対して、男性は3.4%となっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若いほど「ある」の回答割合が高く、10～30歳代では16.7%にのぼる。男性では40歳代以上で4%前後が「ある」と回答している。

【性暴力・性犯罪を受けた経験】



性・年代6区分別でみると、女性の30歳代では受けた経験のある人が約3割に上っている。

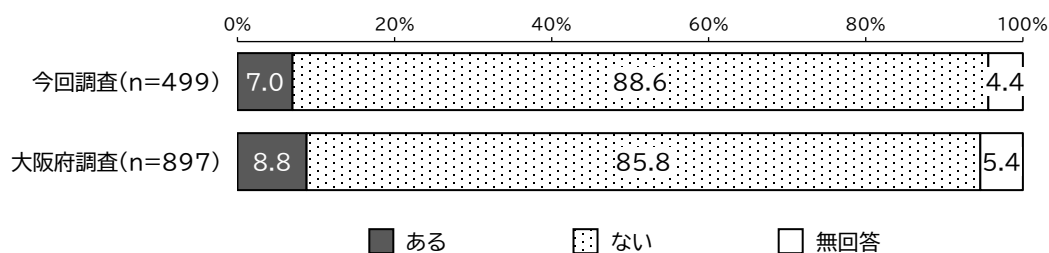
【性・年代6区分別 性暴力・性犯罪を受けた経験】

		回答者数 (n)	ある	ない	無回答
全体		499	35	442	22
		100.0	7.0	88.6	4.4
女性	10・20歳代	39	3	36	-
		100.0	7.7	92.3	-
	30歳代	33	9	24	-
		100.0	27.3	72.7	-
	40歳代	52	6	46	-
		100.0	11.5	88.5	-
	50歳代	45	3	42	-
男性		100.0	6.7	93.3	-
	60歳代	39	3	33	3
		100.0	7.7	84.6	7.7
	70歳以上	87	3	77	7
		100.0	3.4	88.5	8.0
	10・20歳代	23	-	23	-
		100.0	-	100.0	-
女性	30歳代	26	-	24	2
		100.0	-	92.3	7.7
	40歳代	35	1	33	1
		100.0	2.9	94.3	2.9
	50歳代	43	2	39	2
		100.0	4.7	90.7	4.7
	60歳代	35	3	31	1
男性		100.0	8.6	88.6	2.9
	70歳以上	54	1	50	3
		100.0	1.9	92.6	5.6

《大阪府調査比較(町民)》

大阪府調査と比べると、望まない性的な行為の経験が「ある」の割合は、今回調査の方がわずかに低い程度で大きく変わらない。

【性暴力・性犯罪を受けた経験(大阪府調査との比較)】



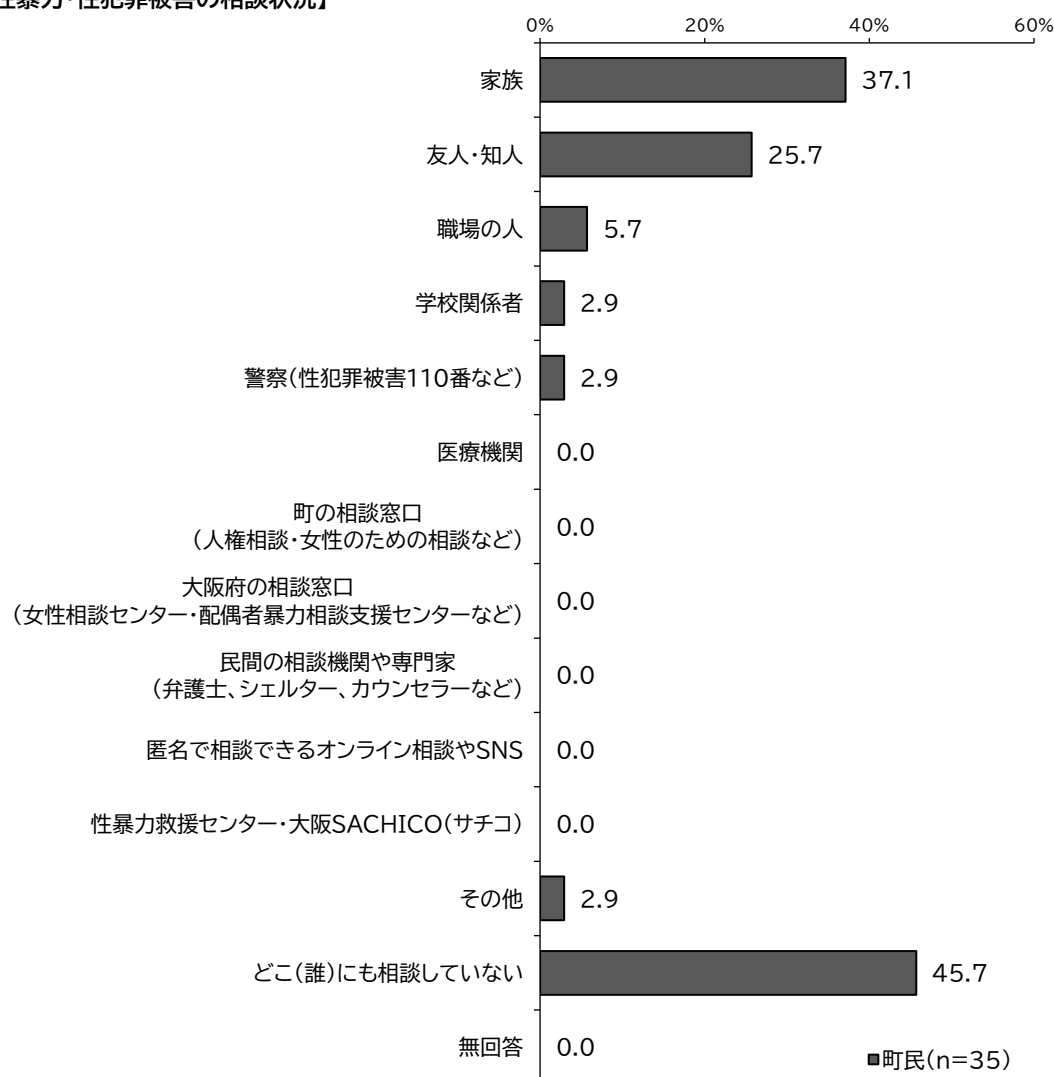
(3)性暴力・性犯罪被害の相談状況

問18-1.「ある」と回答した方に

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

望まない性的な行為をされたことがある人のうち、45.7%は「どこ（誰）にも相談していない」と回答している。相談した人では「家族」(37.1%)、「友人・知人」(25.7%)が高くなっている。

【性暴力・性犯罪被害の相談状況】



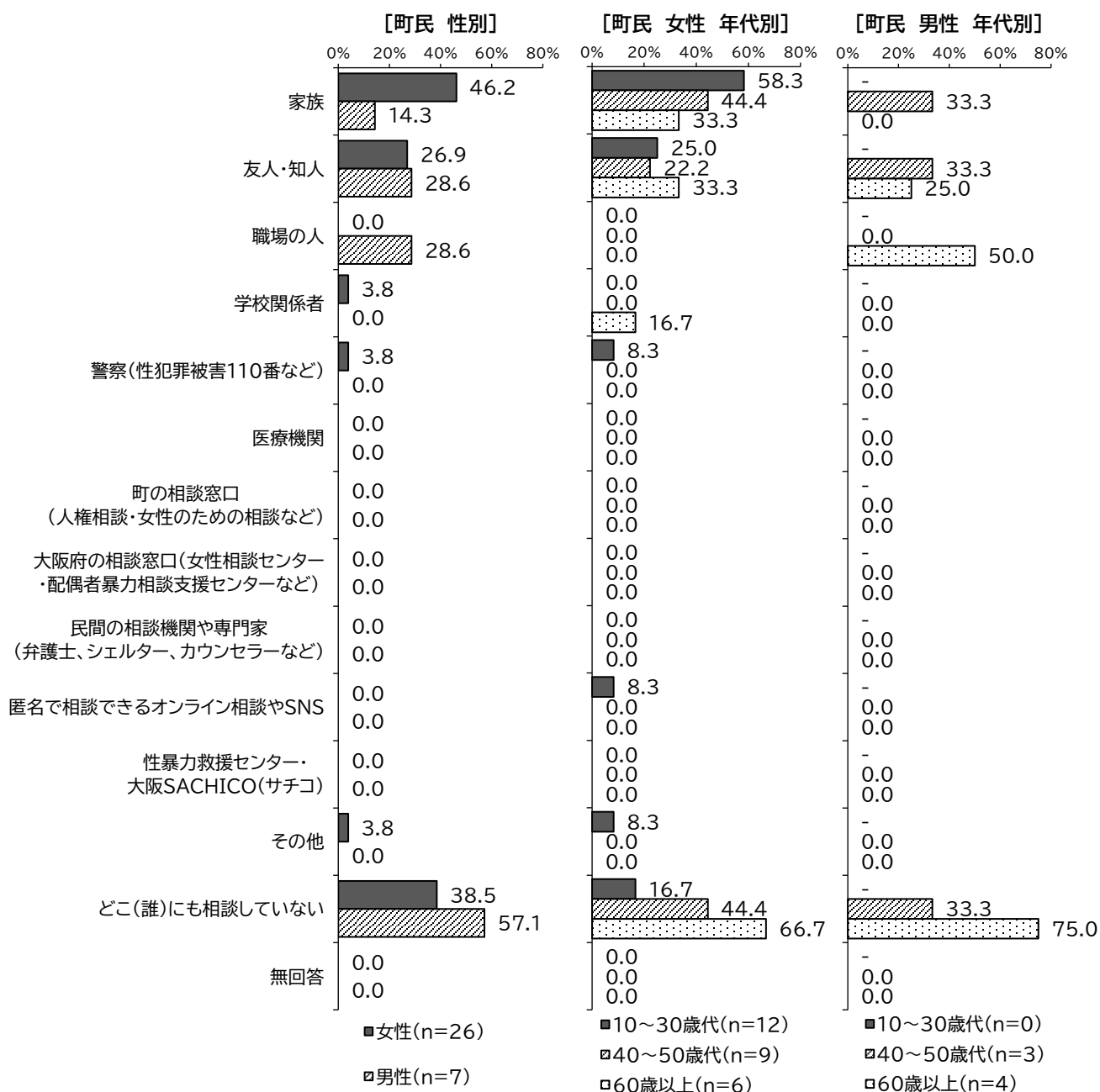
《町民・性別》

性別でみると、男性の方が「どこ（誰）にも相談していない」の回答割合が高くなっている。相談した人では、女性は「家族」の回答割合が高く、男性は「職場の人」の回答割合が高くなっている。「友人・知人」については、男女ほぼ同程度である。

《町民・性・年代別》

女性では、年代が若いほど「家族」の回答割合が高くなっている。「どこ（誰）にも相談していない」は年代が上がるほど高くなっている。10～30歳代ではわずかであるが「警察（性犯罪被害110番など）」、「匿名で相談できるオンライン相談やSNS」が挙げられて相談先の選択肢がやや多い傾向である。男性では、40～50歳代で「家族」と「友人・知人」がそれぞれ1人、60歳以上では「友人・知人」が1人、「職場の人」が2人となっている。

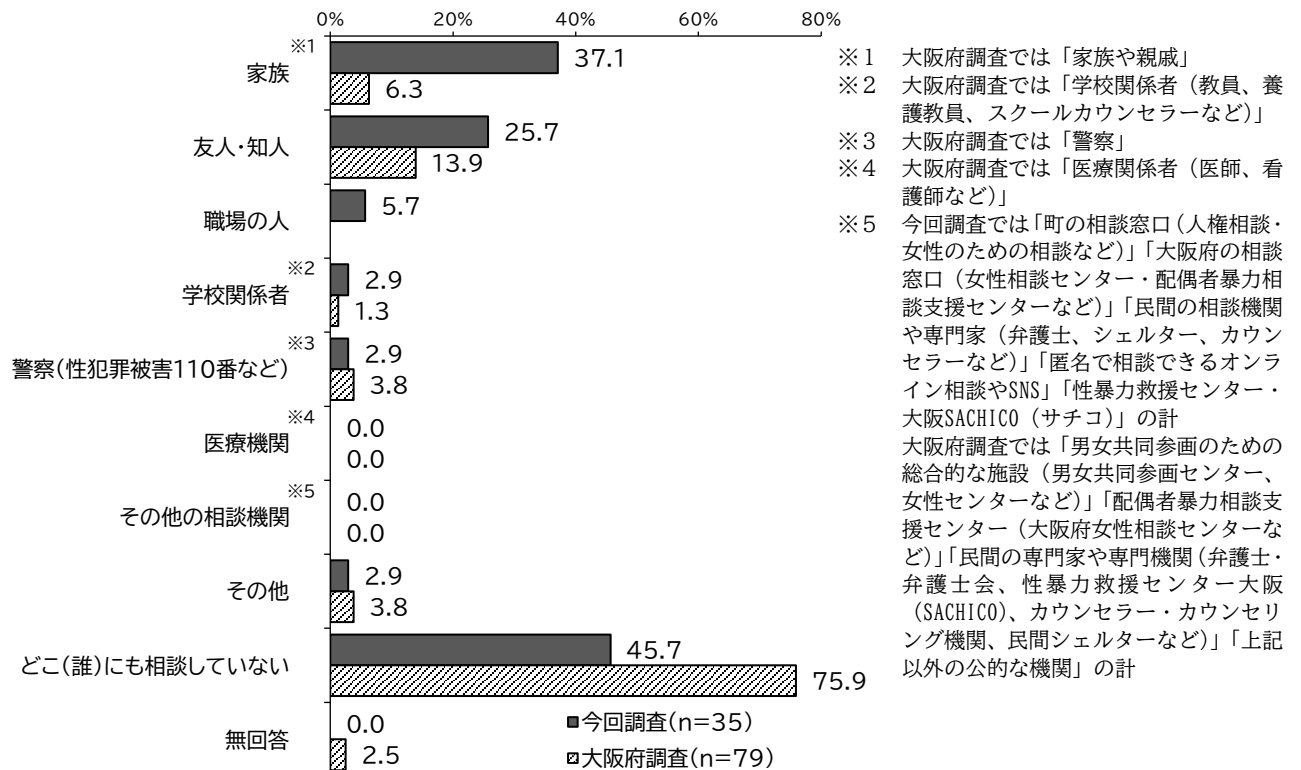
【性別、性・年代別 性暴力・性犯罪被害の相談状況】



《大阪府調査比較(町民)》

望まない性的な行為をされたときの相談状況を大阪府調査と比べると、今回調査の方が相談した人の割合は高くなっている。

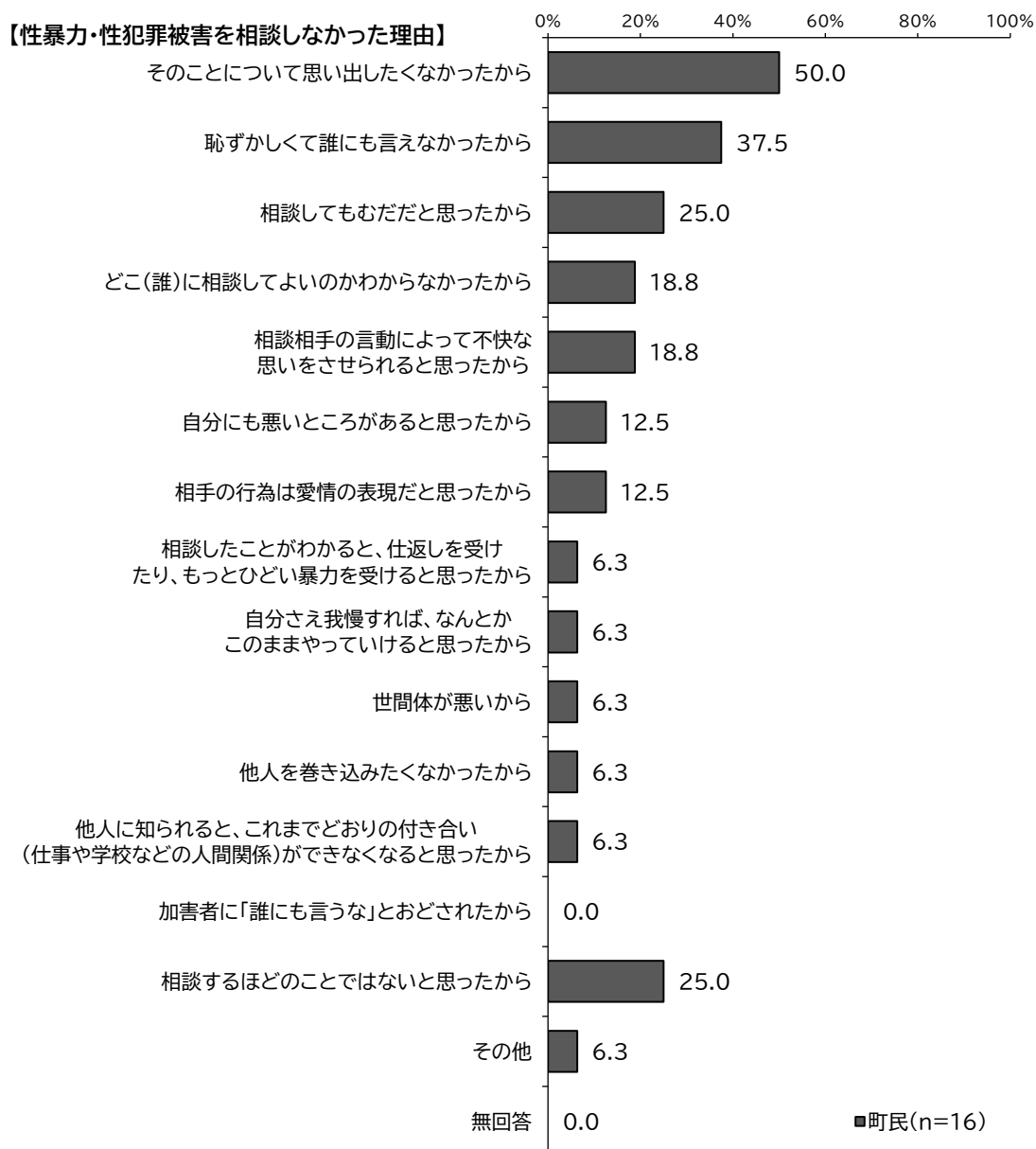
【性暴力・性犯罪被害の相談状況(大阪府調査との比較)】



(4)性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由

問18-2.「どこ(誰)にも相談していない」と回答した方に あなたは、相談しなかったのは、なぜですか。
(〇はいくつでも)

どこ(誰)にも相談していない人の理由は、「そのことについて思い出したくなかったから」が半数を占め、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(37.5%)、「相談してもむだだと思ったから」(25.0%)が高くなっている。



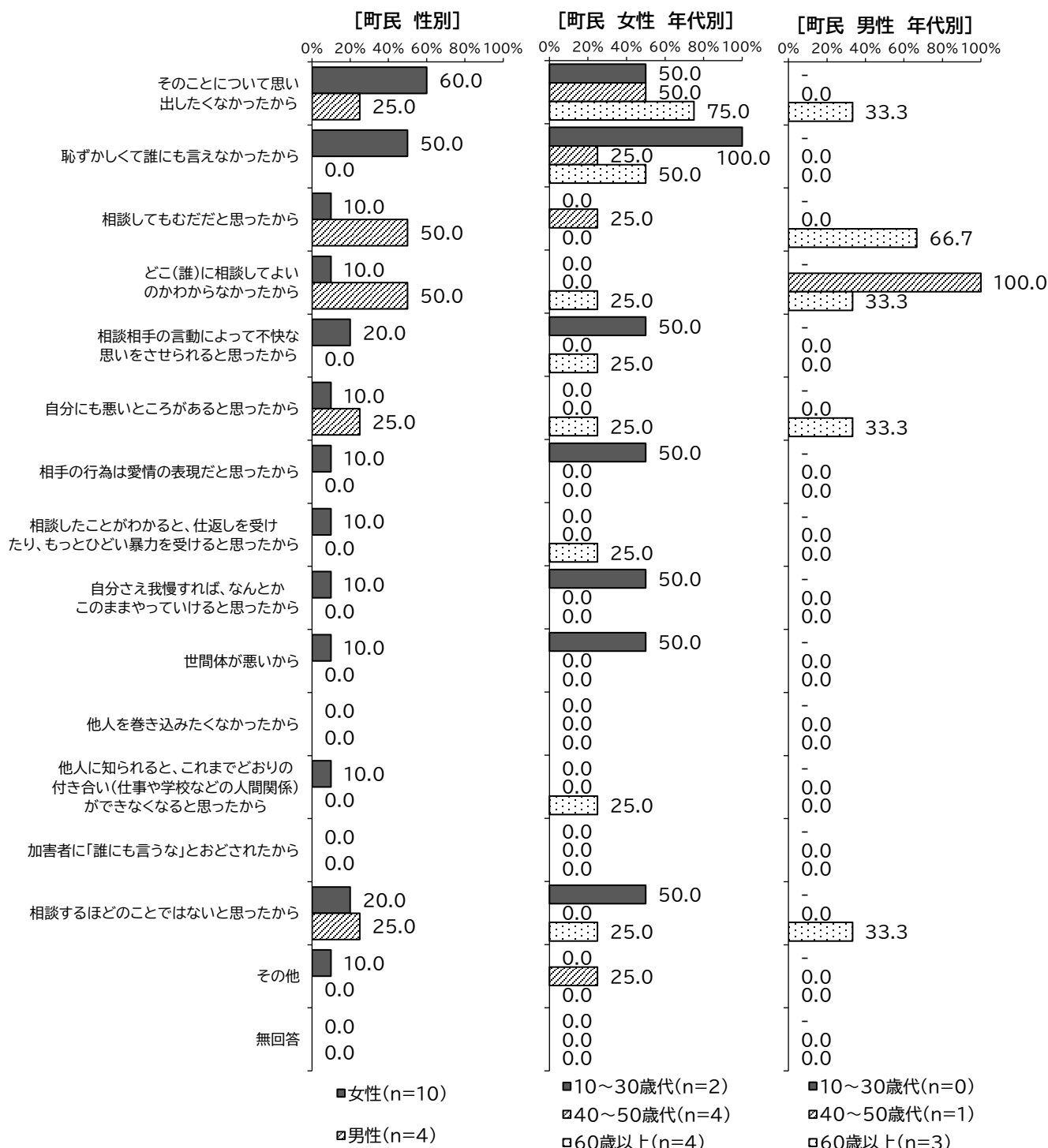
《町民・性別》

「そのことについて思い出したくなかったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は、女性ではそれぞれ半数以上が挙げている。男性は「相談してもむだだと思ったから」と「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」をそれぞれ2人が挙げている。また、女性の方が男性に比べて理由が多岐に渡る回答傾向がみられる。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代では2人のうち2人とも「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と回答し、女性の60歳以上では4人のうち3人が「そのことについて思い出したくなかったから」と回答している。男性の40～50歳代（1人）は「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」と回答し、男性の60歳以上3人のうち2人は「相談してもむだだと思ったから」と回答している。

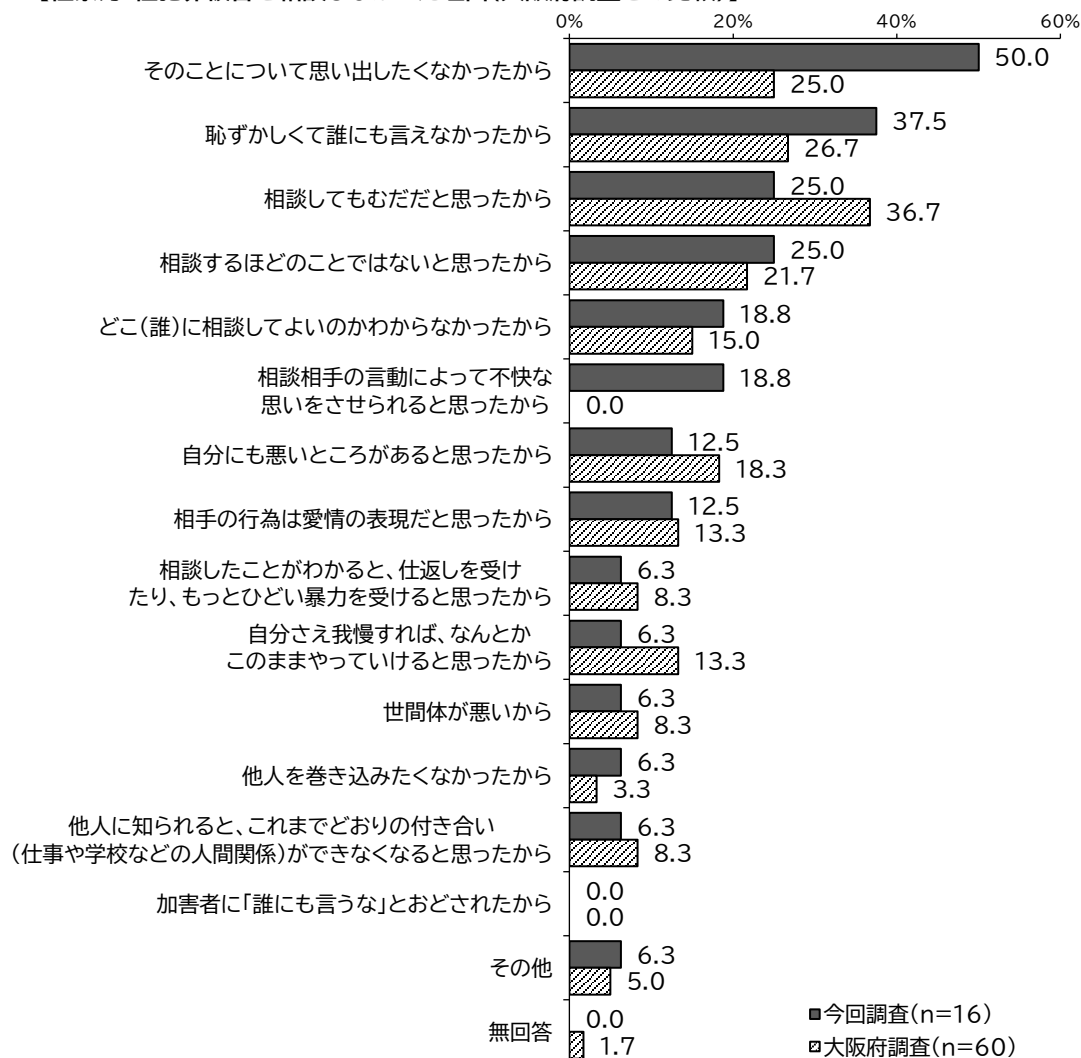
【性別・性・年代別 性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由】



《大阪府調査比較(町民)》

どこ（誰）にも相談していない人の理由を大阪府調査と比べると、上位2つの選択肢では、今回調査の方が10ポイント以上高く、「相談してもむだだと思ったから」は、今回調査の方が10ポイント以上低くなっている。

【性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由(大阪府調査との比較)】



(5)DV・デートDVを受けた経験・行った経験

問19. あなたは、配偶者・パートナーや交際相手から、次のようなことをされたこと、したことがありますか。(○は「されたことがある」「したことがある」の①～⑤それぞれに1つ)

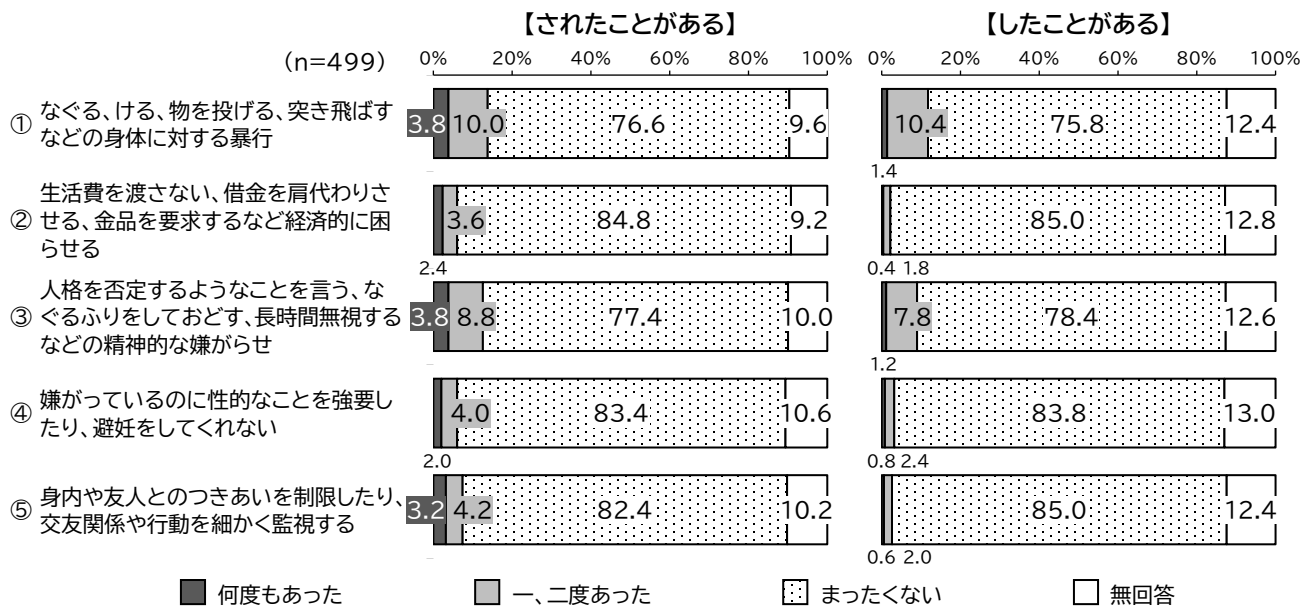
【配偶者・パートナーからされたことがある】

配偶者・パートナーからされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（13.8%）、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（12.6%）、⑤身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（7.4%）の順番に高くなっている。

【配偶者・パートナーにしたことがある】

配偶者・パートナーにしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（11.8%）、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（9.0%）、④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない（3.2%）の順番に高くなっている。

【DVを受けた経験・行った経験】



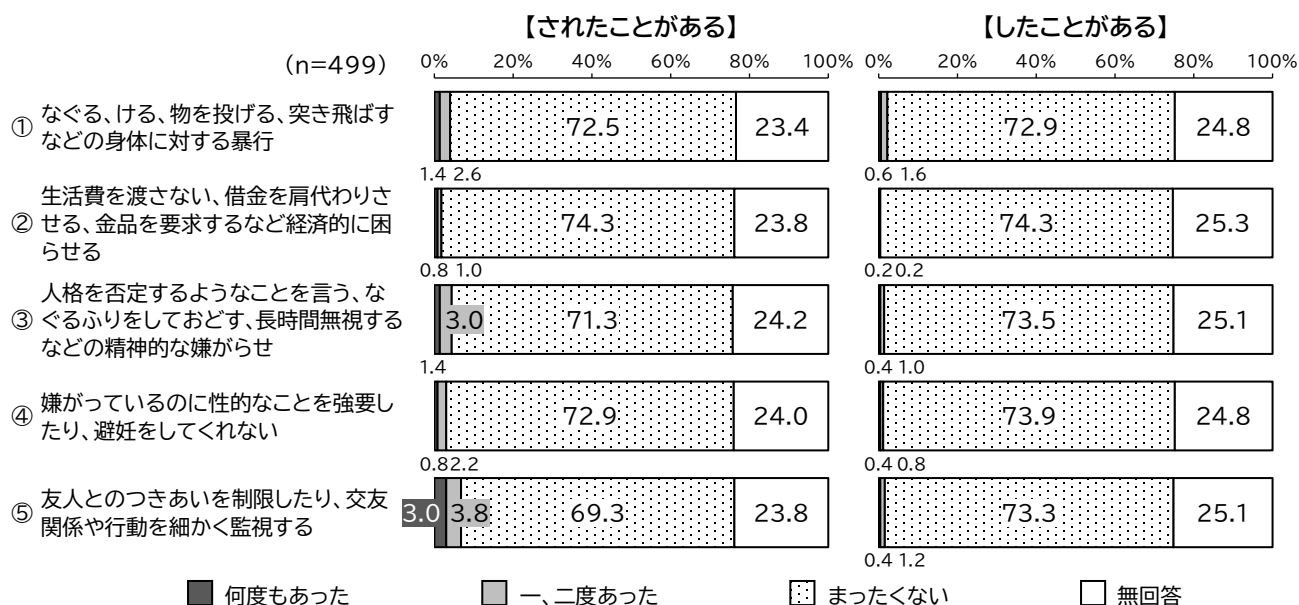
【交際相手からされたことがある】

交際相手からされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（6.8%）、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（4.4%）、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（4.0%）の順番に高くなっている。

【交際相手にしたことがある】

交際相手にしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、いずれの項目も3%未満でほとんど違いがみられない。

【デートDVを受けた経験・行った経験】



【配偶者・パートナーからされたことがある】

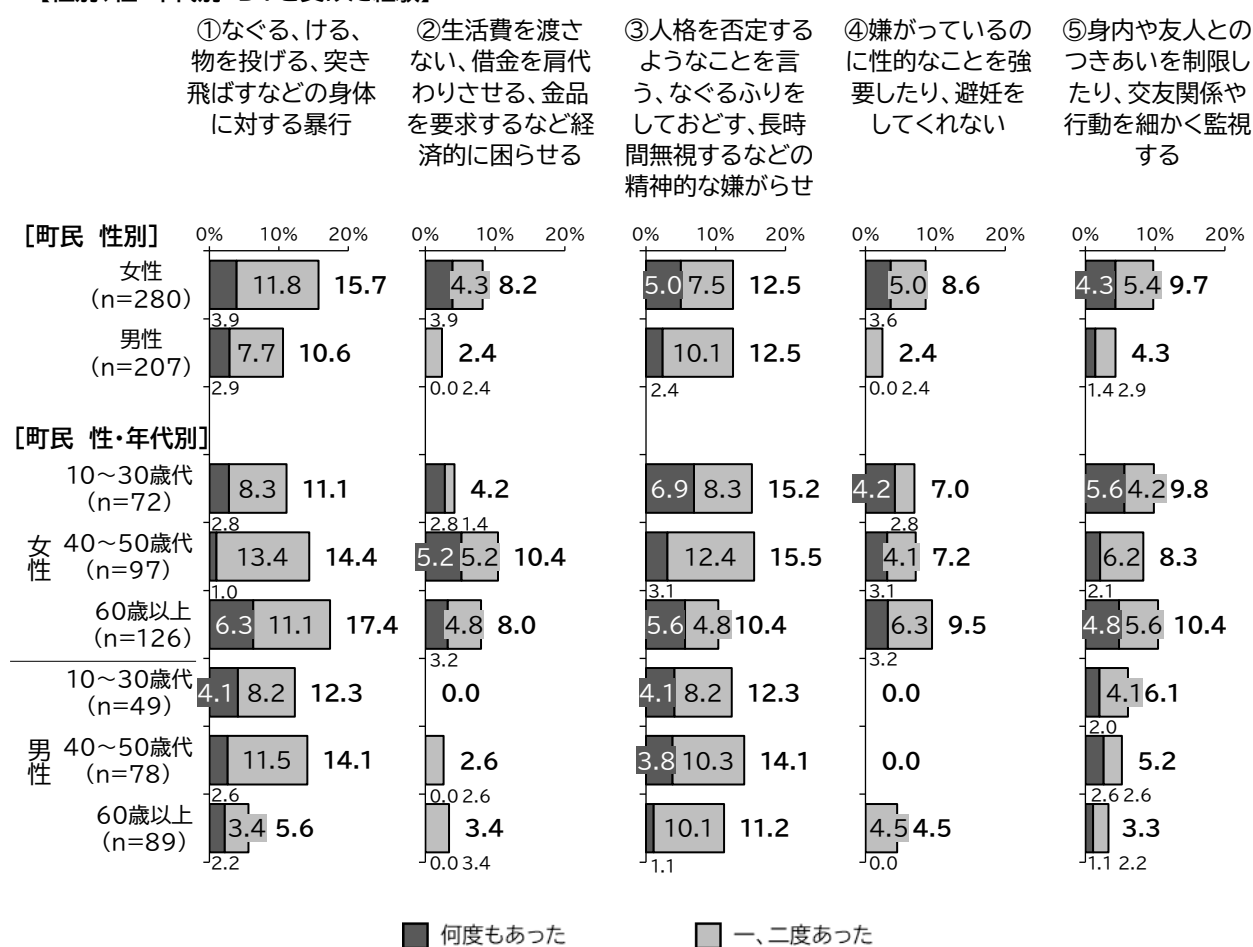
《町民・性別》

配偶者・パートナーからされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせは男女同率であるが、その他の項目はすべて女性の方が回答割合が高くなっている。また、いずれの項目も「何度もあった」は男性より女性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

配偶者・パートナーからされたことがある割合は、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行では、女性の60歳以上は17.4%と高くなっている。また、男性の50歳代以下は60歳以上と比べてされたことがある割合が高い項目が多い。

【性別、性・年代別 DVを受けた経験】



【配偶者・パートナーにしたことがある】

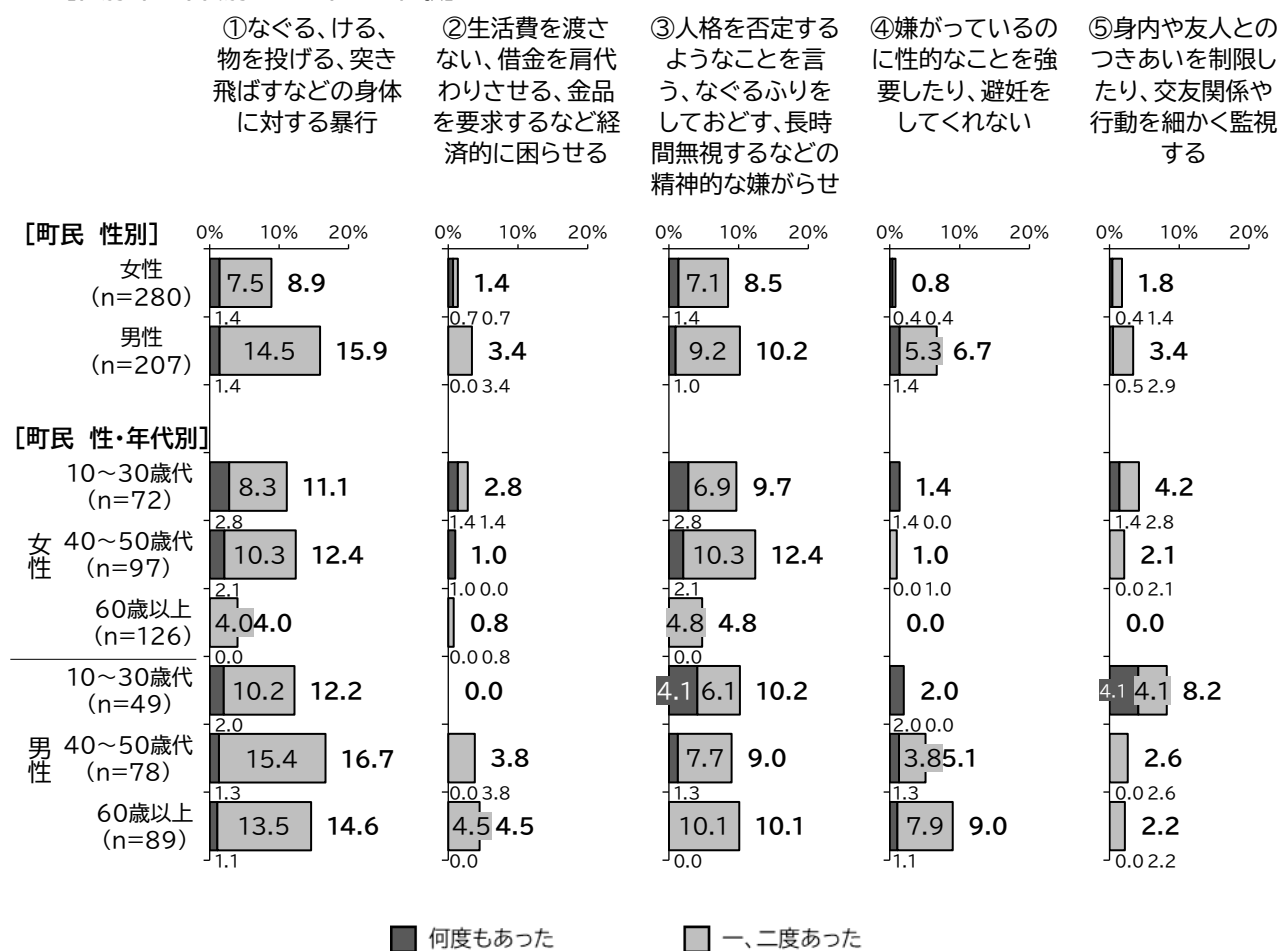
《町民・性別》

配偶者・パートナーにしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、いずれの項目も男性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の50歳代以下は60歳以上に比べて、配偶者・パートナーにしたことがある割合が高くなっている。男性の40～50歳代は、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行は他の年代に比べてやや高くなっている。男性の10～30歳代では、⑤身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視するが他の年代に比べて高くなっている。②生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせると④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれないでは、年代が上がるほど高くなっている。

【性別、性・年代別 DVを行った経験】



【交際相手からされたことがある】

《町民・性別》

交際相手からされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、いずれの項目も女性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若いほど交際相手からされたことがある割合が高い傾向で、10～30歳代では⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視するは18.1%にのぼっている。男性も年代が若いほど交際相手からされたことがある割合が高い傾向で、10～30歳代では⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視するが10.2%となっている。

【性別、性・年代別 デートDVを受けた経験】

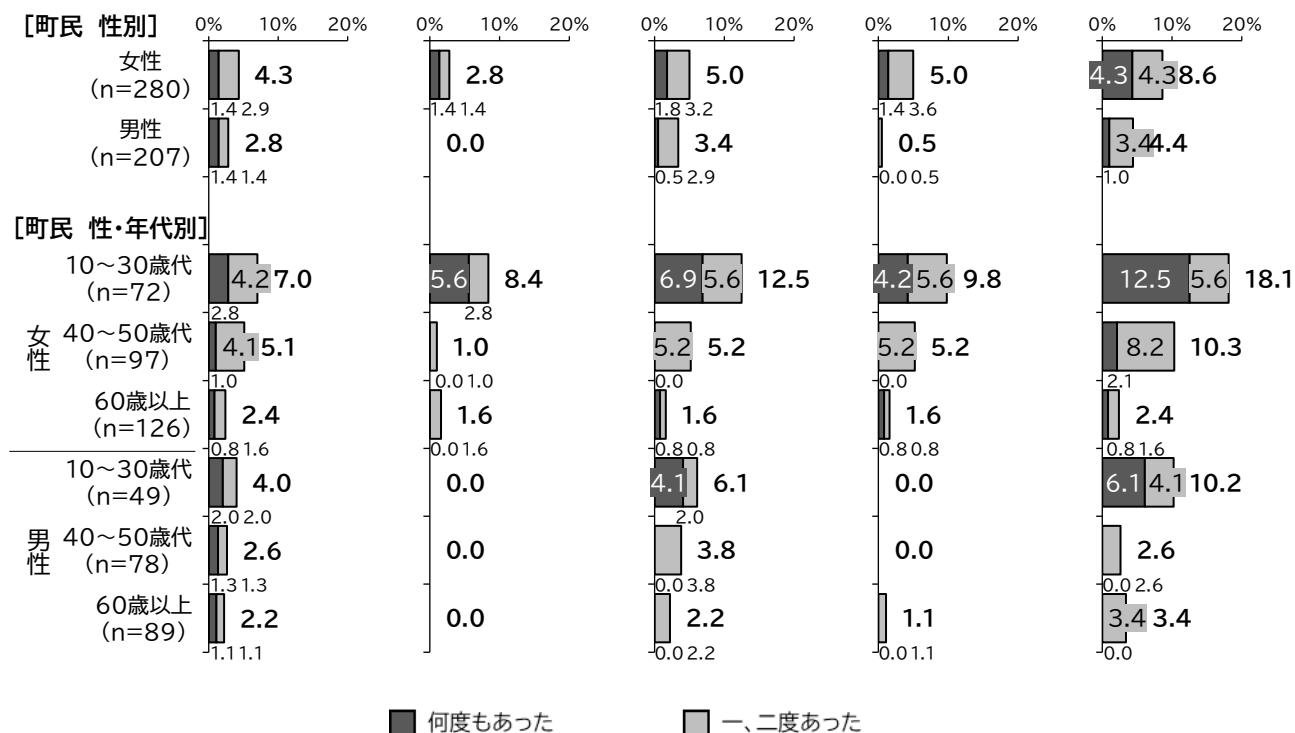
①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行

②生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせる

③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ

④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない

⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する



【交際相手にしたことがある】

《町民・性別》

交際相手にしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、いずれの項目も男性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代は、いずれの項目も交際相手にしたことがあるの回答が出現しているが、40～50歳代では2項目のみ、60歳以上では全く出現していない。男性の10～30歳代では、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせと⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視するが他の年代に比べて高くなっている。

【性別、性・年代別 デートDVを行った経験】

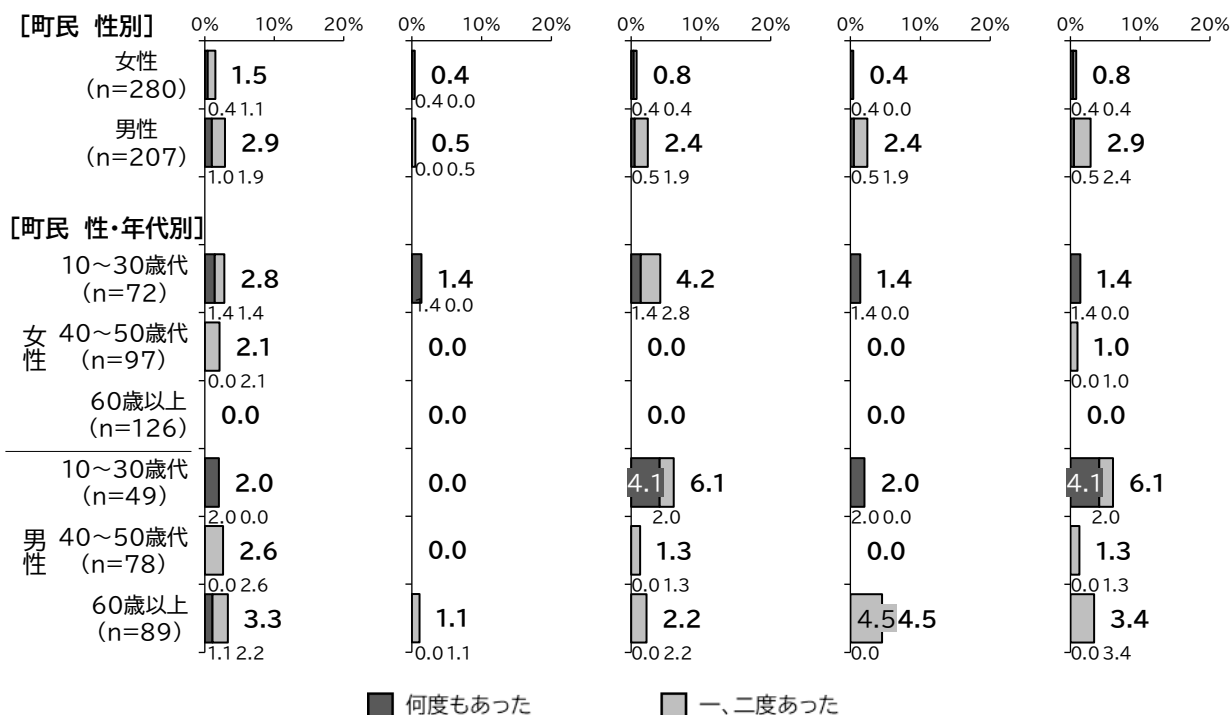
①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行

②生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせる

③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ

④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない

⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する



【配偶者・パートナーからされたことがある】

《前回調査・大阪府調査比較(町民)》

前回調査と比較可能な項目についてみると、配偶者・パートナーからされた経験は、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせで、今回調査の方が1.6ポイント高くなっているほかは1ポイント以上の違いはみられない。

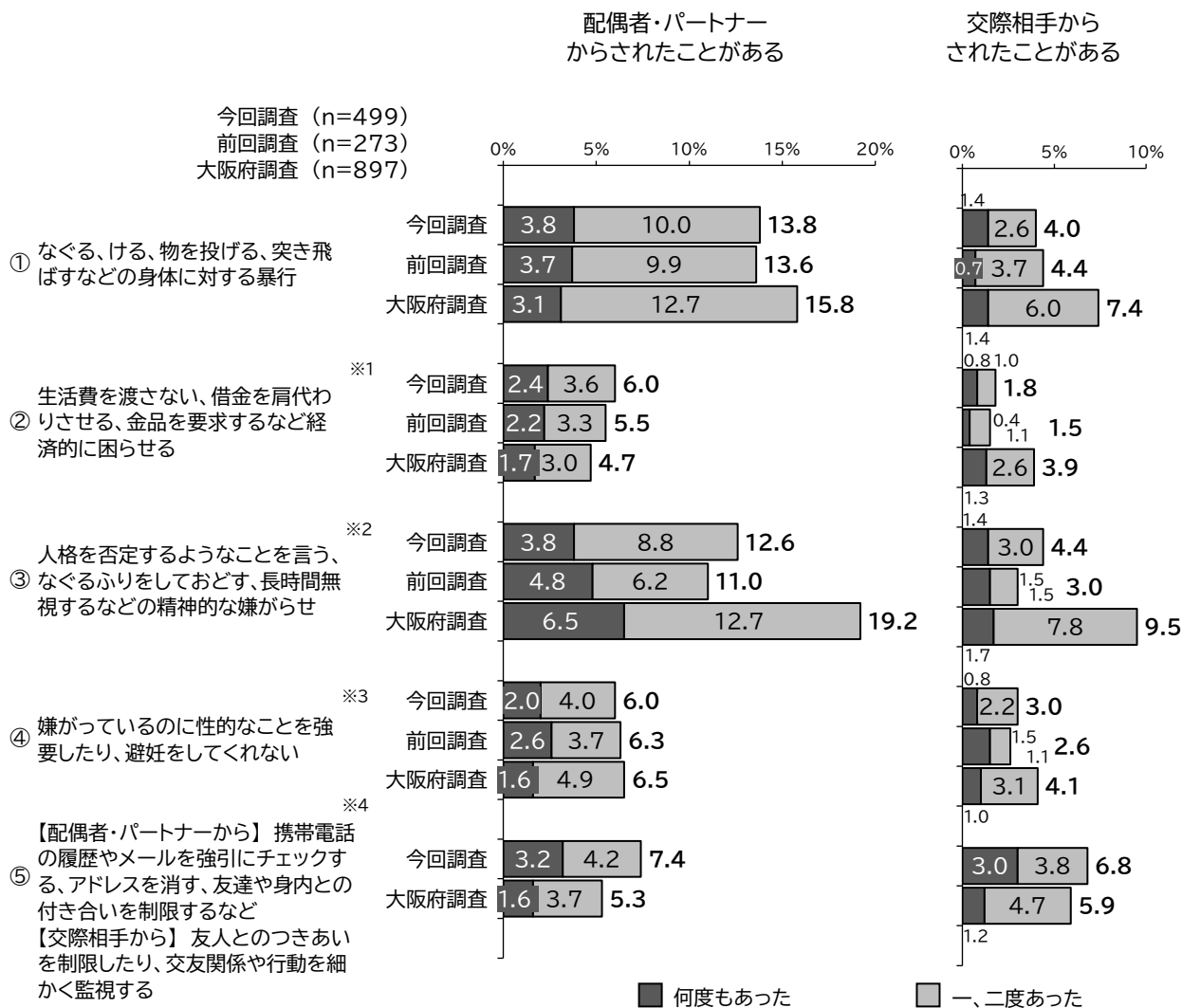
大阪府調査と比べると、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせで、今回調査の方が6.6ポイント低くなっている。

【交際相手からされたことがある】

《前回調査・大阪府調査比較(町民)》

交際相手からされたことがあるのは、配偶者・パートナーと同様の傾向で、前回調査とは大きな違いがみられず、大阪府調査との比較ではやや低い項目が多くなっている。

【DV・デートDVを受けた経験(前回調査、大阪府調査との比較)】



※1 大阪府調査では「自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど」

※2 前回調査では「人格を否定するようなことを言う、交友関係を細かく監視する、なぐるふりをして脅す、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ」

大阪府調査では「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」

※3 大阪府調査では「望まないのに性的な行為を強要する、無理にポルノ画像などを見せるなど」

※4 大阪府調査では「携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど」

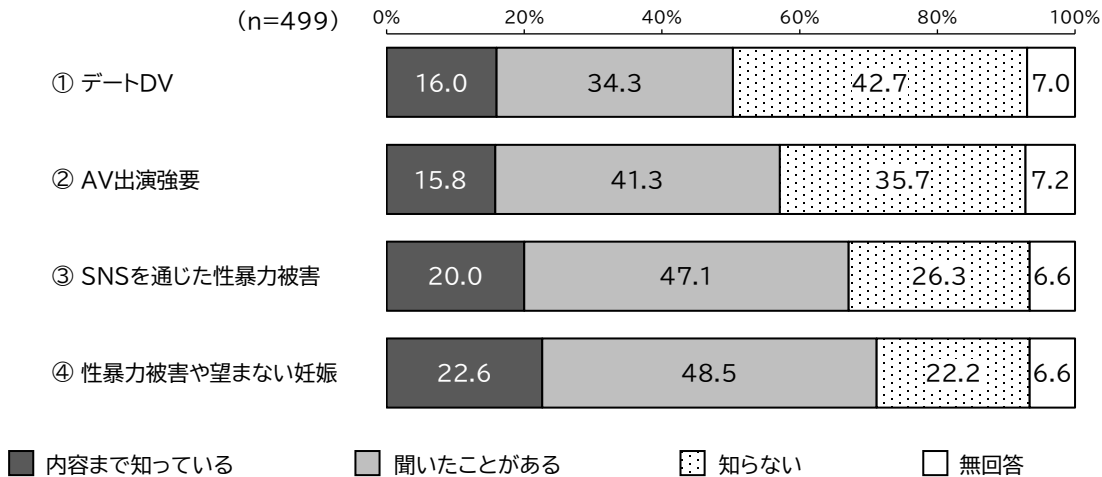
(6)若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度

問20. あなたは、若年女性が被害に遭うことが多い、次のような問題を知っていますか。

(○は①～④それぞれに1つ)

若年女性が被害に遭うことが多い問題について「内容まで知っている」のは、4項目とも2割程度にとどまっている。認知度（「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計）の回答割合は、④性暴力被害や望まない妊娠（71.1%）、③SNSを通じた性暴力被害（67.1%）、②AV出演強要（57.1%）、①デートDV（50.3%）の順に高くなっている。

【若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度】



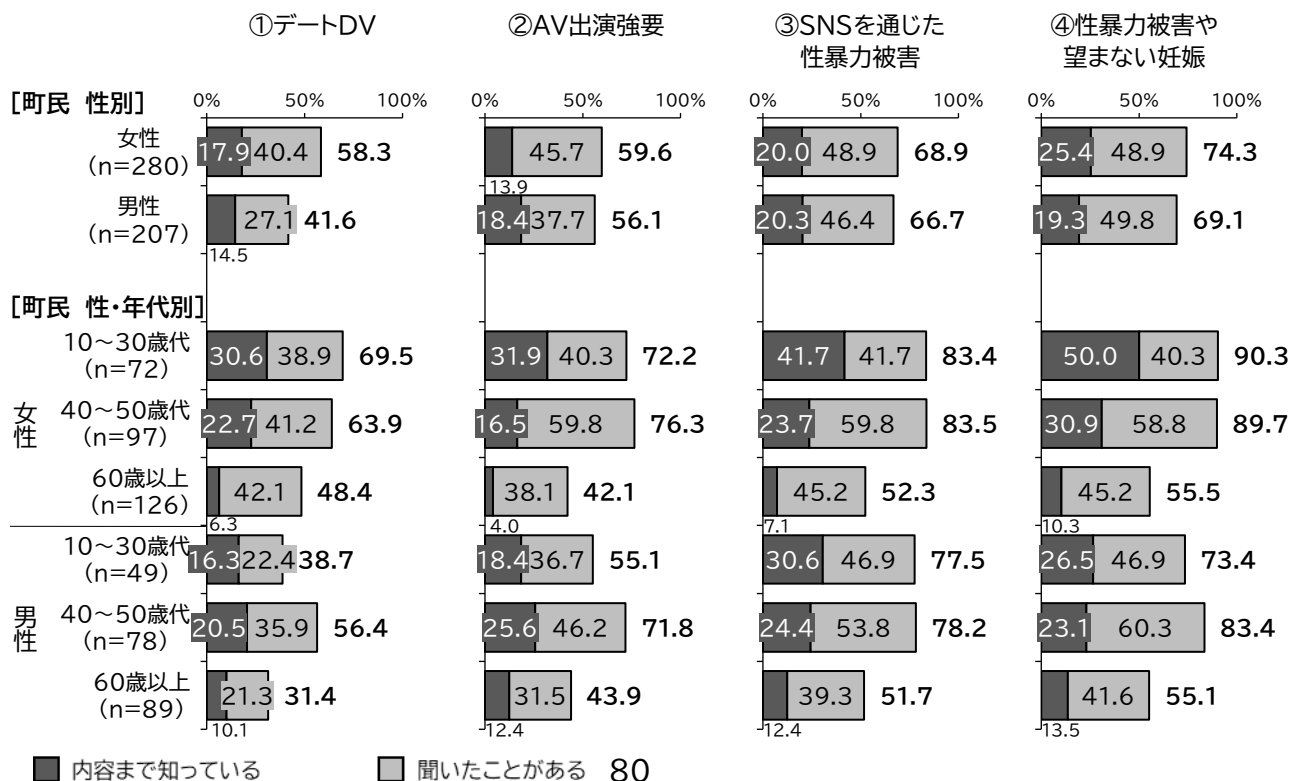
《町民・性別》

性別でみると、いずれの項目も女性の方が認知度（「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計）は高いが、②AV出演強要と③SNSを通じた性暴力被害については「内容まで知っている」の回答割合は男性の方が高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも50歳代以下では、60歳以上と比べて認知度が高くなっている。

【若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度】

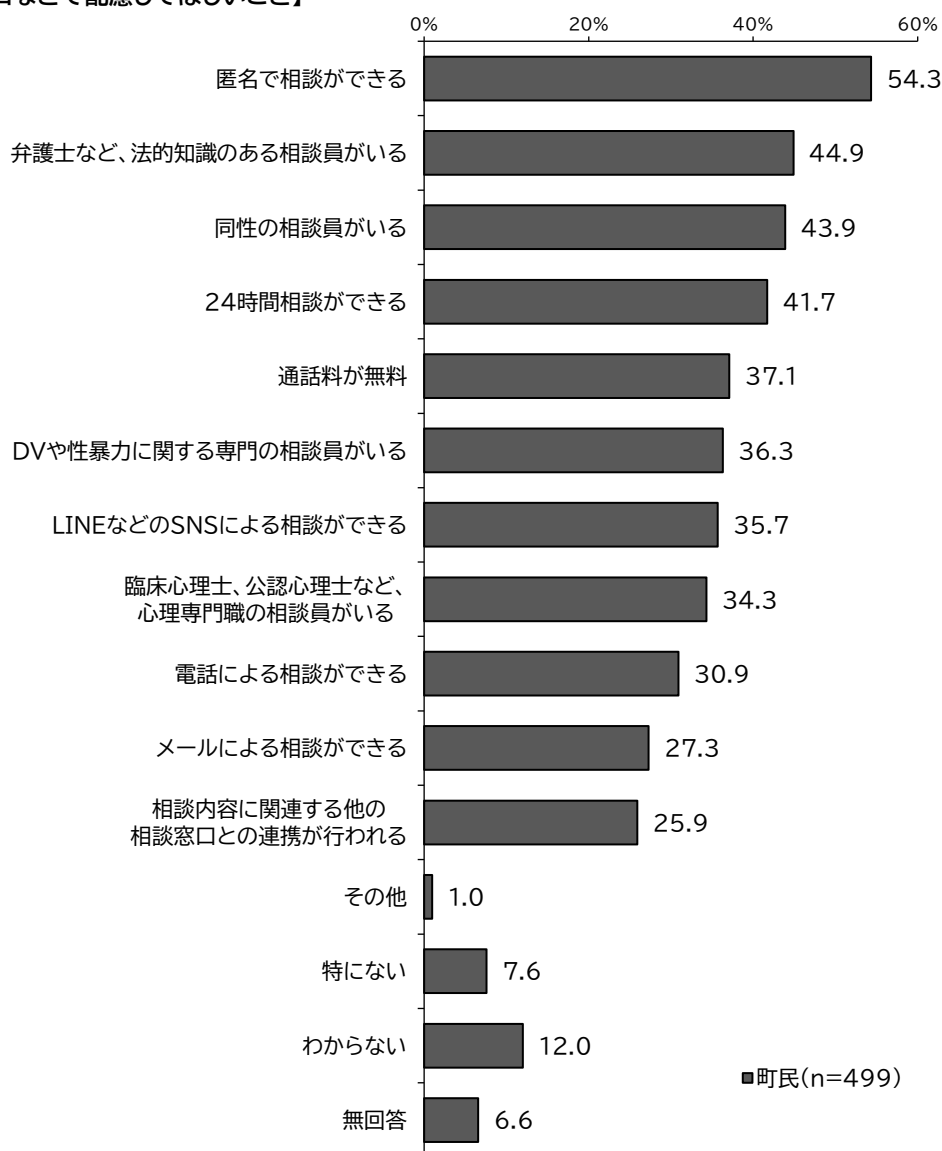


(7)DV相談窓口などで配慮してほしいこと

問21. あなたは、ジェンダーにもとづく暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

「匿名で相談ができる」が54.3%で最も高く、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(44.9%)、「同性の相談員がいる」(43.9%)、「24時間相談ができる」(41.7%)と続いている。

【DV相談窓口などで配慮してほしいこと】



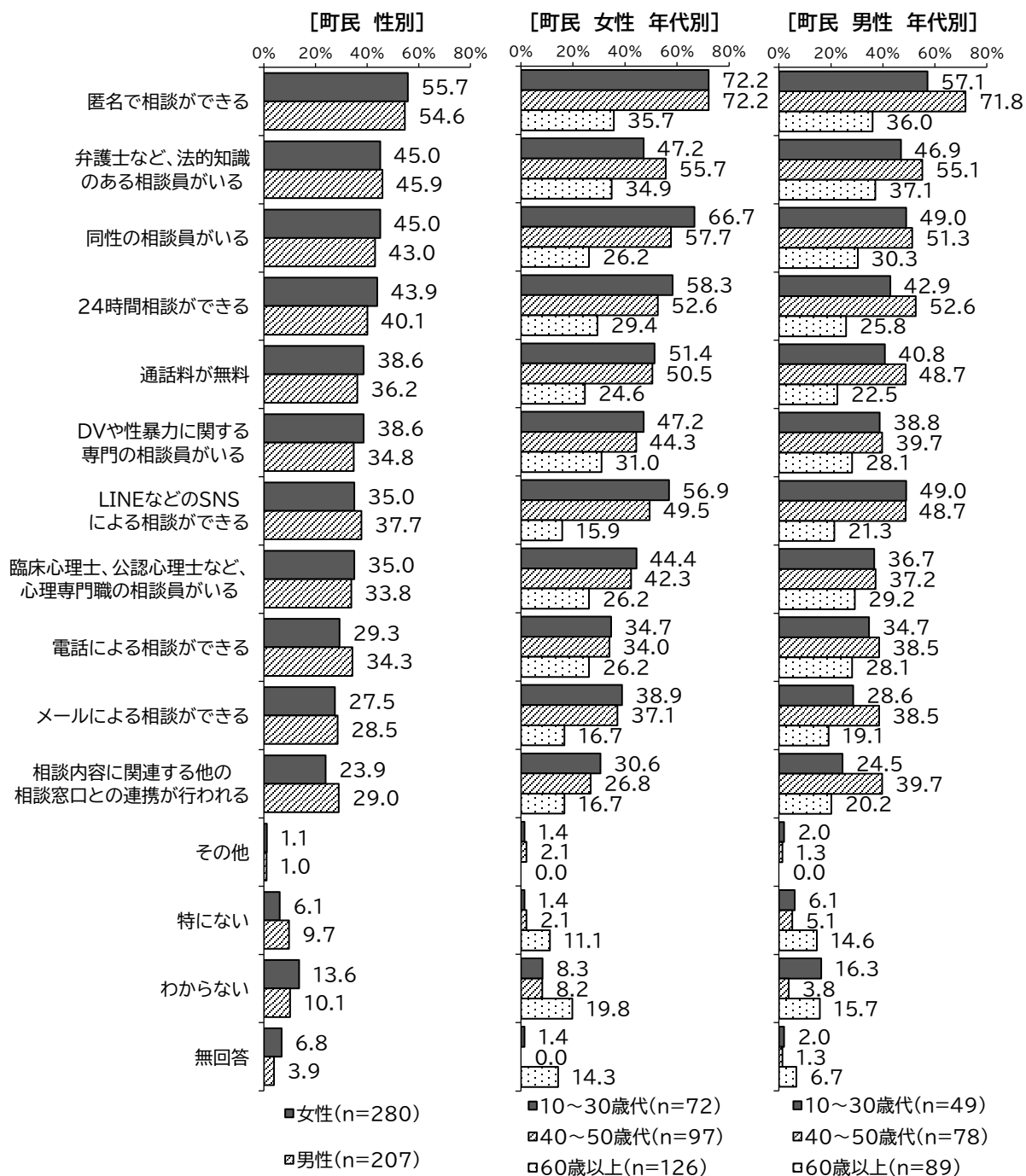
《町民・性別》

性別による違いはほとんどみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも、いずれの選択肢も60歳以上に比べて50歳代以下の回答割合が高くなっている。男性の40～50歳代ではほとんどの選択肢で回答割合が他の年代よりも高くなっている。

【性別、性・年代別 DV相談窓口などで配慮してほしいこと】



性・年代6区分でみると、女性の10～20歳代では「匿名で相談ができる」「同性の相談員がいる」「24時間相談ができる」「LINEなどのSNSによる相談ができる」は他の年代よりも高くなっている。

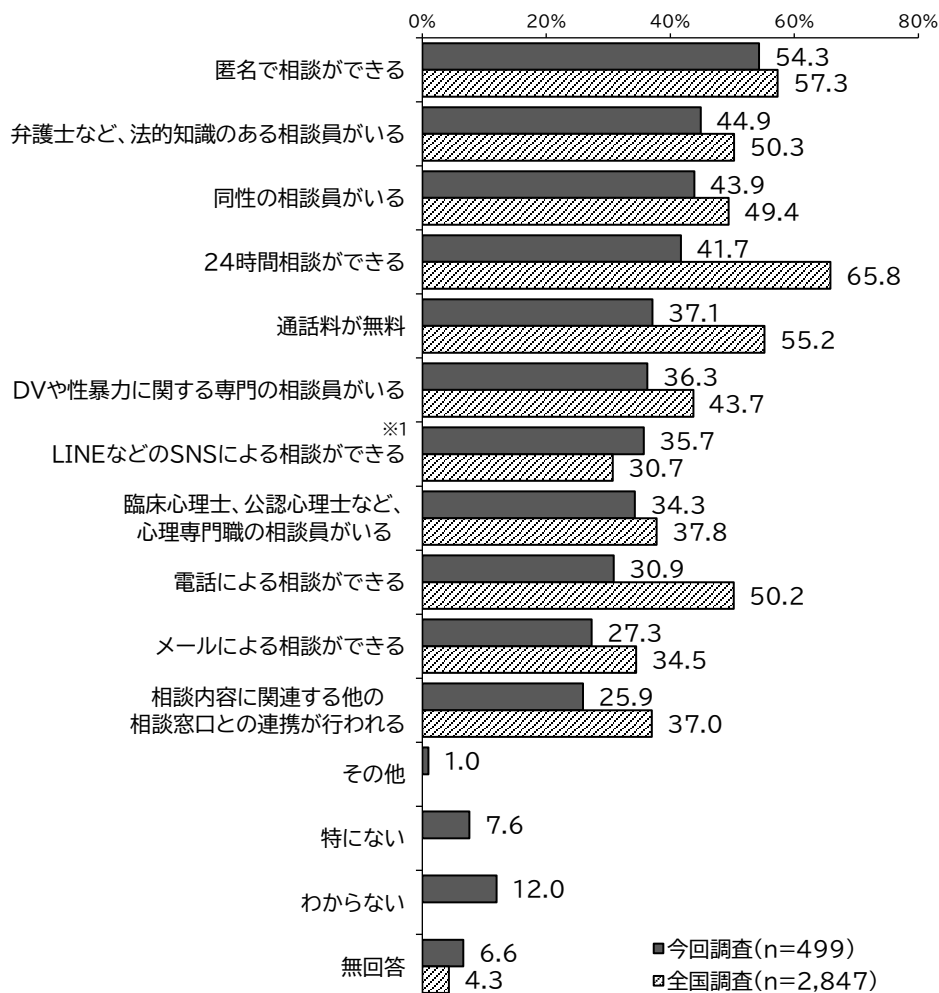
【性・年代6区分別 DV相談窓口などで配慮してほしいこと】

	回答者数 (n)	匿名で 相談が できる	弁護士など、 法的知識の ある相談員が いる	同性の 相談員が いる	24時間 相談が できる	通話料が 無料	DVや性暴力に 関する専 門の相談員が いる	LINEなどの SNSに よる相談が できる	臨床心理士、 公認心理士 など、心理専門 職の相談士 がいる	電話による 相談が できる	メールによる 相談が できる	相談内容に 関連する行 他の 相談窓口と 連携する	その他	特 に ない	わ か ら な い	無 回 答
全体	499	271	224	219	208	185	181	178	171	154	136	129	5	38	60	33
	100.0	54.3	44.9	43.9	41.7	37.1	36.3	35.7	34.3	30.9	27.3	25.9	1.0	7.6	12.0	6.6
女性	10・20歳代	39	30	16	29	24	20	17	25	17	15	16	8	-	3	1
		100.0	76.9	41.0	74.4	61.5	51.3	43.6	64.1	43.6	38.5	41.0	20.5	-	7.7	2.6
	30歳代	33	22	18	19	18	17	16	15	10	12	14	1	1	3	-
		100.0	66.7	54.5	57.6	54.5	51.5	48.5	45.5	30.3	36.4	42.4	3.0	3.0	9.1	-
	40歳代	52	36	30	27	25	24	20	20	15	17	11	-	-	5	-
		100.0	69.2	57.7	51.9	48.1	46.2	38.5	48.1	28.8	32.7	21.2	-	-	9.6	-
	50歳代	45	34	24	29	26	25	23	21	18	19	15	2	2	3	-
		100.0	75.6	53.3	64.4	57.8	55.6	51.1	46.7	40.0	42.2	33.3	4.4	4.4	6.7	-
男性	60歳代	39	22	24	16	21	14	24	12	13	12	11	-	3	5	1
		100.0	56.4	61.5	41.0	53.8	35.9	61.5	30.8	33.3	30.8	28.2	-	7.7	12.8	2.6
	70歳以上	87	23	20	17	16	17	15	8	20	9	10	-	11	20	17
		100.0	26.4	23.0	19.5	18.4	19.5	17.2	9.2	23.0	10.3	11.5	-	12.6	23.0	19.5
	10・20歳代	23	14	12	15	11	10	11	12	9	8	5	-	-	4	-
		100.0	60.9	52.2	65.2	47.8	43.5	47.8	52.2	39.1	34.8	21.7	-	-	17.4	-
	30歳代	26	14	11	9	10	10	8	12	9	6	7	1	3	4	1
女性		100.0	53.8	42.3	34.6	38.5	38.5	30.8	46.2	34.6	23.1	26.9	3.8	11.5	15.4	3.8
	40歳代	35	27	20	15	18	17	15	14	12	13	13	-	2	1	-
		100.0	77.1	57.1	42.9	51.4	48.6	42.9	40.0	42.9	34.3	37.1	-	5.7	2.9	-
	50歳代	43	29	23	25	23	21	16	24	18	17	18	1	2	2	1
		100.0	67.4	53.5	58.1	53.5	48.8	37.2	55.8	32.6	41.9	41.9	2.3	4.7	4.7	2.3
	60歳代	35	16	17	13	11	7	13	10	11	9	10	-	1	5	3
		100.0	45.7	48.6	37.1	31.4	20.0	37.1	28.6	31.4	25.7	28.6	-	2.9	14.3	8.6
男性	70歳以上	54	16	16	14	12	13	12	9	11	8	8	-	12	9	3
		100.0	29.6	29.6	25.9	22.2	24.1	22.2	16.7	20.4	14.8	14.8	-	22.2	16.7	5.6

《全国調査比較(町民)》

全国調査と比べると、「LINEなどのSNSによる相談ができる」以外は今回調査の方が回答割合が低くなっている。なかでも「24時間相談ができる」、「電話による相談ができる」、「通話料が無料」で差が大きい。

【DV相談窓口などで配慮してほしいこと(全国調査との比較)】



※1 全国調査では「チャット、SNSなどによる相談ができる」

8. 男女共同参画社会づくりについて

(1)結婚や家庭、女性の参画に関する考え方

問22. あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(〇は①～⑤それぞれに1つ)

【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】

「反対」が30.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が30.1%となっている。『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が59.6%、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が36.1%で『反対』の方が23.5ポイント高くなっている。

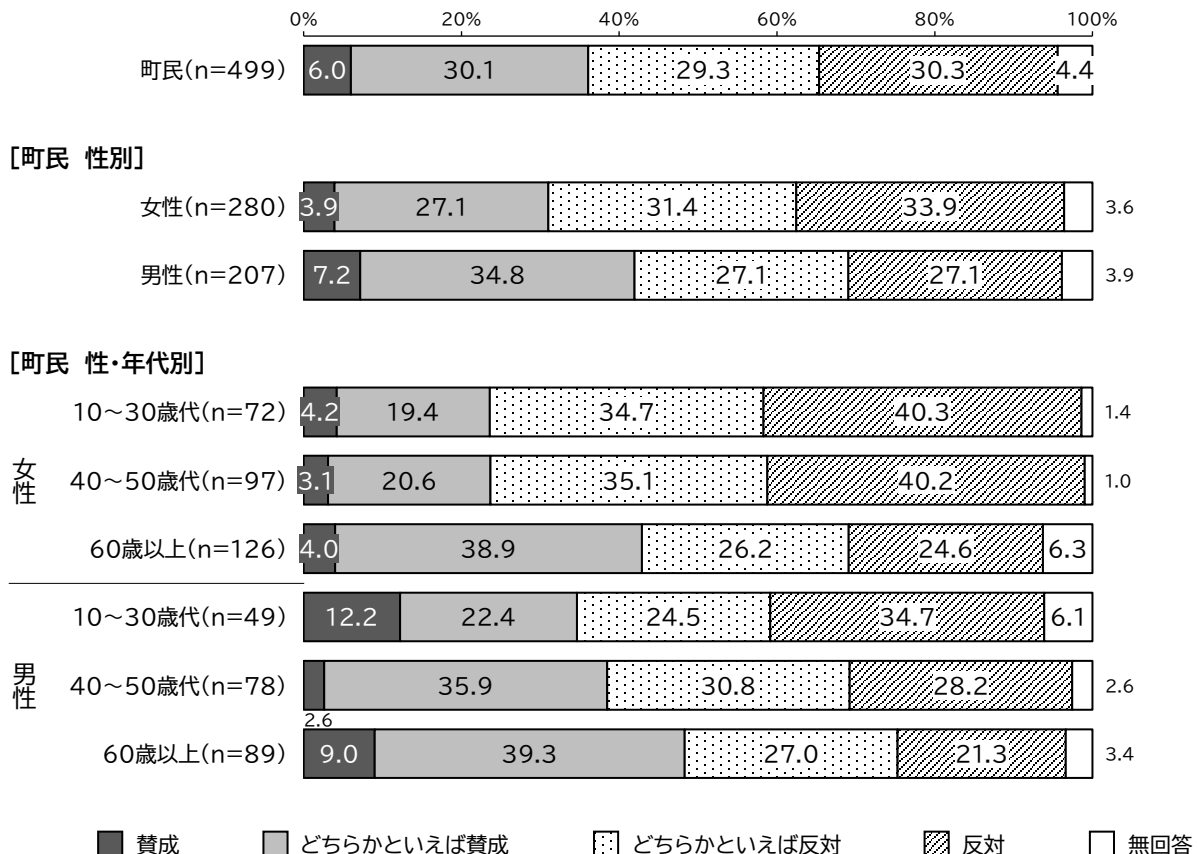
《町民・性別》

女性は『反対』が65.3%で、男性の54.2%と比べて11.1ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代と40～50歳代では回答割合がほとんど同じで『反対』が約75%と高く、60歳以上の50.8%と比べて20ポイント以上の差がみられる。男性は年代が若いほど『反対』の回答割合が高くなっている。

【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】



性・年代6区分別でみると、女性の30歳代では『反対』が約85%を占めている一方で、10～20歳代は『賛成』が3割を超えている。

【性・年代6区分別 ①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】

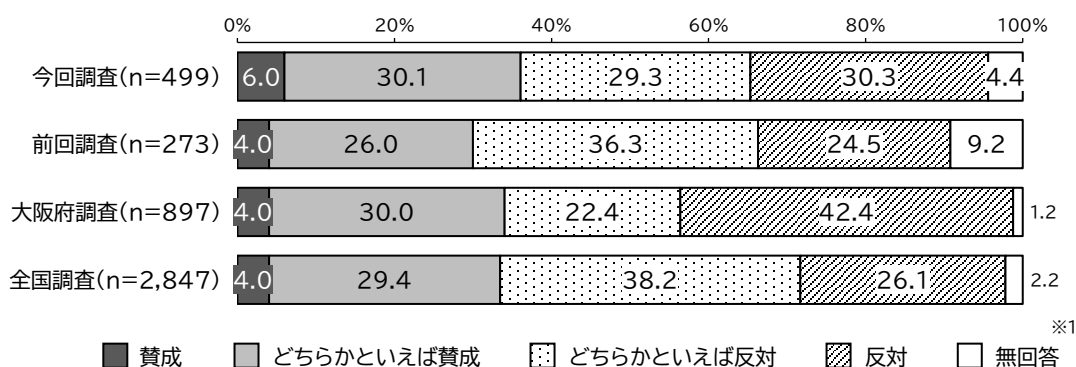
		回答者数 (n)	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	無回答
全体		499 100.0	30 6.0	150 30.1	146 29.3	151 30.3	22 4.4
女性	10・20歳代	39 100.0	2 5.1	10 25.6	11 28.2	15 38.5	1 2.6
	30歳代	33 100.0	1 3.0	4 12.1	14 42.4	14 42.4	-
	40歳代	52 100.0	3 5.8	9 17.3	19 36.5	21 40.4	-
	50歳代	45 100.0	-	11 24.4	15 33.3	18 40.0	1 2.2
	60歳代	39 100.0	1 2.6	14 35.9	11 28.2	13 33.3	-
	70歳以上	87 100.0	4 4.6	35 40.2	22 25.3	18 20.7	8 9.2
男性	10・20歳代	23 100.0	-	8 34.8	7 30.4	7 30.4	1 4.3
	30歳代	26 100.0	6 23.1	3 11.5	5 19.2	10 38.5	2 7.7
	40歳代	35 100.0	2 5.7	10 28.6	9 25.7	14 40.0	-
	50歳代	43 100.0	-	18 41.9	15 34.9	8 18.6	2 4.7
	60歳代	35 100.0	3 8.6	8 22.9	10 28.6	12 34.3	2 5.7
	70歳以上	54 100.0	5 9.3	27 50.0	14 25.9	7 13.0	1 1.9

【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】

《前回調査・大阪府調査・全国調査比較(町民)》

前回調査と比べると、『賛成』は今回調査の方が6.1ポイント高くなっている。『反対』は1.2ポイント低くなっているなかで「反対」は今回調査の方が5.8ポイント高くなっている。大阪府調査、全国調査と比べると、『反対』の回答割合は、今回調査の方が5ポイント程度低くなっている。

【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(前回調査、大阪府調査、全国調査との比較)】



※1 大阪府調査の選択肢は「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そうは思わない」

【②夫婦は別姓を名乗ってもよい】

「賛成」が28.9%で最も高く、「どちらかといえば反対」(25.5%)、「どちらかといえば賛成」(25.1%)がほぼ同程度の割合で続いている。『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が54.0%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が42.3%で、『賛成』が11.7ポイント高くなっている。

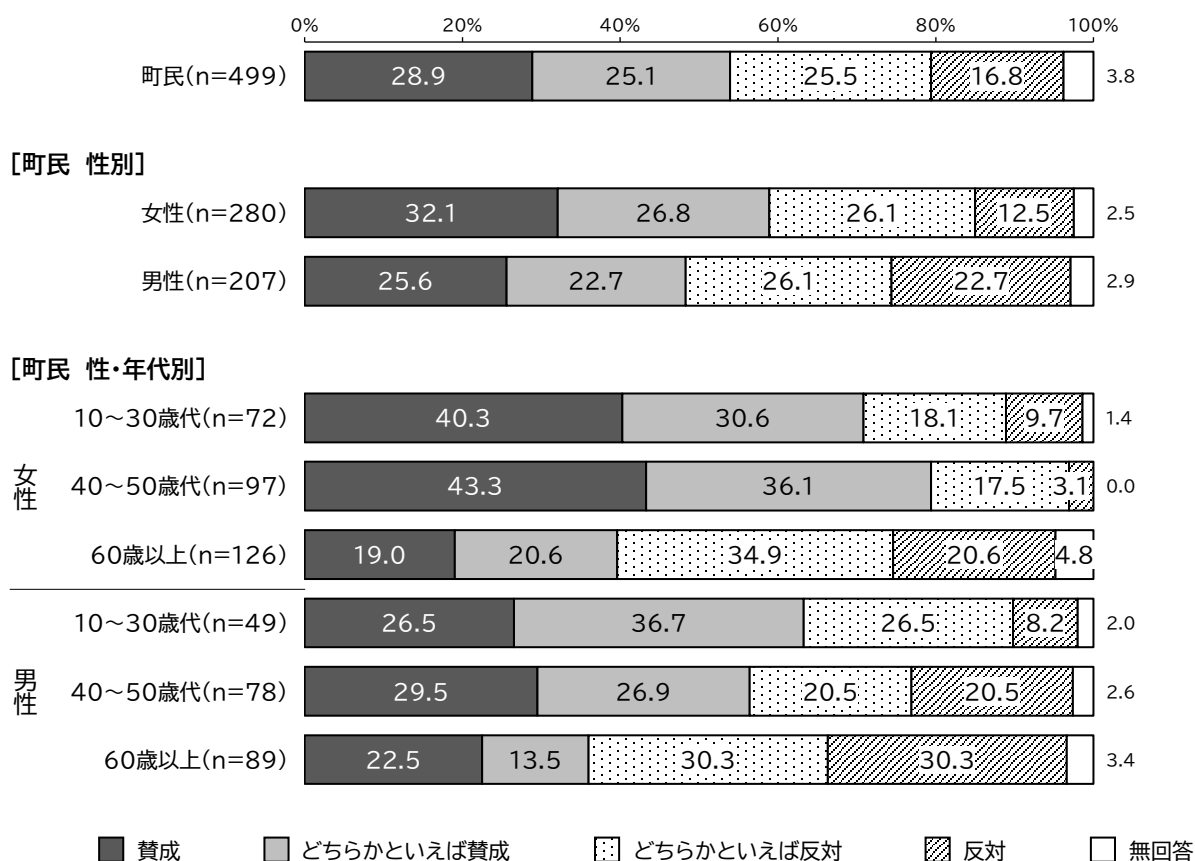
《町民・性別》

女性は『賛成』が58.9%で、男性の48.3%と比べて10.6ポイント高くなっている。男性では『賛成』と『反対』の回答割合が拮抗している。

《町民・性・年代別》

女性の40～50歳代は『賛成』が79.4%で特に高く、女性の10～30歳代も『賛成』が7割を超えている。男性は年代が若いほど『賛成』の回答割合が高くなっている。男女とも60歳以上は『賛成』よりも『反対』の回答割合が高くなっている。

【②夫婦は別姓を名乗ってもよい】



性・年代6区分別でみると、女性の40歳代は『賛成』が82.7%にのぼっている。また、男女とも70歳以上で『反対』の割合が特に高くなっている。

【性・年代6区分別 ②夫婦は別姓を名乗ってもよい】

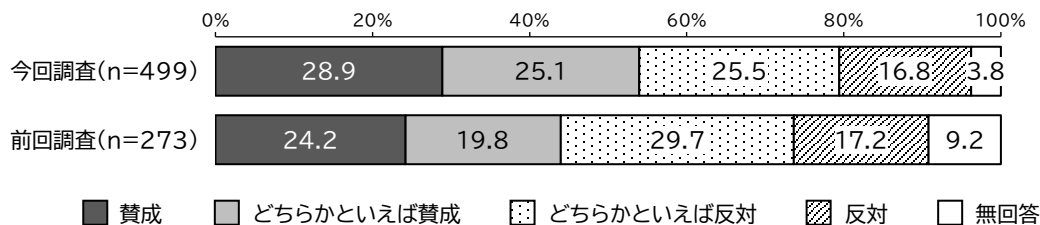
		回答者数 (n)	賛成	賛どちらか といえ	反対どちらか といえ	反対	無回答
	全体	499 100.0	144 28.9	125 25.1	127 25.5	84 16.8	19 3.8
女性	10・20歳代	39 100.0	16 41.0	13 33.3	5 12.8	4 10.3	1 2.6
	30歳代	33 100.0	13 39.4	9 27.3	8 24.2	3 9.1	- -
	40歳代	52 100.0	22 42.3	21 40.4	8 15.4	1 1.9	- -
	50歳代	45 100.0	20 44.4	14 31.1	9 20.0	2 4.4	- -
	60歳代	39 100.0	15 38.5	10 25.6	12 30.8	2 5.1	- -
	70歳以上	87 100.0	9 10.3	16 18.4	32 36.8	24 27.6	6 6.9
	男性	10・20歳代	23 100.0	9 39.1	7 30.4	6 26.1	1 4.3
30歳代		26 100.0	4 15.4	11 42.3	7 26.9	3 11.5	1 3.8
40歳代		35 100.0	8 22.9	9 25.7	9 25.7	9 25.7	- -
50歳代		43 100.0	15 34.9	12 27.9	7 16.3	7 16.3	2 4.7
60歳代		35 100.0	12 34.3	6 17.1	10 28.6	5 14.3	2 5.7
70歳以上		54 100.0	8 14.8	6 11.1	17 31.5	22 40.7	1 1.9

【②夫婦は別姓を名乗ってもよい】

《前回調査比較(町民)》

前回調査と比べると、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が10.0ポイント高くなっている。

【②夫婦は別姓を名乗ってもよい(前回調査との比較)】



【③同性同士の結婚を認めてよい】

「賛成」(30.7%)と「どちらかといえば賛成」(30.5%)がほぼ同割合となっており、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が61.2%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が32.4%で、『賛成』が28.8ポイント高くなっている。

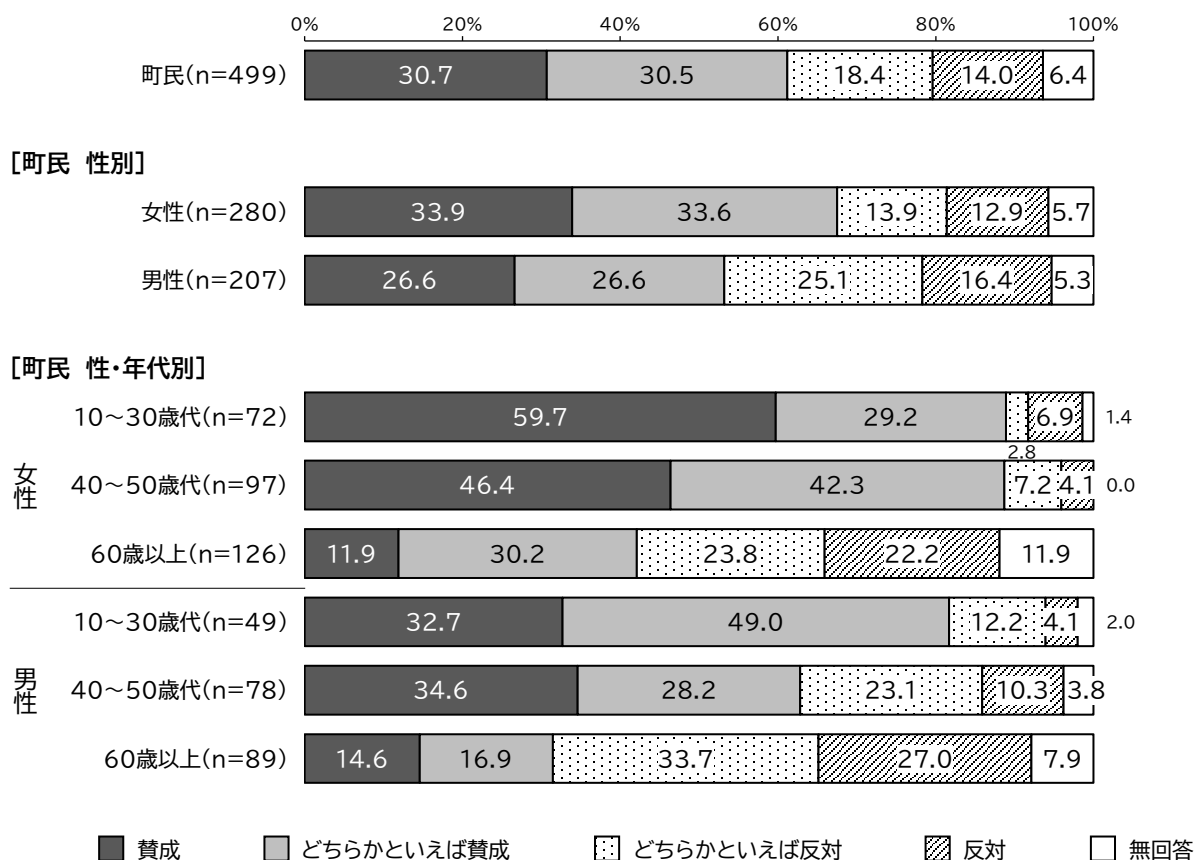
《町民・性別》

女性は『賛成』が67.5%で、男性の53.2%より14.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が若くなるほど『賛成』の回答割合が高くなっている。女性では50歳代以下では『賛成』が約9割で、男性の10～30歳代では『賛成』が8割を超えている。

【③同性同士の結婚を認めてよい】



性・年代6区分別でみると、男女とも70歳以上で『反対』の割合が特に高くなっている。

【性・年代6区分別 ③同性同士の結婚を認めてよい】

		回答者数 (n)	賛成	賛成どちらか といえ	反対どちらか といえ	反対	無回答
	全体	499 100.0	153 30.7	152 30.5	92 18.4	70 14.0	32 6.4
女性	10・20歳代	39 100.0	23 59.0	12 30.8	- -	3 7.7	1 2.6
	30歳代	33 100.0	20 60.6	9 27.3	2 6.1	2 6.1	- -
	40歳代	52 100.0	26 50.0	21 40.4	3 5.8	2 3.8	- -
	50歳代	45 100.0	19 42.2	20 44.4	4 8.9	2 4.4	- -
	60歳代	39 100.0	11 28.2	13 33.3	8 20.5	6 15.4	1 2.6
	70歳以上	87 100.0	4 4.6	25 28.7	22 25.3	22 25.3	14 16.1
男性	10・20歳代	23 100.0	7 30.4	13 56.5	3 13.0	- -	- -
	30歳代	26 100.0	9 34.6	11 42.3	3 11.5	2 7.7	1 3.8
	40歳代	35 100.0	10 28.6	13 37.1	7 20.0	5 14.3	- -
	50歳代	43 100.0	17 39.5	9 20.9	11 25.6	3 7.0	3 7.0
	60歳代	35 100.0	8 22.9	8 22.9	10 28.6	7 20.0	2 5.7
	70歳以上	54 100.0	5 9.3	7 13.0	20 37.0	17 31.5	5 9.3

【④地域リーダーに女性が増えた方がよい】

「どちらかといえば賛成」が53.3%で最も高く、次いで「賛成」が31.1%となっており、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は84.4%を占めている。

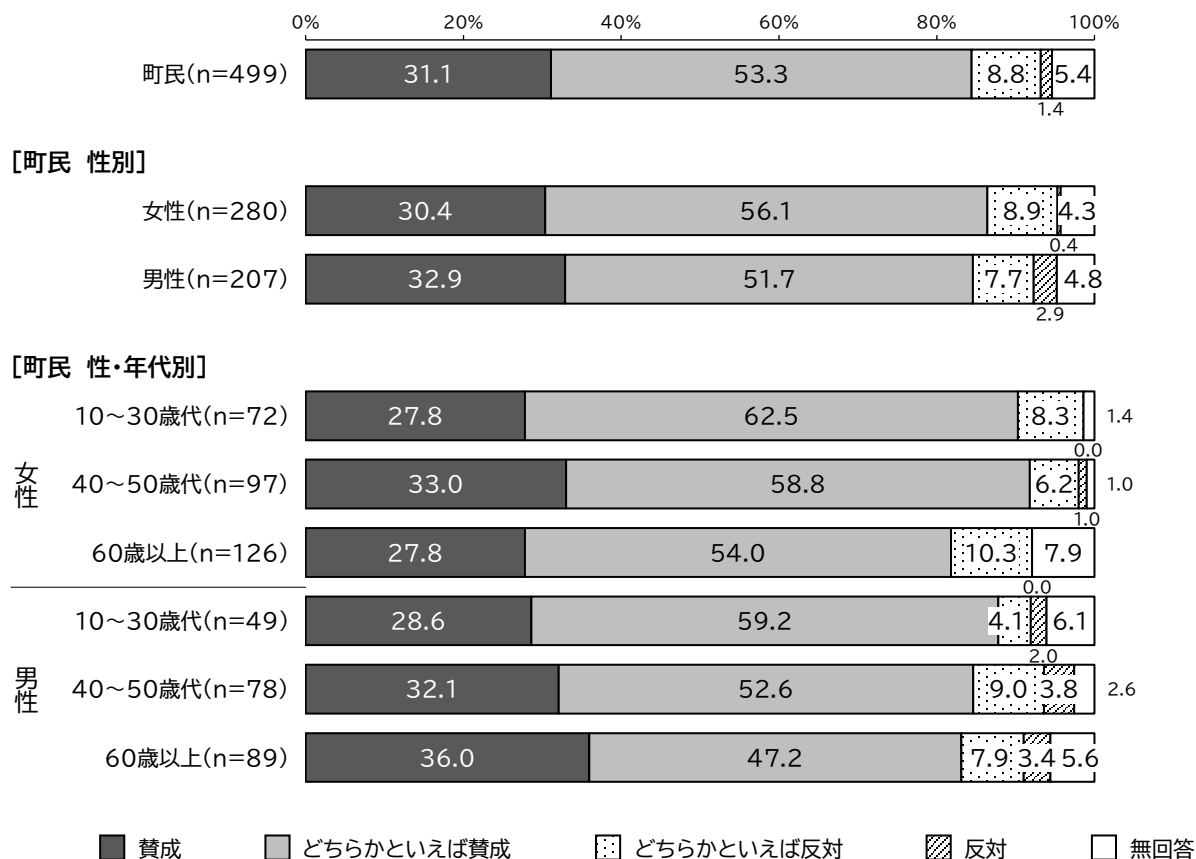
《町民・性別》

『賛成』は、女性が86.5%、男性が84.6%でほとんど変わらない。

《町民・性・年代別》

男女ともいずれの年代も『賛成』が8割を超えており、女性の50歳代以下では9割を超えている。

【④地域リーダーに女性が増えた方がよい】

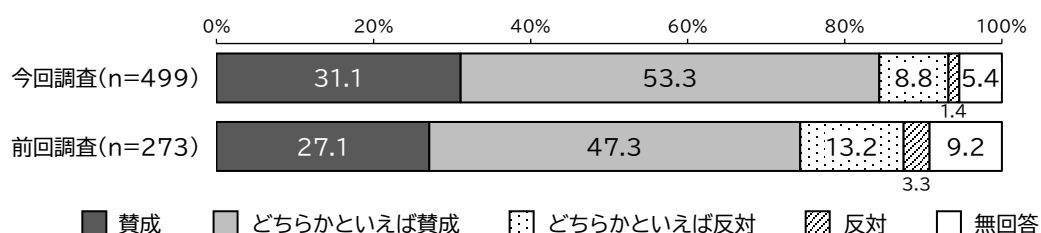


【④地域リーダーに女性が増えた方がよい】

《前回調査比較(町民)》

前回調査と比べると、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は今回調査の方が10ポイント高くなっている。

【④地域リーダーに女性が増えた方がよい(前回調査との比較)】



【⑤政治家に女性が増えた方がよい】

「どちらかといえば賛成」が49.1%で最も高く、「賛成」(35.1%)と合わせて『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が84.2%を占めている。

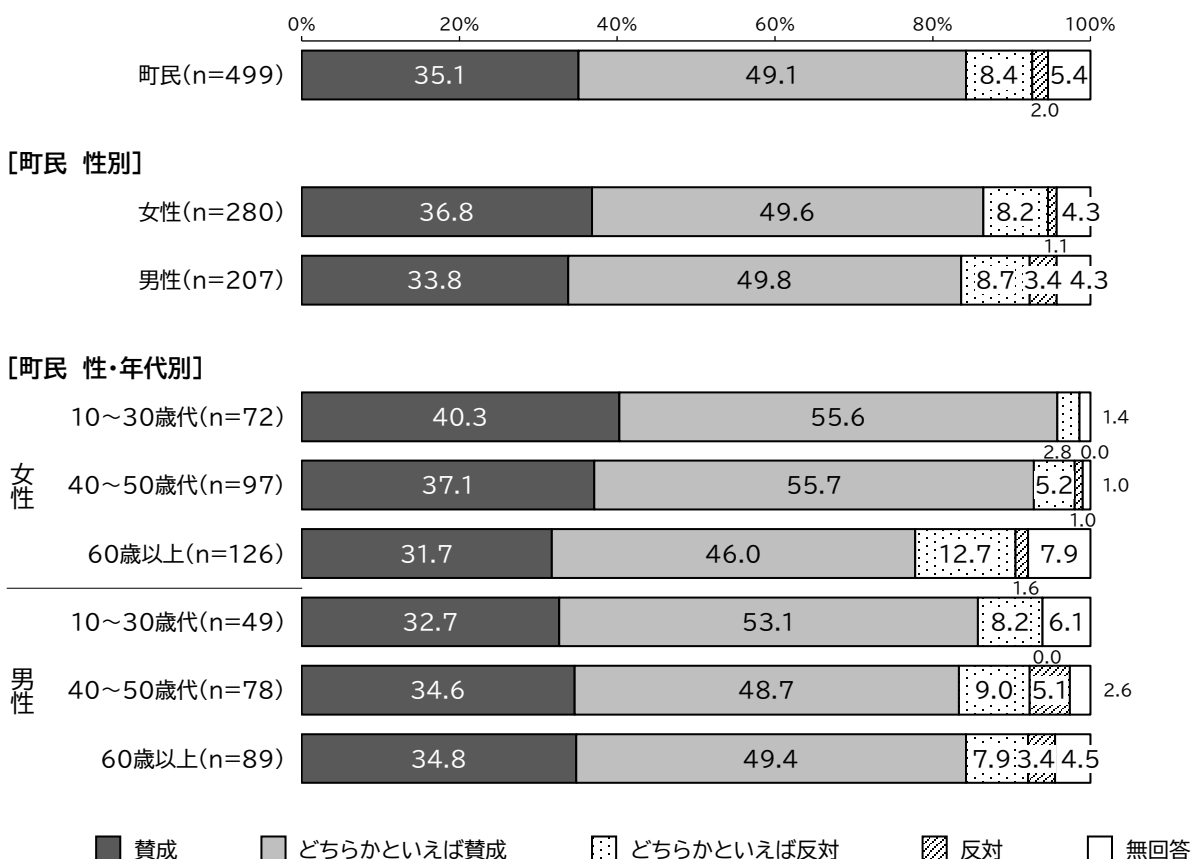
《町民・性別》

『賛成』は、女性が86.4%、男性が83.6%でほとんど変わらない。

《町民・性・年代別》

女性の60歳以上を除いて男女ともいずれの年代も『賛成』が8割を超えており、女性の50歳代以下では9割を超えている。

【⑤政治家に女性が増えた方がよい】



(2)性別による負担感や生きづらさを感じたことがあるか

問23. あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(〇は1つ)

性別による負担感や生きづらさを感じたことが「ある」割合は15.4%となっている。

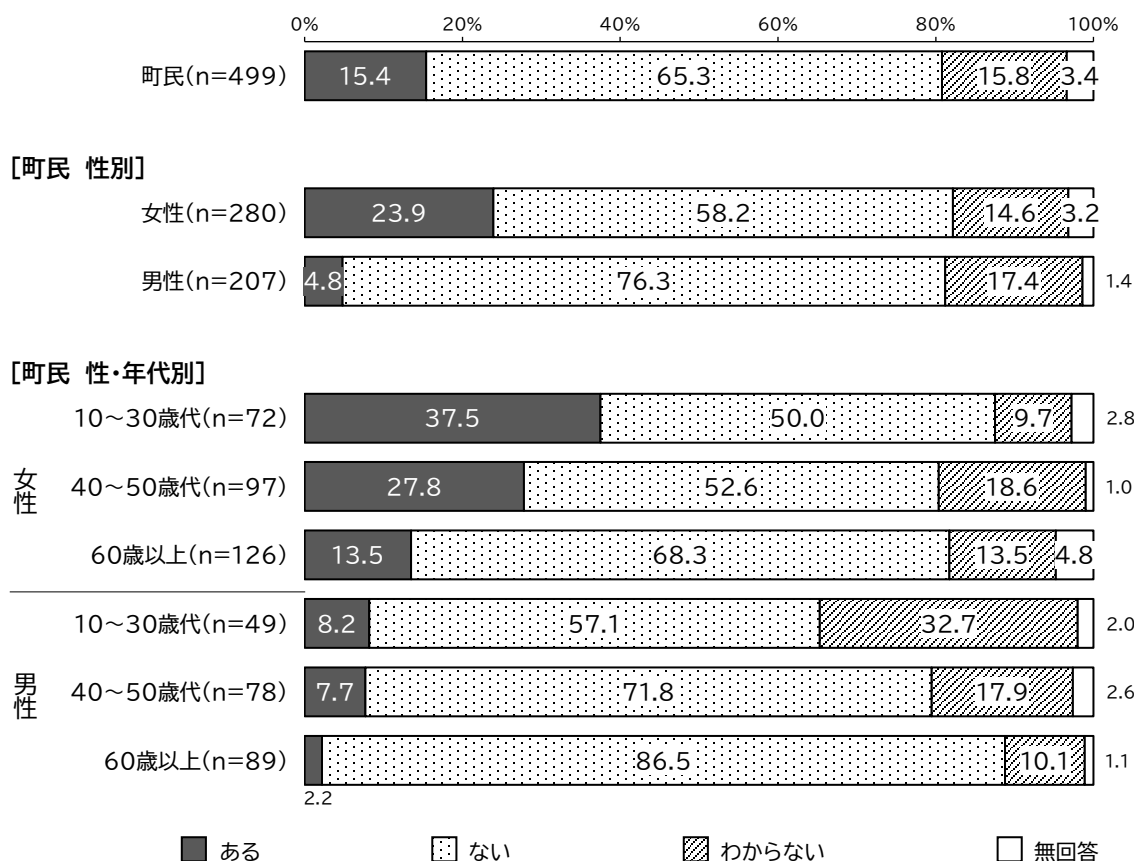
《町民・性別》

性別でみると、女性は「ある」の回答割合が23.9%であるのに対して男性は4.8%で、女性の方が19.1ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が若くなるほど「ある」の回答割合が高くなっており、特に女性の10～30歳代では37.5%と高くなっている。

【性別による負担感や生きづらさを感じたことがあるか】



性・年代6区分別でみると、女性の30歳代では半数近くが性別による負担感や生きづらさを感じたことが「ある」と回答している。

【性・年代6区分別 性別による負担感や生きづらさを感じたことがあるか】

		回答者数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
全体		499 100.0	77 15.4	326 65.3	79 15.8	17 3.4
女性	10・20歳代	39 100.0	12 30.8	21 53.8	5 12.8	1 2.6
	30歳代	33 100.0	15 45.5	15 45.5	2 6.1	1 3.0
	40歳代	52 100.0	13 25.0	31 59.6	8 15.4	-
	50歳代	45 100.0	14 31.1	20 44.4	10 22.2	1 2.2
	60歳代	39 100.0	10 25.6	25 64.1	3 7.7	1 2.6
	70歳以上	87 100.0	7 8.0	61 70.1	14 16.1	5 5.7
男性	10・20歳代	23 100.0	2 8.7	12 52.2	9 39.1	-
	30歳代	26 100.0	2 7.7	16 61.5	7 26.9	1 3.8
	40歳代	35 100.0	3 8.6	25 71.4	7 20.0	-
	50歳代	43 100.0	3 7.0	31 72.1	7 16.3	2 4.7
	60歳代	35 100.0	1 2.9	32 91.4	1 2.9	1 2.9
	70歳以上	54 100.0	1 1.9	45 83.3	8 14.8	-

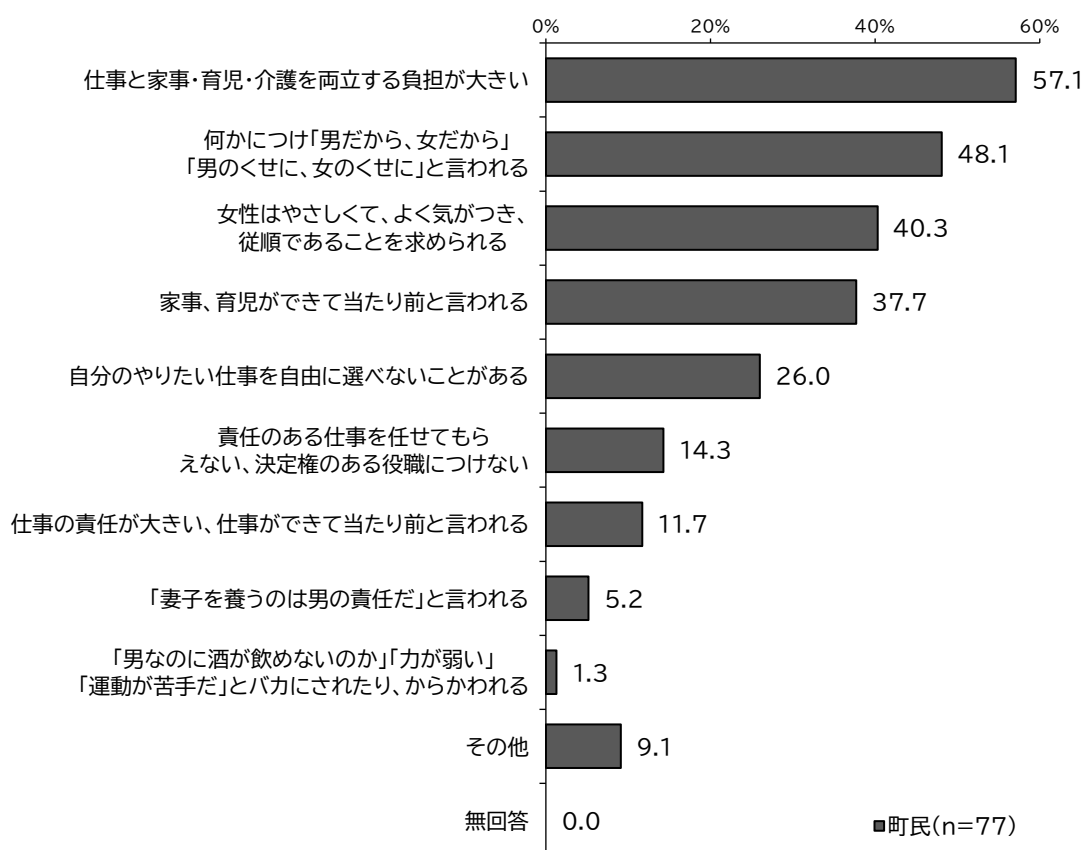
(3)性別による負担感や生きづらさを感じたとき

問23-1.「ある」と答えた方に

それは、どのようなときに感じましたか。(〇はいくつでも)

性別による負担感や生きづらさをどのようなときに感じたかでは、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が57.1%で最も高く、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」(48.1%)、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(40.3%)と続いている。

【性別による負担感や生きづらさを感じたとき】



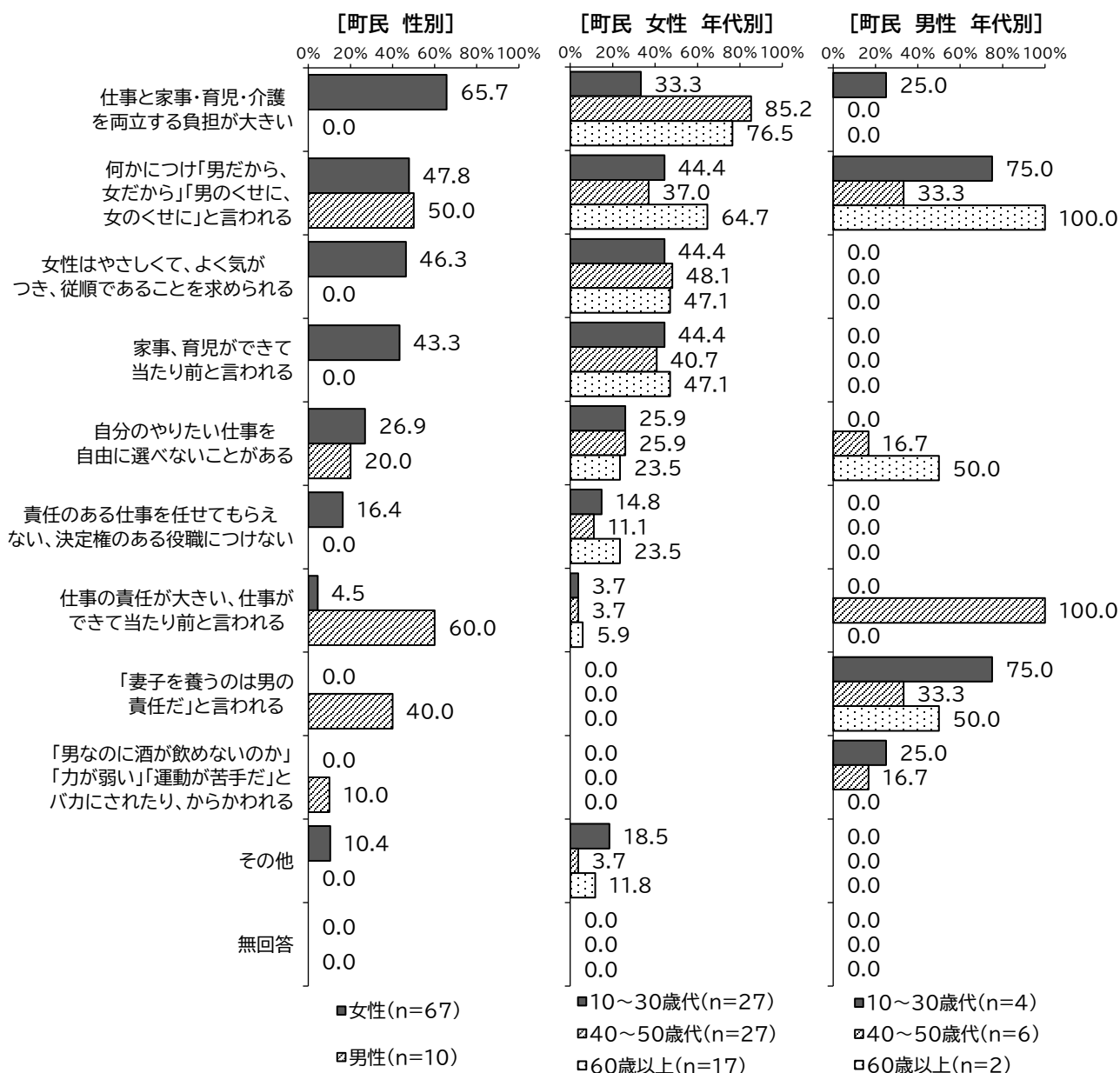
《町民・性別》

女性では、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」(65.7%)が最も高く、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」(47.8%)、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(46.3%)、「家事、育児ができて当たり前と言われる」(43.3%)と続き、それぞれ回答割合は4割を超えている。男性では、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」(60.0%)が最も高く、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」(50.0%)、「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」(40.0%)と続いている。

《町民・性・年代別》

女性では、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が40歳代以上は特に高く、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」は60歳以上で高くなっている。男性では、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」は40～50歳代の6人全員が挙げている。「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」は60歳以上の2人ともが10～30歳代の4人中3人が挙げている。男性の10～30歳代では「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」も4人中3人が挙げている。

【性別、性・年代別 性別による負担感や生きづらさを感じたとき】



性・年代6区分別でみると、性別による負担感や生きづらさを感じる割合が高い女性の30歳代では、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」を半数以上があげている。

【性・年代6区分別 性別による負担感や生きづらさを感じたとき】

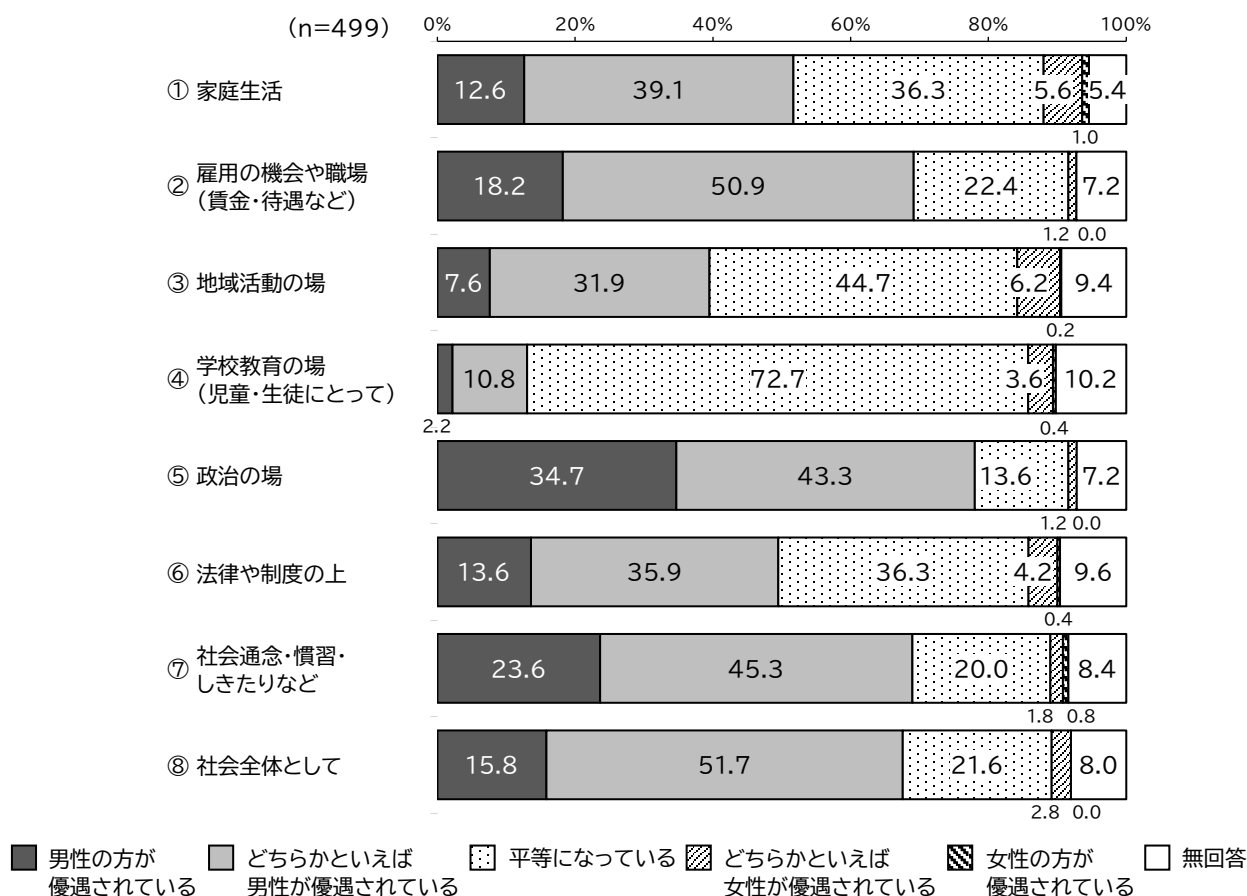
	回答者数 (n)	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	家事、育児ができて当たり前と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある仕事を任せられない	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる	その他	無回答
全体	77 100.0	44 57.1	37 48.1	31 40.3	29 37.7	20 26.0	11 14.3	9 11.7	4 5.2	1 1.3	7 9.1	- -
女性	10・20歳代	12 100.0	3 25.0	4 33.3	4 33.3	5 41.7	2 16.7	2 16.7	- -	- -	2 16.7	- -
	30歳代	15 100.0	6 40.0	8 53.3	8 53.3	7 46.7	5 33.3	2 13.3	1 6.7	- -	3 20.0	- -
	40歳代	13 100.0	13 100.0	5 38.5	5 38.5	6 46.2	2 15.4	- -	1 7.7	- -	1 7.7	- -
	50歳代	14 100.0	10 71.4	5 35.7	8 57.1	5 35.7	5 35.7	3 21.4	- -	- -	- -	- -
	60歳代	10 100.0	7 70.0	7 70.0	6 60.0	6 60.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	- -	1 10.0	- -
	70歳以上	7 100.0	6 85.7	4 57.1	2 28.6	2 28.6	1 14.3	2 28.6	- -	- -	1 14.3	- -
	10・20歳代	2 100.0	1 50.0	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- 50.0	- -	- -	- -
男性	30歳代	2 100.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- 100.0	1 50.0	- -	- -
	40歳代	3 100.0	- -	1 33.3	- -	- -	- -	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -	- -
	50歳代	3 100.0	- -	1 33.3	- -	- -	1 33.3	- 100.0	3 -	- -	- -	- -
	60歳代	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -
	70歳以上	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -

(4)男女の地位の平等感

問24. あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は①～⑧それぞれに1つ)

社会の各分野における男女の地位の平等感は、④学校教育の場（児童・生徒にとって）では「平等になっている」が72.7%と高いが、そのほかの分野では、③地域活動の場以外すべて『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が「平等になっている」の回答割合よりも高くなっている。『男性優遇』が特に高い分野としては、⑤政治の場（78.0%）、②雇用の機会や職場（賃金・待遇など）（69.1%）、⑦社会通念・慣習・しきたりなど（68.9%）の順に挙げられ、⑧社会全体としては67.5%が『男性優遇』と回答している。

【男女の地位の平等感】



【①家庭生活】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が12.6ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性では40～50歳代で『男性優遇』が高く、男性では60歳以上で『男性優遇』が高くなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代では「平等になっている」が5割を超えており、他の年代と比べて高くなっている。

【②雇用の機会や職場(賃金・待遇など)】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』の回答割合が15.5ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

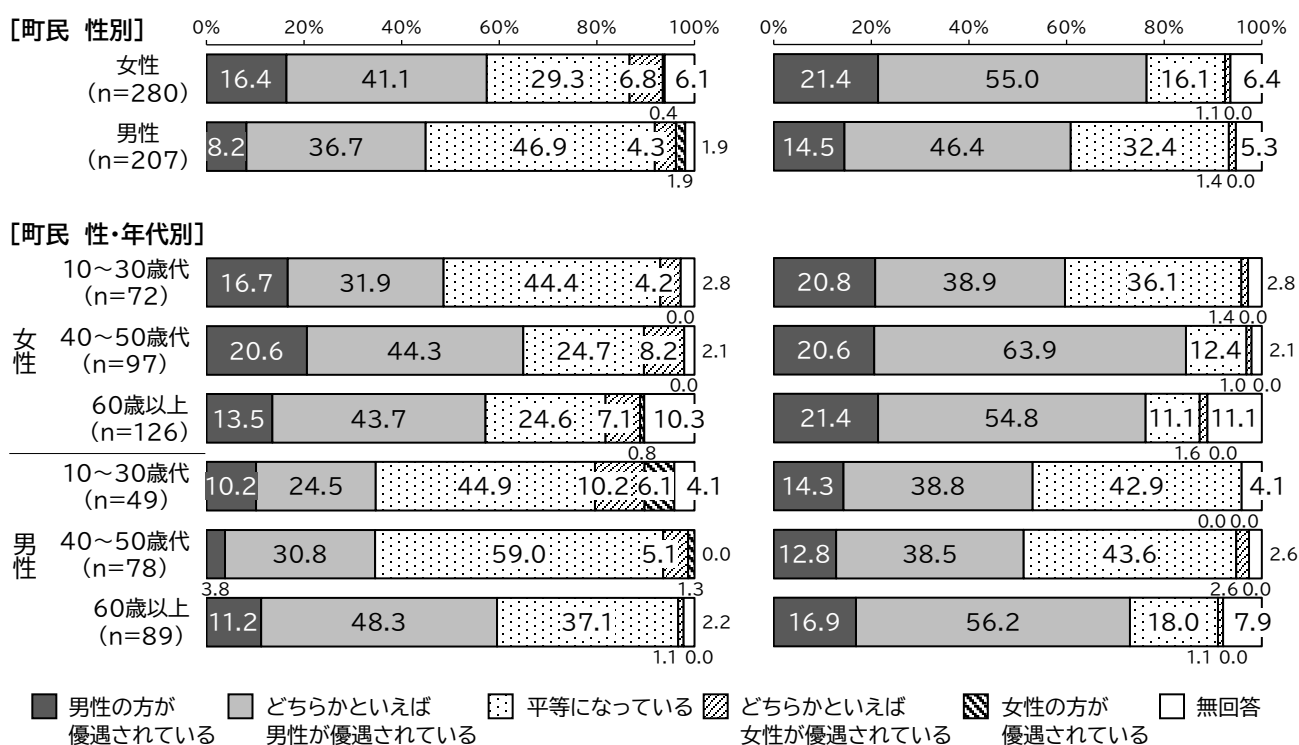
女性では40～50歳代で『男性優遇』が高く、男性では60歳以上で『男性優遇』が高くなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代では「平等になっている」が5割を超えており、他の年代との平等感の差が大きくなっている。

【性別、性・年代別 男女の地位の平等感】

①家庭生活

②雇用の機会や職場(賃金・待遇など)



【性・年代6区分別 男女の地位の平等感】

		回答者数 (n)	①家庭生活						②雇用の機会や職場（賃金・待遇など）					
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答
全体		499 100.0	63 12.6	195 39.1	181 36.3	28 5.6	5 1.0	27 5.4	91 18.2	254 50.9	112 22.4	6 1.2	-	36 7.2
女性	10・20歳代	39 100.0	4 10.3	10 25.6	22 56.4	2 5.1	-	1 2.6	5 12.8	12 30.8	20 51.3	1 2.6	-	1 2.6
	30歳代	33 100.0	8 24.2	13 39.4	10 30.3	1 3.0	-	1 3.0	10 30.3	16 48.5	6 18.2	-	-	1 3.0
	40歳代	52 100.0	11 21.2	22 42.3	13 25.0	5 9.6	-	1 1.9	10 19.2	33 63.5	7 13.5	1 1.9	-	1 1.9
	50歳代	45 100.0	9 20.0	21 46.7	11 24.4	3 6.7	-	1 2.2	10 22.2	29 64.4	5 11.1	-	-	1 2.2
	60歳代	39 100.0	4 10.3	19 48.7	8 20.5	4 10.3	-	4 10.3	10 25.6	22 56.4	3 7.7	1 2.6	-	3 7.7
	70歳以上	87 100.0	13 14.9	36 41.4	23 26.4	5 5.7	1 1.1	9 10.3	17 19.5	47 54.0	11 12.6	1 1.1	-	11 12.6
男性	10・20歳代	23 100.0	1 4.3	8 34.8	11 47.8	1 4.3	1 4.3	1 4.3	2 8.7	9 39.1	11 47.8	-	-	1 4.3
	30歳代	26 100.0	4 15.4	4 15.4	11 42.3	4 15.4	2 7.7	1 3.8	5 19.2	10 38.5	10 38.5	-	-	1 3.8
	40歳代	35 100.0	3 8.6	8 22.9	19 54.3	4 11.4	1 2.9	-	6 17.1	12 34.3	16 45.7	1 2.9	-	-
	50歳代	43 100.0	-	16 37.2	27 62.8	-	-	-	4 9.3	18 41.9	18 41.9	1 2.3	-	2 4.7
	60歳代	35 100.0	3 8.6	20 57.1	11 31.4	-	-	1 2.9	4 11.4	19 54.3	9 25.7	1 2.9	-	2 5.7
	70歳以上	54 100.0	7 13.0	23 42.6	22 40.7	1 1.9	-	1 1.9	11 20.4	31 57.4	7 13.0	-	-	5 9.3

【③地域活動の場】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が4.6ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性では40～50歳代で『男性優遇』が高く、男性は年代が上がるほど『男性優遇』が高くなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代と男性の40歳代以下では「平等になっている」が6割を超えている。

【④学校教育の場（児童・生徒にとって）】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』の回答割合が4.4ポイント高くなっている。

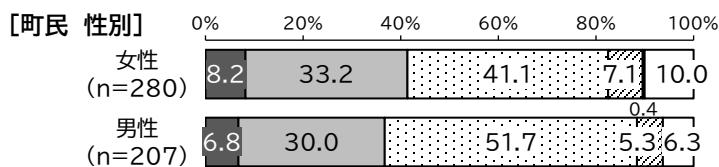
《町民・性・年代別》

女性は10～30歳代に比べて40歳代以上は『男性優遇』が高くなっており、男性は年代が上がるほど『男性優遇』が高くなっている。

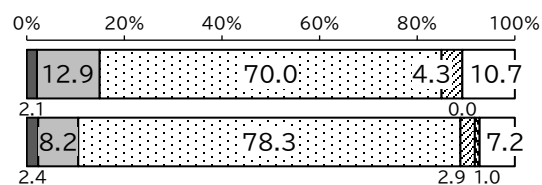
性・年代6区分別でみると、女性の30歳代、男性の40歳代は「平等になっている」が他の年代よりも高くなっている。

【性別、性・年代別 男女の地位の平等感】

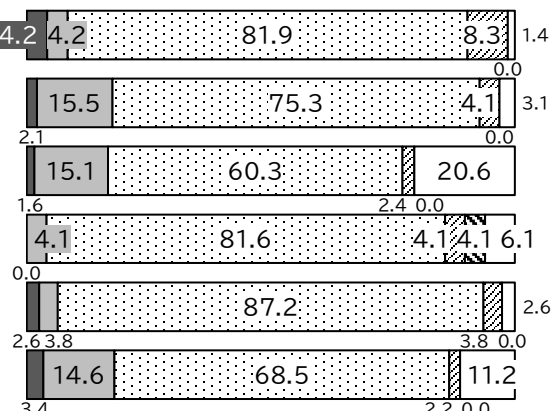
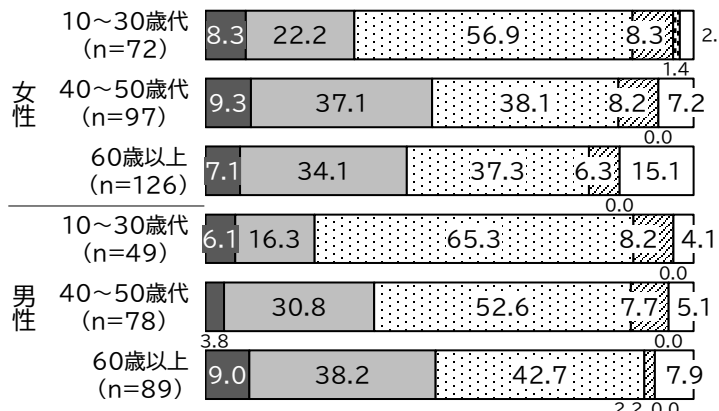
③地域活動の場



④学校教育の場(児童・生徒にとって)



[町民 性・年代別]



男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性が優遇されている
 平等になっている
 どちらかといえば女性が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 無回答

【性・年代6区分別 男女の地位の平等感】

	回答者数 (n)	③地域活動の場						④学校教育の場(児童・生徒にとって)					
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答
全体	499	38	159	223	31	1	47	11	54	363	18	2	51
	100.0	7.6	31.9	44.7	6.2	0.2	9.4	2.2	10.8	72.7	3.6	0.4	10.2
女性	10・20歳代	39	3	6	26	3	1	1	2	31	4	-	1
	100.0	7.7	15.4	66.7	7.7	-	2.6	2.6	5.1	79.5	10.3	-	2.6
	30歳代	33	3	10	15	3	1	2	1	28	2	-	-
	100.0	9.1	30.3	45.5	9.1	3.0	3.0	6.1	3.0	84.8	6.1	-	-
	40歳代	52	6	18	20	5	3	1	8	39	3	-	1
	100.0	11.5	34.6	38.5	9.6	-	5.8	1.9	15.4	75.0	5.8	-	1.9
	50歳代	45	3	18	17	3	4	1	7	34	1	-	2
男性	100.0	6.7	40.0	37.8	6.7	-	8.9	2.2	15.6	75.6	2.2	-	4.4
	60歳代	39	4	14	15	2	4	2	4	26	1	-	6
	100.0	10.3	35.9	38.5	5.1	-	10.3	5.1	10.3	66.7	2.6	-	15.4
	70歳以上	87	5	29	32	6	15	-	15	50	2	-	20
	100.0	5.7	33.3	36.8	6.9	-	17.2	-	17.2	57.5	2.3	-	23.0
	10・20歳代	23	1	4	16	1	1	-	-	19	-	2	2
	100.0	4.3	17.4	69.6	4.3	-	4.3	-	-	82.6	-	8.7	8.7
女性	30歳代	26	2	4	16	3	1	-	2	21	2	-	1
	100.0	7.7	15.4	61.5	11.5	-	3.8	-	7.7	80.8	7.7	-	3.8
	40歳代	35	1	9	22	2	1	1	1	33	-	-	-
	100.0	2.9	25.7	62.9	5.7	-	2.9	2.9	2.9	94.3	-	-	-
	50歳代	43	2	15	19	4	3	1	2	35	3	-	2
	100.0	4.7	34.9	44.2	9.3	-	7.0	2.3	4.7	81.4	7.0	-	4.7
	60歳代	35	4	11	17	1	2	1	6	23	1	-	4
男性	100.0	11.4	31.4	48.6	2.9	-	5.7	2.9	17.1	65.7	2.9	-	11.4
	70歳以上	54	4	23	21	1	5	2	7	38	1	-	6
	100.0	7.4	42.6	38.9	1.9	-	9.3	3.7	13.0	70.4	1.9	-	11.1

【⑤政治の場】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が7.7ポイント高く、なかでも「男性の方が優遇されている」の回答割合は女性の方が17.0ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性では40～50歳代で『男性優遇』が他の年代に比べて高いが、「男性の方が優遇されている」の回答割合は10～30歳代では58.3%にのぼっている。男性は年代が若いほど『男性優遇』が高く、10～30歳代は「男性の方が優遇されている」の回答割合が他の年代に比べて約15ポイント高くなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の30歳代は「男性の方が優遇されている」が約7割で他の年代よりも高くなっている。男性では10～20歳代で「男性の方が優遇されている」が他の年代よりも高くなっている。

【⑥法律や制度の上】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』の回答割合が15.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

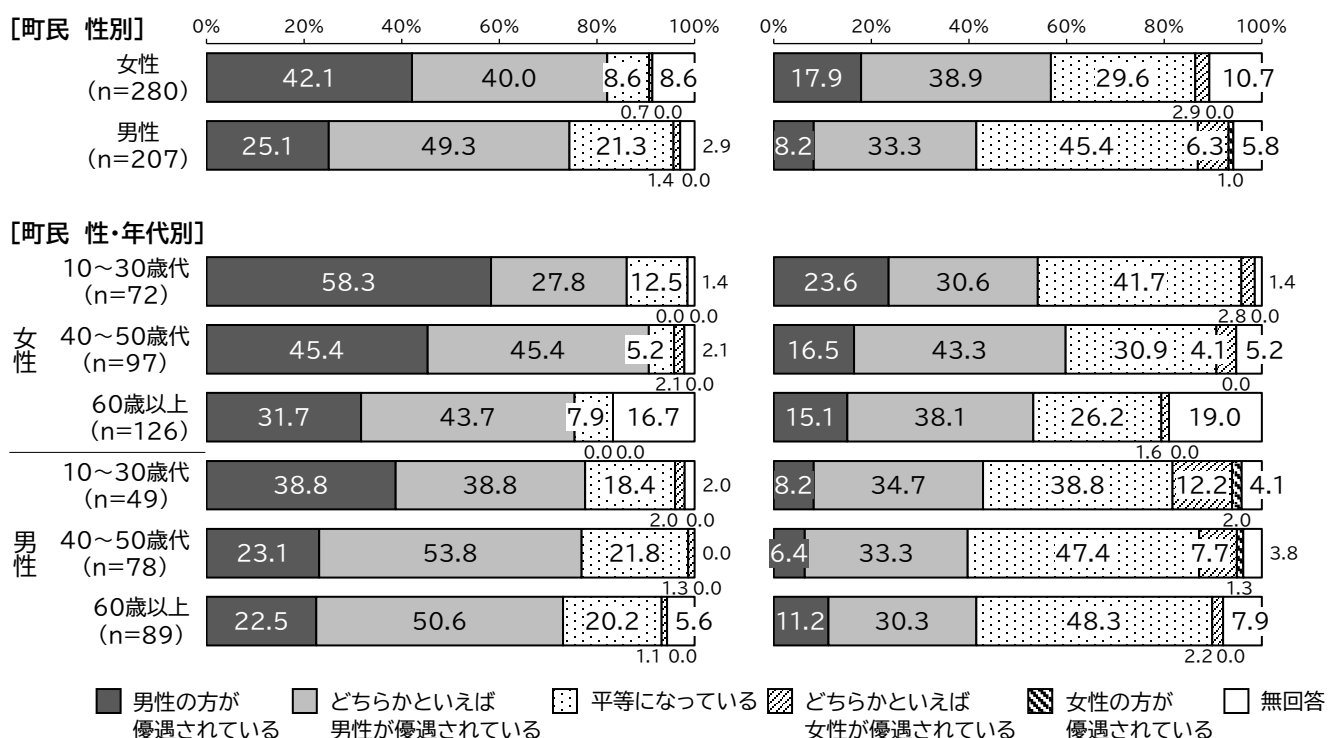
女性では40～50歳代で『男性優遇』が他の年代に比べて高いが、「男性の方が優遇されている」の回答割合は10～30歳代が他の年代に比べて高くなっている。男性は年代による違いは小さくなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代では「平等になっている」が5割を超えており、他の年代との平等感の差が大きくなっている。

【性別、性・年代別 男女の地位の平等感】

⑤政治の場

⑥法律や制度の上



【性・年代6区分別 男女の地位の平等感】

		回答者数 (n)	⑤政治の場					⑥法律や制度の上						
			男性の方が 優遇されてい	どちらかとい えれば男性が	平等になっ てている	どちらかとい えれば女性が	女性の方が 優遇されてい	無回 答	男性の方が 優遇されてい	優 遇されかとい えれば男性が	平 等になっ てている	優 遇されかとい えれば女性が	女性の方が 優遇されてい	無回 答
全体		499 100.0	173 34.7	216 43.3	68 13.6	6 1.2	- -	36 7.2	68 13.6	179 35.9	181 36.3	21 4.2	2 0.4	48 9.6
女性	10・20歳代	39 100.0	19 48.7	13 33.3	6 15.4	- -	- -	1 2.6	6 15.4	9 23.1	21 53.8	2 5.1	- -	1 2.6
	30歳代	33 100.0	23 69.7	7 21.2	3 9.1	- -	- -	- -	11 33.3	13 39.4	9 27.3	- -	- -	- -
	40歳代	52 100.0	25 48.1	22 42.3	2 3.8	2 3.8	- -	1 1.9	11 21.2	16 30.8	19 36.5	4 7.7	- -	2 3.8
	50歳代	45 100.0	19 42.2	22 48.9	3 6.7	- -	- -	1 2.2	5 11.1	26 57.8	11 24.4	- -	- -	3 6.7
	60歳代	39 100.0	16 41.0	18 46.2	2 5.1	- -	- -	3 7.7	9 23.1	12 30.8	12 30.8	2 5.1	- -	4 10.3
	70歳以上	87 100.0	24 27.6	37 42.5	8 9.2	- -	- -	18 20.7	10 11.5	36 41.4	21 24.1	- -	- -	20 23.0
	10・20歳代	23 100.0	13 56.5	7 30.4	3 13.0	- -	- -	- -	1 4.3	9 39.1	10 43.5	2 8.7	- -	1 4.3
男性	30歳代	26 100.0	6 23.1	12 46.2	6 23.1	1 3.8	- -	1 3.8	3 11.5	8 30.8	9 34.6	4 15.4	1 3.8	1 3.8
	40歳代	35 100.0	11 31.4	16 45.7	7 20.0	1 2.9	- -	- -	5 14.3	12 34.3	14 40.0	4 11.4	- -	- -
	50歳代	43 100.0	7 16.3	26 60.5	10 23.3	- -	- -	- -	- -	14 32.6	23 53.5	2 4.7	1 2.3	3 7.0
	60歳代	35 100.0	10 28.6	16 45.7	6 17.1	1 2.9	- -	2 5.7	5 14.3	11 31.4	16 45.7	1 2.9	- -	2 5.7
	70歳以上	54 100.0	10 18.5	29 53.7	12 22.2	- -	- -	3 5.6	5 9.3	16 29.6	27 50.0	1 1.9	- -	5 9.3

【⑦社会通念・慣習・しきたりなど】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が13.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代で『男性優遇』が他の年代に比べて高くなっている。女性の50歳代以下では「男性の方が優遇されている」の回答割合が特に高くなっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代では「平等になっている」が約3割で他の年代よりも高くなっている。

【⑧社会全体として】

《町民・性別》

男性に比べて女性の方が『男性優遇』の回答割合が11.0ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

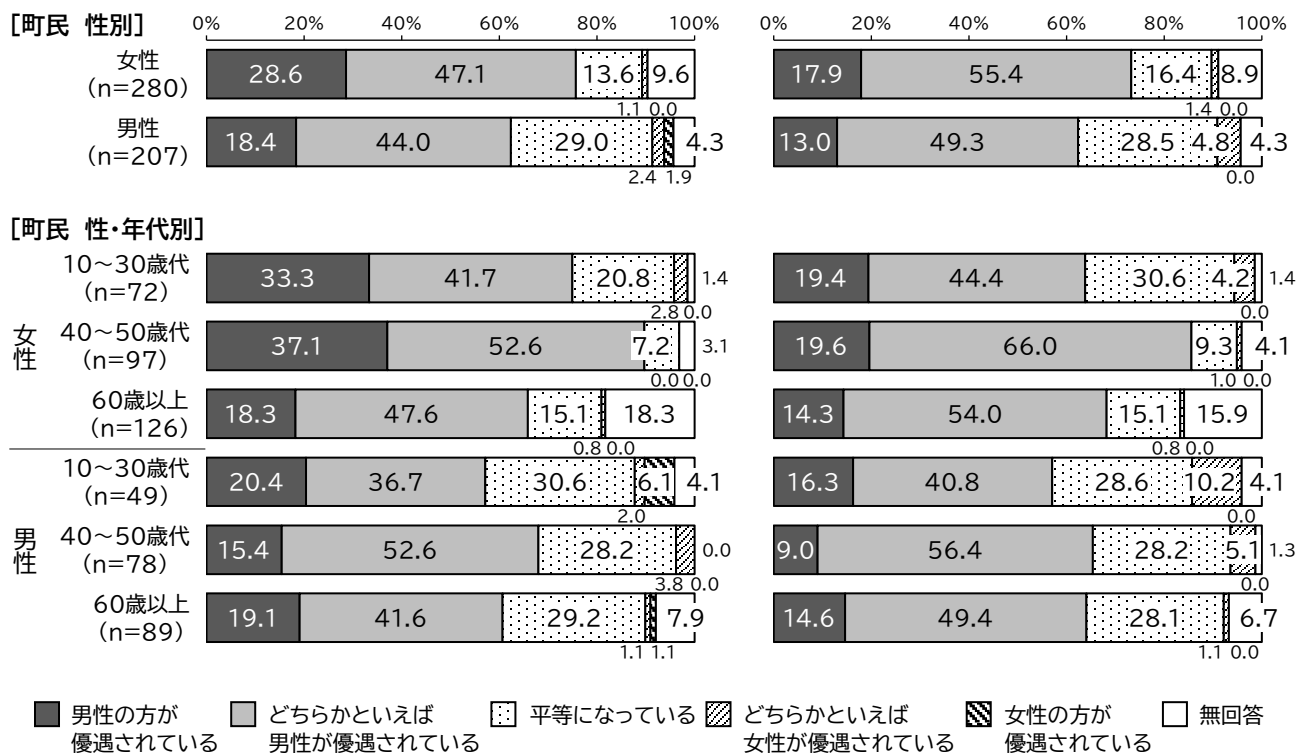
男女とも40～50歳代で『男性優遇』が他の年代に比べて高いが、女性の40～50歳代は特に高く85.6%にのぼっている。

性・年代6区分別でみると、女性の10～20歳代では「平等になっている」が4割を超えており、他の年代との平等感の差が大きくなっている。

【性別・性・年代別 男女の地位の平等感】

⑦社会通念・慣習・しきたりなど

⑧社会全体として



【性・年代6区分別 男女の地位の平等感】

		⑦社会通念・慣習・しきたりなど						⑧社会全体として					
	回答者数 (n)	男性の方が優遇されている	優遇どちらかといえば男性が	平等になっている	優遇どちらかといえば女性が	女性の方が優遇されている	無回答	男性の方が優遇されている	優遇どちらかといえば男性が	平等になっている	優遇どちらかといえば女性が	女性の方が優遇されている	無回答
全体	499	118	226	100	9	4	42	79	258	108	14	-	40
	100.0	23.6	45.3	20.0	1.8	0.8	8.4	15.8	51.7	21.6	2.8	-	8.0
女性	10・20歳代	39	10	15	12	1	1	5	14	16	3	-	1
	100.0	25.6	38.5	30.8	2.6	-	2.6	12.8	35.9	41.0	7.7	-	2.6
	30歳代	33	14	15	3	1	-	9	18	6	-	-	-
	100.0	42.4	45.5	9.1	3.0	-	-	27.3	54.5	18.2	-	-	-
	40歳代	52	20	26	5	-	1	11	34	5	1	-	1
	100.0	38.5	50.0	9.6	-	-	1.9	21.2	65.4	9.6	1.9	-	1.9
	50歳代	45	16	25	2	-	2	8	30	4	-	-	3
男性	100.0	35.6	55.6	4.4	-	-	4.4	17.8	66.7	8.9	-	-	6.7
	60歳代	39	11	20	5	-	3	7	22	7	-	-	3
	100.0	28.2	51.3	12.8	-	-	7.7	17.9	56.4	17.9	-	-	7.7
	70歳以上	87	12	40	14	1	20	11	46	12	1	-	17
	100.0	13.8	46.0	16.1	1.1	-	23.0	12.6	52.9	13.8	1.1	-	19.5
	10・20歳代	23	5	9	6	2	1	3	10	8	1	-	1
	100.0	21.7	39.1	26.1	-	8.7	4.3	13.0	43.5	34.8	4.3	-	4.3
女性	30歳代	26	5	9	9	1	1	5	10	6	4	-	1
	100.0	19.2	34.6	34.6	3.8	3.8	3.8	19.2	38.5	23.1	15.4	-	3.8
	40歳代	35	5	17	12	1	-	4	17	12	2	-	-
	100.0	14.3	48.6	34.3	2.9	-	-	11.4	48.6	34.3	5.7	-	-
	50歳代	43	7	24	10	2	-	3	27	10	2	-	1
	100.0	16.3	55.8	23.3	4.7	-	-	7.0	62.8	23.3	4.7	-	2.3
	60歳代	35	7	17	7	1	2	6	18	7	1	-	3
男性	100.0	20.0	48.6	20.0	2.9	2.9	5.7	17.1	51.4	20.0	2.9	-	8.6
	70歳以上	54	10	20	19	-	5	7	26	18	-	-	3
	100.0	18.5	37.0	35.2	-	-	9.3	13.0	48.1	33.3	-	-	5.6

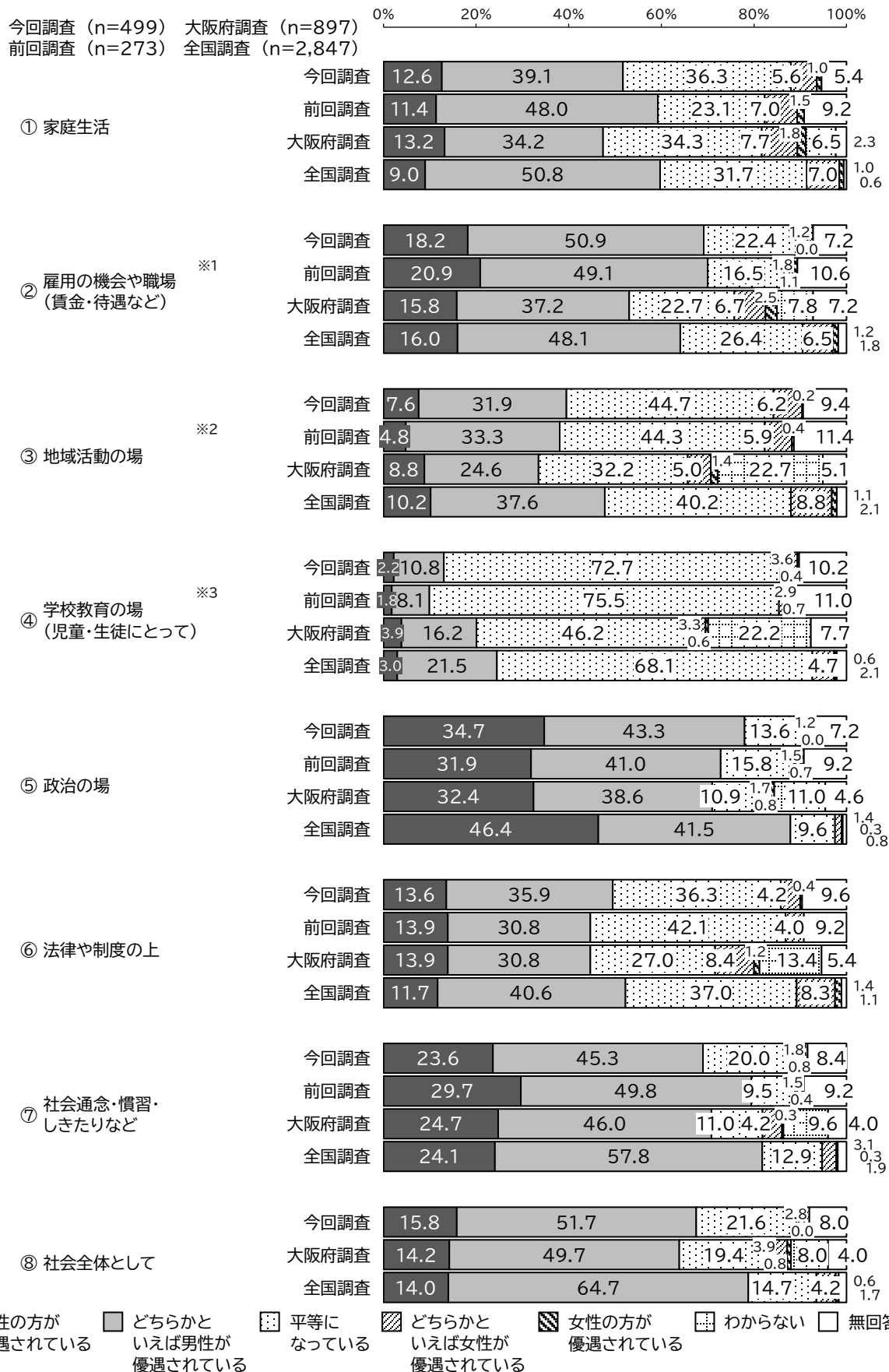
《前回調査・大阪府調査・全国調査比較(町民)》

前回調査と比べて今回調査の方が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答割合が低くなっている分野としては、①家庭生活、②雇用の機会や職場（賃金・待遇など）、⑦社会通念・慣習・しきたりなどが挙げられる。それ以外の分野では今回調査の方が『男性優遇』の回答割合が高くなっている。

大阪府調査と比べると、④学校教育の場（児童・生徒にとって）と⑦社会通念・慣習・しきたりなど以外の分野では今回調査の方が『男性優遇』の回答割合が高くなっている。

全国調査と比べると、②雇用の機会や職場（賃金・待遇など）以外の分野では今回調査の方が『男性優遇』の回答割合が低くなっている。

【男女の地位の平等感(前回調査、大阪府調査、全国調査との比較)】



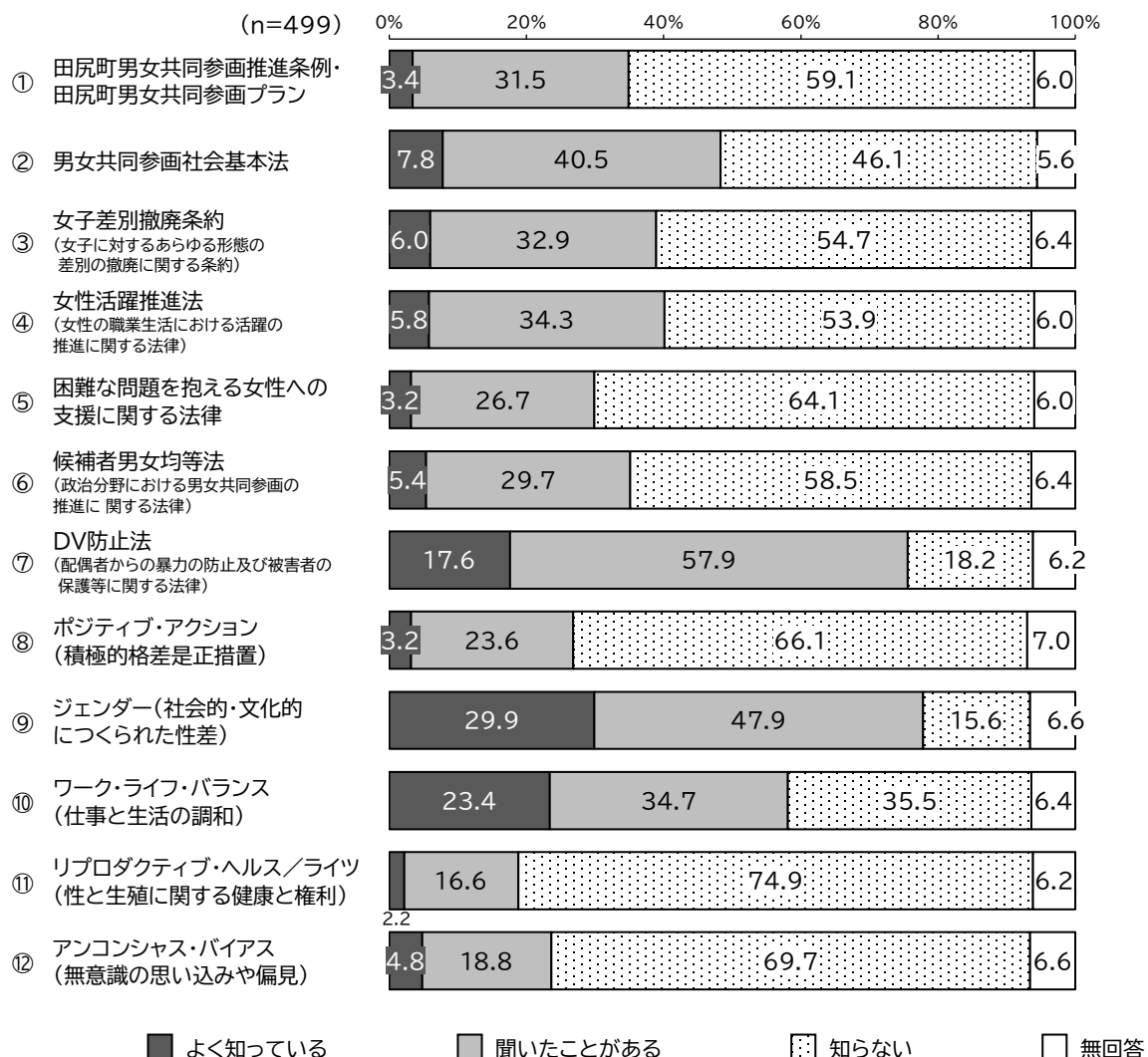
※1 前回調査では「就職活動や職場」、大阪府調査、全国調査では「職場」 ※2 全国調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」
 ※3 前回調査、大阪府調査、全国調査では「学校教育の場」 ※4 「わからない」は大阪府のみの選択肢

(5)男女共同参画に関する用語の認知度

問25. あなたは、次の言葉を知っていますか。(○は①～⑫それぞれに1つ)

用語の認知度（「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計）が最も高いのは、⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）の77.8%で、次いで⑦DV防止法が75.5%、⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が58.1%となっている。そのほかの項目では認知度は5割未満で特に低いのは、⑪リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の18.8%である。

【男女共同参画に関する用語の認知度】



【①田尻町男女共同参画推進条例・田尻町男女共同参画プラン】

《町民・性別》

性別で認知度（「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計）の違いはほとんどみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が上がるほど認知度が高くなっている。

【②男女共同参画社会基本法】

《町民・性別》

性別で認知度の違いはほとんどみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも40歳代以上と比べて10～30歳代の認知度が高く、「よく知っている」の回答割合も高い。

【③女子差別撤廃条約】

《町民・性別》

女性の方が男性よりも5.1ポイント認知度が高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が若いほど認知度が高く、10～30歳代と60歳以上では15～20ポイントの差がみられる。

【④女性活躍推進法】

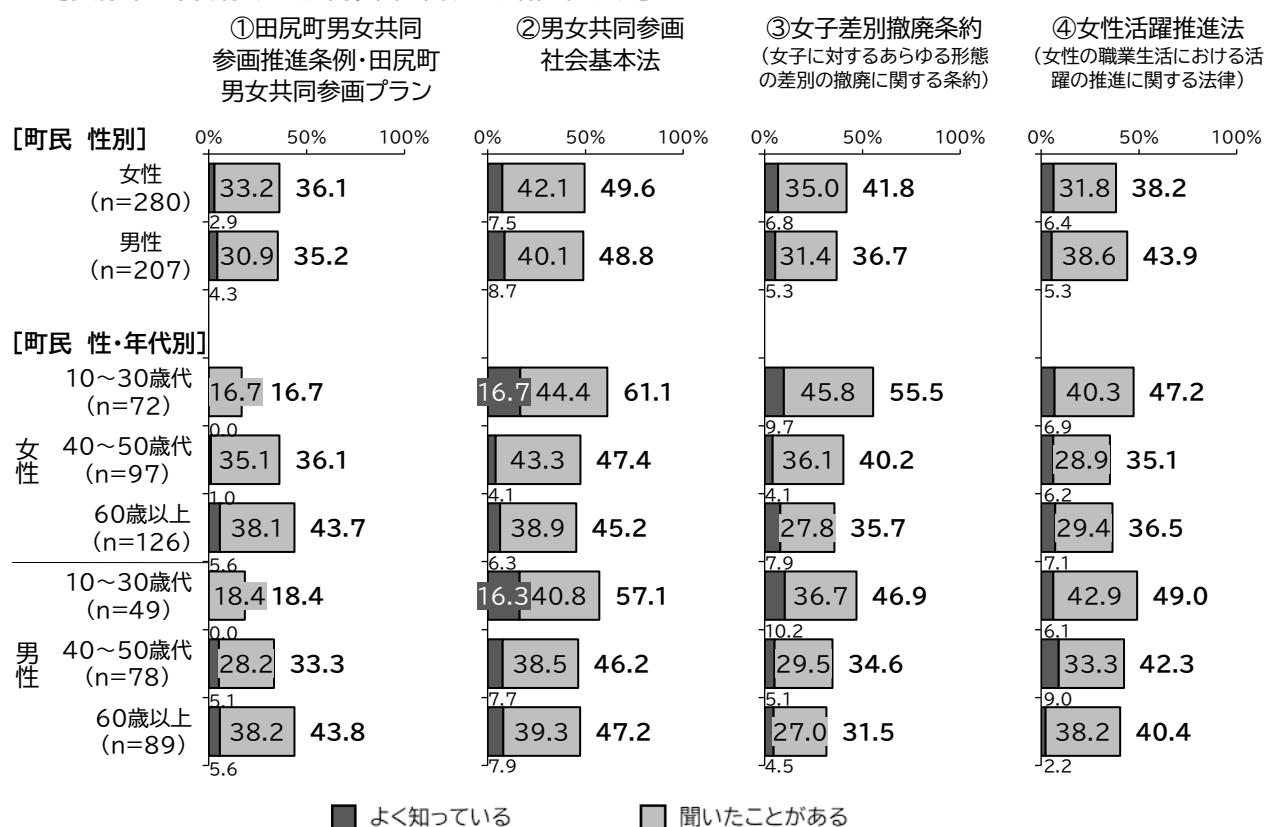
《町民・性別》

男性の方が女性よりも5.7ポイント認知度が高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40歳代以上と比べて10～30歳代の認知度が高くなっている。

【性別、性・年代別 男女共同参画に関する用語の認知度】



【⑤困難な問題を抱える女性への支援に関する法律】

《町民・性別》

女性の方が認知度（「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計）は4.5ポイント高い。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が上がるほど認知度が高くなっているが大きな違いはみられない。

【⑥候補者男女均等法】

《町民・性別》

男性の方が認知度は6.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも年代が上がるほど認知度が高く、10～30歳代と60歳以上を比べると女性は16.8ポイント、男性では39.6ポイントの違いがみられる。

【⑦DV防止法】

《町民・性別》

性別で認知度の違いはほとんどみられない。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代の認知度が高く、8割を超えている。

【⑧ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)】

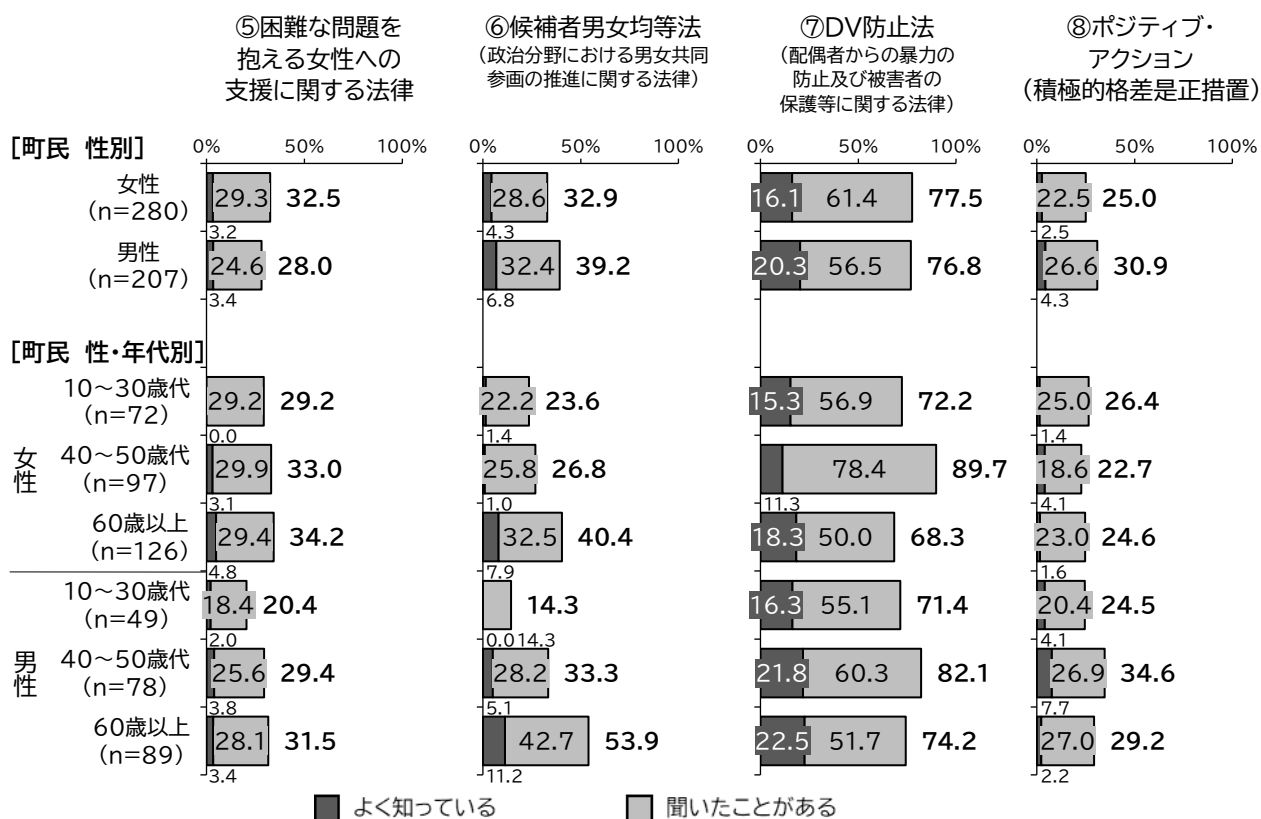
《町民・性別》

男性の方が認知度は5.9ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男性の40～50歳代の認知度がやや高くなっている。

【性別、性・年代別 男女共同参画に関する用語の認知度】



【⑨ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)】

《町民・性別》

男性の方が認知度(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は3.6ポイント高い。

《町民・性・年代別》

女性の50歳代以下は認知度が約9割でほとんど変わらないが、男性は40～50歳代が突出している。

【⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)】

《町民・性別》

男性の方が認知度は7.7ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若いほど認知度が高く10～30歳代と60歳以上は41.3ポイント差がある。男性は40～50歳代の認知度が高く60歳以上に比べて22.7ポイントの差がみられる。

【⑪リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)】

《町民・性別》

男性の方が認知度は4.2ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若いほど認知度が高いが、男性は40～50歳代の認知度が高くなっている。

【⑫アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込みや偏見)】

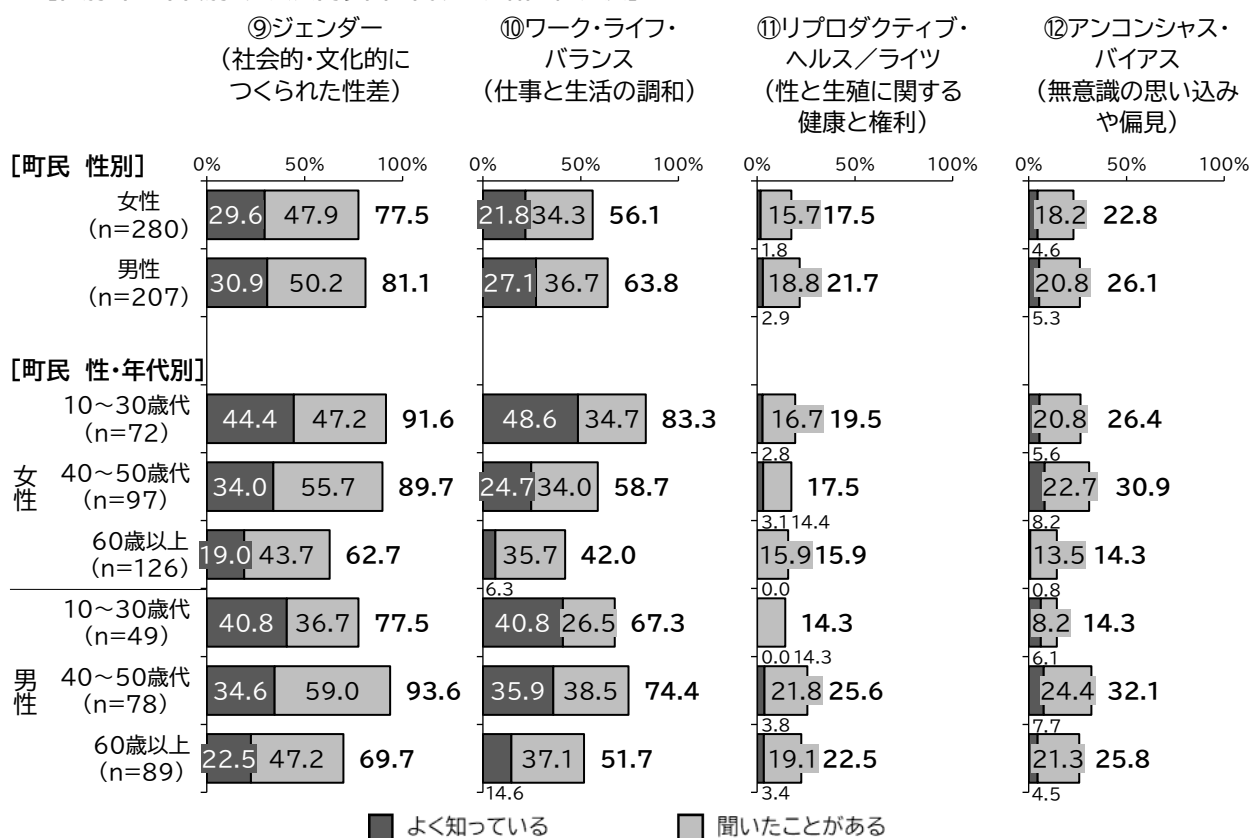
《町民・性別》

男性の方が認知度は3.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代の認知度が高くなっている。

【性別、性・年代別 男女共同参画に関する用語の認知度】

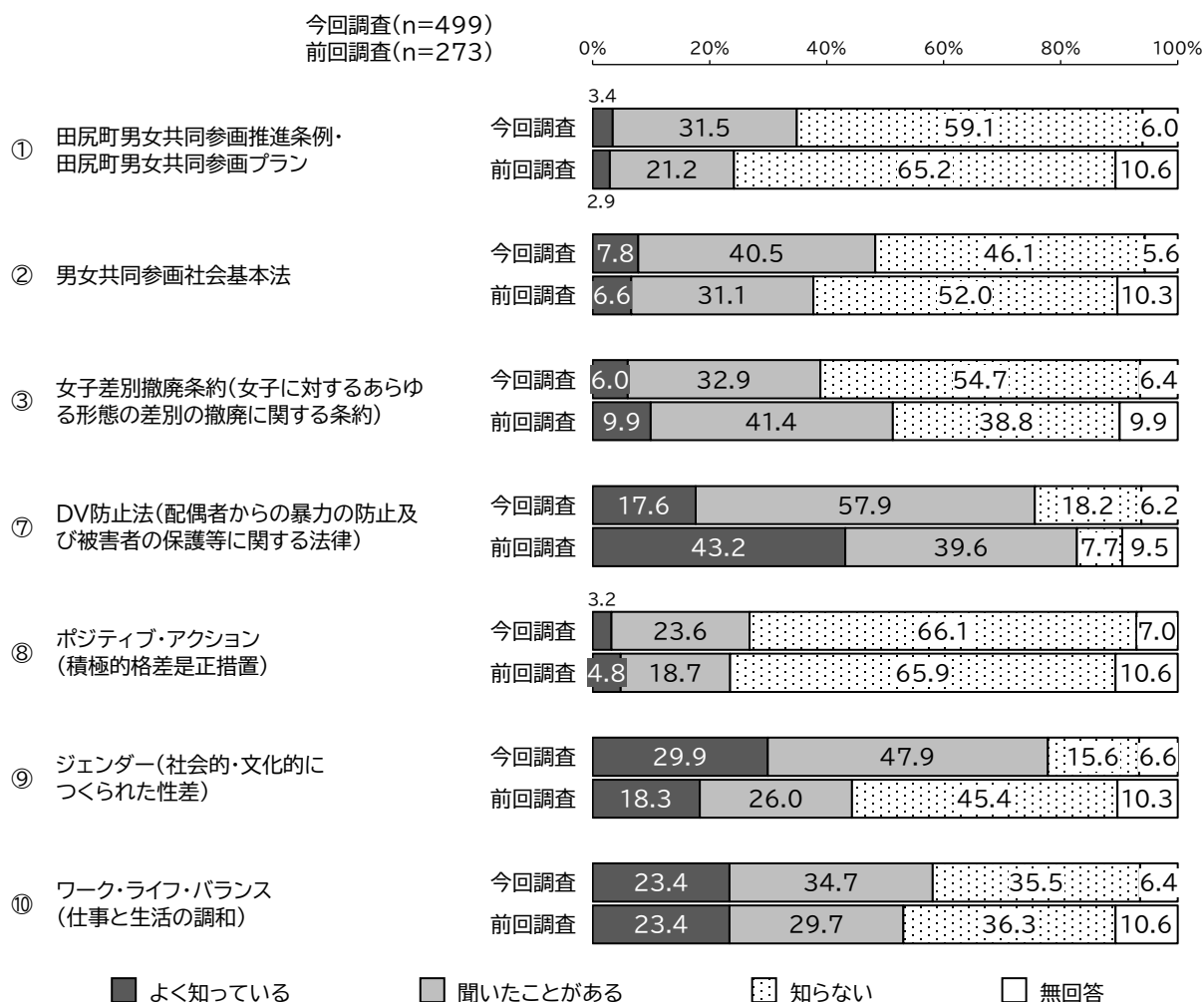


《前回調査比較(町民)》

前回調査と比較可能な項目についてみると、認知度(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)が高くなっている項目が多いなかで低くなっている項目もみられる。

認知度が高くなっている項目では、⑨ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)は前回調査に比べて33.5ポイントと大幅に高くなっている。①田尻町男女共同参画推進条例・田尻町男女共同参画プランと②男女共同参画社会基本法は約10ポイント高くなっている。認知度が低くなっている項目は、③女子差別撤廃条約で12.4ポイント、⑦DV防止法で7.3ポイント低くなっているが、そのうち⑦DV防止法では「よく知っている」の回答割合が、前回調査の43.2%から今回調査では17.6%になっており、25.6ポイント低くなっている。

【男女共同参画に関する用語の認知度(前回調査との比較)】



(6)男女共同参画に関する講座や講演会・研修への参加状況

問26. あなたは、最近5年の間に、男女共同参画に関する講座や講演会・研修に参加したことがありますか。(〇は1つ)

「参加したことはない」が88.6%で9割近くを占めており、参加したことがある人では「2回～4回参加した」(4.6%)がやや高くなっている。

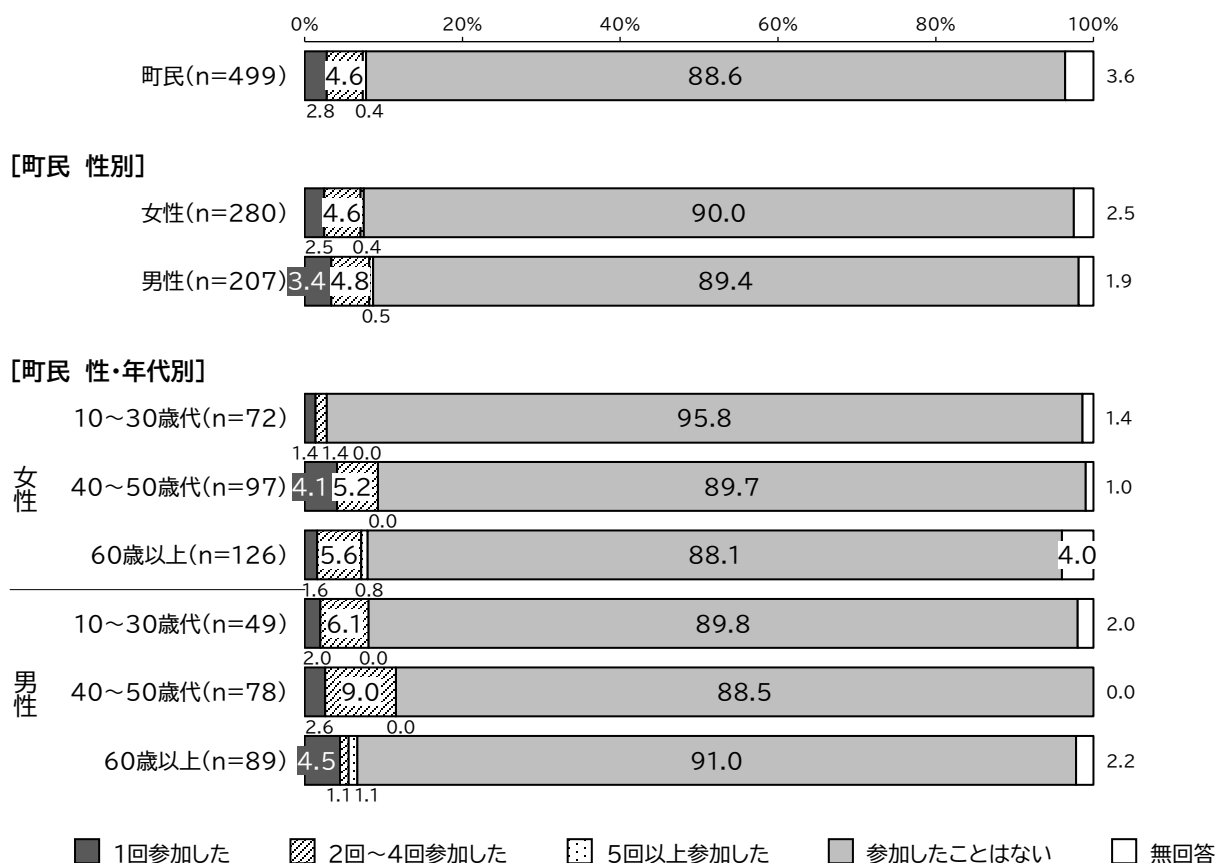
《町民・性別》

性別による違いはほとんどなく、男性の方がわずかに参加した割合が高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代では参加したことがある人の割合は合わせても2.8%とわずかである。男女とも40～50歳代で参加したことがある人の割合が他の年代に比べてやや高くなっている。

【男女共同参画に関する講座や講演会・研修への参加状況】



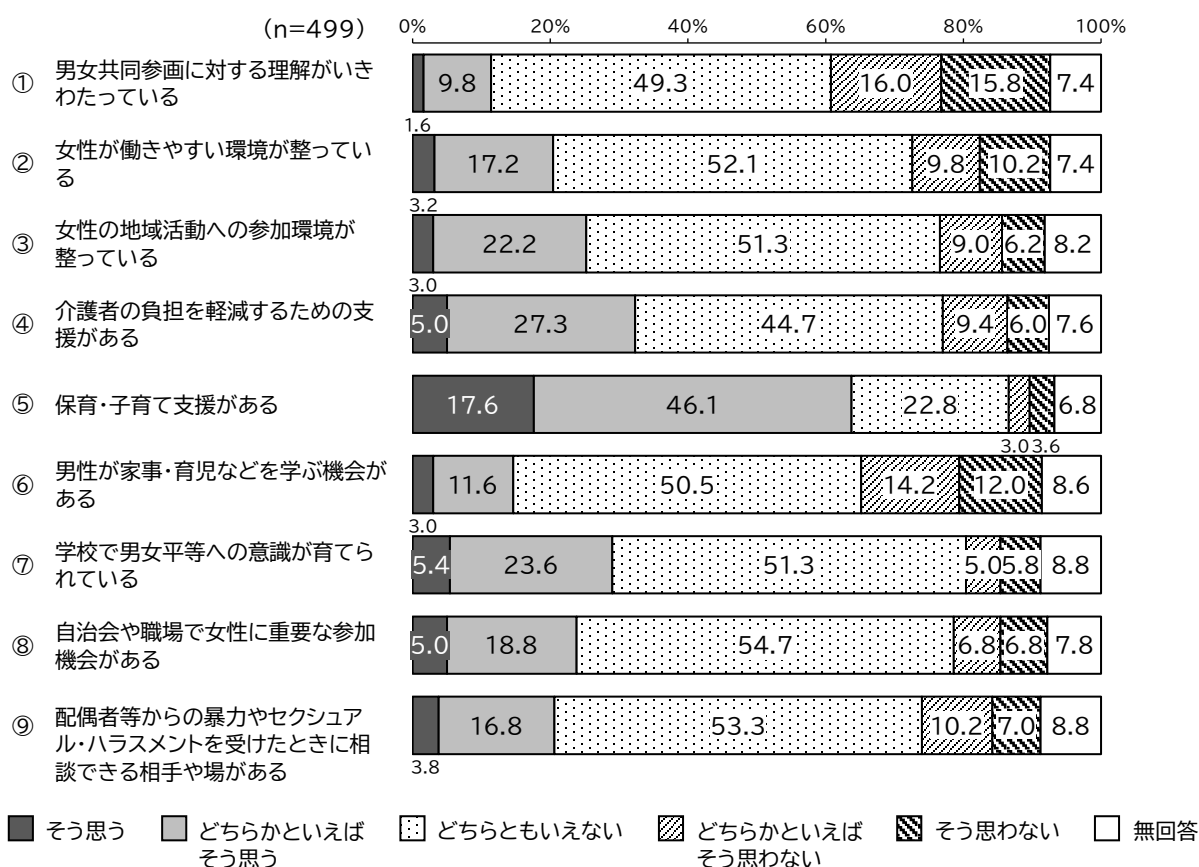
(7)田尻町環境・取り組みについて

問27. 次にあげることは、田尻町ではどうだと思いますか。身の回りの実感からお答えください。

(○は①～⑨それぞれに1つ)

田尻町の環境・取り組みについて肯定的意見(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合が最も高いのは、⑤保育・子育て支援があるが63.7%となっている。そのほかに肯定的意見が否定的意見(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)を10ポイント以上上回っている項目は、③女性の地域活動への参加環境が整っている、④介護者の負担を軽減するための支援がある、⑦学校で男女平等への意識が育てられている、⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会があるが挙げられる。逆に否定的意見が肯定的意見を上回っている項目は、①男女共同参画に対する理解がいきわたっていると⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会があるとなっている。

【田尻町の環境・取り組みについて】



【田尻町の環境・取り組みについての肯定的意見と否定的意見の割合】

	(%)	肯定的意見	否定的意見
①男女共同参画に対する理解がいきわたっている		11.4	31.8
②女性が働きやすい環境が整っている		20.4	20.0
③女性の地域活動への参加環境が整っている		25.2	15.2
④介護者の負担を軽減するための支援がある		32.3	15.4
⑤保育・子育て支援がある		63.7	6.6
⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある		14.6	26.2
⑦学校で男女平等への意識が育てられている		29.0	10.8
⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある		23.8	13.6
⑨配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談できる相手や場がある		20.6	17.2

※ : 肯定的意見が否定的意見を上回っている。 : 否定的意見が肯定的意見を上回っている。

【①男女共同参画に対する理解がいきわたっている】

《町民・性別》

性別でみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は男性の方がやや高く、否定的意見（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は女性の方がやや高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代は肯定的意見の割合が他の年代に比べて低くなっている。

【②女性が働きやすい環境が整っている】

《町民・性別》

肯定的意見の割合は男女でほとんど変わらない。

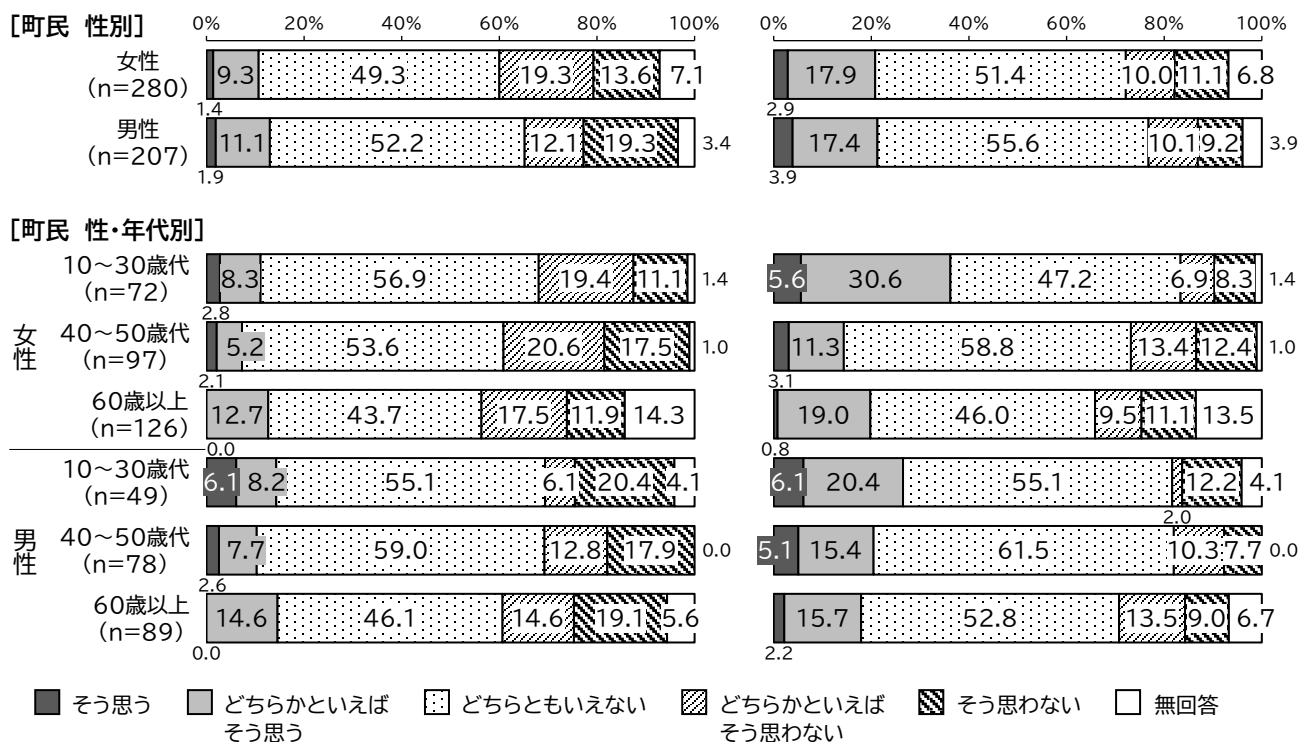
《町民・性・年代別》

男女とも10～30歳代は肯定的意見の割合が高く、特に女性では36.2%となっている。

【性別、性・年代別 田尻町環境・取り組みについて】

①男女共同参画に対する理解が いきわたっている

②女性が働きやすい環境が整っている



【③女性の地域活動への参加環境が整っている】

《町民・性別》

性別でみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は女性の方が4.3ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性の10～30歳代は肯定的意見の割合が他の年代に比べて高くなっているが、男性の10～30歳代は他の年代に比べて低くなっている。男性の60歳以上では肯定的意見よりも否定的意見（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の方がやや高くなっている。

【④介護者の負担を軽減するための支援がある】

《町民・性別》

性別でみると、肯定的意見は女性の方が4.6ポイント高くなっている。

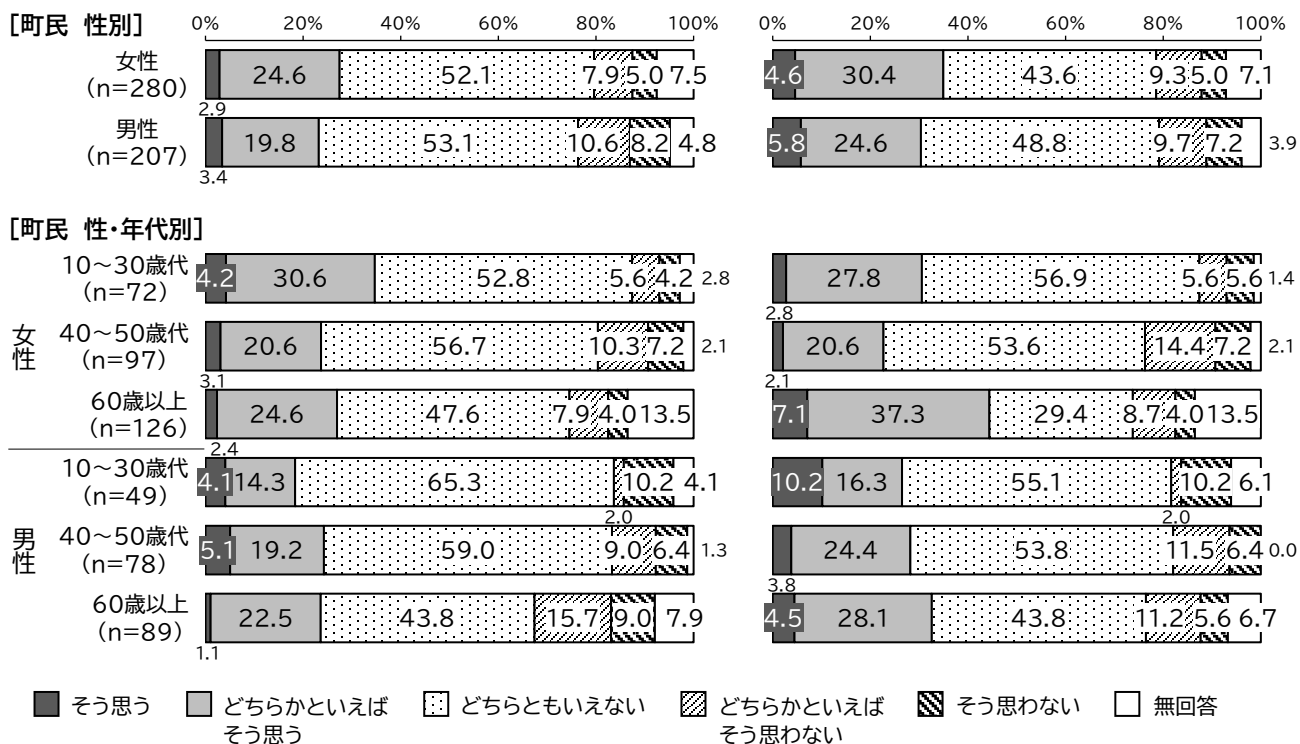
《町民・性・年代別》

男女とも60歳以上は肯定的意見の割合が他の年代に比べて高くなっている。特に女性の60歳以上は44.4%と高い。

【田尻町の環境・取り組みについて】

③女性の地域活動への参加環境が整っている

④介護者の負担を軽減するための支援がある



【⑤保育・子育て支援がある】

《町民・性別》

性別でみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は女性の方が6.0ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも10～30歳代は、肯定的意見の割合が高く、なかでも「そう思う」の割合が高くなっている。

【⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある】

《町民・性別》

肯定的意見の割合は男性の方がやや高く、否定的意見（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の割合は男女ほぼ同じである。

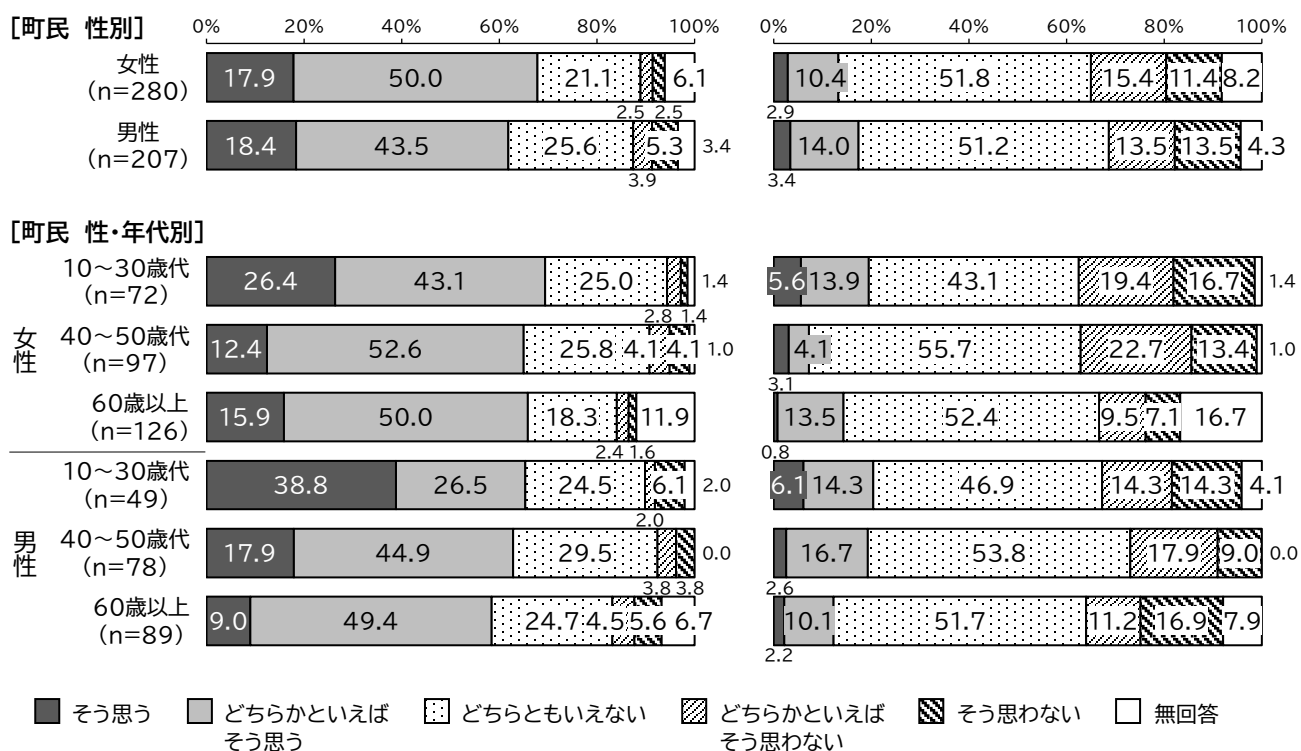
《町民・性・年代別》

男女とも10～30歳代は肯定的意見の割合が高い一方で、否定的意見の割合も高くなっている。

【田尻町の環境・取り組みについて】

⑤保育・子育て支援がある

⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある



【⑦学校で男女平等への意識が育てられている】

《町民・性別》

性別でみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は男性の方が3.2ポイント高くなっている。

《町民・性・年代別》

男女とも40～50歳代で肯定的意見の割合が他の年代に比べて高くなっている。

【⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある】

《町民・性別》

男性の方が女性より肯定的意見の割合が4.9ポイント高くなっている。

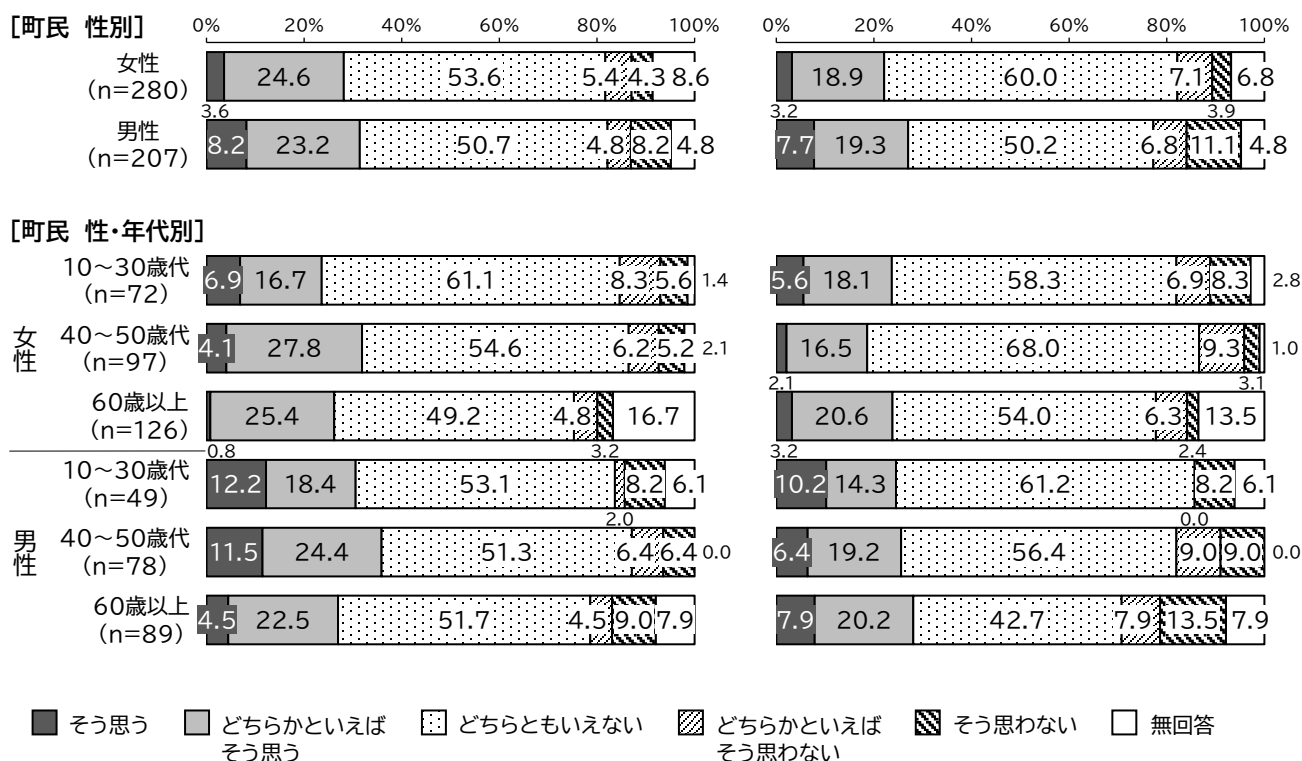
《町民・性・年代別》

女性の40～50歳代は肯定的意見の割合が他の年代に比べてやや低くなっている。否定的意見をみると男性は年代が上がるほど否定的意見の割合が高くなっているのに対して、女性は年代が若いほど高くなっている。

【田尻町の環境・取り組みについて】

⑦学校で男女平等への意識が育てられている

⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある



【⑨配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談できる相手や場がある】

《町民・性別》

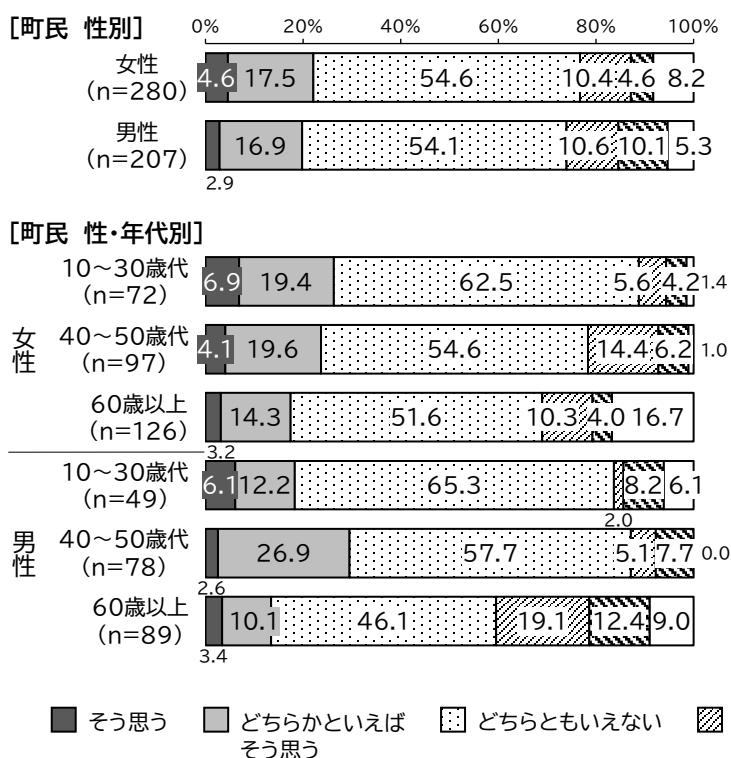
性別でみると、肯定的意見（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は女性の方がやや高くなっている。

《町民・性・年代別》

女性は年代が若いほど肯定的意見の割合が高くなっている。男性では40～50歳代で肯定的意見の割合が高い一方で、男性の60歳以上は、肯定的意見（13.5%）よりも否定的意見（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）（31.5%）の方が15ポイント以上高くなっている。

【田尻町の環境・取り組みについて】

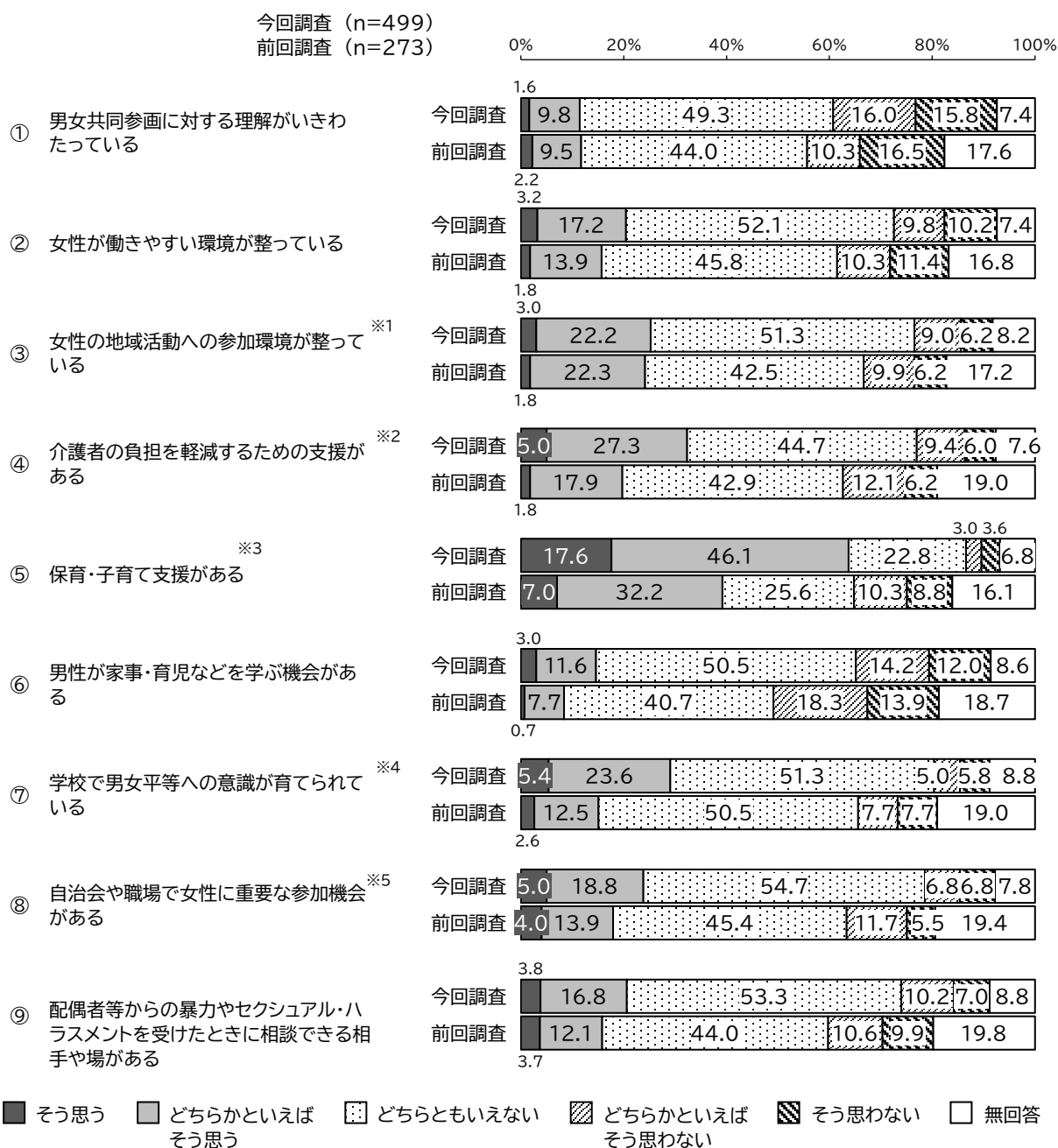
⑨配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談できる相手や場がある



《前回調査比較(町民)》

前回調査と比べると、肯定的意見(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)がほとんどの項目で高くなっている。なかでも⑤保育・子育て支援があるでは24.5ポイント高くなっている。④介護者の負担を軽減するための支援があると⑦学校で男女平等への意識が育てられているでも10ポイント以上高くなっている。一方で、①男女共同参画に対する理解がいきわたっているは、わずかであるが肯定的意見の割合が前回調査を下回り、否定的意見(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が前回調査を5.0ポイント上回っている。

【田尻町環境・取り組みについて(前回調査との比較)】



※1 前回調査では「女性が地域活動に参加するための環境が整っている」

※2 前回調査では「介護にたずさわる家族の負担を軽減するための支援がある」

※3 前回調査では「子どもを安心して産み育てるための保育・子育て支援がある」

※4 前回調査では「学校教育で男女平等の意識が育てられている」

※5 前回調査では「自治会や職場で女性が重要なことを決める会議などへの参加機会がある」

【田尻町の環境・取り組みについて今回調査と前回調査の肯定的意見の割合】

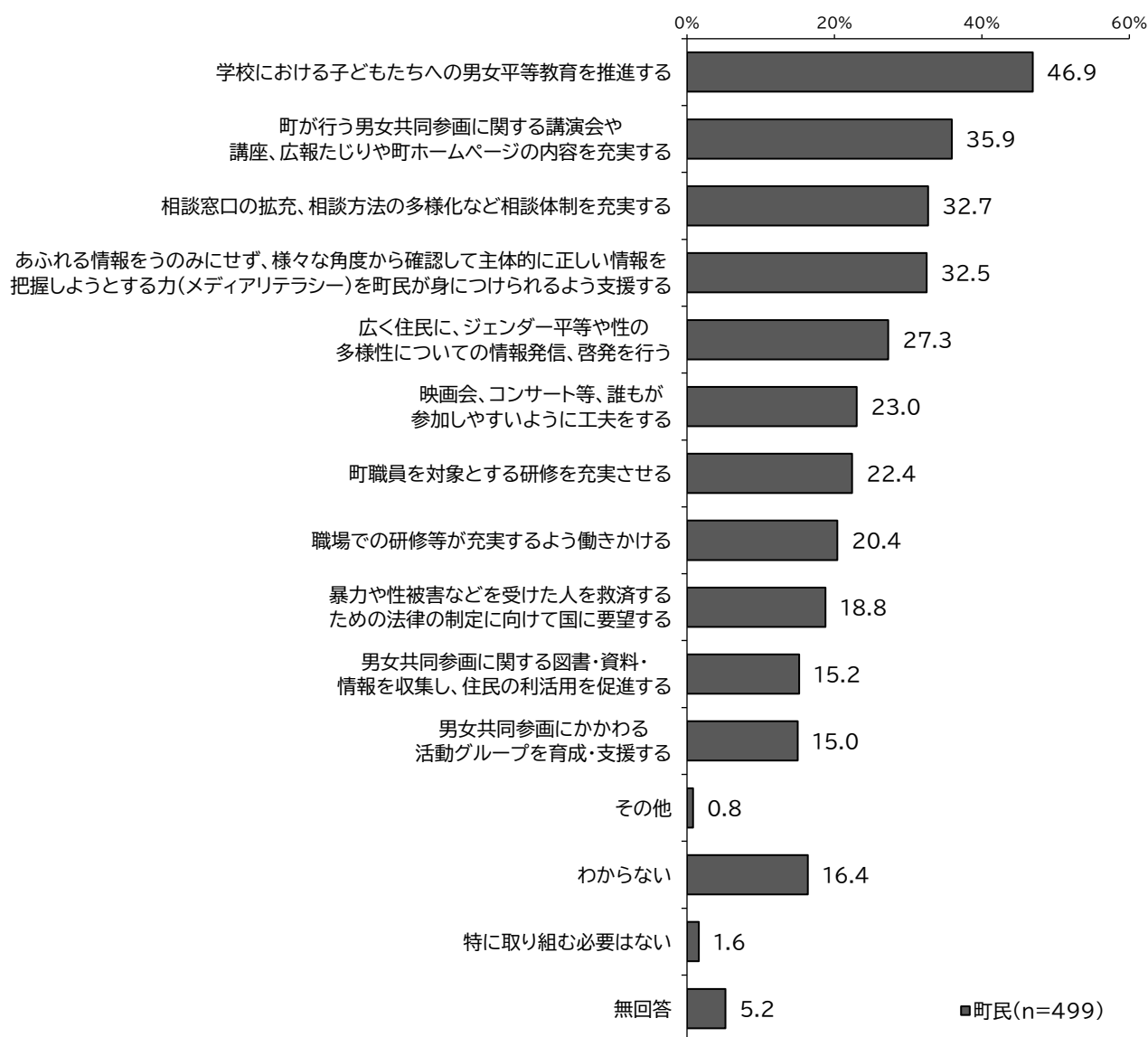
(%)	肯定的意見		
	今回調査	前回調査	差
①男女共同参画に対する理解がいきわたっている	11.4	11.7	-0.3
②女性が働きやすい環境が整っている	20.4	15.7	+4.7
③女性の地域活動への参加環境が整っている	25.2	24.1	+1.1
④介護者の負担を軽減するための支援がある	32.3	19.7	+12.6
⑤保育・子育て支援がある	63.7	39.2	+24.5
⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある	14.6	8.4	+6.2
⑦学校で男女平等への意識が育てられている	29.0	15.1	+13.9
⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある	23.8	17.9	+5.9
⑨配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談できる相手や場がある	20.6	15.8	+4.8

(8)男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること

問28. あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

「学校における子どもたちへの男女平等教育を推進する」が46.9%で最も高く、「町が行う男女共同参画に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」(35.9%)、「相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する」(32.7%)、「あふれる情報をうのみにせず、様々な角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身につけられるよう支援する」(32.5%)と続いている。

【男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること】



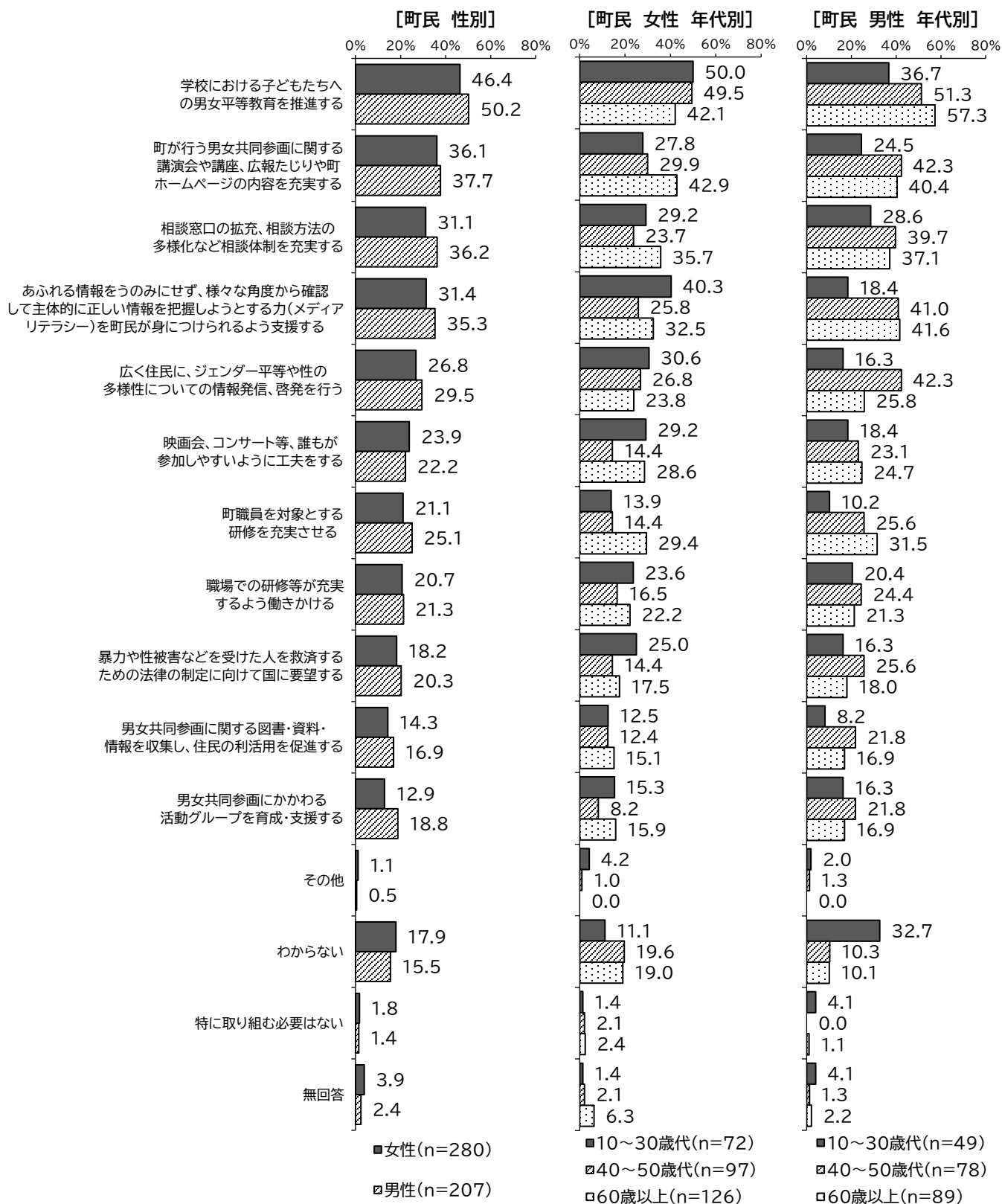
《町民・性別》

ほとんどの選択肢で女性よりも男性の方が回答割合が高くなっているが、大きな違いはみられない。

《町民・性・年代別》

男性の10～30歳代は全般的に回答割合が低くなっており、「わからない」が32.7%と高い。男性の40～50歳代は同年代の女性よりもいずれの選択肢も回答割合が高くなっている。

【性別、性・年代別 男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること】



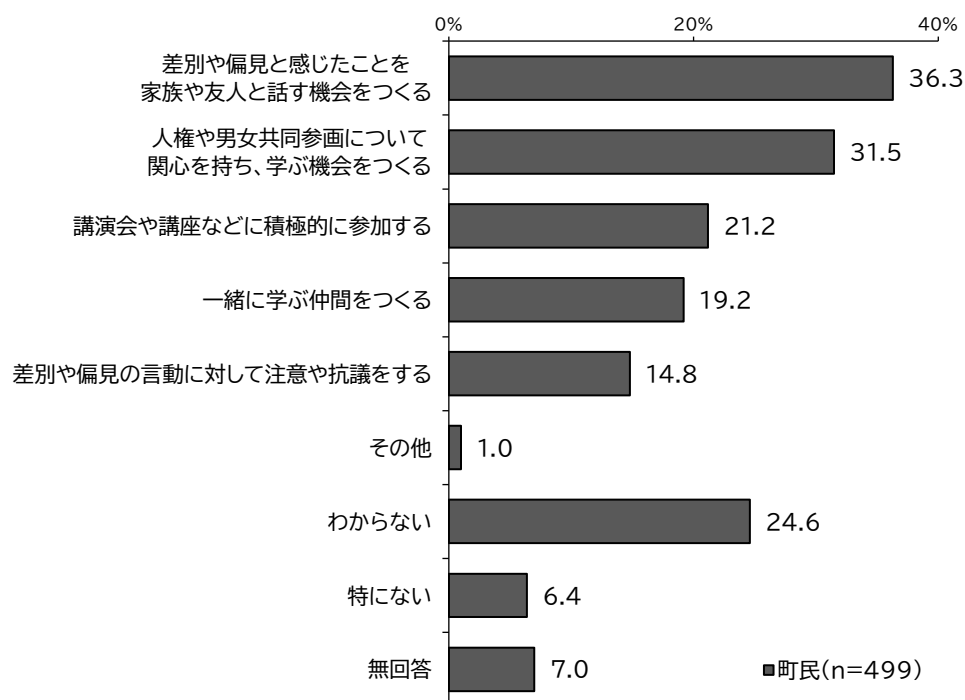
(9)男女共同参画社会づくりに向けて取り組めること

問29. 男女共同参画社会づくりに向けて、あなたはどのようなことができますか。

(○はいくつでも)

「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」が36.3%で最も高く、「人権や男女共同参画について関心を持ち、学ぶ機会をつくる」(31.5%)、「講演会や講座などに積極的に参加する」(21.2%)と続いている。「わからない」が24.6%となっている。

【男女共同参画社会づくりに向けて取り組めること】



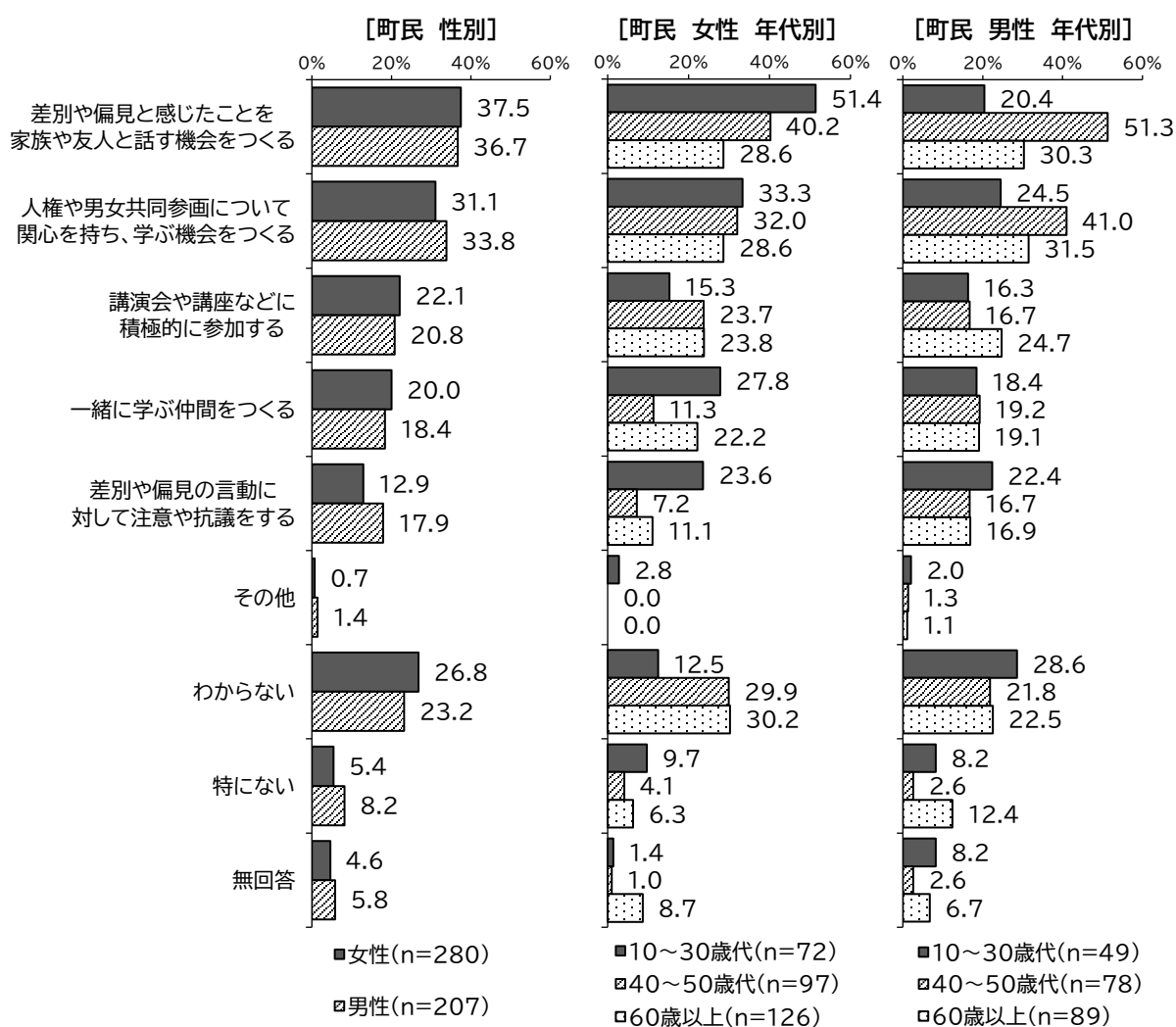
《町民・性別》

性別でみると、「差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする」の回答割合で男性の方が女性より5.0ポイント高いほかは性別による違いは小さくなっている。

《町民・性・年代別》

女性では「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」の回答割合は年代が若いほど高くなっているが、男性では40～50歳代が突出して高く、他の年代との差が大きくなっている。また、女性の10～30歳代はほとんどの選択肢の回答割合が他の年代に比べて高いが、男性の10～30歳代は逆に他の年代に比べてほとんどの選択肢で低くなっており、「わからない」の回答割合で女性の10～30歳代（12.5%）と男性の10～30歳代（28.6%）との差が大きくなっている。

【性別、性・年代別 男女共同参画社会づくりに向けて取り組めること】



Ⅲ 田尻町男女共同参画に関する町民意識調査の考察

大阪大谷大学文学部

木下 みゆき

はじめに

前回調査（2014年）と比較すると概ね、ジェンダー平等へと町民意識が変化している。この方向性をさらに促進し、「田尻町男女共同参画社会づくりに関する意識調査」の調査結果を次年度の「田尻町男女共同参画プラン」策定業務の参考とするため、筆者は次のような手順で分析及び考察を行った。

まず、田尻町町民の男女共同参画に関する意識の現状を把握するため、調査結果から、性別による違いが大きい項目及び年代による違いが顕著な項目を抽出し、それぞれについて背景や課題等を考察した。最後にこれらをもとに、プラン策定に向けての提言等を行った。

1 現状及び課題

(1)性別による違いが大きい項目

男女共同参画社会の実現に向けて取り組む内容については、すべての町民に対して一律ではなく、性別によって異なる働きかけが有効な分野もあると考えられる。そこで現状及び課題を浮き彫りにするため、意識調査結果から性別による違いが大きい項目を抽出し、それぞれについての背景や課題等を考察した。

「2. 家庭での役割について」性別による違いが大きい項目は、「生活の中で優先すること」の希望と現実のギャップ度合いである。男女とも「『仕事』を優先」の回答割合が希望に比べて現実の方が高くなっているが、その差が女性で13.2ポイントに比し、男性では希望が15.9%に対して現実が36.2%と20.3ポイントの差がある。特に40～50歳代の男性は「『仕事』を優先」が50.0%に及び、これは同世代の女性が18.6%であることに比しても大きな違いがある。これは、この世代の男性が「男性の家事などへの参加に必要なこと」として、51.3%が「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」を選択していることとも関連した結果である。

【課題】希望どおり「家庭や個人の生活」を優先でき、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、当事者及び経営者等個人の意識変革も重要ではあるが、男性の長時間労働解消に繋がる多様な働き方の導入や、職場環境の改善及び取り組みが求められる。

「3. 仕事・生き方について」性別による違いが大きい項目は、どのような事項について職場における男女格差を感じるかということであった。性別でみると、①募集・採用の仕方、②採用数、③配置された職場では、「男性の方が優遇されている」の回答割合は男性の方が高く、⑤賃金、⑥昇進・昇格、⑦能力評価では、「男性の方が優遇されている」の回答割合は女性の方が高くなっている。後者について男性の「男性の方が優遇されている」という回答割合がさほど高くない背景には、女性の管理職登用等が進んでいない多くの職場において、男女で賃金格差、昇進・昇格に違いがあることを男性自身が容認している実態があると考えられる。

【課題】男性の年代が上がるほど「男性の方が優遇されている」との回答割合が低くなっている。この要因として、この世代の多くの男性は職場における男女格差に疑問を抱く機会を得ることなく、言い換えれば、世帯主として男性の賃金が女性より高いのは当然と考えて働き続けてきた実態

がうかがえる。この世代の男性に対して、就労継続希望はもちろんのこと、管理職をめざす等、労働意欲の高い女性の存在を認めることを促す必要がある。

育児休業・介護休業の取得状況についても、性別による違いが目立つ項目があった。女性は、「取りたいと思い、取った」が27.9%と男性の7.7%に比べて高く、男性は、「取りたいと思ったが、取らなかった」と「取りたいと思わず、取らなかった」を合わせると33.1%で、女性の10.7%に比べて高くなっている。

【課題】男性を年代別にみると、若い年代ほど、「取りたいと思い、取った」の割合が高くなっており、これからの世代にはこの状況がさらに加速することが期待される。また、他年代の町民に対しても、若い世代のこのような変化の現状をきちんと認識してもらうことが必要である。

仕事につくうえでの困りごとや不安についても、性別による違いが見受けられる項目があった。女性の10～30歳代では「家事・子育て・介護と仕事の両立ができるか」が最も高くなっているのに比して、男性の10～30歳代では「賃金など望む労働条件がかなうか」が最も高い。

【課題】「男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に『反対』する方のポイントが高くなっているとはいえ、依然として、家庭生活において果たすことを期待する役割が性別によって異なる現状が続いていることが浮き彫りになった。

「5. 子どもの育て方や教育について」性別による違いが大きい項目は、子どもの性別による育て方についてである。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」では、女性は『そう思わない』が37.5%で、『そう思う』(26.1%)よりも高いが、男性は『そう思う』が53.6%、『そう思わない』が18.3%と、『そう思う』の方が大幅に高く、男女の意識差が大きい。男性では60歳以上のみではなく、10～30歳代及び40～50歳代の子育て期に該当する人が一定数いると思われる男性も、『そう思う』の割合が高い。これは、性別に関わりなく子ども一人一人の個性を尊重し能力を活かす社会とは相反する深刻な状況であり、今後の意識変革が必須であるといえる。別の質問「性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい」では男女いずれも『そう思う』の割合が高いこととの整合性が取れない背景について、今回の調査では明らかにできない。

子どもに受けさせたい教育程度についても、性別による違いが見受けられる項目があった。女の子に受けさせたい教育として女性は「4年制大学」と「大学院」の合計が64.0%、男性は55.1%で、女性の方が男性に比べて、女の子に対して高い学歴を期待する傾向がみられる。特に男性では年代が上がるほど、女の子に対して高い学歴を期待しない傾向がみられる。これにより、例えば、子育て当事者が女の子に対して高い学歴を期待している場合でも、その親世代がそれを阻害するメッセージを子育て世代に伝えてしまう可能性が考えられる。

【課題】今後はこれらの世代への意識変革を促す働きかけが求められる。また、子どもの個性をのばすことの大切さは認識されているが、性別による違いがあることを前提としている傾向が見受けられ、この意識を払拭していくことが今後の課題である。

「7. 人権を侵害される行為について」性別による違いが大きい項目は、ハラスメントを受けた経験であった。「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」以外の選択肢はすべて女性の方が高くなっている。これらの選択肢の多くはセクシュアル・ハラスメントに該当する内容であり、女性の被害者が多い実態が明らかになった。具体的には、10～30歳代「結婚や恋人などについてしつこく聞かれる」では20ポイント近く女性の方が高くなっており、未だ「適齢期」

や「女性の幸せは結婚にあり」が死語になっていないことをあらわしている。2021（令和3）年に実施された「田尻町人権に関する意識調査」では人権侵害事象を受けた経験として、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が41.9%で最も高かったが、このなかでセクシュアル・ハラスメント事象がどの程度含まれているのかは不明である。

DV・デートDVいずれも受けた経験では女性の方が高く、行った経験では男性の方が高くなっている。

【課題】深刻な男性被害者の存在も認めつつ、やはり当面は女性支援に重点を置いた施策の継続が求められる。

「8. 男女共同参画社会づくりについて」性別による違いが大きい項目は、結婚や家庭、女性の参画に関する考え方に複数が見受けられた。「男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では、全体でも『反対』(59.6%)と『賛成』(36.1%)では、『反対』の方が23.5ポイント高くなっている。性別では女性の方が『反対』の割合が高い。「夫婦は別姓を名乗ってもよい」では、女性の方が『賛成』の割合が高い。「同性同士の結婚を認めてよい」でも、女性の方が『賛成』の割合が高い。これらの結果から、女性の方が性別役割分担意識や固定的な夫婦観・結婚観に捉われなくなっていることがわかる。

男女の地位の平等感についても、性別による違いが見受けられる項目があった。すべての分野で男性に比べて女性の方が『男性優遇』の回答割合が高くなっており、なかでも②雇用の機会や職場（賃金・待遇など）では15.5ポイントの差があり、⑥法律や制度の上では15.3ポイントの差がある。これらの結果から、女性は同一労働同一賃金の実現していないことや自らの労働が正当に評価されていないことを実感していることがうかがえる。

【課題】近年は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」等、女性の社会参画を促す法制度が整いつつあるといえるが、今回の調査結果から、女性の実生活においてはこれらの法制度が十分な効果を発揮できていないことが明らかになった。

(2)年代による違いが顕著な項目

男女共同参画社会の実現に向けては、年代による意識のギャップが弊害となっている分野もあると考えられる。そこで現状及び課題を浮き彫りにするため、意識調査結果から年代による違いが顕著な項目を抽出し、それぞれについての背景や課題等を考察した。

「2. 家庭での役割について」年代による違いが顕著な項目は、育児（乳幼児の世話）の望ましい役割分担である。男女とも年代が上がるほど『女性がするのがよい』との回答割合が高く、60歳以上の男性では60.7%となっている。この結果から「三歳児神話」は完全に神話とはなっておらず、乳幼児の子育ては母親が担うべきと考えている町民が一定数存在することがわかった。

【課題】この世代がこのような意識を払拭しない限り、その子ども等の子育て世代がワンオペ育児の状況に追い込まれることに非常に大きな影響を与えると考えられる。60歳以上の男性の意識変革が喫緊の課題である。

希望する生活の中で優先することについて、男性では『仕事』を優先で10～30歳代と60歳以上では19.5ポイントの差があり、年代による違いが顕著である。

【課題】前項同様、これらの世代が次世代に自らの成功体験に基づく価値観を押し付けることになって

は、若い世代のワーク・ライフ・バランス実現の妨げとなる。ジェンダー平等へと変化しつつある若年層の意識や現実を理解することにより、支える存在となり得ることも認識していただきたい。

「3. 仕事・生き方について」年代による違いで背景がうかがえる項目は、女性の働き方についての考えである。男女とも40～50歳代で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」との回答割合が他の年代に比べて高い。10～30歳代よりも高くなっていることから、女性はこの年代を乗り切るにより就労継続への自信を獲得し、それ以降の就労継続意欲が維持されていると考えられる。40～50歳代の男性では、パートナーが出産や子育てを経て仕事を続けていることを目の当たりにしている世代であることも多く、実体験に基づく意識であるといえる。

【課題】職場においてキャリア形成の最中である30歳代の女性が、結婚や出産にかかわらず仕事を続けることができる職場の環境整備や、互いを理解し協力し合うパートナー関係の構築が必要である。

「5. 子どもの育て方や教育について」では、子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよいについて、女性で年代による違いが顕著で、10～30歳代と60歳以上では32.8ポイントの差があった。これについても、子育て当事者世代の意識は変化しているのにも関わらず、親世代の意識には変化が見られないことによる弊害を指摘することができる。

【課題】女性にとっては、特に同性であり自らを育ててくれた母親が発するメッセージには抗えないことも多いと想像でき、この世代の意識を変えるための啓発が求められる。また、当事者が希望しているライフプランや抱えている課題等を共有し理解することにより、子育て世代を支える存在となり得ることも認識していただきたい。

男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組みについて、回答の世代間の違いで興味深い項目があった。それは「進路指導は性別によってかたよりなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」について、男女とも10～30歳代より40～50歳代の割合が高くなっていることである。10～30歳代の多くはこれについて考える状況に直面していない一方、子どもを持つ40～50歳代はまさに教育現場に深く関与する時期である。この世代が若い世代より性別によってかたよらない進路指導をよしとしていることは、子どもの将来を育むにあたって望ましいことである。

【課題】今後さらに、このような意識がより一層高まる施策や取り組みが求められる。

「6. 地域活動・防災について」では、地域活動における女性リーダーの増加に必要なことについて、男性の世代間の違いで意外と感じた項目があった。それは「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」で、10～30歳代が30.6%であるのに比して60歳代以上は59.6%と、29ポイントの差があった。

【課題】男性が自らの抵抗感を認識していることによる回答であるかもしれないが、地域活動における女性リーダーの増加を推進するためには、男性の気付きや意識変革が第一歩ともいえ、この世代のより多くの男性の気付きを推進する取り組みが求められる。

「7. 人権を侵害される行為について」では、若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度について、年代による顕著な違いが見られた。デートDV、AV出演強要、SNSを通じた性暴力被害、性暴力被害や望まない妊娠のいずれについても、他の年代に比して男女とも60歳以上の認知度が低く

なっている。この背景には年代によって接するメディアや情報源が異なる等の現況であり、一見、何ら問題がないと受け止められるかもしれない。しかし、60歳以上の世代がこれらの被害を認知していないと、地域社会や身近な若年女性が被害に遭っていてもそれに気付かないあるいは見過ごしてしまい、被害者救済の機会喪失に繋がる恐れがある。

【課題】世代を超えて、これらの人権侵害行為は深刻な社会問題であると認識されるべきであり、60歳以上の世代に対しての現状を反映した的確な情報提供が急がれる。

「8. 男女共同参画社会づくりについて」では、同性同士の結婚に『賛成』する回答について、男女とも年代による違いが顕著で、10～30歳代と60歳以上を比べると、女性で46.8ポイント、男性で50.2ポイントの差があった。この差異は夫婦別姓についての項目よりも格段に大きく、年代が上がるほど同性婚への抵抗感が根深いことが明らかである。

【課題】このような意識を払拭してもらうためには、日本国内の現況を示すのみでなく、2001年から同性婚を認められているオランダの事例を始め、諸外国の状況等も提示する等、これらの世代の意識変革に繋げる情報提供や啓発事業が求められる。

2 その他の特記事項

この章では、前章で触れた内容以外で、今回の意識調査で明確になった課題と捉えるべき項目を取りまとめる。

まず、子育ての担い手について、「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」では、性別による違いは大きくなく、『そう思う』が40.2%、『そう思わない』が25.0%となっている。肯定している市民が4割に達している状況では、このような認識が女性の社会参画を阻む要因となっていることが明確である。子どもの発達にとって何が大切であるか等について、科学的なエビデンスも提示したうえで、固定的な思い込みを払拭した市民を増やすことが求められる。

次に、DV相談窓口などで配慮してほしいことについては性別による違いはほとんどなく、「匿名で相談ができる」(54.3%)、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(44.9%)、「同性の相談員がいる」(43.9%)、「24時間相談ができる」(41.7%)となっている。実際には、これらの配慮や条件を満たしている相談窓口や相談方法が既に複数存在している。田尻町の相談窓口のみではなく、大阪府や内閣府をはじめとした国、民間団体による相談窓口についての情報提供がまだ十分とはいえないことが明らかである。

また、男女共同参画に関する講座や講演会・研修への参加状況では、「参加したことはない」(88.6%)が9割近くを占めており、参加したことがある人は合わせて7.8%となっている。

今後は対面型の開催と合わせて、時間と場所が限定しないオンライン、オンデマンド、あるいは講演動画のWeb配信等、多様な開催方法を取り入れて、参加者増を図る必要がある。

3 提言

最後に、今回の意識調査結果をふまえ、次年度のプラン策定に向けて三つの提言を行う。

(1)意識の世代間格差解消

1 現状及び課題(2)で記したように、調査結果には年代による違いが顕著な項目が多く見受けられた。

自分と異なる世代が直面している困難状況や課題、望ましい生き方や考え方について想像力をはた

らかせることは決して容易なことではない。また、ややもすると固定概念や片方の世代の一方的な思い込みで現実どおりに捉えられていないことも多々あると考えられる。このような状況を打破するためには、いずれの世代も各世代の課題や考え方等についての正確な情報を入手し、それによって現状を把握し、さらには男女共同参画社会づくりを促進するためには、お互いに何ができるのかについて具体的に考え、実際の行動変容に直結することが必要である。

具体的には、コンパクトシティであることのメリットも活かして、お互いが当事者の本音、生の声、何に困っているか何を望んでいるか等について知る機会、実際の世代間交流の機会を定期的に設定する。この際には、これらの運営に積極的に関わる各地域の女性リーダーの存在が望ましい。「第2期田尻町まち・ひと・しごと創生総合戦略」には新規事業として、地域の身近な場所で集える居場所づくり事業や多世代交流の場づくりが盛り込まれており、これらの事業も世代間交流に活かすことが期待される。

また、同世代の参加が多い講座（例えば、子育て期の保護者を対象とした講座、高齢者の参加が多い歴史講座等）の一部に他世代の町民がゲストスピーカーとして登壇し、自分たちの現在の課題等について語る機会を設ける。この場合、講座のテーマはジェンダー問題関連に限定する必要はない。「第2期田尻町まち・ひと・しごと創生総合戦略」によると、町民が参加している活動には「ごみ減量化・リサイクル活動」及び「地区会活動」が多いとあり、これらの活動も世代間交流の機会とすることが考えられる。さらに、対面開催のみではなく、田尻町Webサイトを活用して緩やかな世代間交流の広場を常に開設しておく等の工夫も有効である。

近年、多くの自治体では、人権協会や民生委員・児童委員等、地域において町民の立場で町民の人権を擁護する構成員は高齢化傾向にある。ここに若い世代の参画を促し、これらの組織で中枢を担う人材の若年化を図ることも、世代間で異なる問題意識を共有でき、それぞれの年代の実態に即した課題解決に繋がると考えられる。

このような意識及び現状把握の世代間格差の解消は、他世代が有している価値観に関してのアンコンシャス・バイアスを解消する結果ともなる。

(2)切れ目のない継続した男女平等教育

第5次田尻町総合計画「基本構想」の「(3) 将来像の実現に向けての基本方針」には、教育に関して下記の記載がある（下線は筆者による）。

未来を担う子どもたちを育てることをめざし、田尻町で子どもを育てたいと思えるまちづくりを進めます。町に一つの保育所、幼稚園、小学校、中学校が隣接するコンパクトさを活かした「保幼小中一貫教育」や国際化に対応した特色ある教育を進めます。

今回の意識調査では、「5. 子どもの育て方や教育について」の男女平等を進めるために小中学校・こども園等における取り組みとして、「男女平等の意識を育てる授業や取り組み、性教育などを行う」ことの重要性を指摘する回答割合が高かった。前回調査との比較でも16.2ポイントの差があり、この差はすべての項目の中で最も大きかった。町のすべての教育機関が隣接していることは他自治体にはない特徴である。このメリットを活かした切れ目のない継続的な男女平等教育を浸透させる手法を開発し、さらに男女平等教育を展開していくことが求められる。

具体的には、教職員のネットワーク構築による子どもの年齢を越えたジェンダー問題に関する現状

及び課題の共有、教職員に対する研修の共催、教材の共同開発、子どもたち自身の世代間交流による男女平等への気付きや意識変革等が実現可能である。

実施にあたってはまず、現在学校で取り組まれている男女平等教育の内容を把握し、さらに必要なプログラムや今後の課題を学校現場と情報共有する必要がある。

(3)若い世代のための取り組み

1 現状及び課題(2)年代による違いが顕著な項目中「3. 仕事・生き方について」に記載したとおり、男女とも10～30歳代よりも40～50歳代で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」との回答割合が高い。この実態を活かす方法として、二つを提案したい。

まず一つ目は、女性の就労継続意欲を向上するため、同じ職場でロールモデルとなる女性と交流できる機会を設けることや、上司ではない先輩からアドバイスを受けるメンター制度を導入することである。配属部署等は異なっても知識や経験の豊富なメンターから支援を受けることにより、自身のキャリア形成について将来展望を描けるようになる成果が期待できる。

二つ目は、組織や業種を越えた異業種交流による、先輩ロールモデルとの出会いの機会創出の仕組みづくりである。これには市内の労働所管課や泉佐野商工会議所等の協力も必須である。具体的なイメージは、大阪商工会議所による女性経営者としての資質向上や情報交換、相互交流などを図るための異業種交流会「女性会」の一般労働者版である。就業者数の規模が小さい組織では一つ目の導入が困難な場合もある。そのような職場においては異業種交流の場を活用し、女性の就労継続意欲向上に繋げていただきたい。

男性に対しても同様に、パートナーが出産や子育てを経て仕事を続けている当事者がロールモデルやメンターとなって、ライフプランに悩みを抱えている職場の若い世代と交流して寄り添う仕組みが有効である。町がこれらの制度導入を田尻町にある企業等に積極的に呼びかけること自体が、働く世代に対しての応援メッセージともなる。

さいごに

次期プランは、男女共同参画社会基本法、DV防止法、女性活躍推進法に加え、2024（令和6）年4月1日に施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく計画となる。この法では、市町村の基本計画策定は努力義務であるが、田尻町において実効力のある女性支援のために今回、他法とともに新法の基本計画を含む形でプランを策定することには意義がある。

大阪府「困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する基本的な計画（案）」では市町村の役割として、①「最も身近な相談先としての役割を果たす」、②「多くの福祉制度の実施主体として、必要な支援の包括的な提供、他機関や他自治体等への繋ぎ等を実施」、③「関係機関が参加する会議の開催等の工夫」の3点が国の方針に沿う形で盛り込まれている。これを実現するために、女性相談支援員の配置が不可欠（府内全市配置が3年間の目標）で、その育成も喫緊の課題となっている。女性相談支援員の任用にあたっては「必要な能力及び専門的な知識経験を有する人材」の登用に特に配慮を要すると明記されている点に留意いただきたい。また、女性相談支援員の人材育成や支援員相互の情報共有、スキルアップなどについては、大阪府や近隣自治体と連携して取り組むということが望ましいと考えられる。

IV 職員意識調査の結果

【職員意識調査設計】

- ①調査対象：田尻町職員（2023（令和5）年11月1日現在）
- ②標本数：131人
- ③調査方法：手渡しによる配布と回収箱投函による回収及びインターネット回答
- ④調査期間：2023（令和5）年12月1日～12月20日

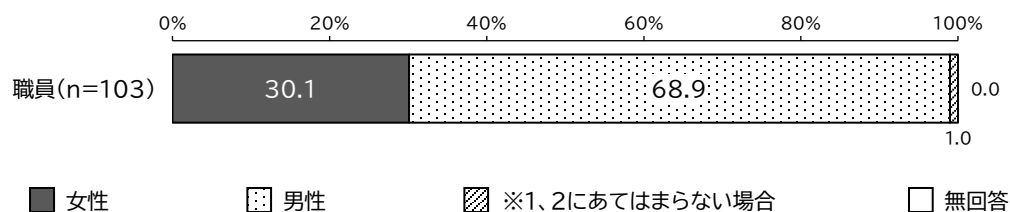
【回収結果】

	標本数	回収数 (回収率)	無効数	有効回収数 (有効回収率)
職員意識調査	131件	104件 (79.4%)	-	103件 (78.6%)
紙調査票回収	-	31件	-	30件
インターネット回答	-	73件	-	73件

1. 回答者の属性

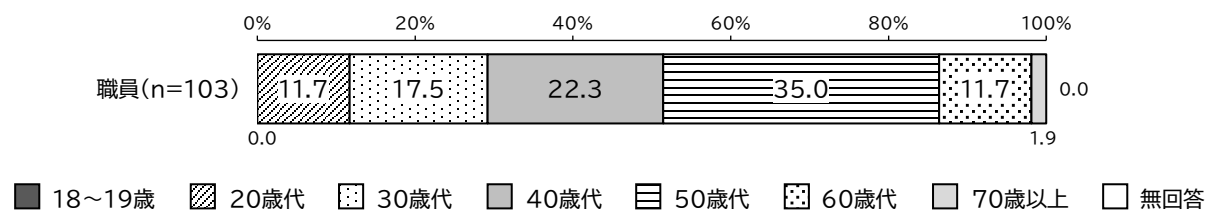
(1)性別

「女性」が30.1%、「男性」が68.9%で、「男性」の方が38.8ポイント高くなっている。



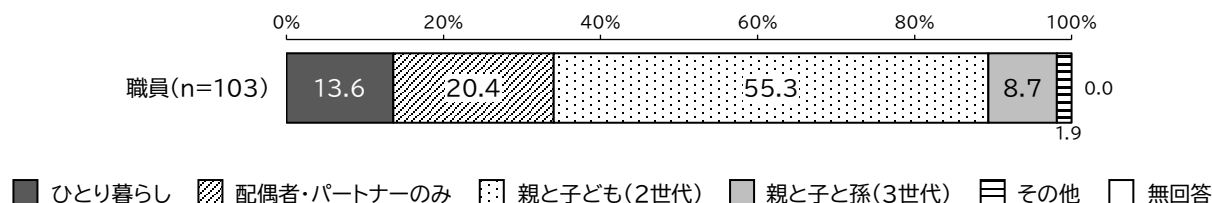
(2)年齢

年齢は、「50歳代」が35.0%で最も高く、次いで「40歳代」22.3%、「30歳代」17.5%となっている。



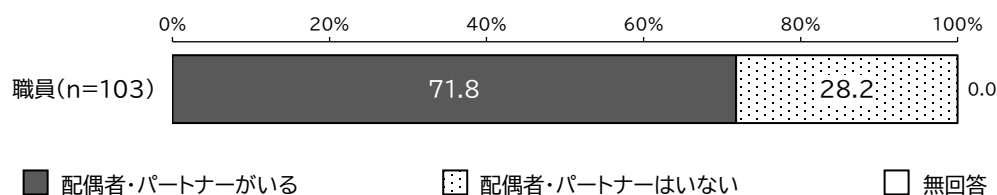
(3)家族構成

「親と子ども（2世代）」が55.3%で半数を超えており、「配偶者・パートナーのみ」が20.4%、「ひとり暮らし」が13.6%である。「親と子と孫（3世代）」は8.7%で町民と比べて高くなっている。



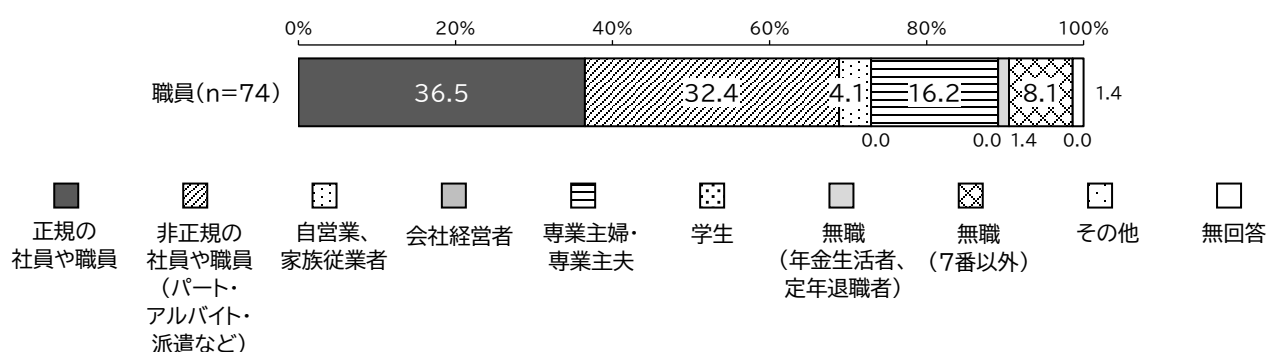
(4)配偶関係

「配偶者・パートナーがいる」は71.8%、「配偶者・パートナーはいない」は28.2%となっている。



(5)配偶者・パートナーの職業

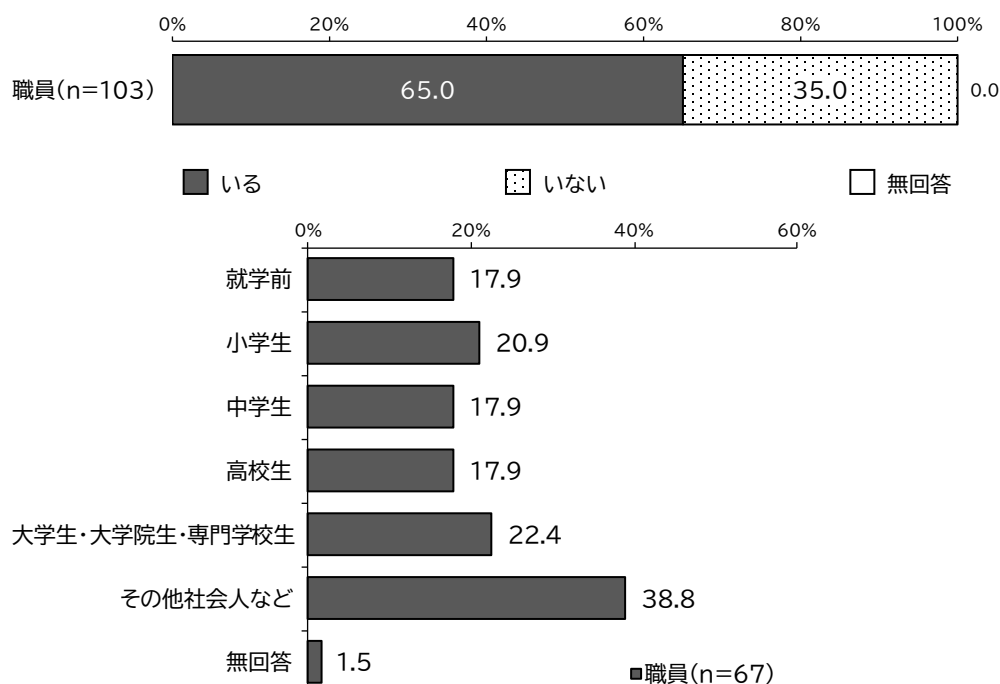
職員の配偶者・パートナーの職業では、「正規の社員や職員」が36.5%で最も高く、次いで「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が32.4%となっている。「専業主婦・専業主夫」は16.2%で町民と比べて6.8ポイント高くなっている。



(6)子どもの有無と年齢

子どもが「いる」は65.0%、「いない」は35.0%で、町民より「いない」割合が10.6ポイント高い。30歳代以下の割合が町民よりもやや高いことによると考えられる。

子どもの年齢は、「その他社会人など」が38.8%で最も高く、次いで「大学生・大学院生・専門学校生」が22.4%となっている。職員は、40歳代と50歳代が57.3%を占めているという町民との年代構成の違いによるものと考えられる。



2. 家庭での役割について

(1)家庭の仕事の役割分担

問1. あなたは、家庭における次のことを男性、女性のどちらがするのがよいと思いますか。

(○は①～⑦それぞれに1つ)

問2. あなたの家庭では、実際に次のことを男性、女性のどちらがしていますか。

(○は①～⑦それぞれに1つ)

【望ましい家庭の仕事の役割分担】

①生活費をかせぐと⑦自治会など地域活動への参加で『男性がするのがよい』の割合が他の項目より高く、②日々の家計の管理、③日常の家事、⑥育児（乳幼児の世話）では『女性がするのがよい』の割合が他の項目より高いという傾向は町民と同様であるが、総じて「両方同じくらいするのがよい」の回答割合が町民に比べて高くなっている。

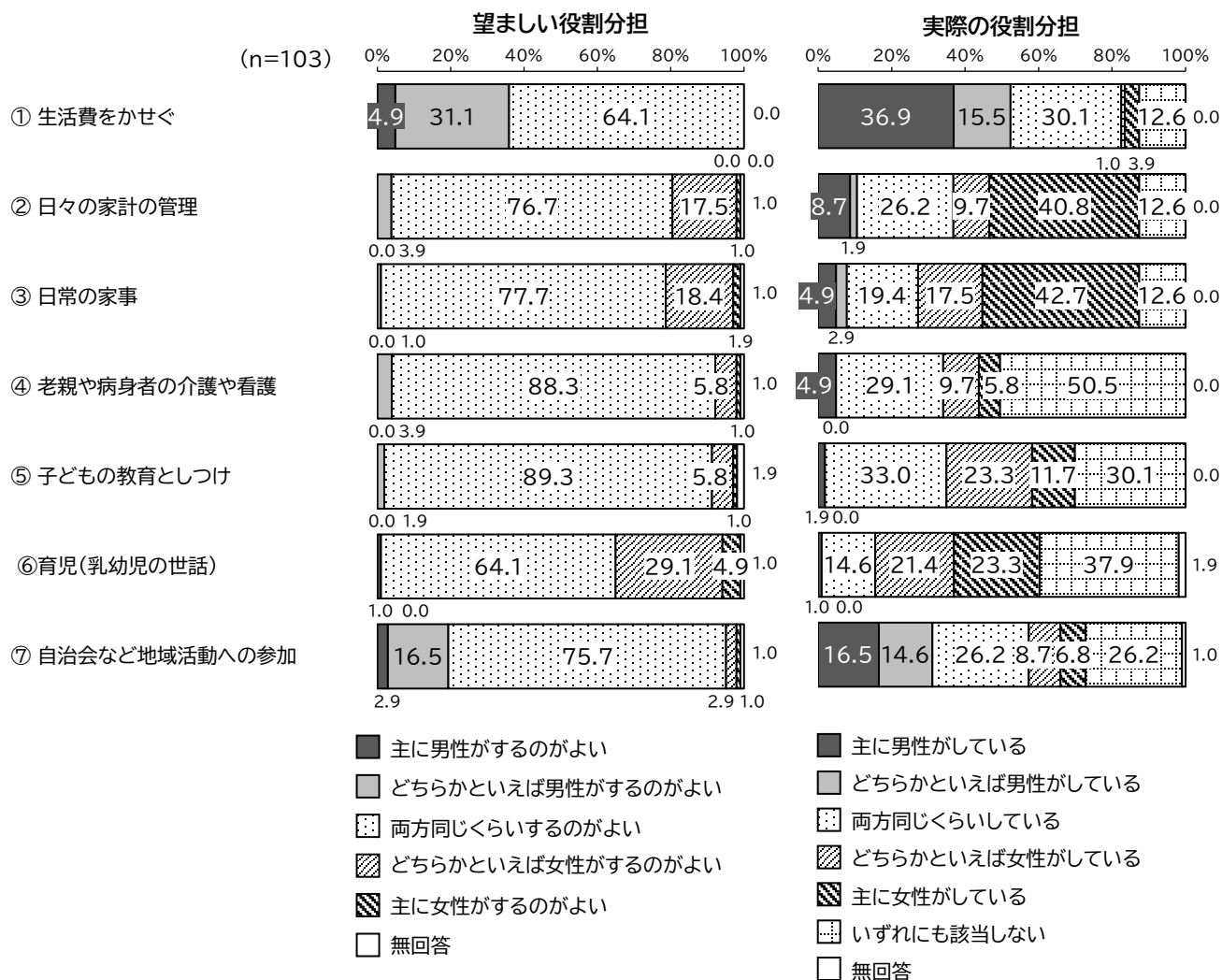
【実際の家庭の仕事の役割分担】

理想で挙げられた「両方同じくらいするのがよい」の割合に比べて、実際の分担では、すべての項目で「両方同じくらいしている」の割合は大幅に低くなっている。

①生活費をかせぐでは、理想に比べて『女性がしている』（「主に女性がしている」と「どちらかといえば女性がしている」の合計）の割合も高くなっているが、「主に男性がしている」は36.9%で理想と比べて32.0ポイント高くなっている。それ以外の項目は、理想に比べて「主に男性がしている」の割合も高くなっているが、『女性がしている』の割合が理想に比べて大幅に高くなっている。

役割分担の理想と実際に差があるのは、町民と同様の傾向である。職員の意識としては「両方同じくらいするのがよい」を理想とするのは、町民に比べて高いが、実際の役割分担では大きく変わらない結果となっている。

【望ましい家庭の仕事の役割分担と実際の家庭の仕事の役割分担】



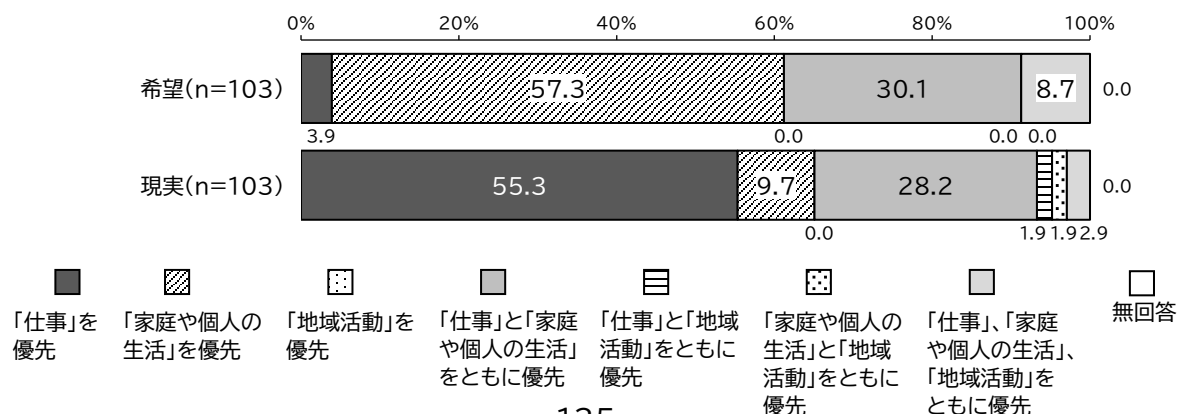
(2)生活の中で優先すること

問3. あなたは、生活の中で「仕事」「家庭や個人の生活」「地域活動」で何を優先しますか。希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。

希望では「『家庭や個人の生活』を優先」が57.3%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が30.1%となっている。現実では「『仕事』を優先」が55.3%と半数を超えており、次いで「『仕事』と『家庭や個人の生活』をともに優先」が28.2%となっている。

町民では3分の1が働いていないのに対して、全員が働いていることにより現実の違いが大きくなっている。

【生活の中で優先することの希望と現実】

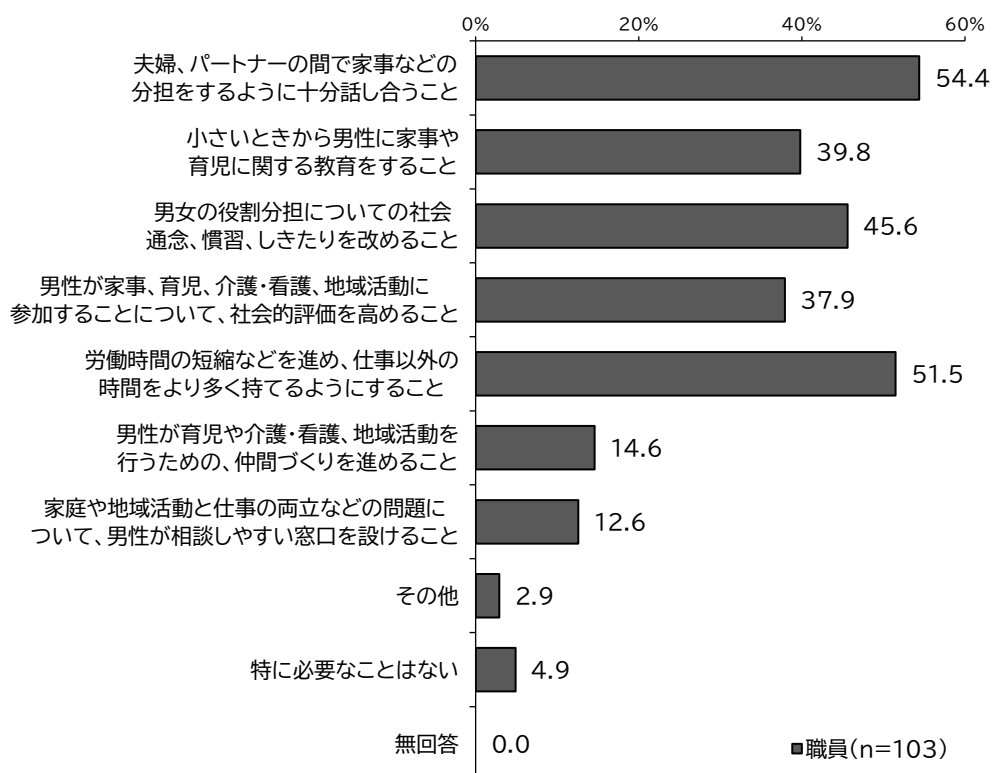


(3)男性の家事などへの参加に必要なこと

問4. 今後、男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、男性が家事などへ参加していくために必要なこととして、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が54.4%と最も高く、次いで「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(51.5%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(45.6%)と続いている。

【男性の家事などへの参加に必要なこと】



3. 仕事・生き方について

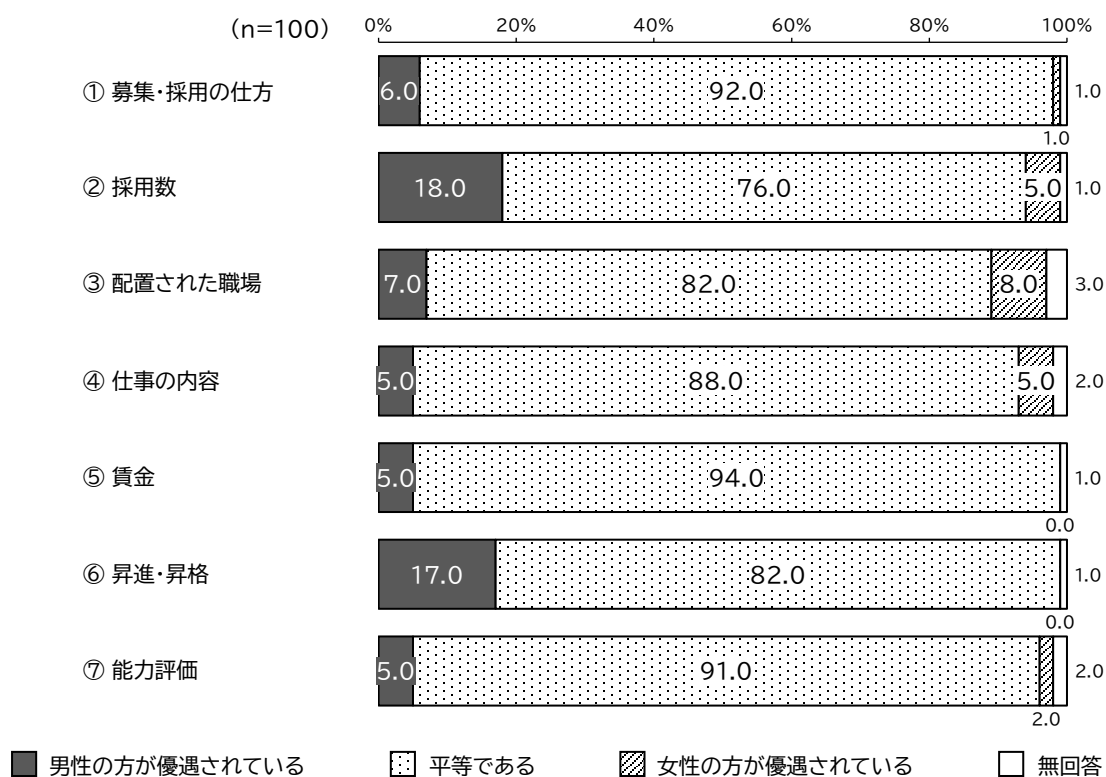
(1)職場において男女格差を感じること

■現在、仕事をされている方(育児・介護・病気等で一時休業中の方を含みます)にお聞きます。

問5. あなたの今の職場では、性別によって対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。(○は①～⑦それぞれに1つ)

職場における男女平等については、②採用数を除く項目では「平等である」が8割以上となっている。町民と同様に②採用数と⑥昇進・昇格で「男性の方が優遇されている」の回答割合が他の項目よりも高くなっている。

【職場において男女格差を感じること】



(2)育児休業・介護休業の取得状況

問6. あなたは、これまでに育児休業・介護休業を取りましたか。(○は①～②それぞれに1つ)

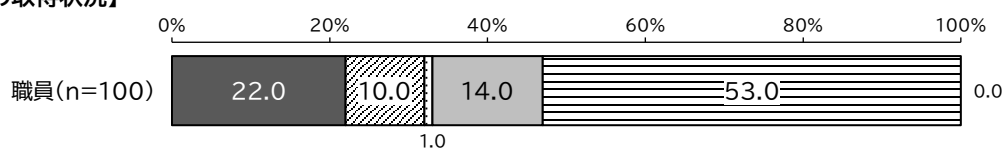
育児休業について

「あてはまらない」と回答した人を除くと、「取りたいと思い、取った」が22.0%で最も高く、次いで「取りたいと思わず、取らなかった」が14.0%となっている。

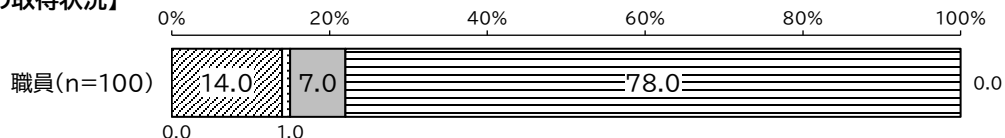
介護休業について

あてはまる人はわずかであるが、「取りたいと思ったが、取らなかった」の14.0%が最も高く、「取りたいと思い、取った」は0.0%となっている。

【育児休業の取得状況】



【介護休業の取得状況】



■ 取りたいと思い、取った ▨ 取りたいと思ったが、取らなかった ▤ 取りたいと思わず、取らなかった ▧ 取りたいと思わず、取らなかった ▩ あてはまらない □ 無回答

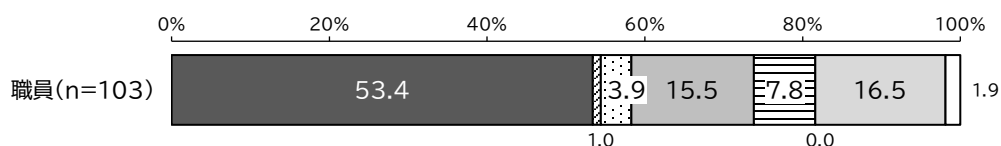
(5)女性の働き方についての考え

■全員にお聞きします。

問8. 一般的に女性が仕事をする事について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が53.4%で最も高く、「子育て時期だけやめ、その後はフルタイム就労するのがよい」が15.5%、「子育て時期だけやめ、その後はパート就労するのがよい」が7.8%と続いている。（「その他」は除く）

【女性の働き方についての考え】



■ 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい ▨ 結婚まで仕事、結婚後は家事に専念するのがよい ▤ 出産まで仕事、出産後は家事・子育てに専念するのがよい ▧ 子育て時期だけやめ、その後はフルタイム就労するのがよい ▩ 子育て時期だけやめ、その後はパート就労するのがよい □ 仕事につかない方がよい □ その他 □ 無回答

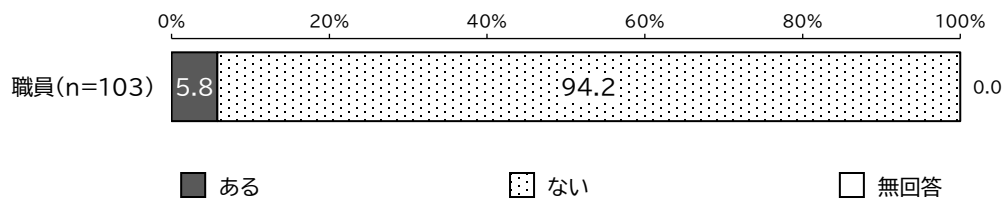
4. 性について

(1)性自認・性的指向で悩んだことがあるか

問9. あなたは、今までに性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがありますか。(〇は1つ)

性自認・性的指向で悩んだことのある人は5.8%となっている。

【性自認・性的指向で悩んだことがあるか】

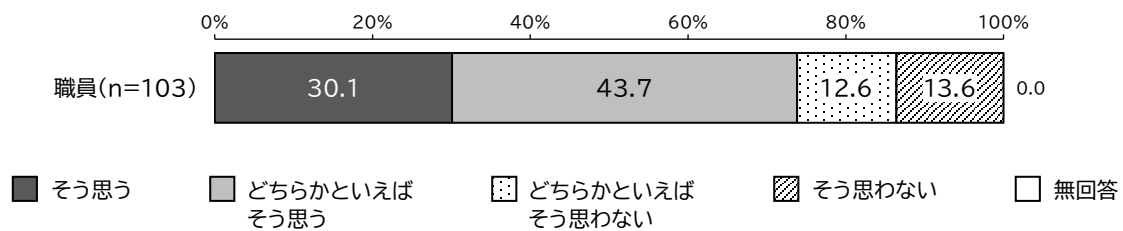


(2)性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問10. LGBTをはじめとする性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つ)

「どちらかといえばそう思う」が43.7%で最も高く、「そう思う」の30.1%と合わせると73.8%にのぼる。

【性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか】



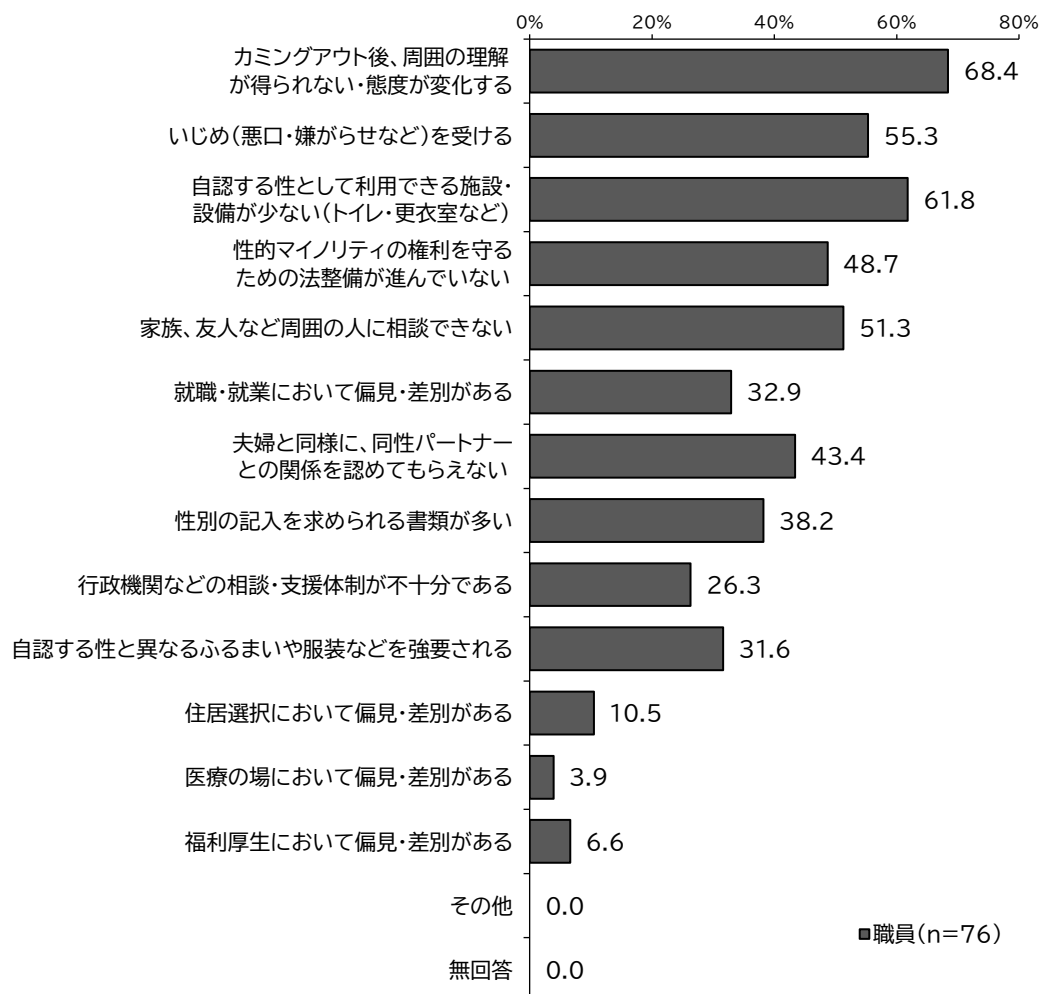
(3)性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由

問10-1.「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方に

どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」(68.4%)、「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(61.8%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(55.3%)、「家族、友人など周囲の人に相談できない」(51.3%)の順に多く挙げられている。

【性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由】



5. 子どもの育て方や教育について

(1)子どもの教育方針

問11. あなたは子どもの育て方について、どのように思いますか。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。(〇は①～③それぞれに1つ)

【①性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい】

「そう思う」が58.3%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が31.1%となっており、合わせると89.4%にのぼる。

【②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい】

「どちらともいえない」が28.2%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」21.4%、「どちらかといえばそう思わない」20.4%と続いている。

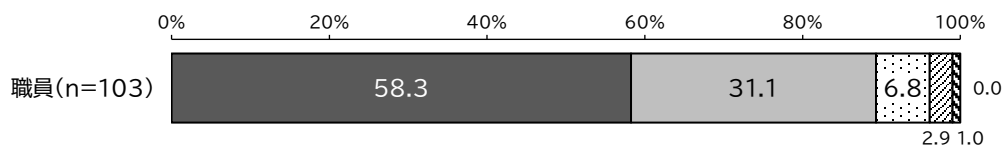
『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は33.1%、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は38.8%となっている。

【③子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい】

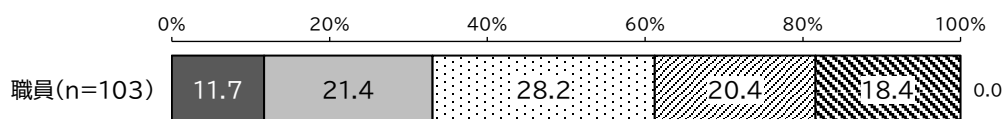
「どちらともいえない」が34.0%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」26.2%、「そう思わない」19.4%と続いている。

『そう思う』は35.9%、『そう思わない』は30.1%となっている。

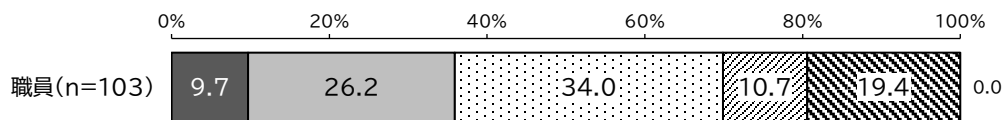
【①性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい】



【②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい】



【③子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい】



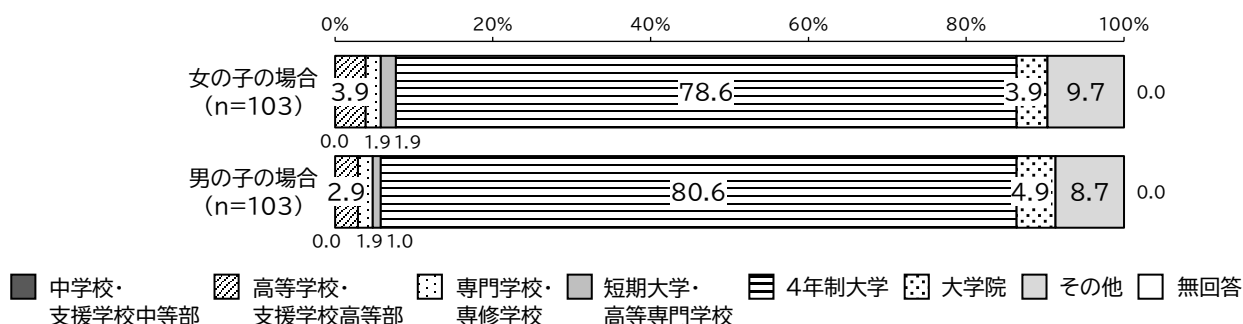
そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらともいえない
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

(2)子どもに受けさせたい教育

問12. あなたの子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。(〇は女の子・男の子にそれぞれ1つ)

「4年制大学」の回答割合が、女の子の場合は78.6%、男の子の場合は80.6%で、女の子、男の子に対する期待は大きくは変わらない。

【子どもに受けさせたい教育】

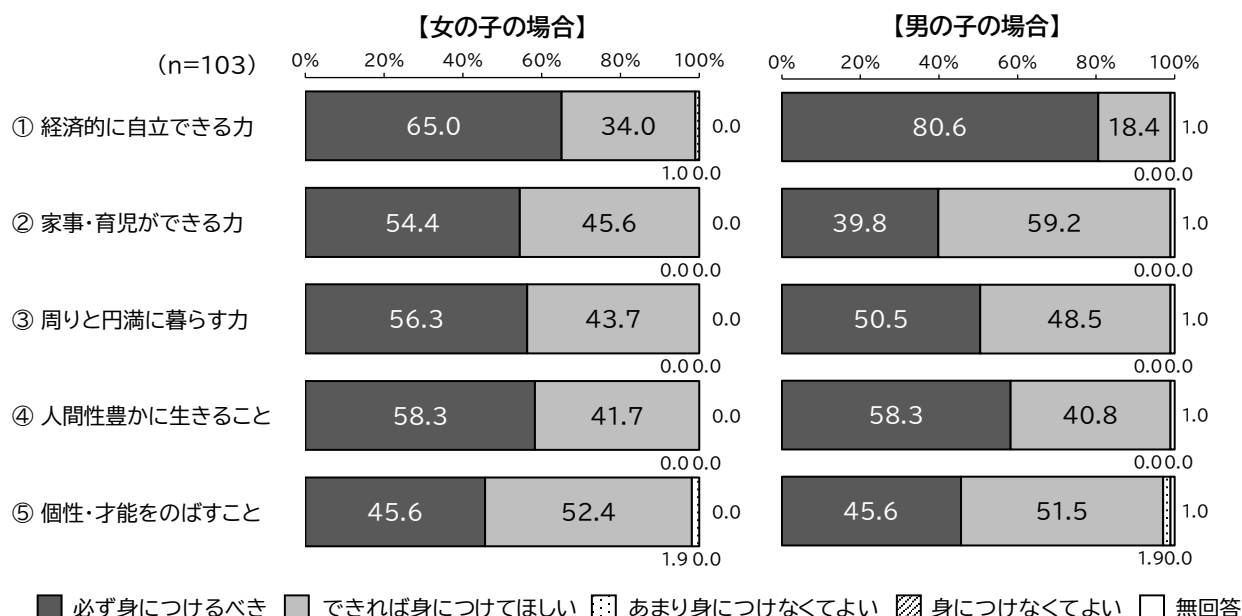


(3)子どもに身につけてほしいこと

問13. あなたは子どもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。(〇は女の子・男の子の①～⑤それぞれに1つ)

ほとんどの人が①から⑤のいずれの項目に対しても「必ず身につけるべき」か「できれば身につけてほしい」のどちらかに回答している。項目による程度の違いをみると、女の子に身につけてほしいことでは、①経済的に自立できる力で「必ず身につけるべき」が他の項目よりも10～20ポイント程度高くなっている。男の子に身につけてほしいことでは、①経済的に自立できる力で「必ず身につけるべき」が突出して高くなっている。

【女の子・男の子に身につけてほしいこと】

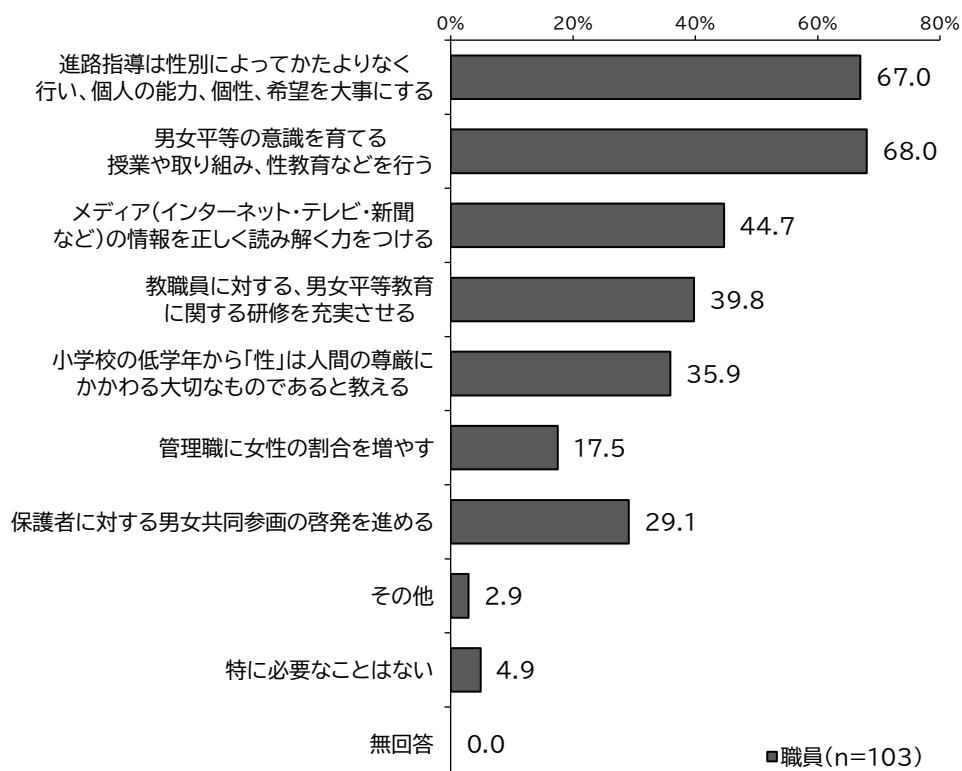


(4)男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み

問14. 男女平等を進めるために小中学校・こども園などで、どのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

「男女平等の意識を育てる授業や取り組み、性教育などを行う」が68.0%で最も高く、「進路指導は性別によってかたよりなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」(67.0%)、「メディア(インターネット・テレビ・新聞など)の情報を正しく読み解く力をつける」(44.7%)と続いている。

【男女平等を進めるために重要となる小中学校・こども園の取り組み】



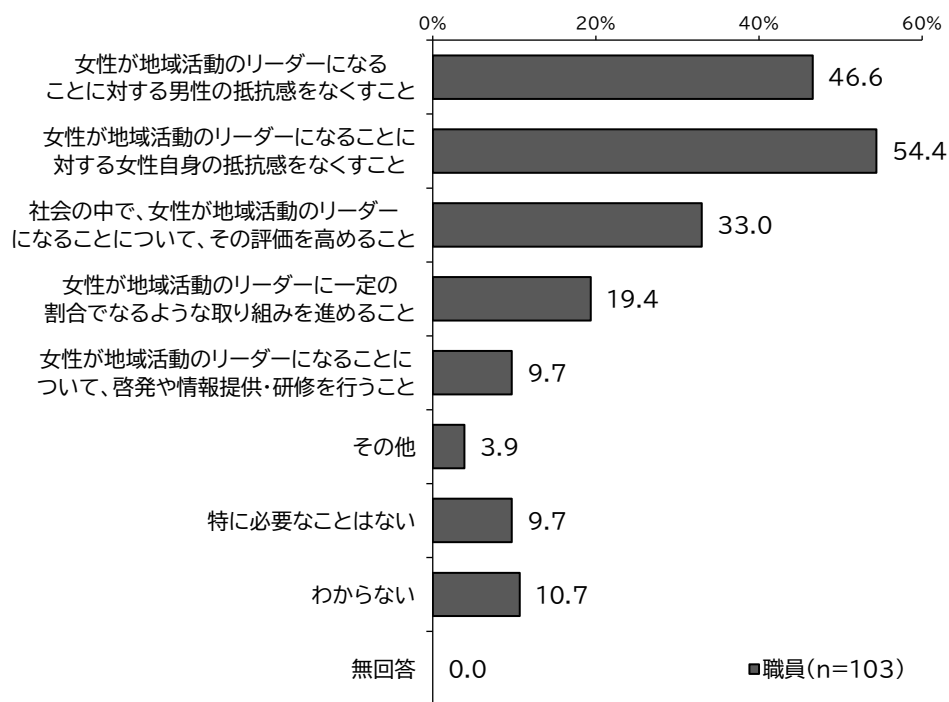
6. 地域活動・防災について

(1)地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと

問15. あなたは、自治会長やPTA会長など、地域活動において女性のリーダーが増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が54.4%で最も高く、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(46.6%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(33.0%)と続いている。

【地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと】

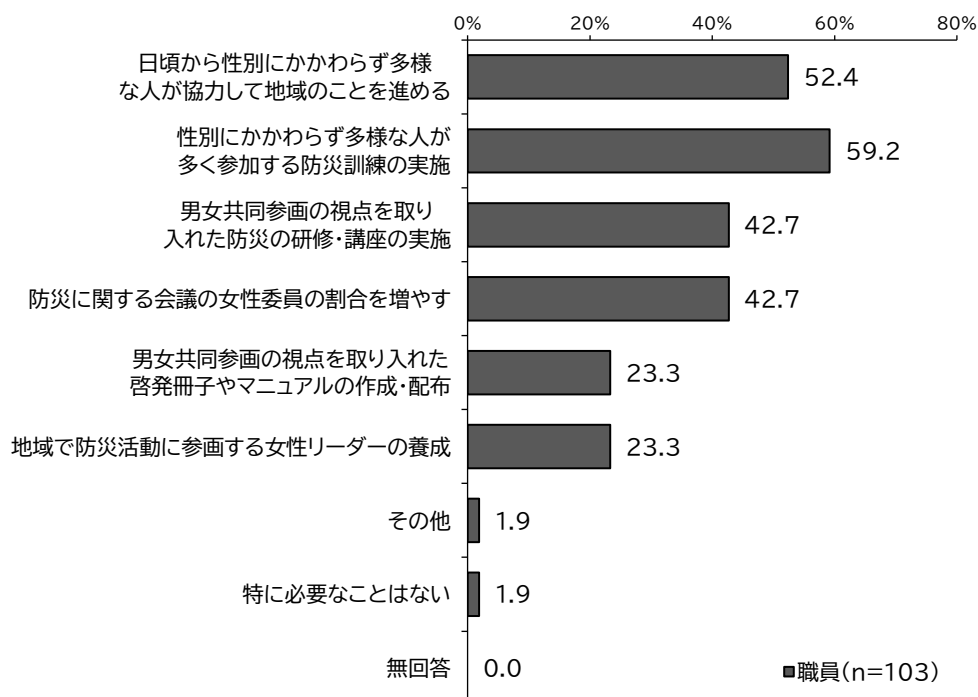


(2)性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと

問16. 災害時において、性別や多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」が59.2%で最も高く、「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」(52.4%)、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」(42.7%)、「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」(42.7%)と続いている。「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」は町民の回答割合に比べて15.8ポイント高くなっている。

【性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと】



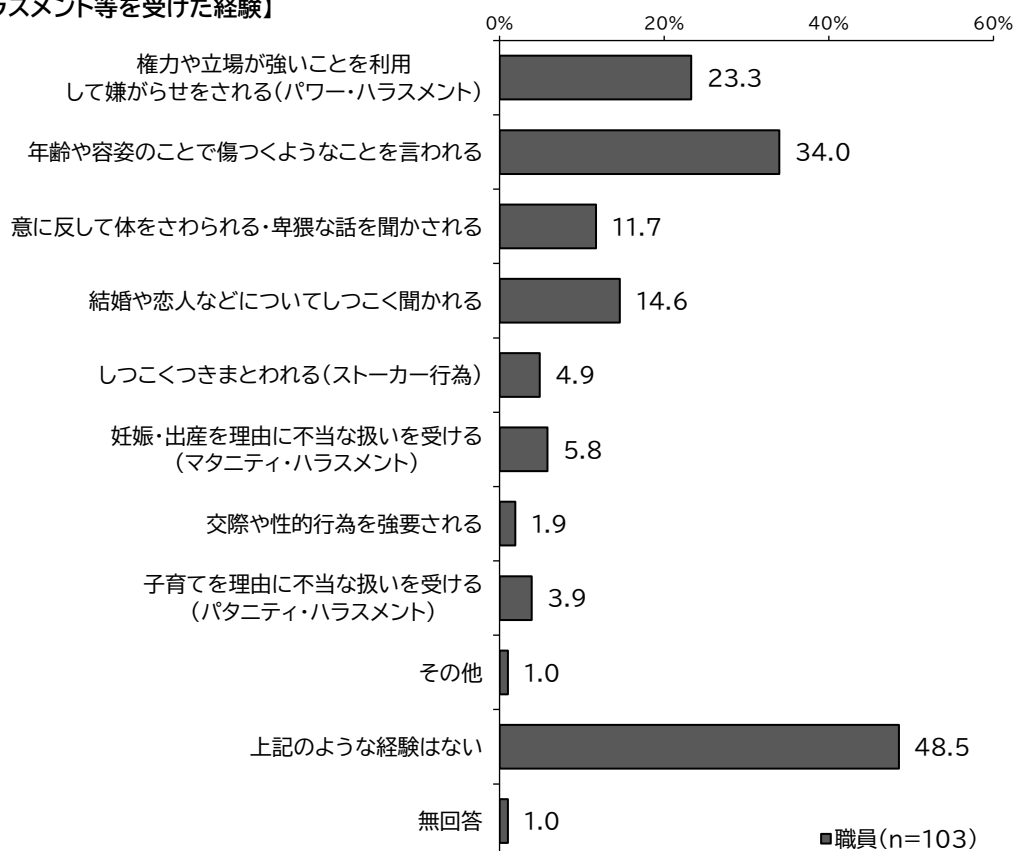
7. 人権を侵害される行為について

(1) ハラスメント等を受けた経験

問17. あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

ハラスメント等を受けた経験のなかでは「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が34.0%で最も高く、「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」(23.3%)、「結婚や恋人などについてしつこく聞かれる」(14.6%)と続いている。

【ハラスメント等を受けた経験】

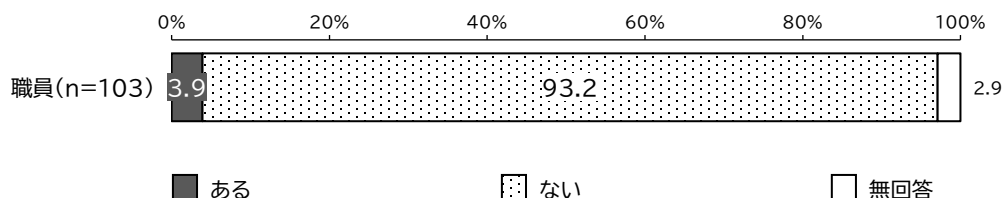


(2)性暴力・性犯罪を受けた経験

問18. あなたはこれまでに、子どものころも含めて、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。
(○は1つ)

望まない性的な行為の経験の有無では、3.9%が「ある」と回答している。

【性暴力・性犯罪を受けた経験】



(3)性暴力・性犯罪被害の相談状況

問18-1. 「ある」と回答した方に
あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

望まない性的な行為の経験がある人4人のうち2人は「どこ（誰）にも相談していない」と回答し、「友人・知人」に相談した人が2人、「家族」に相談した人が1人となっている。

(4)性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由

問18-2. 「どこ（誰）にも相談していない」と回答した方に あなたは、相談しなかったのは、なぜですか。
(○はいくつでも)

どこ（誰）にも相談していない人2人の理由は、「相談してもむだだと思ったから」が2人、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」が1人ずつとなっている。

(5)DV・デートDVを受けた経験・行った経験

問19. あなたは、配偶者・パートナーや交際相手から、次のようなことをされたこと、したことがありますか。(○は「されたことがある」「したことがある」の①～⑤それぞれに1つ)

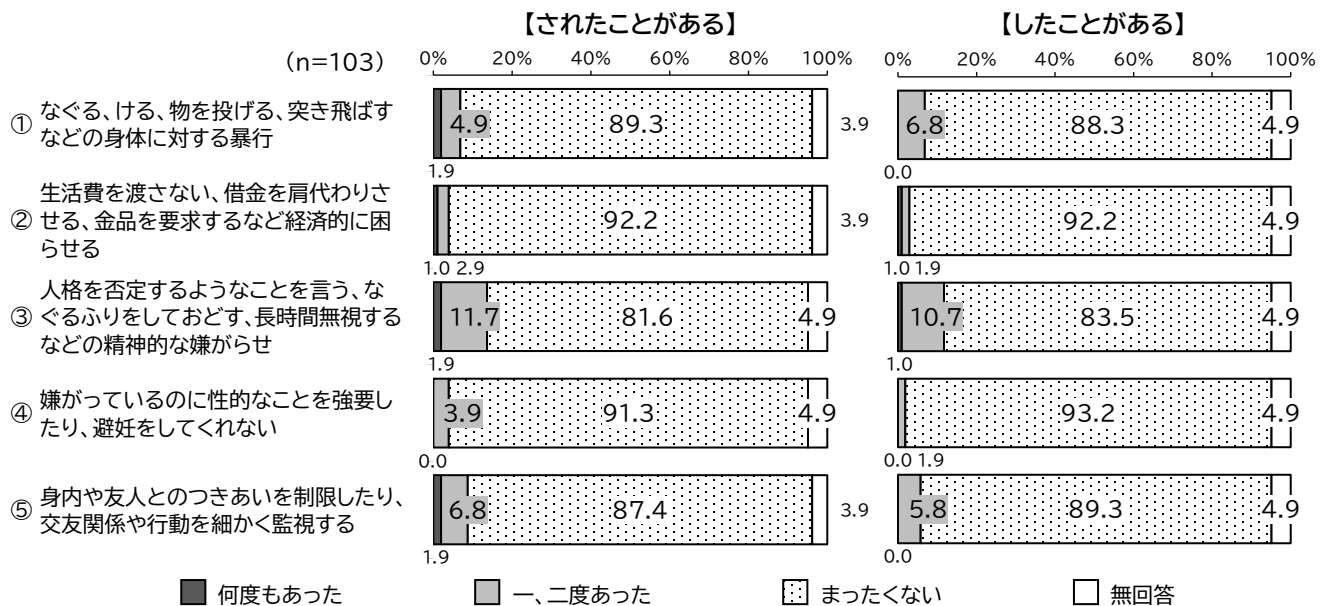
【配偶者・パートナーからされたことがある】

配偶者・パートナーからされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（13.6%）、⑤身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（8.7%）、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（6.8%）の順番に高くなっている。

【配偶者・パートナーにしたことがある】

配偶者・パートナーにしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（11.7%）、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（6.8%）、⑤身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（5.8%）の順番に高くなっている。

【DVを受けた経験・DVを行った経験】



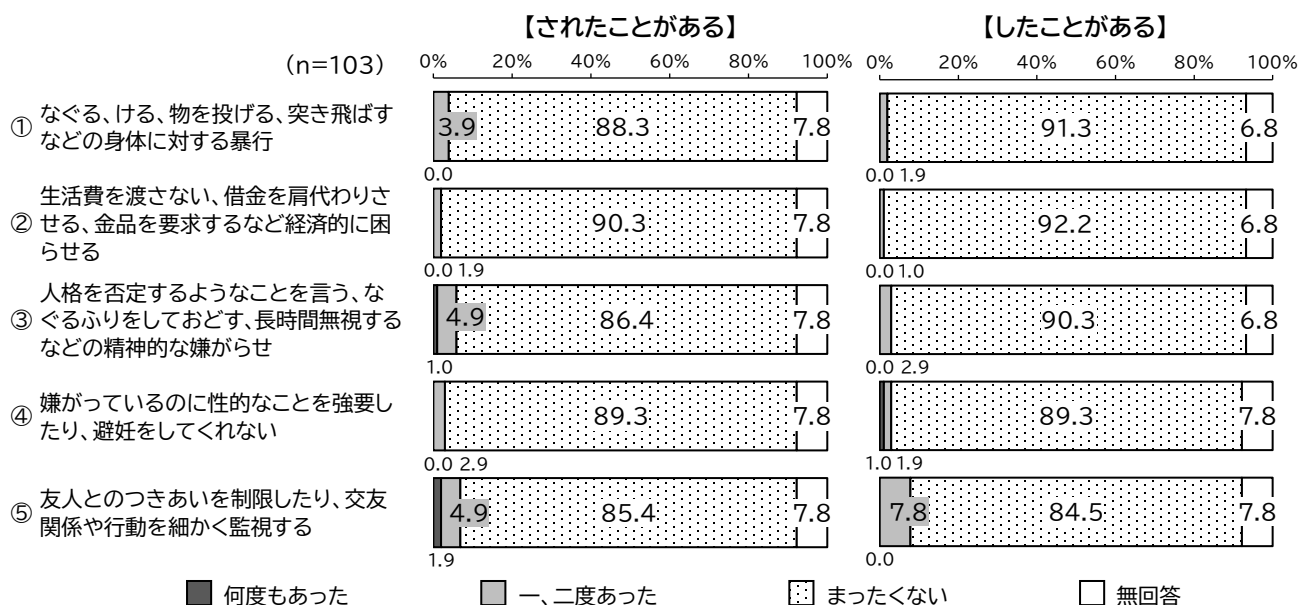
【交際相手からされたことがある】

交際相手からされたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（6.8%）、③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ（5.9%）、①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行（3.9%）の順番に高くなっている。

【交際相手にしたことがある】

交際相手にしたことがある割合（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）は、⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する（7.8%）以外はいずれの項目も3%未満である。

【デートDVを受けた経験・デートDVを行った経験】



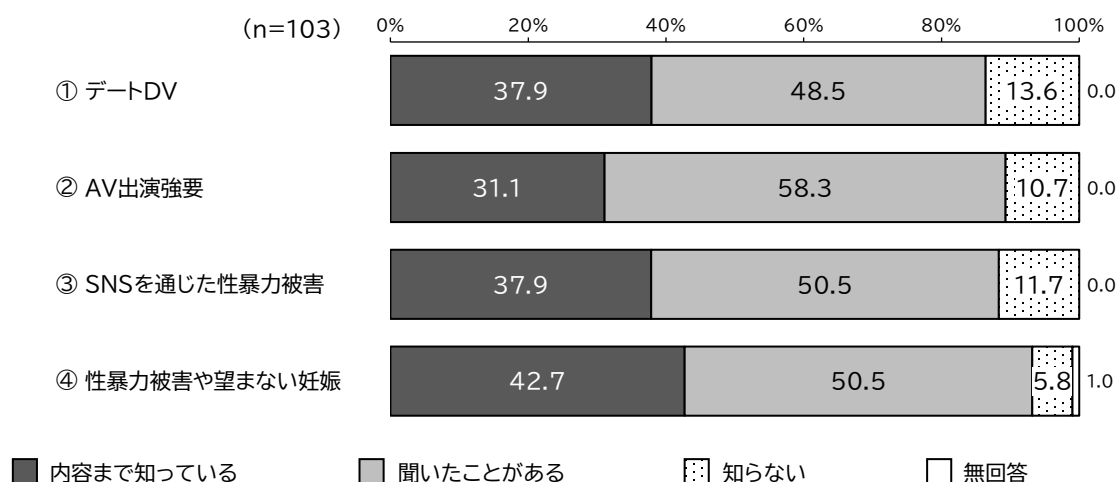
(6)若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度

問20. あなたは、若年女性が被害に遭うことが多い、次のような問題を知っていますか。

(○は①～④それぞれに1つ)

若年女性が被害に遭うことが多い問題について「内容まで知っている」のは3割から4割程度であり、認知度（「内容まで知っている」と「聞いたことがある」の合計）は高い順に④性暴力被害や望まない妊娠（93.2%）、②AV出演強要（89.4%）、③SNSを通じた性暴力被害（88.4%）、①デートDV（86.4%）となっており、町民に比べるとかなり高くなっている。

【若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度】

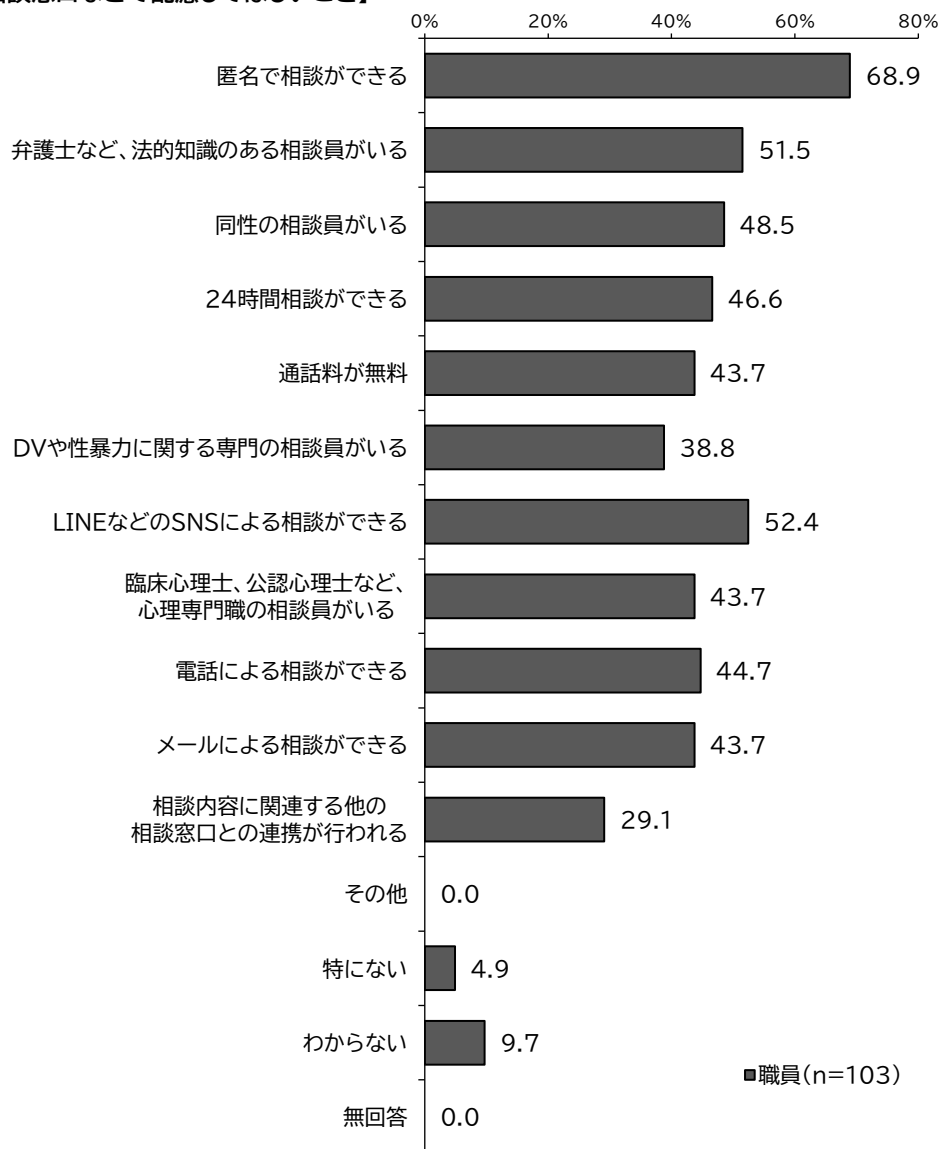


(7)DV相談窓口などで配慮してほしいこと

問21. あなたは、ジェンダーにもとづく暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

「匿名で相談ができる」が68.9%で最も高く、「LINEなどのSNSによる相談ができる」(52.4%)「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(51.5%)、「同性の相談員がいる」(48.5%)と続いている。町民に比べて回答割合が10ポイント以上高い選択肢が多くなっている。

【DV相談窓口などで配慮してほしいこと】



8. 男女共同参画社会づくりについて

(1)結婚や家庭、女性の参画に関する考え方

問22. あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(〇は①～⑤それぞれに1つ)

【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】

『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が69.0%、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が30.1%で『反対』の方が38.9ポイント高くなっている。

【②夫婦は別姓を名乗ってもよい】

『賛成』が66.0%、『反対』が33.0%で、『賛成』が33.0ポイント高くなっている。

【③同性同士の結婚を認めてよい】

『賛成』が70.9%、『反対』が29.1%で、『賛成』が41.8ポイント高くなっている。

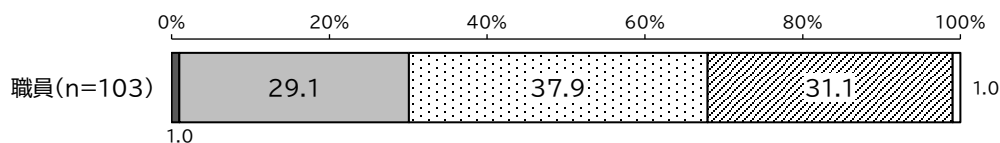
【④地域リーダーに女性が増えた方がよい】

『賛成』は93.2%で9割を超えている。

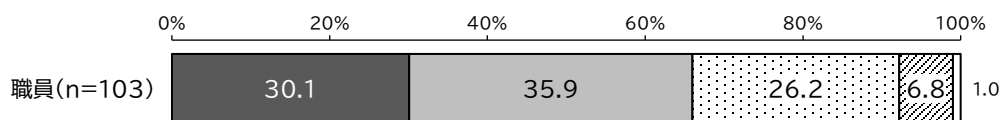
【⑤政治家に女性が増えた方がよい】

『賛成』が92.2%で9割を超えている。

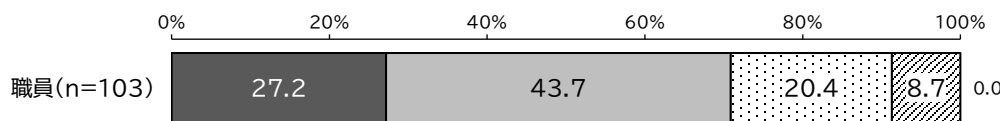
【①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】



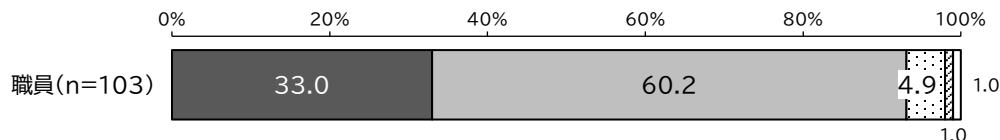
【②夫婦は別姓を名乗ってもよい】



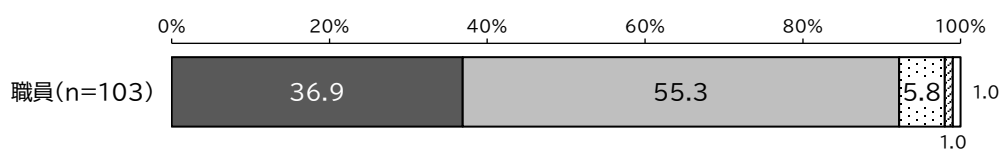
【③同性同士の結婚を認めてよい】



【④地域リーダーに女性が増えた方がよい】



【⑤政治家に女性が増えた方がよい】



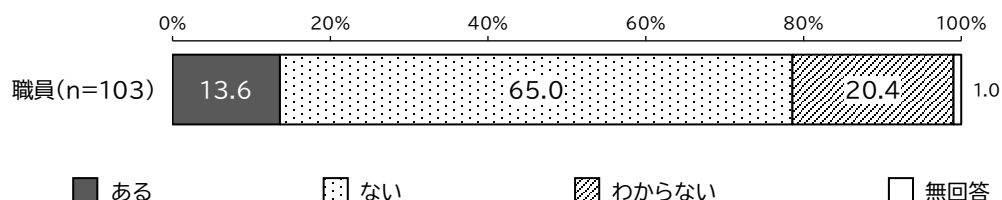
■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 □ 無回答

(2)性別による負担感や生きづらさを感じたことがあるか

問23. あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(○は1つ)

性別による負担感や生きづらさを感じたことが「ある」割合は13.6%となっている。

【性別による負担感や生きづらさを感じたことがあるか】



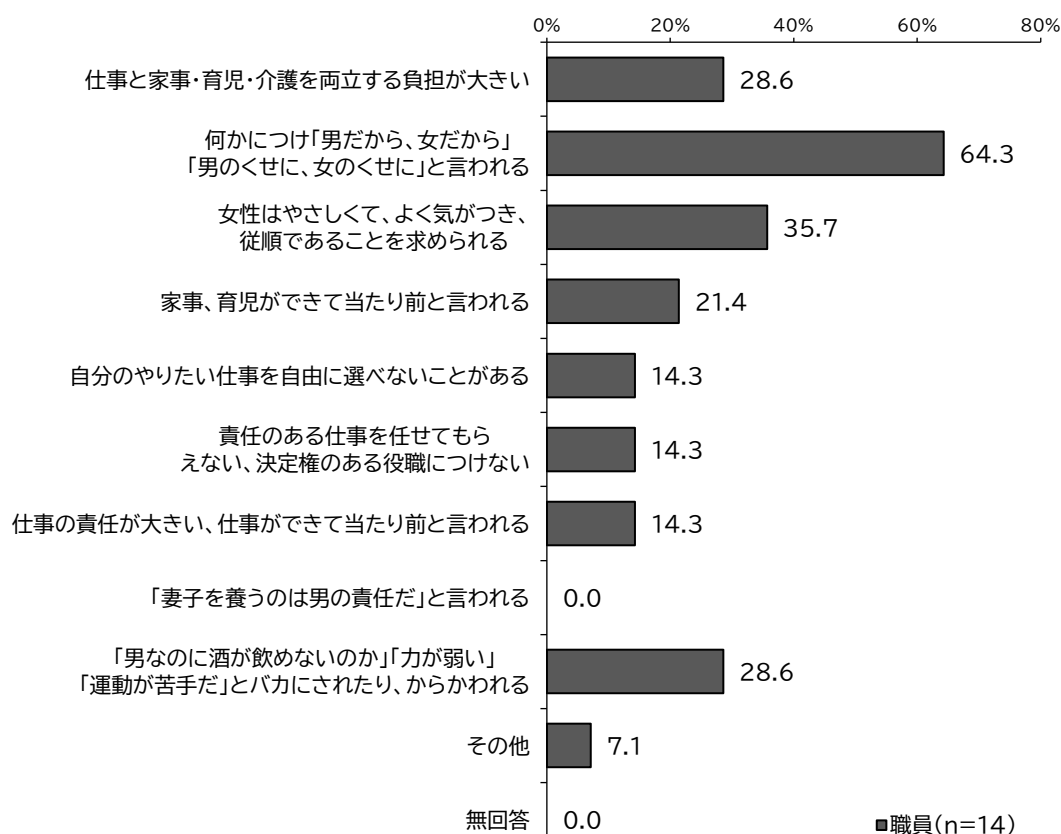
(3)性別による負担感や生きづらさを感じたとき

問23-1. 「ある」と答えた方に

それは、どのようなときに感じましたか。(○はいくつでも)

性別による負担感や生きづらさをどのようなときに感じたかでは、「何かにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」が64.3%で最も高く、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(35.7%)、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」(28.6%)、『男なのに酒が飲めないのか』『力が弱い』『運動が苦手だ』とバカにされたり、からかわれる」(28.6%)と続いている。

【性別による負担感や生きづらさを感じたとき】

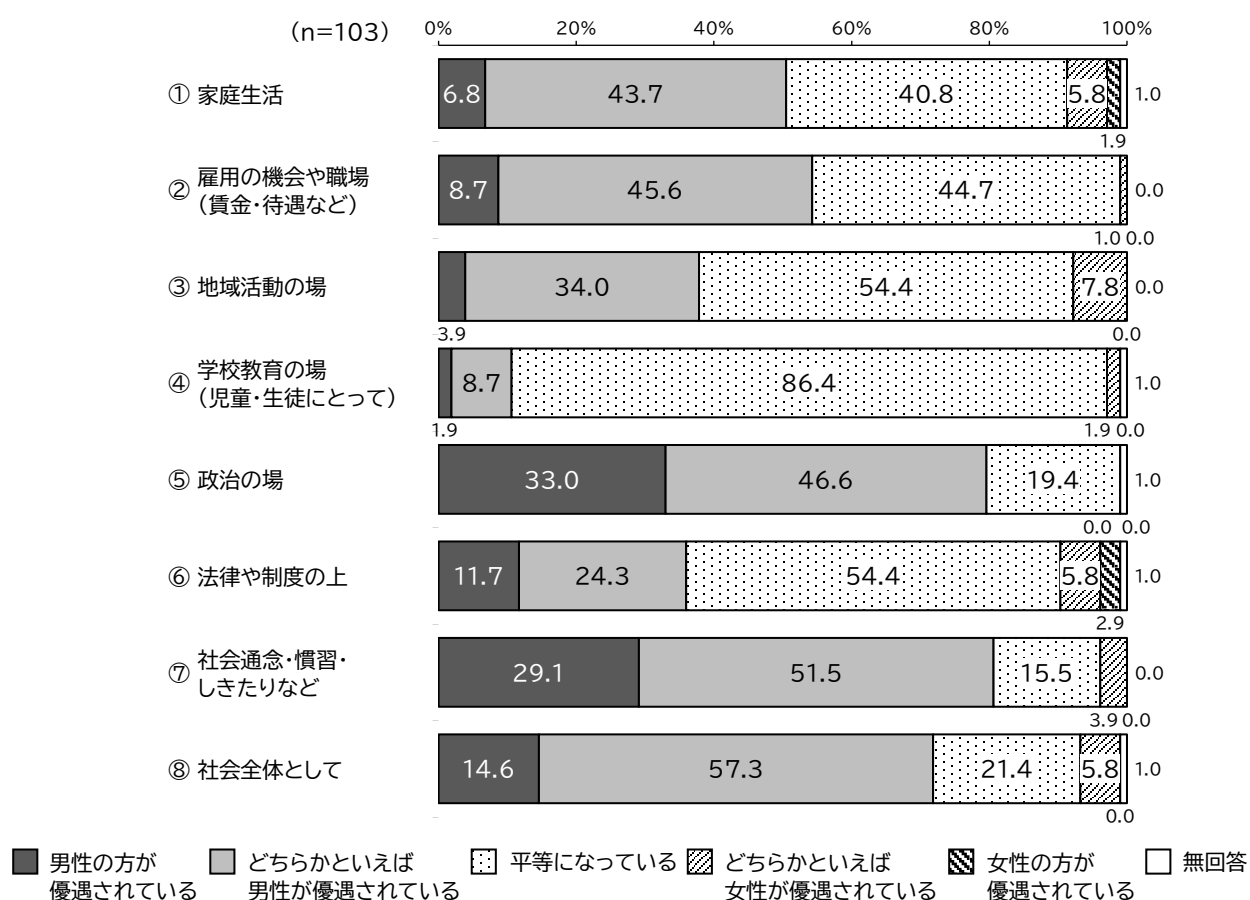


(4)男女の地位の平等感

問24. あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は①～⑧それぞれに1つ)

社会の各分野における男女の地位の平等感は、④学校教育の場（児童・生徒にとって）では「平等になっている」が86.4%と特に高く、③地域活動の場と⑥法律や制度の上でも「平等になっている」が『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）を上回っている。そのほかの分野は『男性優遇』が高くなっている。『男性優遇』が特に高い分野としては、⑦社会通念・慣習・しきたりなど（80.6%）、⑤政治の場（79.6%）が挙げられ、⑧社会全体としては71.9%が『男性優遇』と回答している。

【男女の地位の平等感】

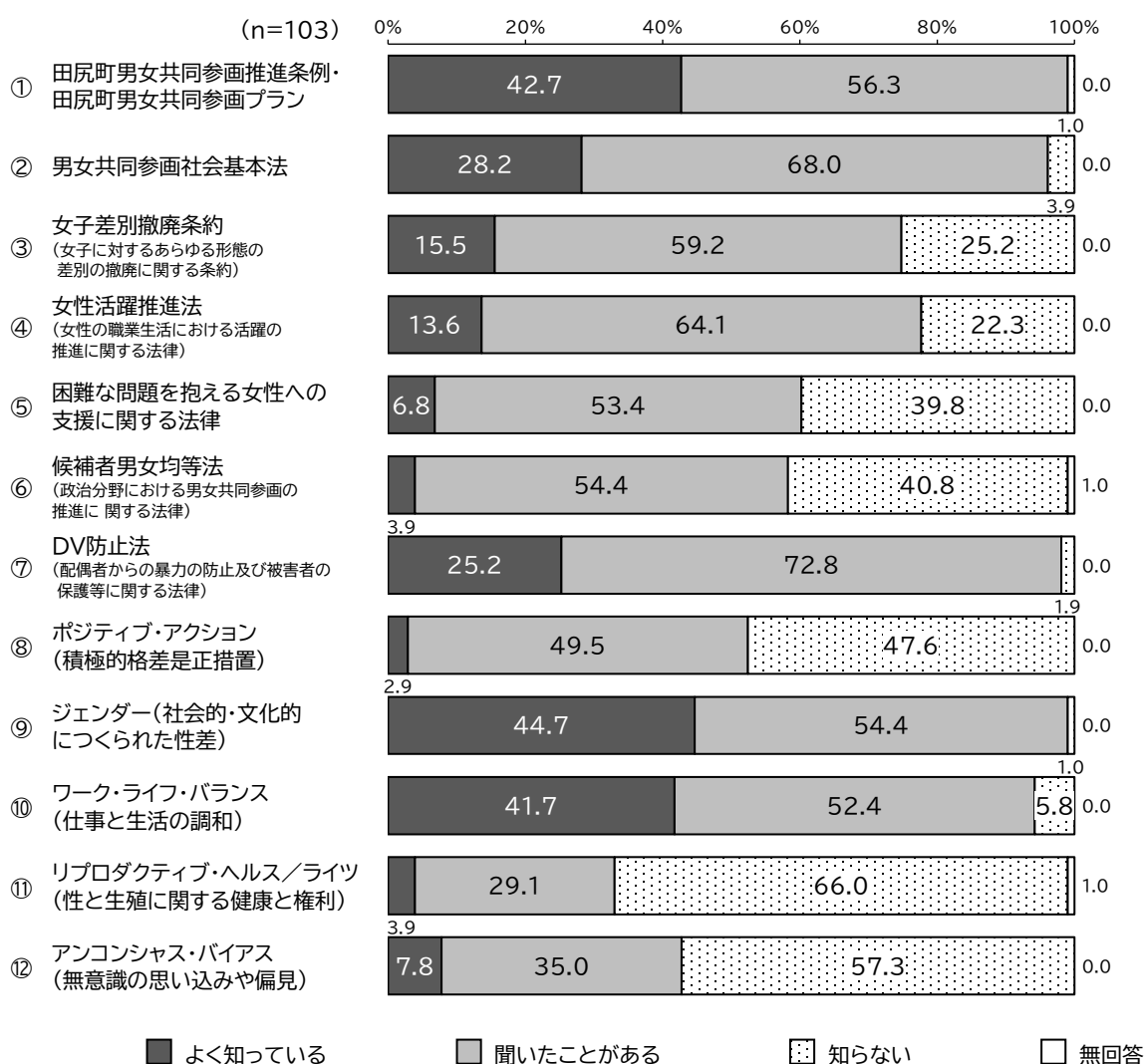


(5)男女共同参画に関する用語の認知度

問25. あなたは、次の言葉を知っていますか。(〇は①～⑫それぞれに1つ)

用語の認知度(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は、①田尻町男女共同参画推進条例・田尻町男女共同参画プラン、⑦DV防止法、⑨ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)の3項目はほぼ全員が認知しており、②男女共同参画社会基本法、⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の2項目も認知度は約95%となっている。法律の認知度が高いなかで、⑤困難な問題を抱える女性への支援に関する法律と⑥候補者男女均等法は約6割となっている。⑪リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)は町民と同様に認知度が最も低くなっている。

【男女共同参画に関する用語の認知度】

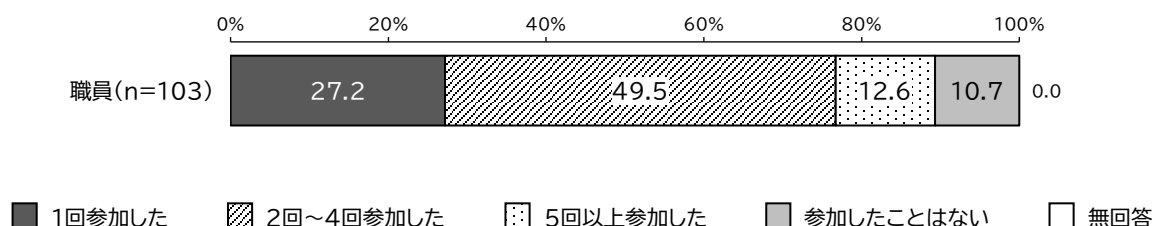


(6)男女共同参画に関する講座や講演会・研修への参加状況

問26. あなたは、最近5年の間に、男女共同参画に関する講座や講演会・研修に参加したことがありますか。(〇は1つ)

「2回～4回参加した」が49.5%で最も高く、次いで「1回参加した」が27.2%、「5回以上参加した」が12.6%となっている。

【男女共同参画に関する講座や講演会・研修への参加状況】

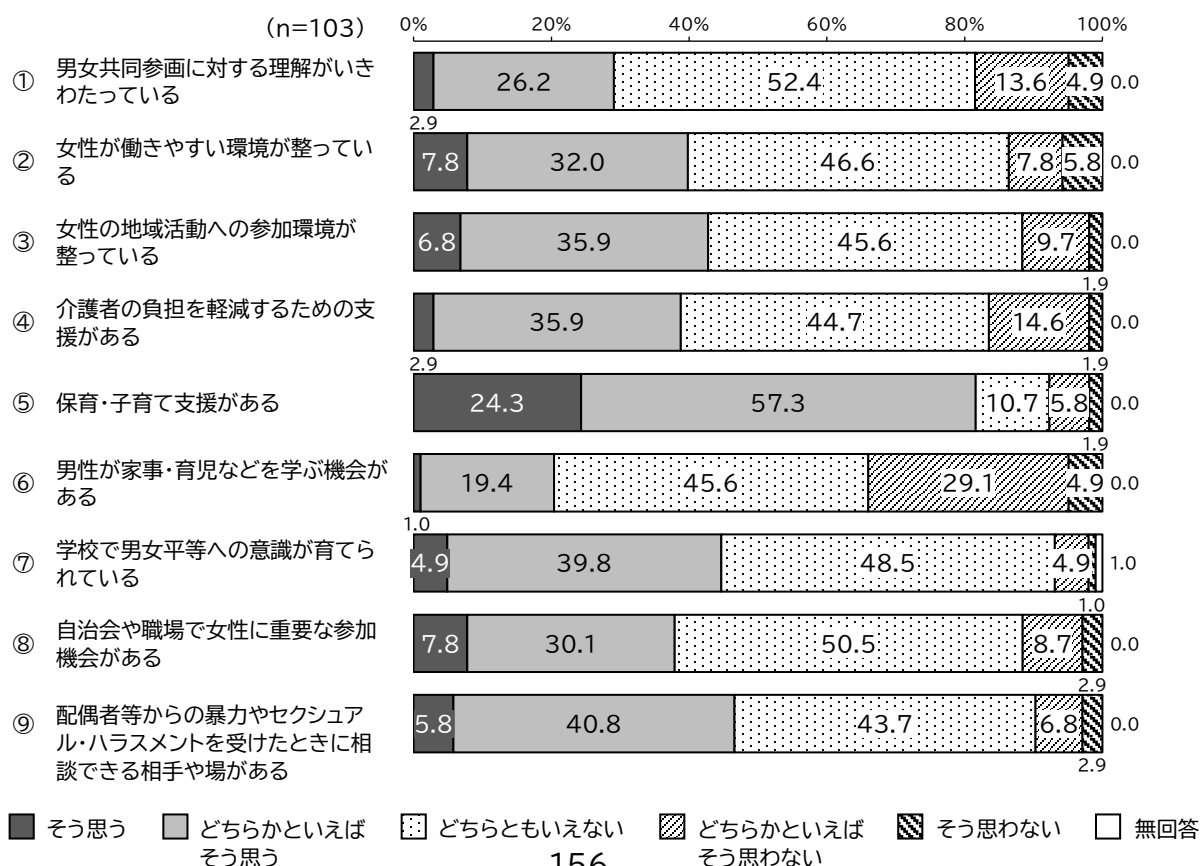


(7)田尻町の環境・取り組みについて

問27. 次にあげることは、田尻町ではどうだと思いますか。身の回りの実感からお答えください。(〇は①～⑨それぞれに1つ)

田尻町の環境・取り組みについて肯定的意見(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合が最も高いのは、町民と同様で⑤保育・子育て支援があるが81.6%となっている。否定的意見(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)の割合が最も高いのは、⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会があるが34.0%で、肯定的意見より10ポイント以上高くなっている。そのほかの項目はいずれも肯定的意見が否定的意見を10ポイント以上上回っている。

【田尻町の環境・取り組みについて】

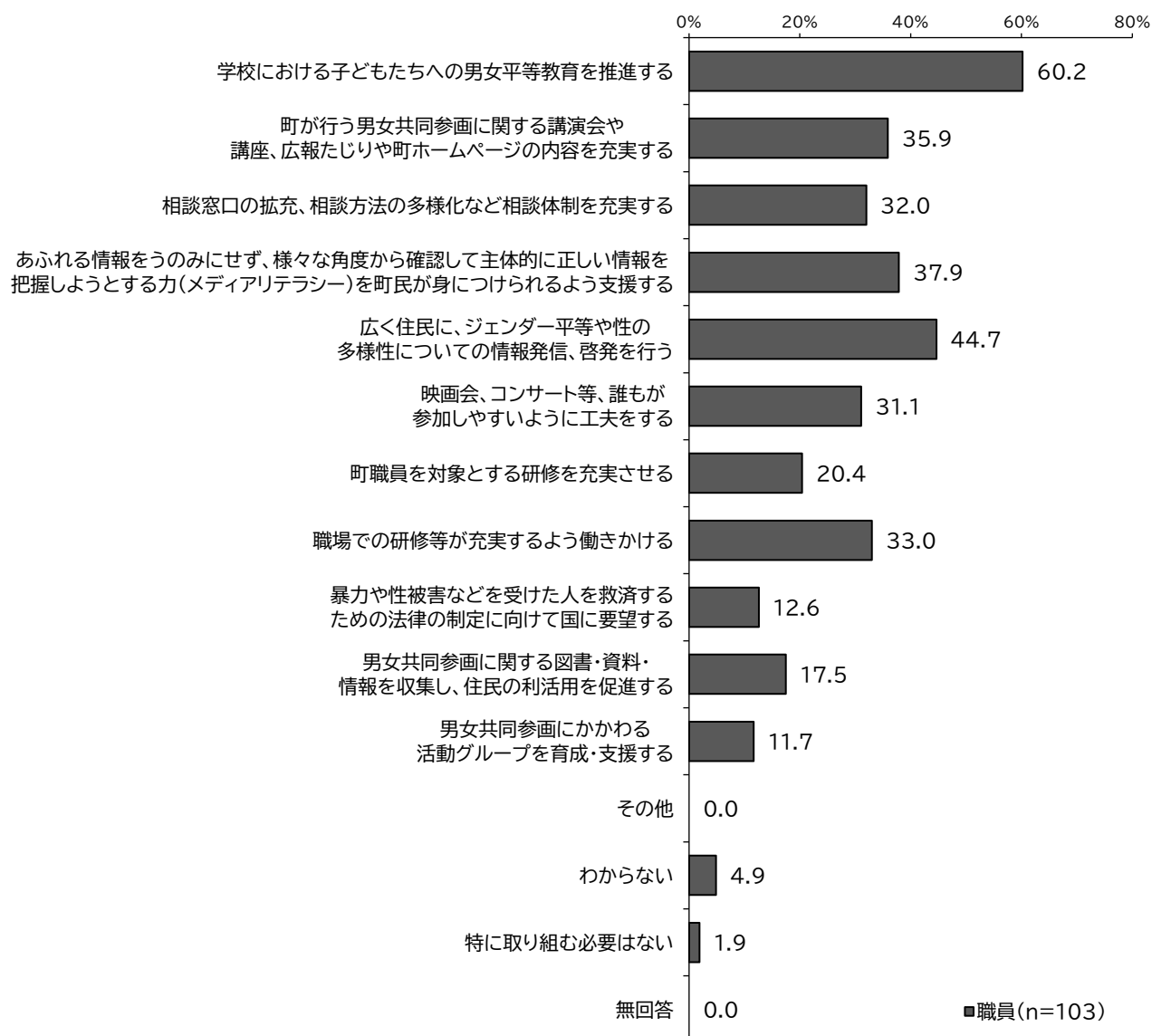


(8)男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること

問28. あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

「学校における子どもたちへの男女平等教育を推進する」が60.2%で最も高く、「広く住民に、ジェンダー平等や性の多様性についての情報発信、啓発を行う」(44.7%)、「あふれる情報をうのみにせず、様々な角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身につけられるよう支援する」(37.9%)、「町が行う男女共同参画に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」(35.9%)と続いている。

【男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること】



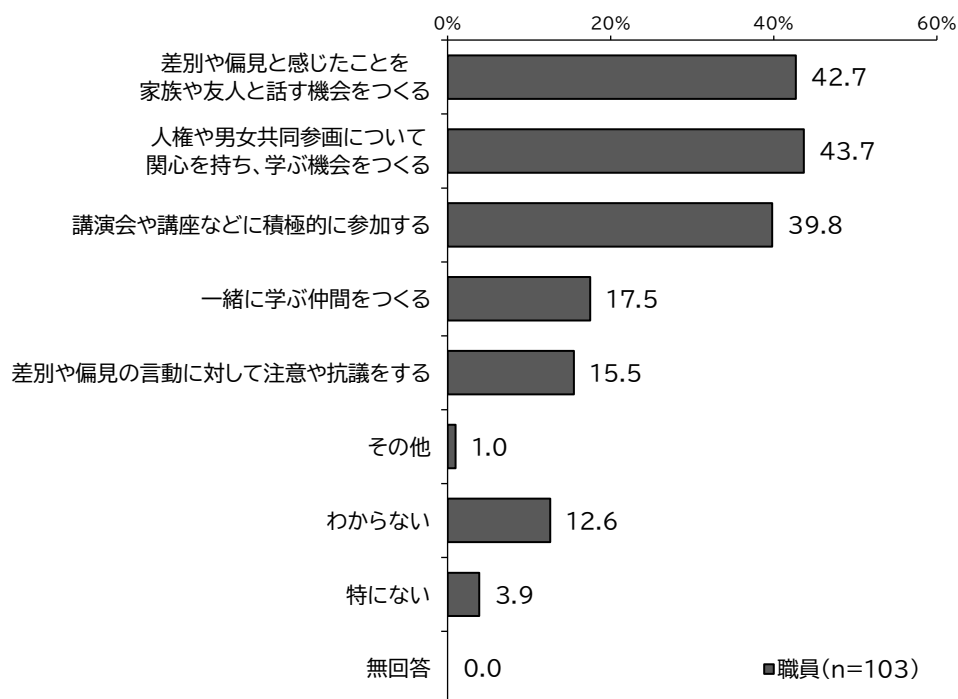
(9)男女共同参画社会づくりに向けて取り組めること

問29. 男女共同参画社会づくりに向けて、あなたはどのようなことができると思いますか。

(○はいくつでも)

「人権や男女共同参画について関心を持ち、学ぶ機会をつくる」が43.7%で最も高く、「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」(42.7%)、「講演会や講座などに積極的に参加する」(39.8%)と続いている。上位3つの選択肢は4割前後で大きく変わらない。

【男女共同参画社会づくりに向けて取り組めること】



誰もが自分らしくのびやかに暮らせるまちをつくるための

アンケート調査

— 田尻町 男女共同参画社会づくりに関する意識調査 —

ご協力をお願い

皆さまには日頃から町政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本町では、2015（平成 27）年に「第2次田尻町男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みを進めてまいりました。

2024（令和 6）年度に現行プランは目標年次を迎えることから、現在の社会情勢にそった第3次プランの策定を予定しております。

この調査は、皆さまから男女共同参画に関して実情やお考えをうかがい、新たなプランを策定するうえでの重要な基礎資料とするため実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2023（令和 5）年 12 月

田 尻 町

ご記入にあたってのお願い

※この調査は、町内にお住まいの 18 歳以上の方 1,500 人を無作為に選ばせていただいて、お願いしております。

※あて名に記された **ご本人** がお答えください（病気などで回答できないときは、ご家族に代筆いただくか、下記までご相談ください）。

※調査は無記名で、下記の答えかわからないようになっていきます。率直に、思うままをお答えください。調査の内容は統計的に処理し、他の目的には使用しません。回答者の方にご迷惑をおかけすることはありませんので安心してご回答ください。

※回答方法は、調査票に記入し **郵送** いただく方法と **インターネット** による回答のどちらかを選ぶことができます。

※次のページに貼られたシールの数字は、紙の調査票とインターネット回答との重複をチェックするためだけのものです、個人情報とは結びついていません。

郵送いただく場合は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れ、**12月20日（水）**

までにポストに投函してください（切手は不要です）。

インターネットによる回答方法は、次のページをごらんください。

■このアンケート調査に関するお問い合わせ先■

田尻町 総務部 企画人権課 人権・男女共生室

〒598-8588 田尻町嘉祥寺 375 番地1

電話：072-466-5019 FAX：072-466-8725

<インターネットによる回答方法>

1. 下記URLを入力するか右のQRコードを読み取り、
インターネット回答ページへアクセスしてください。

【回答ページURL】 <https://ai-form.tank.jp/survey/tajiridanio/>

2. 下記のIDを入力の上、**回答を始める** を押してください。

調査票の回答ページが表示されたら、順番に該当する番号にチェックを入れてください。

ID

3. 入力後は、確認ページで回答内容を確認して、**送信する** を押してください。

4. インターネットの回答は 1 回限りで、送信後の修正はできませんので、ご注意ください。

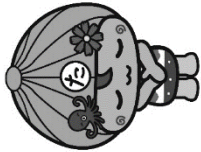
【注意】

※回答は、紙の調査票への記入またはインターネット回答のどちらか一方を選んでください。

※インターネットで回答された方は、調査票の記入・送付は不要です。

※阿方に回答された場合、一方の回答は無効になります。

※ご回答にかかる通信料は回答される方のご負担になります。あらかじめご了承ください。



家庭での役割について

問 1. あなたは、家庭における次のことを男性、女性のどちらがするのがよいと思いますか。

(○は①～⑦それぞれ1つ)		主に男性が するの がよい		男性が するの がよい		どちらか といえ ば		両方同 じくら い		女性が するの がよい		どちらか といえ ば		主に女性 がする のが よい	
①生活費をかせぐ		1	2	3	4	5									
②日々の家計の管理		1	2	3	4	5									
③日常の家事		1	2	3	4	5									
④老親や病身者の介護や看護		1	2	3	4	5									
⑤子どもの教育として		1	2	3	4	5									
⑥育児（乳幼児の世話）		1	2	3	4	5									
⑦自治会など地域活動への参加		1	2	3	4	5									

問2. あなたの家庭では、実際に次のことを男性、女性のどちらがしていますか。

(○は①～⑦それぞれに1つ)						
	主に男性がしている	男性がしている	どちらかといふは	両方同じくらいしている	女性がしている	主に女性がしている
①生活費をかせぐ	1	2	3	4	5	6
②日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
③日常の家事	1	2	3	4	5	6
④老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5	6
⑥育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5	6
⑦自治会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問3. あなたは、生活の中で「仕事」「家庭や個人の生活」「地域活動」で何を優先しますか。
希望と現実（現状）に最も近いものを選んでください。

<希望> (○は1つ)	1. 「仕事」を優先したい 2. 「家庭や個人の生活」を優先したい 3. 「地域活動」を優先したい 4. 「仕事」と「家庭や個人の生活」をともに優先したい 5. 「仕事」と「地域活動」をともに優先したい 6. 「家庭や個人の生活」と「地域活動」をともに優先したい 7. 「仕事」、「家庭や個人の生活」、「地域活動」をともに優先したい						
	1. 「仕事」を優先している 2. 「家庭や個人の生活」を優先している 3. 「地域活動」を優先している 4. 「仕事」と「家庭や個人の生活」をともに優先している 5. 「仕事」と「地域活動」をともに優先している 6. 「家庭や個人の生活」と「地域活動」をともに優先している 7. 「仕事」、「家庭や個人の生活」、「地域活動」をともに優先している						

※「地域活動」とは、自治会、PTAなど地域の団体やボランティアなどをさします。

問4. 今後、男性が家事、子育て、介護・看護・看護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3. 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
6. 男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間づくりを進めること
7. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
8. その他(具体的に)
9. 特に必要なのは

仕事・生き方について

■現在、仕事をされている方(育児・介護・病高等で一時休業中の方を含みます)にお聞きします。
問5. あなたの今の職場では、性別によって対応や評価に差があると思いますか。
あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。

(○は①～⑦それぞれに1つ)	男性の方が 優遇されている	平等である	女性の方が 優遇されている
①募集・採用の仕方	1	2	3
②採用数	1	2	3
③配置された職場	1	2	3
④仕事の内容	1	2	3
⑤賃金	1	2	3
⑥昇進・昇格	1	2	3
⑦能力評価	1	2	3

問6. あなたは、これまでに育児休業・介護休業を取りましたか。(○は①～②それぞれに1つ)

①育児休業について	②介護休業について
1. 取りたいと思いい、取った	1. 取りたいと思いい、取った
2. 取りたいと思ったが、取らなかった	2. 取りたいと思ったが、取らなかった
3. 取りたいと思わなかったが、取った	3. 取りたいと思わなかったが、取った
4. 取りたいと思わず、取らなかった	4. 取りたいと思わず、取らなかった
5. あてはまらない	5. あてはまらない

■現在、仕事をされていない方にお聞きします。

問7. あなたは今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

1. ぜひつきたい	2. できればつきたい
3. つきたいとは思わない	4. わからない

問7-1. これから仕事につくうえで困ることや不安がありますか。(○はいくつでも)

1. 自分のしたい仕事につけるか	2. 自分の資格や能力が通用するか
3. 職場の人間関係がうまくいくか	4. 賃金など望む労働条件がかなうか
5. 自分の健康状態・体力	6. 家族の理解が得られるか
7. 家事・子育て・介護と仕事の両立ができるか	8. 保育所や学童保育が利用できるか
9. その他(具体的に)	
10. 特にない	

■全員にお聞きします。

問8. 一般的に女性が仕事をすることについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい
2. 結婚まで仕事、結婚後は家事に専念するのがよい
3. 出産まで仕事、出産後は家事・子育てに専念するのがよい
4. 子育て時期だけやめ、その後はフルタイム就労するのがよい
5. 子育て時期だけやめ、その後はパート就労するのがよい
6. 仕事につかない方がよい
7. その他 (具体的に)

性について

問9. あなたは、今までに性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがありますか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問10. LGBTをはじめとする性的マイノリティ※によって、現状は生活しづらい社会だと思いませんか。(○は1つ)

1. そう思う →問10-1へ	2. どちらかといえばそう思う →問10-1へ
3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない

※性的マイノリティ：LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)など、恋愛や性愛の対象が同性の人や、出生時に判定された性と自認する性が異なる人などの総称として用いています。

問10-1. 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方に
どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(○はいくつでも)

1. 家族、友人など周囲の人に相談できない
2. カミングアウト※後、周囲の理解が得られない・態度が変化する
3. いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける
4. 住居選択において偏見・差別がある
5. 医療の場において偏見・差別がある
6. 就職・就業において偏見・差別がある
7. 福利厚生において偏見・差別がある
8. 自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される
9. 自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)
10. 夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない
11. 性的マイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない
12. 行政機関などの相談・支援体制が不十分である
13. 性別の記入を求められる書類が多い
14. その他 (具体的に)

※カミングアウト：自らの性的指向や性自認を自身の意志で他者に伝えること。

子どもの育て方や教育について

問11. あなたは子どもの育て方について、どのように思いますか。子どもがいない方も、仮に
いると想定してお答えください。

(○は①～③それぞれに1つ)					
①性別にこだわらず、子どもの個性をのびす方がよい	男の子略つ	男の子略つ	男の子略つ	男の子略つ	男の子略つ
②男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
③子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5

問 12. あなたの子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。

(○)は女の子・男の子に それぞれ1つ)	中学校・高等部・支援学	高等学校・高等部・支援学	専門学校・専修学校	短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他
	1	2	3	4	5	6	7
①女の子の場合	1	2	3	4	5	6	7
②男の子の場合	1	2	3	4	5	6	7

問 13. あなたは子どもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。

(○)は女の子・男の子の ①～⑤それぞれに1つ)	【①女の子の場合】		【②男の子の場合】	
	必ず身につけるべき	つけてほしい	必ず身につけるべき	つけてほしい
①経済的に自立できる力	1	2	3	4
②家事・育児ができる力	1	2	3	4
③周りや円満に暮らす力	1	2	3	4
④人間性豊かに生きること	1	2	3	4
⑤個性・才能をのびること	1	2	3	4

問 14. 男女平等を進めるために小中学校・こども園などで、どのような取り組みが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業や取り組み、性教育などを行う
2. 進路指導は性別によってかたよりにくい、個人の能力、個性、希望を大事にする
3. 小学校の低学年から「性」は人間の尊厳にかかわる大切なものであると教える
4. 教職員に対する、男女平等教育に関する研修を充実させる
5. 管理職に女性の割合を増やす
6. メディア（インターネット・テレビ・新聞など）の情報を正しく読み解く力をつける
7. 保護者に対する男女共同参画の啓発を進める
8. その他（具体的に）
9. 特に必要なのは

地域活動・防災について

問 15. あなたは、自治会長やPTA会長など、地域活動において女性のリーダーが増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすること
2. 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすること
3. 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
4. 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
5. 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること
6. その他（具体的に）
7. 特に必要なのは
8. わからない

問 16. 災害時において、性別や多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 防災に関する会議の女性委員の割合を増やす
2. 男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施
3. 性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施
4. 男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布
5. 地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成
6. 日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める
7. その他（具体的に）
8. 特に必要なのは

人権を侵害される行為について

問 17. あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる
2. 結婚や恋人などについてしつこく聞かれる
3. 意に反して体をさわられる・卑猥な話を聞かされる
4. 交際や性的行為を強要される
5. 権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）
6. 妊娠・出産を理由に不当な扱いを受ける（マタニティ・ハラスメント）
7. 子育てを理由に不当な扱いを受ける（パタニティ・ハラスメント）
8. しつこくつきまといられる（ストーーカー行為）
9. その他（具体的に）
10. 上記のような経験はない

問 18. あなたはこれまでに、子どものころも含めて、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。(○は1つ)

1. ある	→問 18-1へ	2. ない
-------	----------	-------

問 18-1. 「ある」と回答した方に
あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1. 家族	2. 友人・知人
3. 職場の人	4. 学校関係者
5. 警察 (性犯罪被害 110 番など)	6. 医療機関
7. 町の相談窓口 (人権相談・女性のための相談など)	
8. 大阪府の相談窓口 (女性相談センター・配偶者暴力相談支援センターなど)	
9. 民間の相談機関や専門家 (弁護士、シェルター、カウンセラーなど)	
10. 匿名で相談できるオンライン相談や SNS	
11. 性暴力救援センター・大阪 SACHICO (サチコ)	
12. その他 (具体的に)	
13. どこ (誰) にも相談していない	→問 18-2へ

問 18-2. 「どこ (誰) にも相談していない」と回答した方に
あなたは、相談しなかったのは、なぜですか。(○はいくつでも)

1. どこ (誰) に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けれると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまでどおりの付き合い (仕事や学校などの人間関係) ができなくなってしまうから
11. そのことについて悪い出し出たくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他 (具体的に)

問 19. あなたは、配偶者・パートナーや交際相手から、次のようなことをされたこと、したことがありますか。

配偶者・パートナーから	(○は「されたことがある」「したことがある」の①～⑤それぞれに1つ)		されたことがある		したことがある	
	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も
	1	2	3	1	2	3
	①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行					
	②生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせる					
	③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしおどす、長時間無視するなどの精神的嫌がらせ					
④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない						
⑤身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する						

交際相手から	(○は「されたことがある」「したことがある」の①～⑤それぞれに1つ)		されたことがある		したことがある	
	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も	あつた度も
	1	2	3	1	2	3
	①なぐる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行					
	②生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせる					
	③人格を否定するようなことを言う、なぐるふりをしおどす、長時間無視するなどの精神的嫌がらせ					
④嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない						
⑤友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する						

問 20. あなたは、若年女性が被害に遭うことが多い、次のような問題を知っていますか。

(○は①～④それぞれに1つ)		内容まで知っている		聞いたことがある		知らない	
①デートDV	1			2		3	
②AV出演強要	1			2		3	
③SNSを通じて性暴力被害	1			2		3	
④性暴力被害や望まない妊娠	1			2		3	

問 21. あなたは、ジェンダーにもとづく暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

1. メールによる相談ができる	2. LINEなどのSNSによる相談ができる
3. 電話による相談ができる	4. 通話料が無料
5. 24 時間相談ができる	6. 同性の相談員がいる
7. 匿名で相談ができる	8. 相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われる
9. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる	
10. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	
11. DVや性暴力に関する専門の相談員がいる	
12. その他 (具体的に)	
13. 特にない	
14. わからない	

男女共同参画社会づくりについて

問 22. あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

賛成	どちらかといふは賛成	どちらかといふは反対	反対	
(○は①～⑤それぞれに1つ)				
①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4
②夫婦は別姓を名乗ってもよい	1	2	3	4
③同性同士の結婚を認めてよい	1	2	3	4
④地域リーダーに女性が増えた方がよい	1	2	3	4
⑤政治家に女性が増えた方がよい	1	2	3	4

問 23. あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(○は1つ)

1. ある →問 23-1へ	2. ない	3. わからない
----------------	-------	----------

問 23-1. 「ある」と答えた方にそれは、どのようなときに感じましたか。(○はいくつでも)

1. 何かにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる
2. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
3. 仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい
4. 「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる
5. 「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる
6. 仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる
7. 責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職につけない
8. 家事、育児ができで当たり前と言われる
9. 女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる
10. その他 (具体的に)

問 24. あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている
(○は①～⑧それぞれに1つ)					
①家庭生活	1	2	3	4	5
②雇用の機会や職場 (賞金・待遇など)	1	2	3	4	5
③地域活動の場	1	2	3	4	5
④学校教育の場 (児童・生徒にとって)	1	2	3	4	5
⑤政治の場	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
⑧社会全体として	1	2	3	4	5

問 25. あなたは、次の言葉を知っていますか。

(○は①～⑫それぞれに1つ)			
	よく知っている	聞いたことがある	知らない
①田尻町男女共同参画推進条例・田尻町男女共同参画プラン	1	2	3
②男女共同参画社会基本法	1	2	3
③女子差別撤廃条約 (女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)	1	2	3
④女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
⑤困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
⑥候補者男女均等法 (政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)	1	2	3
⑦DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1	2	3
⑧ポジティブ・アクション (積極的格差是正措置)	1	2	3
⑨ジェンダー (社会的・文化的につくられた性差)	1	2	3
⑩ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
⑪リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
⑫アンコンジャス・バイアス (無意識の思い込みや偏見)	1	2	3

問 26. あなたは、最近5年の間に、男女共同参画に関する講座や講演会・研修に参加したことがありますか。(○は1つ)

1. 1回参加した	2. 2回～4回参加した
3. 5回以上参加した	4. 参加したことはない

問 27. 次にあげることは、田尻町ではどうだと思いますか。身の回りの実感からお答えください。

(○は①～⑨それぞれに1つ)						
	そう思う	そう思う かといえ	どちらとも いえない	どちらか といえ	どちらか といえ	そう 思わない
①男女共同参画に対する理解が広がっている	1	2	3	4	5	
②女性が働きやすい環境が整っている	1	2	3	4	5	
③女性の地域活動への参加環境が整っている	1	2	3	4	5	
④介護者の負担を軽減するための支援がある	1	2	3	4	5	
⑤保育・子育て支援がある	1	2	3	4	5	
⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある	1	2	3	4	5	
⑦学校で男女平等への意識が育てられている	1	2	3	4	5	
⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある	1	2	3	4	5	
⑨配偶者からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受け たときに相談できる相手や場がある	1	2	3	4	5	

問 28. あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 町が行う男女共同参画に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する
2. 学校における子どもたちへの男女平等教育を推進する
3. 男女共同参画に関する図書・資料・情報を収集し、住民の利活用を促進する
4. 職場での研修等が充実するよう働きかける
5. 町職員を対象とする研修を充実させる
6. 広く住民に、ジェンダー平等や性の多様性についての情報発信、啓発を行う
7. あふれる情報をうのみにせず、様々な角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力 (メディアリテラシー) を町民が身につけられるよう支援する
8. 映画会、コンサート等、誰もが参加しやすいように工夫をする
9. 男女共同参画にかかわる活動グループを育成・支援する
10. 相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する
11. 暴力や性被害などを受けた人を救済するための法律の制定に向けて国に要望する
12. その他 (具体的に)
13. わからない
14. 特に取り組む必要はない

問 29. 男女共同参画社会づくりに向けて、あなたはどのようなことができると思いますか。
(○はいくつでも)

1. 差別や偏見を感じたことを家族や友人と話す機会をつくる

2. 人権や男女共同参画について関心を持ち、学ぶ機会をつくる

3. 一緒に学ぶ仲間をつくる

4. 講演会や講座などに積極的に参加する

5. 差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする

6. その他 (具体的に)

7. わからない

8. 特にない

あなたご自身のことについて

F 1. あなたの性別は。(○は1つ) (あなた自身が自認する性についてお答えください)

1. 女性

2. 男性

3. ()

※1、2にあてはまらない場合、自由にお書きください。

F 2. あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 18～19 歳

2. 20 歳代

3. 30 歳代

4. 40 歳代

5. 50 歳代

6. 60 歳代

7. 70 歳以上

F 3. 家族構成は。(○は1つ)

1. ひとり暮らし

2. 配偶者・パートナーのみ

3. 親と子ども (2 世代)

4. 親と子と孫 (3 世代)

5. その他 (具体的に)

F 4. 現在のあなたは。(○は1つ)

1. 配偶者・パートナーがいる

2. 配偶者・パートナーはいない

F 5. あなたと配偶者・パートナーの職業は、次のどれにあたりますか。「あなた」と「配偶者・パートナー」それぞれに番号を1つ。配偶者・パートナーのいない方はあなたの職業のみに番号を1つ記入してください。

①あなたの職業の番号 ()

②配偶者・パートナーの職業の番号 ()

1. 正規の社員や職員

2. 非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など)

3. 自営業、家族従業者

4. 会社経営者

5. 専業主婦・専業主夫

6. 学生

7. 無職 (年金生活者、定年退職者)

8. 無職 (7 番以外)

9. その他 (具体的に)

F 6. あなたにお子さんはいいますか。(○は1つ) (別居・同居は問いません)
いる場合、お子さんは次のどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1. いる

2. いない

子どもの学齢

1. 就学前

2. 小学生

3. 中学生

4. 高校生

5. 大学生・大学院生・専門学校生

6. その他社会人など

■男女共同参画社会づくりのためのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

郵送での回答を選ばれた場合は、記入済みのこの調査票を同封の返信用封筒に入れて、
12月20日(水) までにポストに投函してください (お名前の記入・切手ともに不要です)。
アンケートはこれで終わりです。ご協力、誠にありがとうございました。

誰もが自分らしくのびやかに暮らせる
まちをつくるためのアンケート調査
— 田尻町男女共同参画社会づくりに関する意識調査 —
結果報告書

2024（令和6）年3月

大阪府田尻町（総務部企画人権課）
〒598-8588 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺375番地1
TEL(072)466-5019
FAX(072)466-8725
E-mail : kijin@town.tajiri.osaka.jp
